

青森市埋蔵文化財調査報告書 第 集

^{いな} 稲 ^{やま} 山 遺 跡

発掘調査報告書

平成 年度

青森市教育委員会

序

県内の主要都市を高速交通網で結ぶ計画の一環である東北縦貫自動車道八戸線（青森～青森）が、平成 年9月 日に開通いたしました。本区間は、岩渡インターより荒川地区を経由し、みちのく有料道路入口である青森東インターへ市内を東西に走る路線となっており、本市はもとより青森県全体においても、今後のさらなる発展の礎として期待されるところであります。

当委員会においては、東北縦貫自動車道八戸線建設に係る市内諏訪沢地区所在の稲山遺跡について、その記録保存を図るため、これまで平成 年度より平成 年度まで五次にわたる発掘調査を実施しており、本書は第四次調査にあたる平成 年度並びに第五次調査にあたる平成 年度の発掘調査成果をまとめたものであります。

当該年度の調査では、遺構、遺物の密集地区北側や西側の調査を実施しており、調査の結果、これまでの調査と同様、竪穴式住居跡、土坑、埋設土器遺構等を検出し、遺跡の広がりを確認しています。

本書が、今後の埋蔵文化財の保護・活用にささやかなりとも役立つことができれば幸いと存じます。

最後となりましたが、調査の実施から本書の作成にわたる、調査員、関係機関及び関係者各位のご指導、地元町会のご協力、更には工事主体者であります日本道路公団のご理解に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成 年3月

青森市教育委員会

教育長 角 田 註 二 郎

例 言

1. 本書は、東北縦貫自動車道八戸線（青森—青森）建設事業並びに高規格道路建設促進事業に伴い、日本道路公団並びに青森市都市政策部（現 青森市都市整備部）より委託を受け青森市教育委員会が平成 年度より実施している青森市大字諏訪沢字山辺に所在する稲山遺跡の、第四次調査に相当する平成 年度調査並びに第五次調査に相当する平成 年度調査の発掘調査報告書である。
2. 稲山遺跡の現地調査は、これまで平成 ～、年度の五次にわたり実施しており、平成 年度で現地調査を終了した。なお、平成 年度には、整理・報告書刊行作業を実施した。
3. これまでの調査成果については、平成 年度に「稲山遺跡発掘調査報告書」（第1～4編）、平成 年度に「稲山遺跡発掘調査報告書」（第5編）、平成 年度に「稲山遺跡発掘調査報告書」（第6編）として刊行しており、本書の構成もこれらに引き続き「第7編 平成 年度発掘調査成果」とした。また、平成 年度に「稲山遺跡発掘調査概報」、平成 年度に「稲山遺跡発掘調査概報」、平成 年度に「稲山遺跡発掘調査概報」、平成 年度に「稲山遺跡発掘調査概報」を刊行している。なお平成 年度刊行の「稲山遺跡発掘調査概報」は、平成 年度調査成果について速報的にまとめたものであり、記載内容については、本書が優先する。
4. 本遺跡の遺跡番号は、 である。
5. 本書の執筆並びに編集は、青森市教育委員会が行い、小野貴之が担当した。
6. 出土遺物の分類については、種別毎に凡例に記載した。
7. 調査区におけるグリッドの設定、測量原点（B.M）基本層序については、第一次調査に相当する平成 年度発掘調査を踏襲し、これと同様である。また、土層の注記については、「新版標準土色帳」（小山正忠、竹原秀雄）に準拠した。なお、各遺構の計測値については、確認面から計測した数値である。
8. 遺構番号は、第一次調査より継続して、原則的に遺構の種別毎に、確認順に番号を付した。また、精査後、遺構でないと判明したものについては、欠番とした。
9. 図版番号及び表番号は、原則的に「第 図」、「第 表」とし、順番に通し番号を付した。
 - ・ 挿図の縮尺は、各図ごとに示した。また、写真図版の縮尺については統一を図っていない。
 - ・ 資料の鑑定及び分析について次の方々へ依頼した。（順不同・敬称略）

石器の石質鑑定	青森県総合学校教育センター指導主事	工藤 一 彌
水晶の鑑定	山梨学院大学教授	十 菱 駿 武
 - ・ 土器トレース並びに石器実測及びそのトレースは、一部を次の業者に委託した。

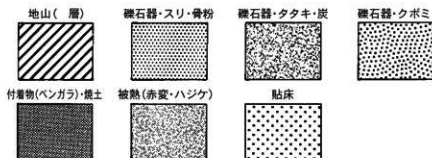
土器のトレース	アイシン精機株式会社文化財プロジェクト
石器の実測・トレース	株式会社アルカ
 - ・ 発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、現在、青森市教育委員会にて保管している。
 - ・ 発掘調査及び報告書の作成にあたって次の各機関・各位からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表する（順不同・敬称略）。

青森県教育庁文化財保護課・青森県埋蔵文化財調査センター・南部二区連合町会・諏訪沢地区農事振興会・小笠原 実

凡 例

1. 本報告書内で使用する、スクリーントーン・表現方法・略称は以下のとおりである。

(1) 図中で使用したスクリーントーン



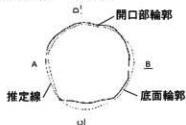
(2) 土器片利用土製品研磨範囲



(3) 石器実測図の剥片石器原礫面については、ドットを用いた。また、調査・整理時における欠損と思われる剥離面は、空白とした。

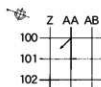
(4) 遺構の推定線等

(例) 第 号土坑



(5) グリッドの呼称

(例) AA - グリッド



(6) 表中、写真図版中の図版番号の略称

「第 図」 「 - 」

なお、表中の図版番号の項目が空欄のものは、実測図非掲載の資料である。

(7) 図中、表中で使用した遺構の略称

「第 号竪穴式住居跡」「住」「第 号土坑」「土」「第 号埋設土器遺構」「埋」

(8) 図中で使用したアルファベットを用いた略称

P 土器 S 石器 LB ロームブロック

(9) 施文具及び施文手法の略称

土器観察表中の第 群土器については、文様の項目で以下のように略称を用いた。

(例) 単軸結条体第1類 単結1、多軸結条体 多結、結節回転文 結回、直前段多条 直前多
また、庄痕文については、施文原体等の語句の後に押と表示したが、回転文については、
基本的に施文原体の語句のみとした。

(例) 単軸結条体第1類庄痕 単結1押、単軸結条体第1類回転 単結1

() 石器計測表中の器種の略称

「不定形石器」「不定形」、「半円状扁平打製石器」「半円」、「抉入扁平磨製石器」「抉入」

() 石器計測表中の石質の略称

「珪質頁岩」「珪・頁」「頁岩」「頁」「玉髓」「玉」「溶結凝灰岩」「溶・凝」
「安山岩」「安」「凝灰岩」「凝」「粘板岩」「粘」「石英安山岩」「石・安」
「流紋岩」「流」「瑪瑙」「瑪」「閃綠岩」「閃」「綠色凝灰岩」「緑・凝」
「軽石」「軽」「泥岩」「泥」「石灰岩」「灰」「変朽安山岩」「変・安」
「水晶」「水」「玢岩」「玢」「輝綠凝灰岩」「輝・凝」「凝灰角礫岩」「凝・角」

2. 基本層序

本遺跡の基本層序は以下のとおりである。

第 層：主に黒褐色を呈する。木草根を多く含む表土である。近・現代に相当する堆積層である。

第 層：主に黒褐色を呈する。平安時代以降に相当する堆積層である。

第 層：主に暗褐色を呈する。弥生時代に相当する堆積層として考えられる。

第 層：主に黒褐色を呈する。縄文時代に相当する堆積層である。

a 層：縄文時代後期に相当する遺物包含層

c 層：縄文時代前期に相当する遺物包含層

第 層：主に黒色を呈する。無遺物層である。

第 層：主に暗褐色を呈する。第 層、第 層のシルト質土壌と第 層のローム質土壌の漸移層である。

第 層：主に黄褐色あるいは赤褐色を呈する。ローム層である。局所的に多量の角礫を包含するところもある。

3. 出土遺物の分類

本遺跡の出土遺物の分類については、第一次調査である平成 年度調査時より継続するものであり、本書についても基本的には同様である。各種遺物の分類やその詳細については、青森市埋蔵文化財調査報告書第 集『福山遺跡発掘調査報告書』(青森市教育委員会)において記述しており、第 集を参照されたい。

(1) 出土土器の分類

本遺跡で出土した土器は、以下のように分類した。

第 群土器	縄文時代早期の土器
第 群土器	縄文時代前期の土器
第 群土器	縄文時代中期の土器
第 群土器	縄文時代後期の土器
第 群土器	縄文時代晩期の土器
第 群土器	続縄文・弥生時代の土器
第 群土器	平安時代の土器

(2) 出土石器の分類

本遺跡で出土した石器は以下のように分類した。

(1) 剥片石器

- ・石鏃
- ・鋸先鏃
- ・石槍 (6 cm以上のもの)
- ・石錐
- ・石匙
- ・大石平型石筥
- ・石筥
- ・異形石器
- ・不定形石器
- ・その他の剥片石器
- ・剥片
- ・石核

(2) 石斧

- 1 磨製石斧

(3) 礫石器

- ・礫石錘
- ・有溝石錘
- ・敲磨器類
- ・半円状扁平打製石器及び類似する石器
- ・挿入扁平磨製石器及び類似する石器
- ・剥離のある礫
- ・擦切具
- ・砥石
- ・石皿・台石

(4) 水晶

(3) 出土土製品の分類

本遺跡で出土した土製品は以下のように分類した。

- ・土偶
- ・鐙形土製品
- ・ミニチュア土器
- ・耳飾
- ・腕輪状土製品
- ・動物形土製品
- ・有孔土製品
- ・紐状土製品
- ・笠形土製品
- ・三角形土版
- ・円形土版
- ・土器片利用土製品
- ・焼成粘土塊
- ・莖形土製品
- ・靴形土製品

(4) 出土石製品の分類

本遺跡で出土した石製品は以下のように分類した。

- ・三角形岩版
- ・円形岩版
- ・その他の岩版
- ・岩版関係資料
- ・有孔石製品
- ・球状石製品
- ・椀状石製品
- ・耳飾
- ・イモ貝状石製品
- ・線刻礫
- ・採集石製品
- ・石冠
- ・石棒
- ・石刀
- ・軽石石製品
- ・その他の石製品

目 次

序

例言

凡例

目次

図版目次

表目次

写真目次

第7編	平成 年度発掘調査成果	1
第1章	平成 年度稲山遺跡発掘調査要項	1
第2章	調査経過	4
第3章	検出遺構と出土遺物	
第1節	検出遺構	
	1. 竪穴式住居跡	
	2. 土坑	
	3. 埋設土器遺構	
第2節	出土遺物	
	1. 土器	
	第 群土器	
	第 群土器	
	2. 石器	
	3. 土製品	
	4. 石製品	
	平成 年度調査のまとめ	
	引用・参考文献	
	観察表・計測表	
	写真図版	
	報告書抄録	

写真7 土坑(6)
写真8 土坑(7)
写真9 土坑(8)
写真 土坑(9)
写真 土坑()
写真 土坑()>埋設土器遺構(1)
写真 埋設土器遺構(2)
写真 遺構内出土土器(竪穴式住居跡Ⅰ1)
写真 遺構内出土土器(竪穴式住居跡Ⅱ2)
写真 遺構内出土土器(竪穴式住居跡)
写真 遺構内出土土器(土坑Ⅰ1)
写真 遺構内出土土器(土坑Ⅱ2)
写真 遺構内出土土器(土坑Ⅲ3)
写真 遺構内出土土器(土坑Ⅳ4)
写真 遺構内出土土器(土坑)
写真 遺構内出土土製品・石製品
(竪穴式住居跡・土坑)
写真 遺構内出土土器・石器(埋設土器遺構)
写真 遺構外出土第 群土器()
写真 遺構外出土第 群土器()
写真 遺構外出土第 群土器()
写真 遺構外出土第 群土器()
写真 遺構外出土第 群土器()
写真 遺構外出土第 群土器()
写真 遺構外出土第 群土器()
写真 遺構外出土第 群土器()
写真 遺構外出土第 群土器()
写真 遺構外出土第 群土器()
写真 遺構外出土第 群土器()
写真 遺構外出土石器(1)
写真 遺構外出土石器(2)
写真 遺構外出土石器(3)
写真 遺構外出土石器(4)
写真 遺構外出土製品(1)
写真 遺構外出土製品(2)
写真 遺構外出土製品(3)
写真 遺構外出土石製品(1)
写真 遺構外出土石製品(2)

第7編 平成 ・ 年度発掘調査成果

第1章 平成 ・ 年度稲山遺跡発掘調査要項

・平成 年度稲山遺跡発掘調査要項

1. 調査目的

東北縦貫自動車道八戸線（青森～青森）建設工事に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

2. 遺跡名及び所在地

稲山遺跡（いなやま）
青森市大字諏訪沢字山辺地内

3. 事業実施期間 平成 年4月2日～平成 年3月 日
(発掘調査期間 平成 年6月 日～平成 年8月3日)

4. 調査対象面積 m^2 (総調査対象面積)
 m^2 (調査実施面積)

5. 調査委託者 日本道路公社

6. 調査受諾者 青森市教育委員会

7. 調査担当機関 青森市教育委員会文化財課

8. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

9. 調査体制

調査指導員	村 越 潔	青森大学教授	(考古学)
調査員	藤 沼 邦彦	弘前大学教授	(考古学)
"	十 菱 駿 武	山梨学院大学教授	(考古学)
"	葛 西 勲	青森短期大学助教授	(考古学)
"	市 川 金 丸	青森県考古学会会長	(考古学)
"	工 藤 一 彌	青森県総合学校教育センター指導主事	(地質学)
調査協力員	豊 川 功		
"	齋 藤 誠		
"	齋 藤 義 隆		

調査事務局	青森市教育委員会	
	教 育 長	角 田 詮二部
	事 務 局 長	三 浦 賢 伍 (一平成 年5月 日)
	”	大 柴 正 文 (平成 年6月1日～)
参事・文化財課長事務取扱		遠 藤 正 夫
	課 長 補 佐	工 藤 勝 則 (現 青森市市民課課長補佐)
	主 査	堀 谷 久 子 (現 青森市国保医療課医療助成係長)
	文 化 財 主 事	小 野 貴 之 (調査担当)
	”	木 村 淳 一
	”	児 玉 大 成
	”	設 楽 政 健
	主 事	中 村 麻 子 (庶務担当) (現収納課主事)
		松 尾 信一郎 (庶務担当)
調査補助員		長 内 礼 二
		工 藤 かおり
		齋 藤 奈穂子
		本 多 顕 子
		松 原 千佳子

・平成 年度稲山遺跡発掘調査要項

1. 調査目的

東北縦貫自動車道八戸線(青森ー青森)建設工事に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

2. 遺跡名及び所在地

稲山遺跡(いなやま)
青森市大字諏訪沢字山辺地内

3. 事業実施期間 平成 年4月1日～平成 年3月 日
(発掘調査期間 平成 年5月7日～平成 年6月 日)

4. 調査対象面積 m^2 (総調査対象面積)
 m^2 (調査実施面積)

5. 調査委託者 日本道路公団

6. 調査受諾者 青森市教育委員会

7. 調査担当機関 青森市教育委員会文化財課

8. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

9. 調査体制

調査指導員	村 越 潔	青森大学教授	(考古学)
調査員	藤 沼 邦彦	弘前大学教授	(考古学)
"	十 菱 駿 武	山梨学院大学教授	(考古学)
"	葛 西 勳	青森短期大学助教授	(考古学)
"	市 川 金 丸	青森県考古学会会長	(考古学)
"	工 藤 一 彌	青森県総合学校教育センター指導主事	(地質学)
調査協力員	豊 川 功		
"	齋 藤 誠		
"	齋 藤 義 隆		

調査事務局 青森市教育委員会

教 育 長	角 田 詮二部
教 育 部 長	大 柴 正 文
教 育 次 長	竹 内 徹
参事・文化財課長事務取扱	遠 藤 正 夫
課 長 補 佐	多 田 弘 仁
主 査	木 浪 貴 子
文化財主事	小 野 貴 之(調査担当)
"	木 村 淳 一
"	児 玉 大 成
"	設 楽 政 健
主 事	足 澤 愛 子(庶務担当)
調 査 員	松 橋 智佳子
調 査 補 助 員	長 内 礼 二
	工 藤 かおり
	沼 畑 伸 一
	本 多 顕 子
	松 原 千佳子

第2章 調査経過

・平成 年度

- 6月 日 調査開始式を行い、草刈り、機材整理等、調査区内外の環境整備を行った。
- 6月 日 確認済であった、第 号竪穴式住居跡の精査を続けた。
- 6月 日 調査区内台地上部では包含層の精査をおこなった。
- 6月 日 調査区内台地上部では土坑を確認し、精査を開始した。斜面中部では、遺構の確認作業を行った。また、斜面下部では、 c 層の精査をおこなった。
- 6月 日 台地上部及び斜面中部では、竪穴式住居跡及び土坑等の精査を続けた。斜面下部では c 層の精査を続けた。
- 7月6日 斜面下部において c 層より出土した円筒下層 d₁式土器の写真撮影をおこなった。また、第 号竪穴式住居跡を確認し、精査を開始した。
- 7月 日 斜面下部において c 層より出土した円筒下層 b₂式土器の写真撮影をおこなった。
- 7月 日 斜面下部の精査を続けた。
- 7月 日 包含層精査が終了した。調査区域内の標高を記録した。
- 7月 日 遺構の検出作業を終了した。
- 8月2日 空中撮影の準備として、調査区内のクリーニングや白線引きを行った。
- 8月3日 調査区内の検出遺構について空中撮影を行った。現地調査最終日であり、機材等整理後、調査終了式を行い平成 年度の調査を終了した。検出遺構数は、竪穴式住居跡4軒、土坑 基、埋設土器遺構7基である。出土遺物は土器、石器、土製品、石製品等ダンボール箱換算で 箱が出土した。

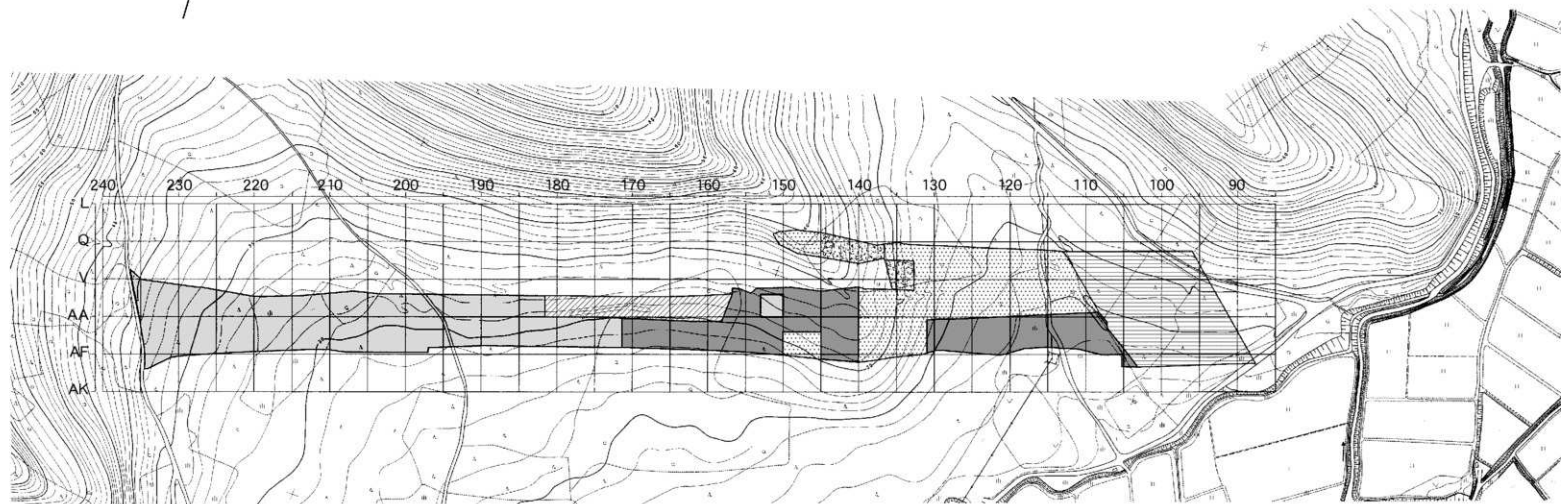
・平成 年度

- 5月7日 現地調査初日であり、調査開始式を行った。また、調査区内の草刈等環境整備を行った。
- 5月中旬 調査区内について重機による表土剥ぎを行い、表土剥ぎの終了した地点より包含層の精査を調査区東側 ~ ラインから西側に向かって精査を開始した。 ~ ライン間においては、円筒下層 d₁式土器の個体が横転し潰れた状況で多数出土し始めた。精査を続けた。
- 5月 日 遺物を取り上げた。精査を続けた。
- 5月 日 Y - グリッドにおいて、第 号土坑を確認した。精査を開始した。
- 5月 日 X・Y - グリッドにおいて、第 号土坑を、X・Y - ・グリッドにおいて、第 号土坑をそれぞれ確認し、精査を開始した。
- 5月 日 AA - グリッドにおいて、第 号埋設土器遺構を確認した。精査を開始した。
- 6月 日 これまでの調査では、遺構、遺物ともに、おおむね ~ ライン間での検出、出土であったが、調査区西側、Z - グリッドにおいて、第 号土坑を確認した。精査を開始した。
- 6月 日 遺構の検出・記録作業を終了した。
- 6月 日 現地調査最終日であり、調査終了式を行い、平成 年度の調査を終了した。検出遺構数は、土坑4基、埋設土器遺構1基である。出土遺物は土器、石器、土製品、石製品等ダンボール箱換算で 箱が出土した。



第1図 稲山遺跡位置図 (S=1/25,000)

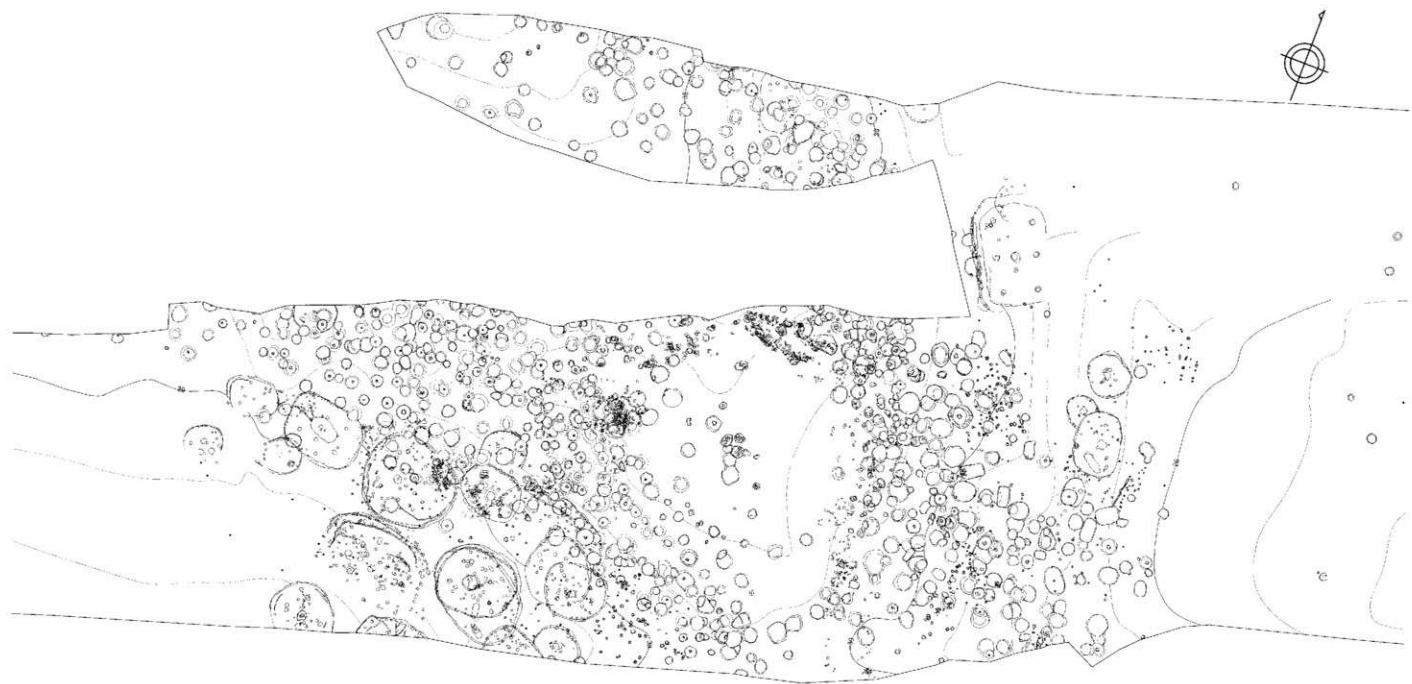
※本図は、青森市教育委員会が作成した「青森市遺跡地図(数値地図)」を一部複写の上、加工・転載したものである。



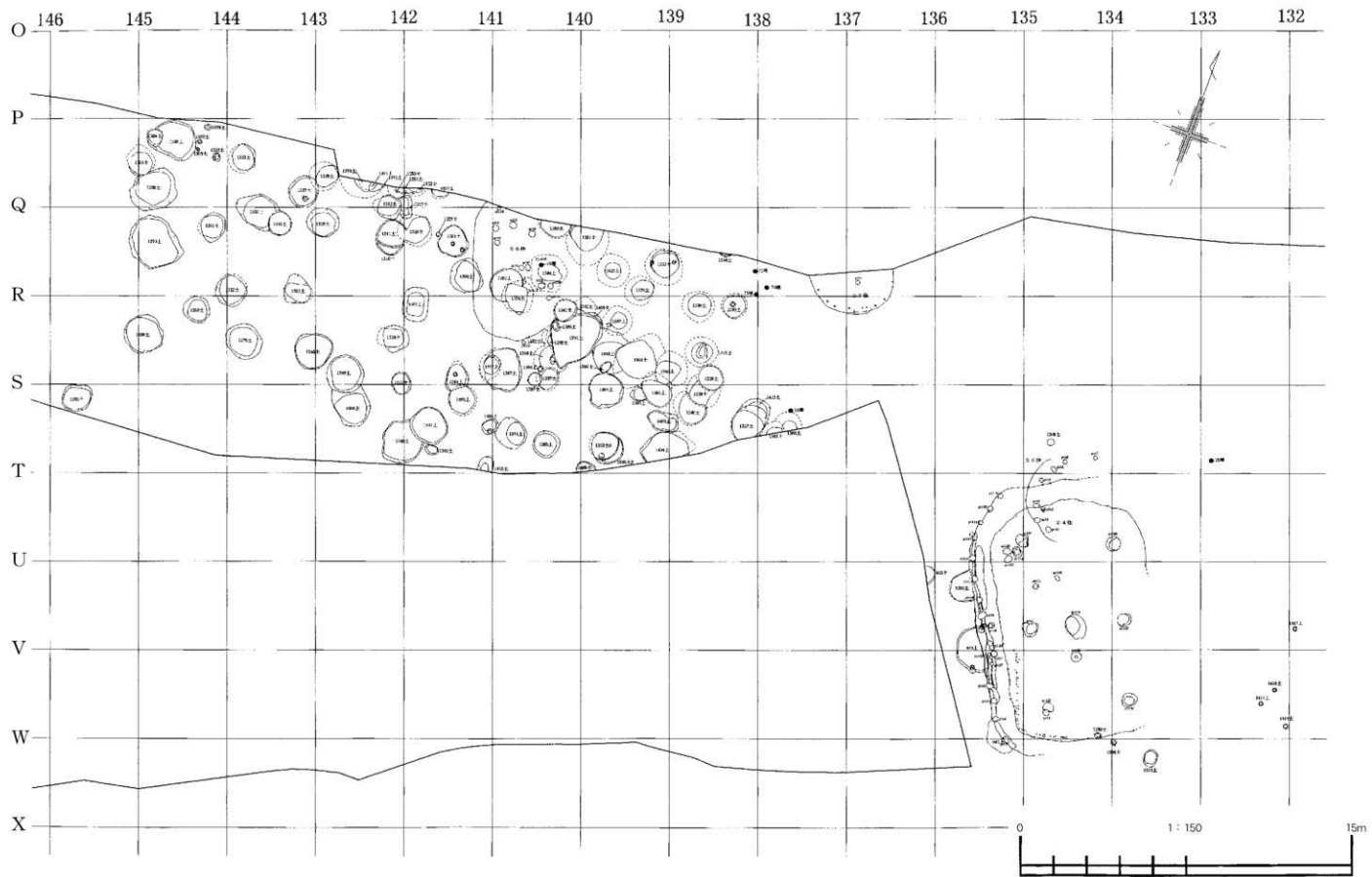
凡 例	
	平成10年度 調査終了範囲
	平成11年度 調査終了範囲
	平成12年度 調査終了範囲
	平成12年度 確認調査終了範囲
	平成13年度 調査終了範囲
	平成15年度 調査終了範囲



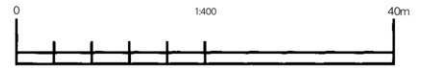
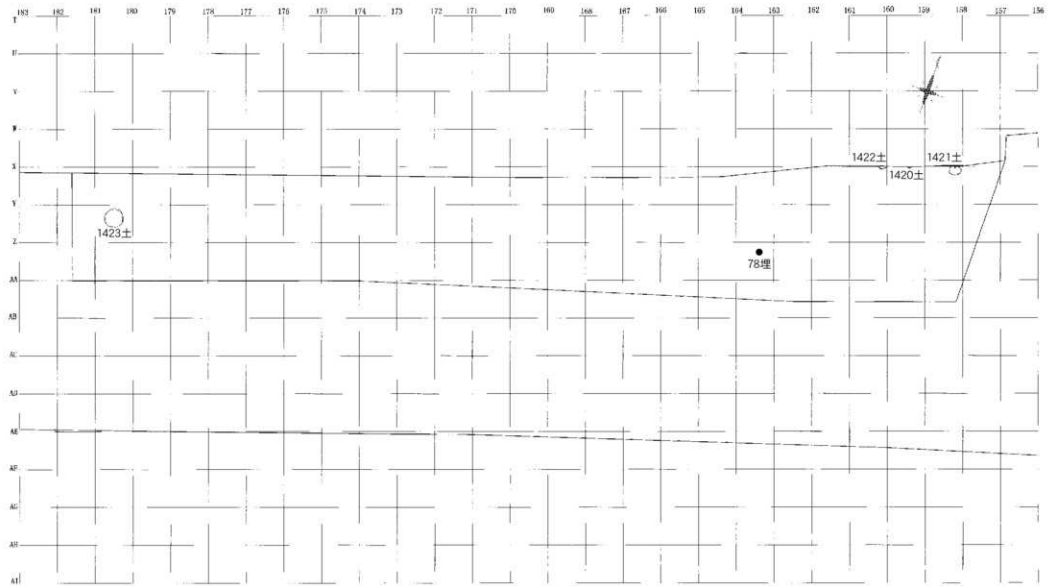
第2図 調査区設定図



第3図 平成10～15年度遺構配置図（遺構集中区域）



第4図 平成13年度遺構配置図



第5図 平成15年度遺構配置図

第3章 検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構

1. 竪穴式住居跡

平成 年度調査において、竪穴式住居跡を4軒検出している。

第 号竪穴式住居跡(第6、7図)

[位置・確認層] U-X- ー に位置する。第 ー 層において確認した。

[重複] 第 号竪穴式住居跡、第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 遺構西側の検出に留まり東側は、床、壁等確認できなかったため、全容は不明であるが、残存部より平面形は隅丸長方形を呈するものと思われる。残存部の規模は、長軸 m、短軸 mである。

[壁] 床面端から北及び西壁は外側へ緩やかに立ち上がる。南壁は外側へ直線的に立ち上がる。いずれもテラス部で屈曲し、外側へ緩やかに立ち上がる。壁高は、北壁確認面よりテラス上面まで cm、北壁確認面より床面までの最大幅が cm、南壁確認面よりテラス上面までが cm、南壁確認面より床面までの最大幅が cm、西壁確認面よりテラス上面までが cm、西壁確認面より床面までの最大幅が cm、東側は壁を確認できなかった。

[床] 全体として第 ー 層、第 号竪穴式住居跡覆土を床面としている。一部貼床も見られる。いずれも堅く締まる。全体として西側から東側へ若干の傾斜が見られる。南東側を除き、テラスを有する。

[柱穴] ビット1、2、 ー、 ー、 ー は、規模、配置より主柱穴と思われる。また、テラス端部に巡るビット3ー、 ー は壁柱穴と思われる。床面南西端には小規模のビットが巡る。

[炉] 床面中央南東より焼土を確認しており地床炉と思われる。

[その他の付属施設] テラス西壁側端部を巡る溝を確認しており壁溝と思われる。

[堆積土] 層に分層した。第1、5、6層は、黒〜黒褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。第 ー 層は、壁の崩落土の可能性が考えられる。他は、人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第 群3類、5 a類、6類土器が出土している。床面より第 群5 a類土器(第 図7)、第 層より第 群3類土器(第 図9)、5 a類土器(第 図)、第 層より第 群6類土器(第 図)、第 層より第 群6類土器(第 図)、第9層より第 群3類土器(第 図)、5 a類土器(第 図)、第6層より第 群3類土器(第 図)、第4層より第 群6類土器(第 図)、第3層より第 群6類土器(第 図)、第2層より第 群3類土器(第 図)、5 a類土器(第 図)、第1層より第 群3類土器(第 図)、5 a類土器(第 図)、覆土より第 群3類土器(第 図)、5 a類土器(第 図8)、 ー、 ー、 ー)、6類土器(第 図)、)が出土している。また、ビット 第2層より第 群3類土器(第 図1)、ビット 第1層より第 群5 a類土器(第 図2)、ビット 第4層より第 群3類土器(第 図3)、ビット 覆土より第 群3類土器(第 図4)、ビット 第5層より第 群3類土器(第 図5)、ビット 第1層より第 群5 a類土器(第 図6)が出土している。

石器は、床面直上より石鏃2類2が1点(第 図1)、第1層より石鏃3類3が1点(第 図2)、石匙1類が1点(第 図4)、2類が2点(第 図、)、不定形石器1類Eが1点(第 図)、敲磨器類2類Bが1点(第 図)、2類Eが2点(第 図、)、4類Aが1点(第 図)、4類Bが1点(第 図)、覆土より石匙1類が5点(第 図3、5～8)、2類が3点(第 図9、)、石筥1類が2点(第 図、)、不定形石器1類Aが8点(第 図、)、1類Cが4点(第 図)、1類Gが1点、3類が2点、4類が2点、その他の剥片石器が3点、磨製石斧1類Cが1点(第 図)、敲磨器類1類Aが1点(第 図)、2類Bが1点(第 図)、3類が1点(第 図)、4類Aが3点(第 図、第 図、)、半円状扁平打製石器が1点(第 図)、挟入扁平磨製石器が1点(第 図)、ビット6覆土より不定形石器1類Bが1点、ビット 第1層より敲磨器類2類Eが1点(第 図)、4類Dが1点(第 図)、石皿・台石1類が1点(第 図)、ビット覆土より不定形石器4類が1点出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点(第 図1)出土している。

石製品は、ビット 覆土より有孔石製品が1点(第 図3)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期末葉の竪穴式住居跡と思われる。

第 号竪穴式住居跡(第8図)

[位置・確認層] T・U- グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 一部の検出に留まり平面形は、不明である。残存部の最大幅は、 mである。

[壁] 残存部は外側へ直線的に立ち上がる。北壁確認面より直下の床までが cm、床面までの最大幅が cm、南壁確認面より直下の床までが6 cm、床面までの最大幅が cm、西壁確認面より直下の床までが cm、床面までの最大幅が cm、東壁は壁を確認できなかった。

[床] 第 層を床面としている。若干の起伏が見られ、全体として、西側から東側への傾斜が見られる。

[柱穴] 8基のビットを確認した。規模、配置より壁柱穴と思われる。

[炉] 確認していない。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 4層に分層した。第1～3層は、黒～黒褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、床面より第 群6類土器(第 図)、第4層より第 群5a類土器(第 図1、2、第 図～)、覆土より第 群3類土器(第 図)、5a類土器(第 図、)が出土している。

石器は、第4層より不定形石器1類Cが1点、覆土より不定形石器1類Aが1点、1類Cが1点(第 図)、敲磨器類2類Bが1点(第 図)出土している。

土製品は、覆土よりミニチュア土器が1点(第 図2)出土している。

石製品は、覆土よりその他の石製品が1点(第 図4)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期末葉の竪穴式住居跡と思われる。

第 号竪穴式住居跡（第9図）

[位置・確認層] Q-S、グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第号土坑、第号土坑、第号土坑、第号土坑、第号土坑と重複し、本遺構は第号土坑より新しく、第号土坑、第号土坑、第号土坑、第号土坑より古い。

[平面形・規模] 調査区端に位置しており全容は不明であるが不整形円形を呈するものと思われる。残存部の最大幅は m である

[壁] 残存部は外側へ緩やかに立ち上がる。南壁確認面より直下の床までが cm、床面までの最大幅が cm、西壁確認面より直下の床までが cm、床面までの最大幅が cm、北壁及び東壁は確認できなかった。

[床] 第層及び部分的な貼床を床面としている。起伏が見られ、全体として西側から東側への傾斜が見られる。

[柱穴] 基のビットを確認した。ビット2～4、9は、規模より支柱穴の可能性が考えられる。

[炉] 確認していない。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 5層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。他は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、床面直上より第群6類土器（第図）、第4層より第群5a類土器（第図）、第3層より第群6類土器（第図）、第2層より第群6類土器（第図）、覆土より第群3類土器（第図）、5a類土器（第図）が出土している。

石器は床面直上より石槍2類が1点（第図）、不定形石器1類Aが1点、4類が1点、敲磨器類2類Eが1点（第図）、5類が1点（第図）、半円状扁平打製石器が2点（第図）、石皿・台石が1点（第図）、第4層より不定形石器3類が1点、第2層より半円状扁平打製石器が1点（第図）、覆土より不定形石器2類が1点、4類が1点、敲磨器類2類Eが2点（第図）、半円状扁平打製石器が1点（第図）出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期末葉の竪穴式住居跡と思われる。

第 号竪穴式住居跡（第 図）

[位置・確認層] R-S、グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 調査区端に位置し、平面形は不明である。残存部の最大幅は、 m である。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。東壁確認面より直下の床までが床面までの最大幅で cm、南壁確認面より直下の床までが cm、床面までの最大幅が cm、西壁確認面より直下の床までが cm、床面までの最大幅が cm、北壁は不明である。

[床] ほぼ平坦であるが、全体として西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[柱穴] 9基のビットを検出した。ビット1は規模、配置より支柱穴と思われる。その他は、壁際を巡り壁柱穴と思われる。

[炉] 確認していない。

[その他の付属施設] なし。

[堆積土] 層に分層した。第2、5-7、9層は、黒色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。他は、自然堆積と思われる。

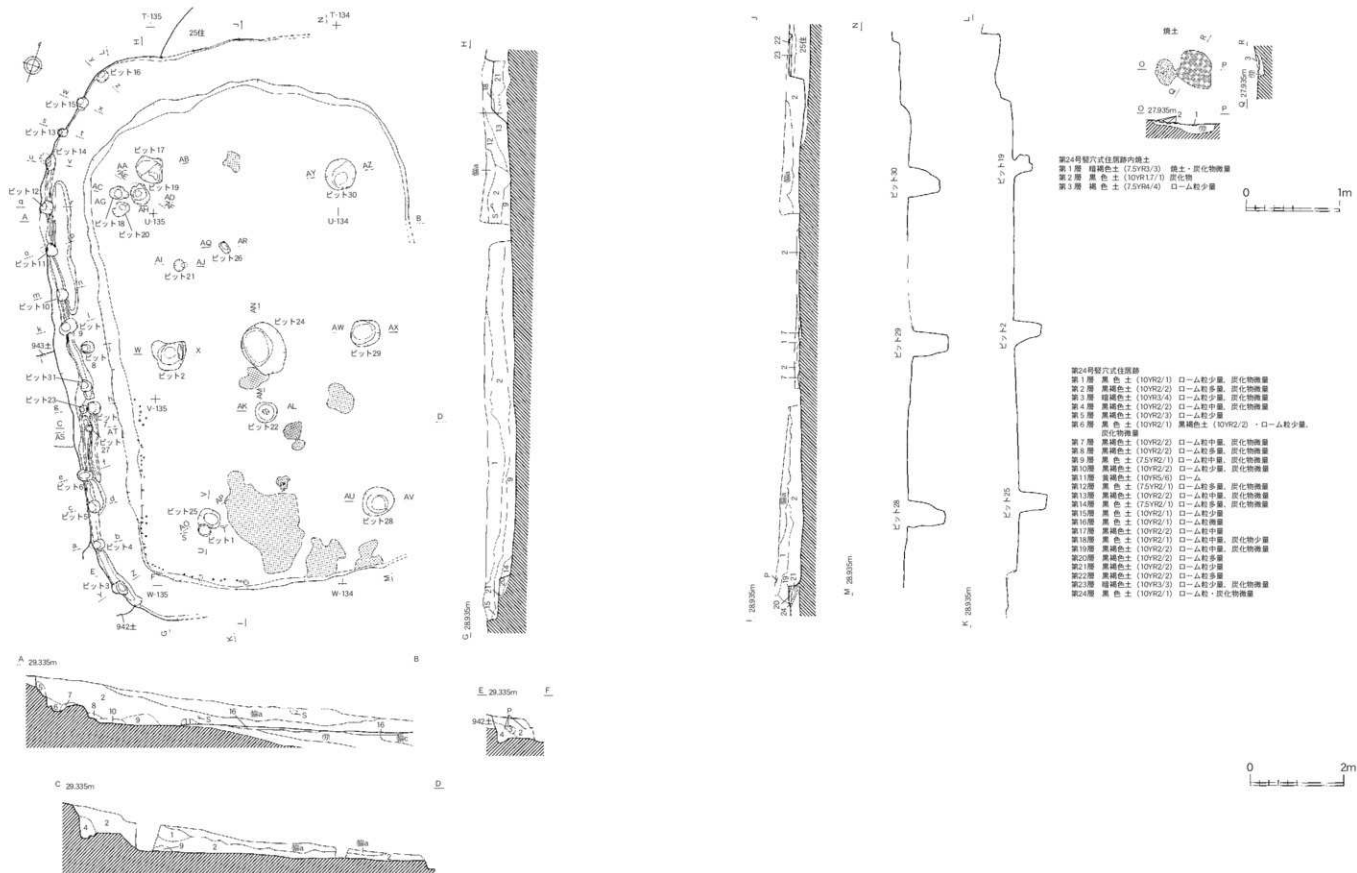
[出土遺物] 土器は、第 層より第 群3類土器(第 図4) 6類土器(第 図) 第9層より第 群6類土器(第 図) 第8層より第 群3類土器(第 図6、第 図) 第7層より第 群3類土器(第 図3、5) 第5層より第 群6類土器(第 図) 第4層より第 群3類土器(第 図7) 6類土器(第 図) 第3層より第 群3類土器(第 図8、9、第 図) 覆土より第 群3類土器(第 図、)が出土している。

石器は、床面直上より敲磨器類1類Bが1点(第 図) 2類Eが1点(第 図) 第5層より不定形石器1類Fが1点、3類が1点、覆土より石匙1類が1点(第 図) 不定形石器1類Aが1点、2類が1点、半円状扁平打製石器が1点(第 図) 出土している。

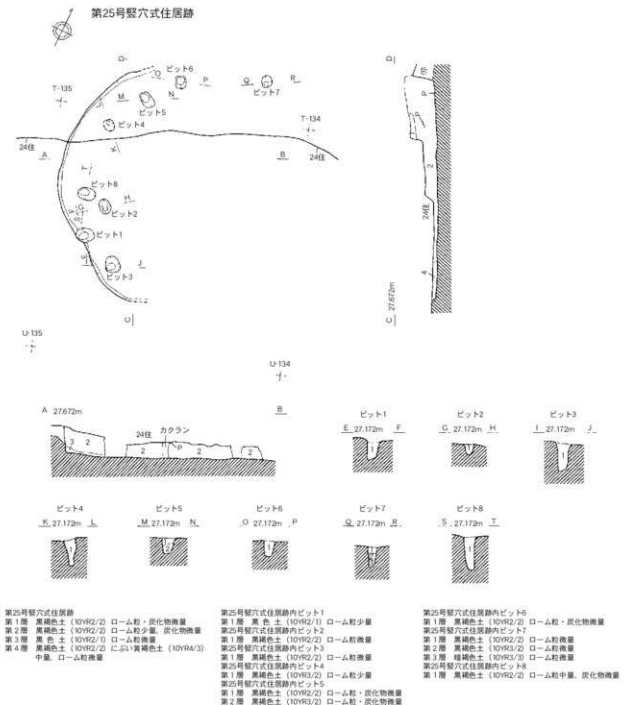
石製品は、覆土より採集石製品が1点(第 図5) 出土している。

[時期] 出土土器より縄文時代前期中葉の竪穴式住居跡と思われる。

第24号竪穴式住居跡

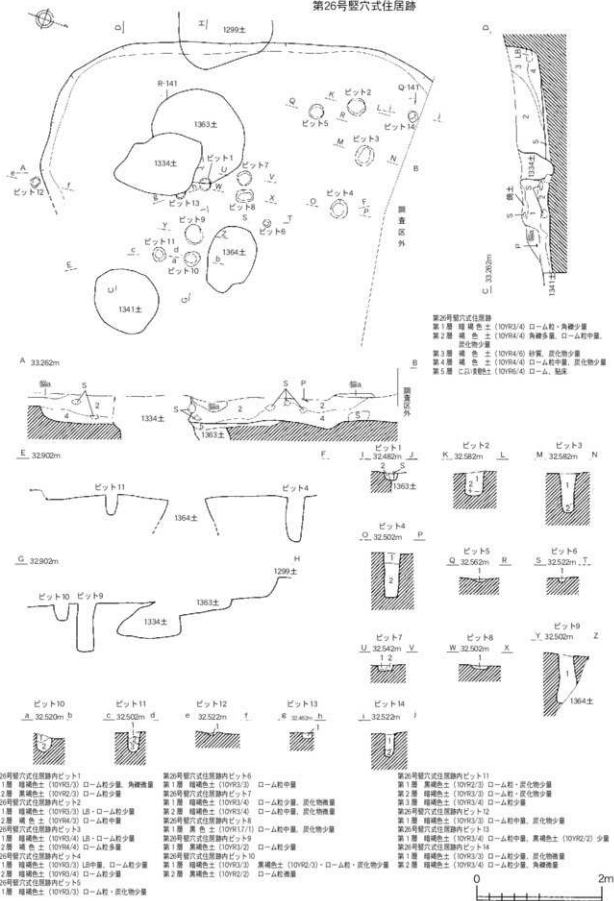


第6図 第24号竪穴式住居跡 (1)

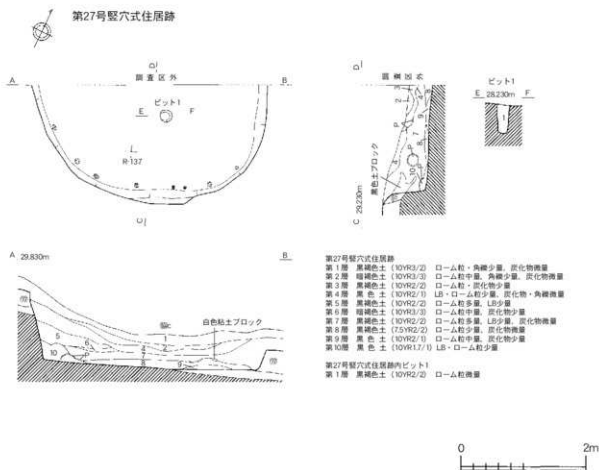


第8図 第25号竪穴式住居跡

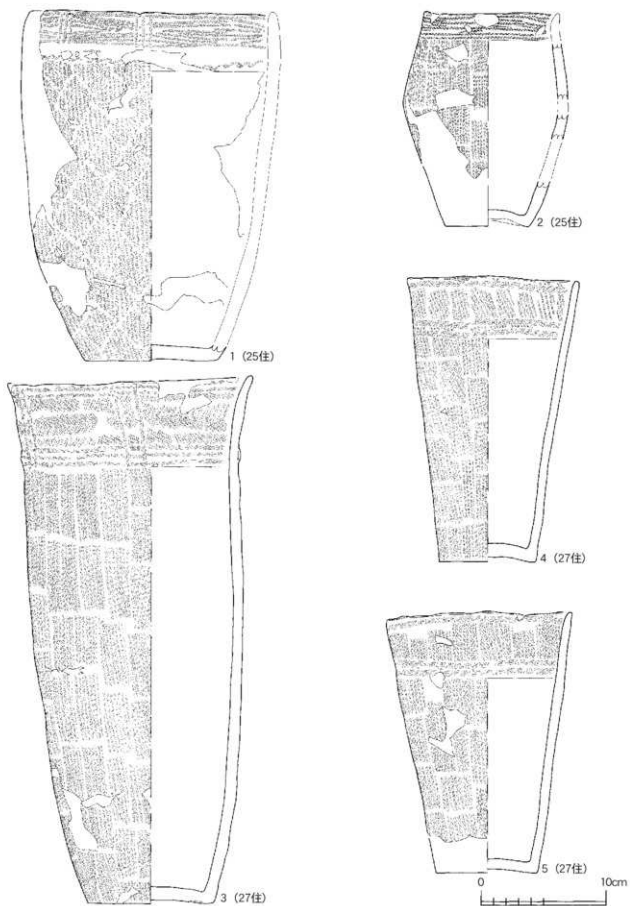
第26号竪穴式住居跡



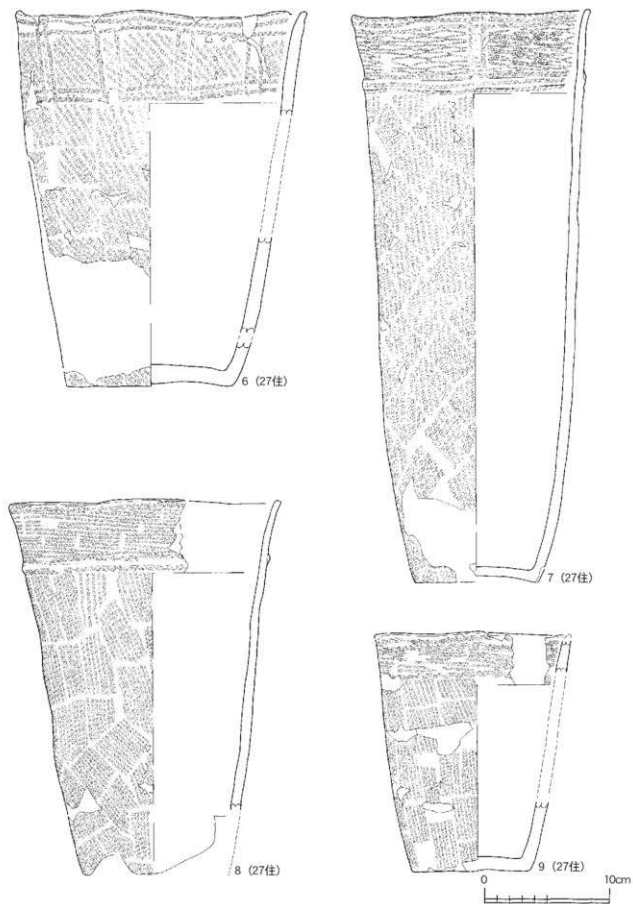
第9図 第26号竪穴式住居跡



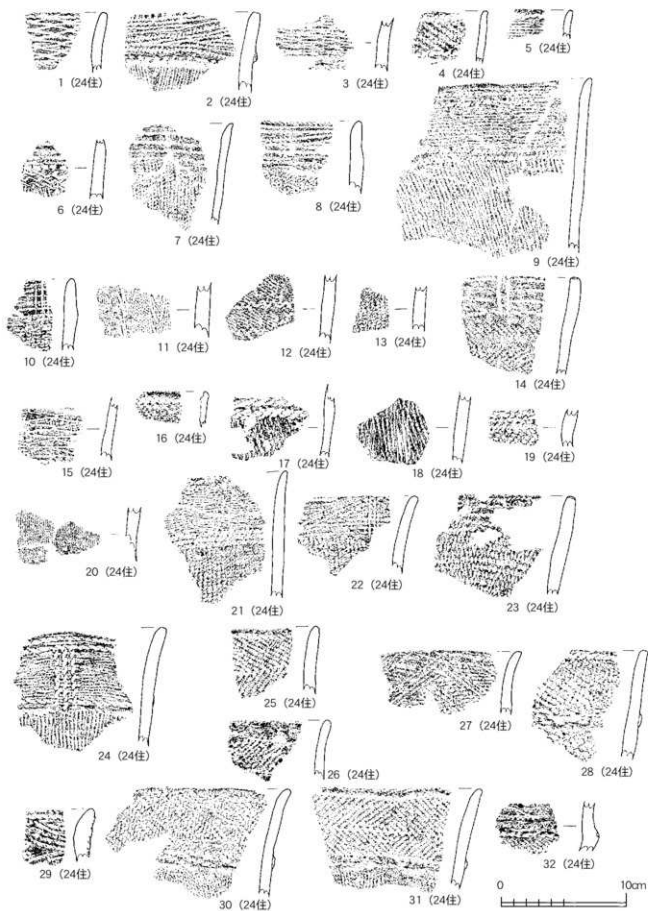
第10図 第27号竪穴式住居跡



第11図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(1)



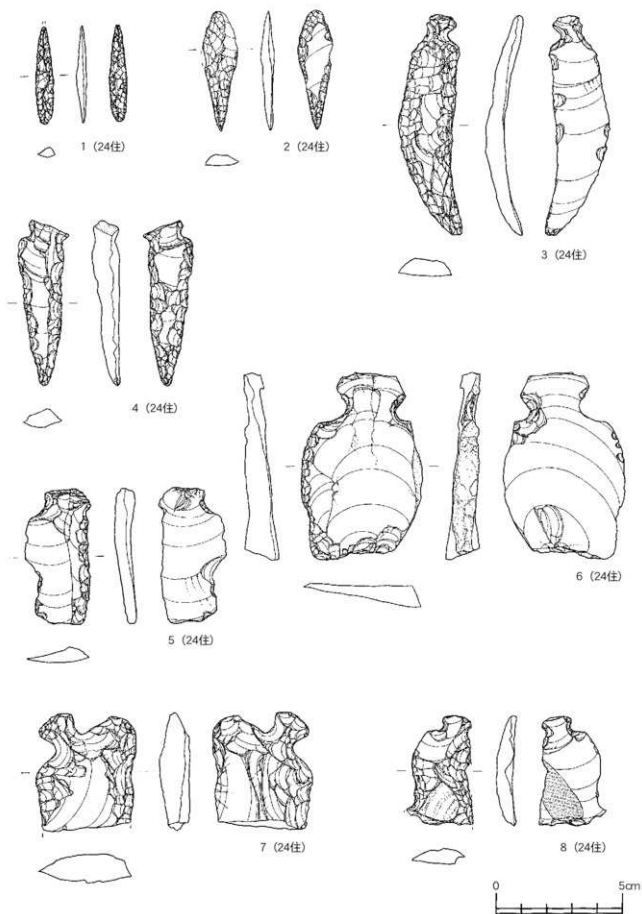
第12図 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(2)



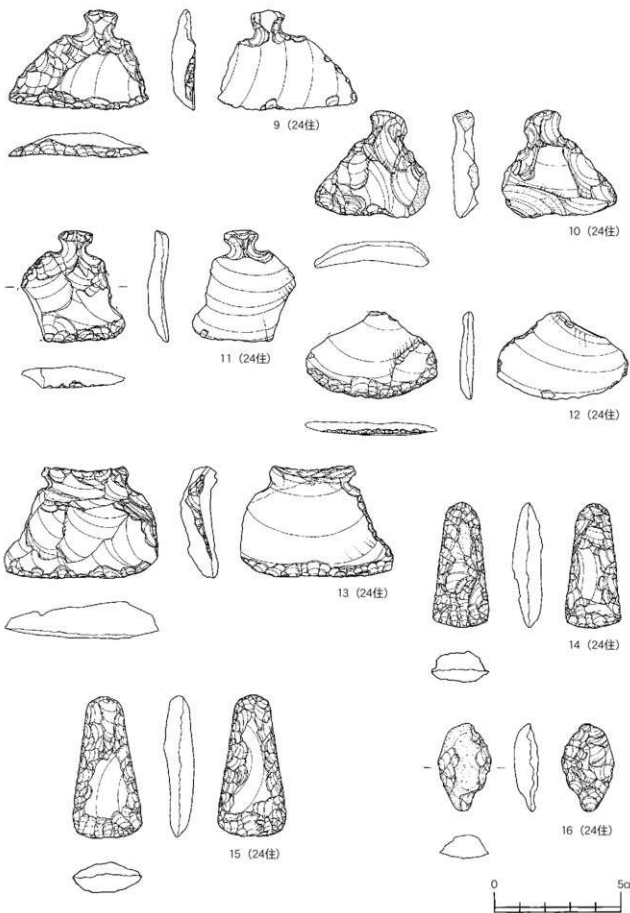
第13図 遺構内出土土器(竪穴式住居跡)(3)



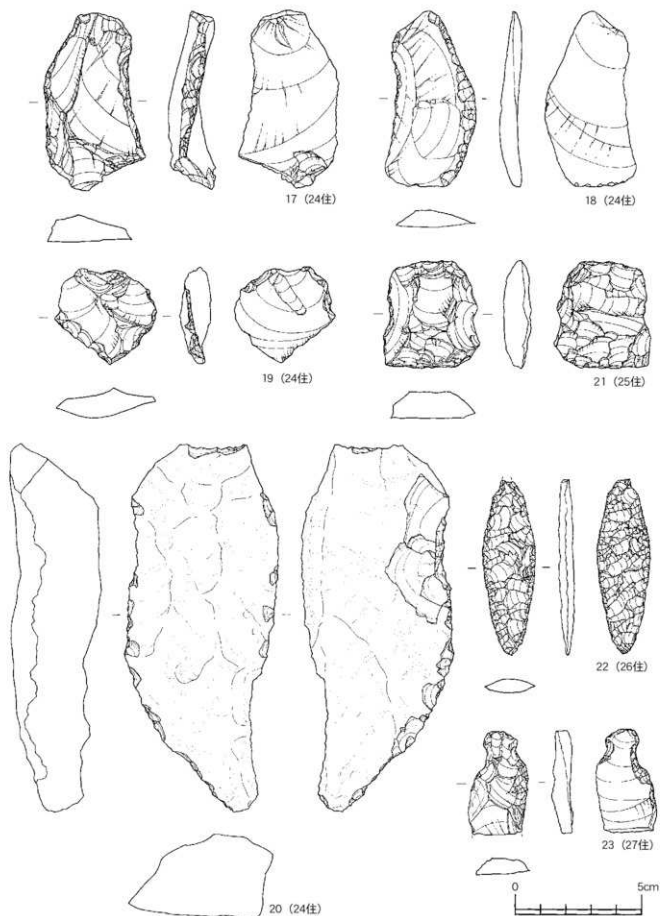
第14図 遺構内出土土器(竪穴式住居跡)(4)



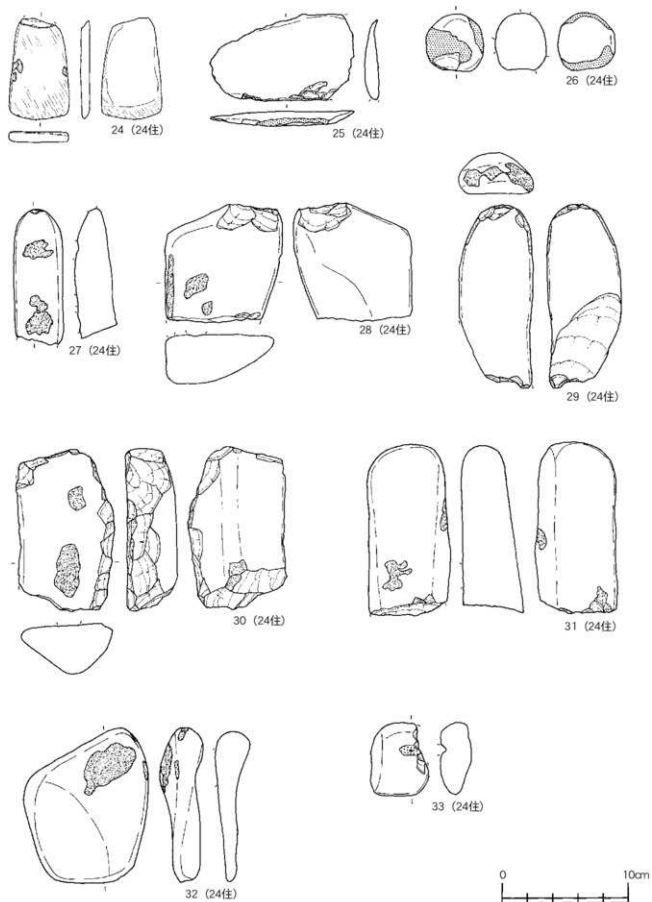
第15図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(1)



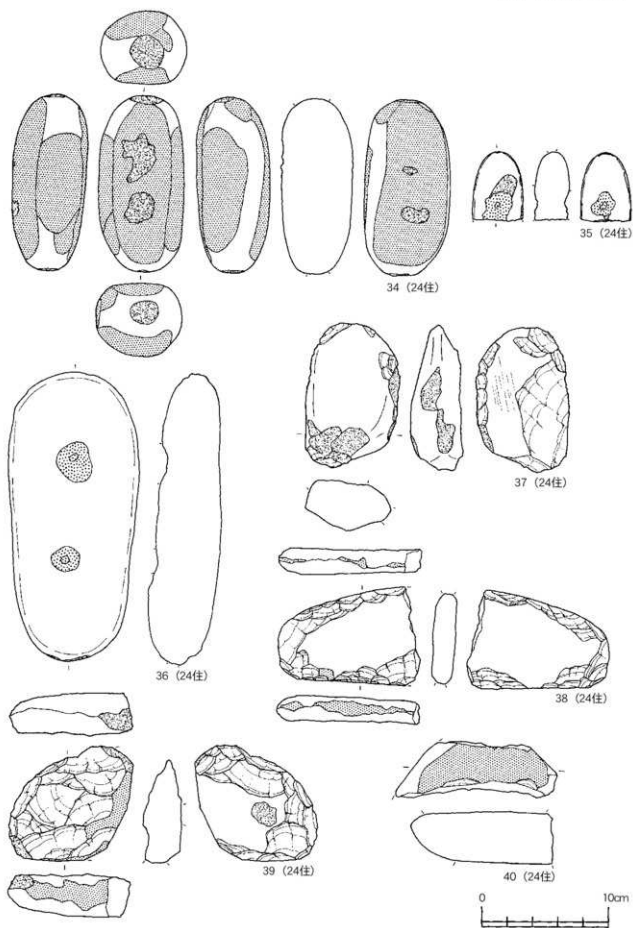
第16図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(2)



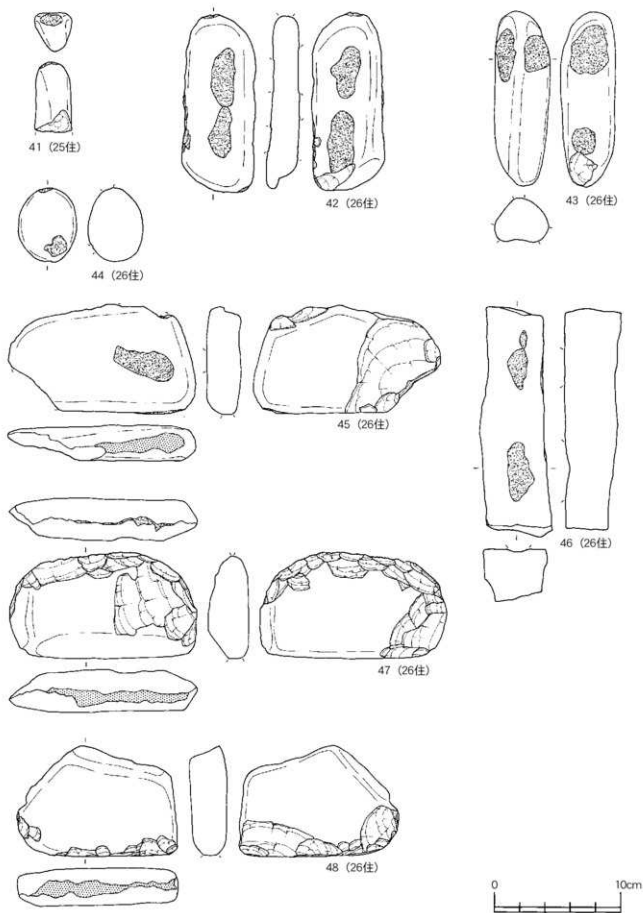
第17図 遺構内出土石器 (竪穴式住居跡) (3)



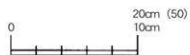
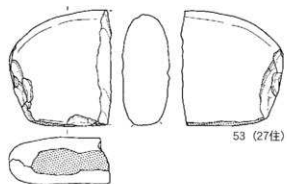
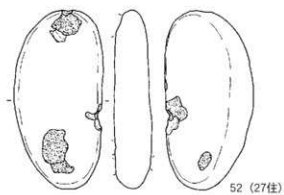
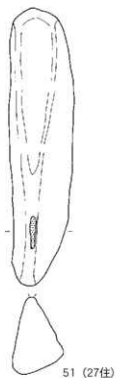
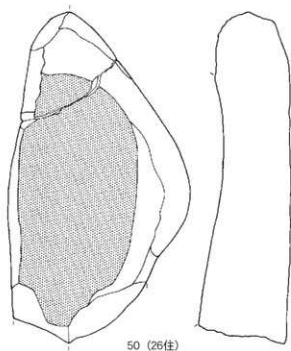
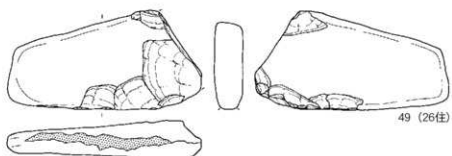
第18図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(4)



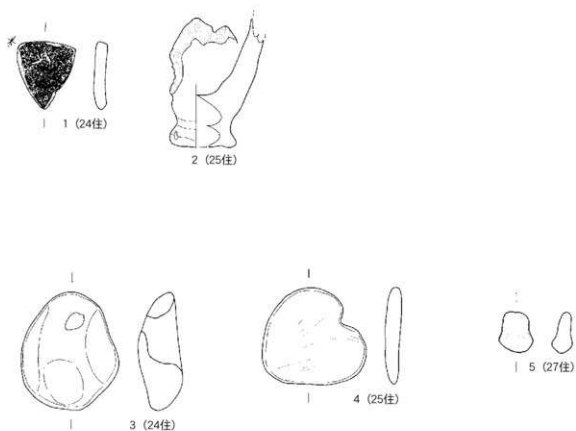
第19図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(5)



第20図 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）(6)



第21図 遺構内出土石器 (竪穴式住居跡) (7)



第22図 遺構内出土土製品・石製品（竪穴式住居跡）

2. 土坑

平成 年度調査では 基、平成 年度調査では4基の土坑を検出している。

(平成 年度)

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 南東壁は外側へ緩やかに立ち上がる。北西壁はオーバーハングする。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、第1層は、バミス、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。他は、自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] W・X - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。一部オーバーハングする。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土が堆積し、第1層は、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。他は、自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層、覆土より第 群3類、5 a類、6類土器(第 図1～3)が出土している。

石器は、覆土より不定形石器3類が1点、敲磨器類2類Eが1点(第 図)、4類Dが1点(第 図)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] ・W - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ起伏を伴う傾斜が見られる。北壁側と南壁側に底面ピットを有する。

[堆積土] 4層に分層した。黒色～黒褐色土が堆積し、第1、3、4層は、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。第2層は、第 層崩落土の可能性も考えられる。

[出土遺物] 第4、3、1層より第 群3類、6類土器(第 図4～6)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 若干の起伏を有する。

[堆積土] 4層に分層した。暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 第1層より第 群6類土器(第 図7)、第3層より第 群土器(第 図8)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は cm cm、底面は cm cm、深さは cm である。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2、1層、覆土より第 群5a類、6類土器(第 図9、)、第2層より第 群土器(第 図)が出土している。

石器は、第1層より石匙1類が1点(第 図1)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] V - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。南西壁は、若干内側へ立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土と黒色土の混合土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第 群6類土器(第 図)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] W - グリッドに位置する。第 層及び第 層において確認した。

[重複]なし。

[平面形・規模]平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁]上部へ直線的に立ち上がり、壁中位で外側へ屈曲する。

[底面]南西側から北東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土]2層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物]第1層より第 群6類土器(第 図)、第 群4類土器(第 図)が出土している。

[時期]出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層]X - 、グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複]なし。

[平面形・規模]平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁]やや外側へ直線的に立ち上がる。北東側は、壁中位で外側へ屈曲する。

[底面]東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土]暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物]なし。

[時期]不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層]R - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複]第 号竪穴式住居跡と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模]平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁]全体として外側へ緩やかに立ち上がる。北東壁は一部内側へ立ち上がる。

[底面]起伏が見られる。

[堆積土]3層に分層した。第1層は、黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、黄褐色土が堆積し、ロームを多量含む。壁面崩落土の可能性も考えられる。第3層は、黄褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物]土器は、第1層より第 群5a類土器(第 図)が出土している。

石器は、第1層より礫石錘1類が1点(第 図)出土している。

[時期]出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層]R - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複]なし。

[平面形・規模]平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁]全体としてやや外側ないしやや内側へ直線的に立ち上がる。

[底面]南西側から北東側へ傾斜が見られる。底面中央部及び東壁側に底面ビットを有する。

- [堆積土] 底面ビット覆土を含め6層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。第2層は、黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第3層は、黄褐色土が堆積し、ロームを中量含む。第2層中のロームブロックも合わせ、壁面崩落土の可能性も考えられる。底面ビット第1層は、黒褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。底面ビット第2層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。底面ビット第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] ビット2第1層より不定形石器1類Cが1点出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] Q- グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は cm cm、底面は cm cm、深さは cm である。
- [壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部若干の屈曲が見られる。
- [底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。
- [堆積土] 4層に分層した。第1～3層は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。第4層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第4、2、1層、覆土より第 群3類、5 a類土器、6類土器(第 図1)(第 図 一、 、) 覆土より第 群土器(一) が出土している。
- 石器は、第4層より不定形石器1類Fが1点(第 図3) 第1層より石匙1類が1点(第 図2) 覆土より石匙1類が1点(第 図5) 不定形石器1類Aが1点、1類Gが1点(第 図4) 出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] Q- グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。
- [壁] 全体として南側へ傾き直線的に立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群3類土器(第 図1)(第 図 、) 第1層、覆土より第 群4、7、8類土器(第 図 、 、) 第 群土器(第 図 、) が出土している。
- 石器は、第1層より不定形石器3類が1点出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q - 、グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は、第 号土坑より新しく、第 号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。南壁は一部外側へ立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群5 a類土器(第 図)、第 群 類土器(第 図)、第 群土器(第 図)が出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点(第 図1)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q・R - 、グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は cm cm、底面は cm cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。一部屈曲も見られる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層した。第1～3層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第4層は、暗褐色土が堆積し、角礫、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3～1層より第 群5 a類、6類土器(第 図～)が出土している。

石器は、第1層より石鏃3類3が1点(第 図6)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは6 cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑（第 図）

- [位置・確認層] Q - グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは 8 cm である。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第 号土坑（第 図）

- [位置・確認層] T - グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cm である。
- [壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 第 1 層より第 群 6 類土器（第 図）が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑（第 図）

- [位置・確認層] R - グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑より古く、第 号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cm である。
- [壁] 残存部は、外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑（第 図）

- [位置・確認層] R - 、グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑より新しく、第 号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cm である。
- [壁] 外側へ直線的に立ち上がる。
- [底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第 群 5 a 類土器(第 図) が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q・R - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。西壁はオーバーハングする。

[底面] 全体として西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] X - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は cm cm、底面は長径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q・R - 、グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 残存部は外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

第2層は、黒褐色土と黄褐色土の混合土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は cm cm、底面は長径 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として北東方向に傾き立ち上がる。北東及び南西壁はオーバーハングする。

[底面] 段差が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 第1層より第 群6類土器(第 図)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R・S - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は cm l cm、底面は cm cm、深さは cm である。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。一部屈曲が見られる。

[底面] 外側から中央部へ湾曲する。

[堆積土] 4層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3、1層、覆土より第 群5 a類、6類土器(第 図、)、第1層より第 群3類土器(第 図)が出土している。

石器は、第1層より不定形石器1類Aが1点、覆土より石匙1類が1点(第 図7)、1類Bが1点、敲磨器類2類Aが1点(第 図)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。第1、3、4層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。第2層は、黒色土が堆積する。第 層崩落土の可能性が考えられる。第 5～7層は、黒色土～暗褐色土が堆積し、ローム粒を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第5層より第 群3類、5 a類土器(第 図2、第 図)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。
- [壁] 全体としてオーバークラフ、袋状を呈する。北東壁は外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第 図)、第 群 類土器(第 図)、第 群土器(第 図)が出土している。
- 石器は、第1層より敲磨器類2類Eが1点(第 図)、覆土より石匙2類が1点(第 図8)出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] S - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は cm cm、深さは cmである。
- [壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。西壁は中位が屈曲する。
- [底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積し、角礫を中量ないし多量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2層、覆土より第 群6類土器(第 図、)が出土している。
- 石器は、第2層より敲磨器類2類Aが1点(第 図)、4類Bが1点(第 図)出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] R - グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。
- [壁] 全体として南東側に傾き立ち上がる。
- [底面] 北西側から南東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] R - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。
- [壁] 全体として外側へオーバークラフして立ち上がる。北側は屈曲して外側へ立ち上がる。
- [底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。第1、7層は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。第5層は、黄褐色土が堆積する。崩落土の可能性も考えられる。他は、黒色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。なお、第1、2層は、第3、4層堆積後掘り返された後に堆積した可能性も考えられる。

[出土遺物] 土器は、第7、6、4、2、1層、覆土より第群5a類、6類土器(第図、)、第群2a類、4～7類、類、類土器(第図、～、～、第図、)第群土器(第図、)、(、)が出土している。

石器は、第5層より不定形石器1類Bが1点(第図9)、第3層より不定形石器1類Aが1点、第2層より不定形石器2類が1点、第1層より石錘2類2が1点(第図) 覆土より不定形石器1類Aが1点(第図) 敲磨器類2類Eが1点(第図)出土している。

土製品は、第2層より土器片利用土製品が4点(第図3～6) 焼成粘土塊が1点(第図7) 覆土よりミニチュア土器が1点(第図2)出土している。

石製品は、覆土より三角形岩版が1点(第図1)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第号土坑(第図)

[位置・確認層] Q-、グリッドに位置する。第層及び第層において確認した。

[重複] 第号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第1層より第群8類土器(第図)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第号土坑(第図)

[位置・確認層] Q-、グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 6層に分層した。第1～3層は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。第4～6層は、黒褐～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第群6類土器(第図)、第6～4、2、1層、覆土より第群5～8類土器(第図、)、(、)第群土器(第図、)、(、)が出土している。

石器は、第5層より不定形石器3類が1点、第4層より不定形石器1類Aが1点出土している。

土製品は、第1層より焼成粘土塊が1点(第 図8)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R・S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第1、2層は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。第3、4層は、黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第3層より第 群3類、5a類土器(第 図 ~)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。西側は一部オーバーハングして立ち上がる。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R・S - 、グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側ないしやや内側へ直線的に立ち上がる。南壁は一部オーバーハングして立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1、2層は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土はローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。第3層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第 群6類土器(第 図)、第 群土器(第 図)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。東西壁側に底面ビットを有する。

[堆積土] 8層に分層した。第1、8層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。第2～4層は、黒褐色～褐色土及び炭化物が堆積し、各層ブロック状に堆積する。人為堆積と思われる。第5～7層は、黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第4～1層、覆土より第 群3類、5a類、6類土器(第 図3、4、第 図 ～)、覆土より第 群 類土器(第 図5)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R・S - グリッドに位置する。 a層において確認した。

[重複] 第 号竪穴式住居跡、第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。南壁は一部外側へ立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 9層に分層した。第1～7層は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色～暗褐色土は、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。第8、9層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第8、7、5、4、2、1層、覆土より第 群3類、5a類、6類土器(第 図6、7、第 図 ～)、第1層より第 群3類土器(第 図)が出土している。

石器は、第5層より不定形石器3類が1点、第4層より不定形石器1類Cが1点(第 図)、1類Dが1点、敲磨器類2類Aが1点(第 図)、第1層より不定形石器2類が1点、敲磨器2類Eが1点(第 図)、覆土より不定形石器4類が1点、敲磨器類2類Bが1点(第 図)、水晶2類Bが1点(第 図)出土している。

石製品は、覆土より採集石製品が1点(第 図2)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さ cmである。

[壁] オーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層した。第1、2層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第3、4層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第4、3、1層より第 群5 a類、6類土器(第 図 ~)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R・S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層した。第1、2層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。第3、4層は、黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第1層より第 群5 a類土器(第 図)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - 、グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 北壁は外側へ緩やかに立ち上がる。東西壁はオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 7層に分層した。第1～4、6層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。第5、7層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、3、2層より第 群6類土器(第 図 、 、)第6、4～2層、覆土より第 群2 a類、3類、4類、6類、7類、 類土器(第 図 、第 図 、 、 ~ 、第 図 ~)第 群土器(第 図9、第 図 、 、 、)が出土している。

石器は、第3層より不定形石器3類が1点出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S・T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] やや内側へオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 北西側から南東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ローム、炭化物を中量含む。人為堆積と思われる。第2～5層は、黒色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第2層、覆土より第 群3類、5 a類土器(第 図 、) 第4～1層、覆土より第 群4類、5類、7類、8類、 類土器(第 図5、 、第 図、第 図、 、 、 、 、) 第 群土器(第 図、 、 、 、 、 、 、) が出土している。

石器は、覆土より石鏃3類2が1点(第 図)出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点(第 図9)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S・T- グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑より古く、第 号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第1、6層は、黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。第2～5層は、黒色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第6～3層、覆土より第 群5 a類、6類土器(第 図 、 、 、 、) 第6、5、3層、覆土より第 群5類土器(第 図) 第 群土器(第 図、 、) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T- グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。東側は一部やや外側へ立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第 群3類土器(第 図、) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S- グリッドに位置する。第 号竪穴式住居跡覆土において確認した。

[重複] 第 号竪穴式住居跡、第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、黄褐色土が堆積し、ロームを多量含む。人為堆積と思われる。第2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] S - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑より古く、第 号土坑より新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。第1、3層は、黒褐色～明黄褐色土が堆積し、黒褐色土は炭化物を中量含む。人為堆積と思われる。第2層は、黒褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第2層より第 群6類土器(第 図)、第5、2層、覆土より第 群4類、5類、7類土器(第 図、第 図、 、第 図、)、第 群土器(第 図、第 図、 、 、 、第 図、)が出土している。
- 石製品は、覆土より三角形岩版が1点(第 図3)出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] S - グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑より新しく、第 号土坑より古い。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は残存部最長 cm、底面は残存部最長 cm、深さは cmである。
- [壁] 残存部は外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 残存部は外側から中央部へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 7層に分層した。第1、5～7層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2～4層は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色土、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 第3層、覆土より第 群4類土器(第 図)、第 群土器(第 図、)が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] S・T - グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑、第 号土坑より新しく、第 号土坑、第 号土坑より古い。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。
- [壁] 残存部はオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 8層に分層した。第1、7層は、黒褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。第2～6、8層は、黒色～黄褐色土が堆積し、黒色土、黒褐色土は、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、覆土より第 群5a類土器(第 図) 第5、4、1層、覆土より第 群3類、4類、7類土器(第 図 、 、第 図 、) 第 群土器(第 図)が出土している。
- 石器は、第2層より石鏃5類が1点、覆土より敲磨器2類Eが1点(第 図)出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] R - グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。
- [壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 北西側から南東側へ若干の起伏を伴う傾斜が見られる。
- [堆積土] 5層に分層した。第1、4層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。第2、3、5層は、黒色～黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第5層より第 群6類土器(第 図) 第5～2層、覆土より第 群4類、5類、7類、8類、 類土器(第 図 一、第 図 、 、 一、第 図 、) 第 群土器(第 図 、 一、 、第 図 、)が出土している。
- 石器は、第2層より不定形石器3類が1点出土している。
- 土製品は覆土より土器片利用土製品が1点(第 図)出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] S - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。
- [壁] 全体としてやや外側へ屈曲して立ち上がる。
- [底面] 起伏が見られる。
- [堆積土] 7層に分層した。黒褐色～明褐色土が各層ブロック状に堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、6、4、1層より第 群6類土器(第 図 ~、) 第2層、覆土より第 群5類土器(第 図) 第 群土器(第 図) が出土している。

石器は、第2層より不定形石器1類Dが1点(第 図) 出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第 群2 a類土器(第 図) 第 群土器(第 図) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、底面は最長 cm、開口部及び深さの規模は不明である。

[壁] 残存部はオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 残存部はほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第 群6類土器(第 図) 第 群2 b類土器(第 図) が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q - 、 グリッドに位置する。 a層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑より新しく、第 号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 残存部はオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。第1、4、5層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。第2、3、6、7層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第 群5 a類土器(第 図) 第 群4類土器(第 図) が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q - 、 グリッドに位置する。 a層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 残存部はオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 中央部から外側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1、2層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を微量含む。自然堆積と思われる。第3層は、褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R・S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。東側は、一部オーバーハングして立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層した。第1、2、4層は、暗褐色土が堆積し、角礫、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。第3層は、褐色土が堆積し、角礫を中量含む。壁面崩落土の可能性も考えられる。

[出土遺物] 第1層より第 群5 a類土器(第 図) 覆土より第 群土器(第 図、) が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 残存部は全体として外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。第2層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 土坑(第 図)

[位置・確認層] Q - グリッドに位置する。 a層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 残存部はオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第1、2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。第3、4層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第 群6類土器(第 図)、第 群4類土器(第 図)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。南東壁は一部屈曲して立ち上がる。

[底面] 北側から南側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。第1～3層は、黒色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。第4層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4層より第 群5 a類土器(第 図)が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が4点(第 図、 図、)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R・S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 5層に分層した。第1、4、5層は、黒色～黒褐色土が堆積し、ローム、角礫、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。第2、3層は、暗褐色土、黄褐色土が堆積し、ローム、角

礫、炭化物を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、3層より第群5a類、6類土器(第図、)第5～2層、覆土より第群2a類、3類、5～9類、類土器(第図、第図、、第図、)第群土器(第図、、)が出土している。

石器は、第5層より石匙1類が1点(第図)、覆土より石鏃3類2が1点(第図)不定形石器1類Fが1点(第図)3類が1点、4類が1点出土している。

石製品は、第5層より円形岩版1点(第図4)覆土より有孔石製品1点(第図5)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第図)

[位置・確認層] T- グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 7層に分層した。第1、2、4、5、7層は、黒色～暗褐色土が堆積し、ローム、角礫、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。第3、6層は、暗褐色～褐色土が堆積し暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第群5a類土器(第図)第群7類土器(第図)第群土器(第図、)が出土している。

土製品は、覆土より土器片利用土製品が1点(第図)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第図)

[位置・確認層] T- グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第号土坑、第号土坑と重複し、本遺構は第号土坑より古く、第号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 東側から西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。第1～3、5、7層は、黒褐色土が堆積し、ローム、角礫、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。第4、6層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第群3類土器(第図)第群2類、4類、5類、7類土器(第図、)第群土器(第図、)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R・S - 、R - グリッドに位置する。第 号竪穴式住居跡覆土において確認した。

[重複] 第 号竪穴式住居跡、第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。一部オーバーハングする。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 底面ビット覆土を含め5層に分層した。第1、3層、底面ビット第1層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。第2層、底面ビット第2層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以前の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号竪穴式住居跡と重複し、本遺構との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 東側から西側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。第1、2、4～7層は、暗褐色～黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。第3層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第6、4、2、1層より第群3類、5a類、6類土器(第 図、第 図～)が出土している。

石器は、第4層より剥離の有る礫が1点(第 図)、第2層より不定形石器3類が1点、第1層より不定形石器2類が1点、覆土より不定形石器2類が1点、敲磨器類4類Aが1点(第 図)、半円状扁平打製石器が1点(第 図)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群3類土器(第 図)、第 群7類土器(第 図)が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が1点(第 図)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S・T - 、グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 東側は外側へ緩やかに立ち上がる。西側はオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 中央部から外側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第1～3層は、暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。第4、5層は、黒褐色土及び暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3、1層、覆土より第 群5a類土器(第 図～)が出土している。

石器は、第3層より不定形石器1類Aが1点出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は cm cm、底面は長径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ屈曲して立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。第2、3層は、暗褐色土及び黄褐色土が堆積し、暗褐色土は、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3、1層より第 群5a類、6類土器(第 図、)が出土している。

石器は、第3層より石匙1類が1点(第 図)、第1層より石匙1類が1点(第 図)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S・T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 若干の起伏が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第2層は、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 第1層、覆土より第 群6類土器(第 図、)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑より古く、第 号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 5層に分層した。第1～3、5層は、褐色～黄褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。第4層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 残存部はオーバーハングし、フラスコ状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 6層に分層した。第1層は暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。第2～6層は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色土は、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第 群6類土器(第 図)、第 群4類、7類土器(第 図、)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑（第 図）

- [位置・確認層] Q - グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑より古く、第 号土坑との新旧関係は不明である。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。
- [壁] 残存部は外側へ緩やかに立ち上がる。
- [底面] 残存部は東側から西側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 2層に分層した。第1層は、黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、黒褐色土と黄褐色土の混合土が堆積する。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] なし。
- [時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第 号土坑（第 図）

- [位置・確認層] S - グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。中央部から北壁側にかけて底面ビットを有する。
- [堆積土] 6層に分層した。第1、3、5層は、黒褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。第2、4、6層は、黒色土が堆積し、ロームを微量ないし少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 覆土より第 群3類、5a類土器（第 図、第 図）が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑（第 図）

- [位置・確認層] T - グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。
- [壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部屈曲が見られる。
- [底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 9層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土は、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第8、7、3、2層より第 群3類、5a類、6類土器（第 図、第 図、第 図、第 図）第3～1層より第 群3類、7類土器（第 図、第 図、第 図）が出土している。石器は、第8層より石匙1類が1点（第 図）、第2層より不定形石器1類Aが1点、覆土より石匙1類が1点（第 図）、不定形石器1類Dが1点（第 図）、3類が1点、敲磨器類1類Dが1点（第 図）出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Q - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群3類、6類土器(第 図、)、第 群7類土器(第 図、)、第 群土器(第 図、)が出土している。

石器は、第1層より不定形石器1類Aが2点(第 図、)、2類が1点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - 、グリッドに位置する。第 号土坑覆土において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以降の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - 、グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ一部屈曲して立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土及び暗褐色土は、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第3、1層より第 群6類土器(第 図、)、第2層、覆土より第 群土器(第 図、)が出土している。

石器は、第4層より水晶2類Aが1点(第 図)出土している。

石製品は、第3層より有孔石製品が1点(第 図6)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] R - グリッドに位置する。 c 層において確認した。
- [重複] 第 号竪穴式住居跡、第 号土坑と重複し、本遺構が古い
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。
- [堆積土] 3層に分層した。第1、2層は、黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第3層は、暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。
- [出土遺物] 覆土より第 群3類、5 a類土器(第 図、第 図、)が出土している。
- [時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] R - 、 グリッドに位置する。 c 層において確認した。
- [重複] 第 号竪穴式住居跡、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号竪穴式住居跡より古く、第 号土坑より新しい。
- [平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] ほぼ平坦である。
- [堆積土] 層に分層した。第1、3、4、9、 層は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色土、及び暗褐色土は、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。他は、自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 土器は、第7、3層、覆土より第 群3類、5 a類、6類土器(第 図、第 図 ~)が出土している。
- 石器は、覆土より敲磨器類2類Eが1点(第 図)、4類Aが1点(第 図)出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

- [位置・確認層] S - グリッドに位置する。第 層において確認した。
- [重複] なし。
- [平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。
- [壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
- [底面] ほぼ平坦である。中央と南西壁間に底面ピットを有する。
- [堆積土] 3層に分層した。第1、2層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。第3層は、黒色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。
- [出土遺物] 覆土より第 群6類土器(第 図、)が出土している。
- [時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑A(第 図)

- [位置・確認層] T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑Bと重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。西壁は、若干オーバーハングする。

[底面] ほぼ平坦である。南壁側に底面ピットを有する。

[堆積土] 3層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。第2、3層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、4層より第 群5 a類、6類土器(第 図、)が出土している。

石器は、第4層より石匙3類が1点(第 図)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑B(第 図)

[位置・確認層] T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑Aと重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを微量含む。自然堆積と思われる。

第2層は、黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代前期以前の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S・T - グリッドに位置する。 a層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑より新しく、第 号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。西壁は一部オーバーハングする。

[底面] 若干の起伏が見られるがほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色土、褐色土が堆積し、黒褐色土は、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 第2、1層より第 群3類、6類土器(第 図、) 第2層、覆土より第 群4類、6類土器(第 図、) 第 群土器(第 図、)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S・T - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は cm cm、底面は cm cm、深さは cm である。

[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 8層に分層した。第1、3、6～8層は、黒褐色～褐色土が堆積し、黒褐色土及び暗褐色土は、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。他は、自然堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第4、1層より第群5a類土器(第図、) 第1層より第群土器(第図) が出土している。

石器は、第4層より敲磨器類1類Fが1点(第図) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第号土坑(第図)

[位置・確認層] S・T -、S - グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第号土坑、第号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 9層に分層した。第3、5、9層は、黒色～暗褐色土が堆積し、ロームを少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、黒色～明褐色土が堆積し、黒色～黒褐色土は、ローム、角礫を多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 第1層、覆土より第群3類、5a類、6類土器(第図、第図、) が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第号土坑(第図)

[位置・確認層] S・T - グリッドに位置する。第層において確認した。

[重複] 第号土坑、第号土坑と重複し、本遺構は第号土坑より新しく、第号土坑より古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 5層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2～5層は、黒褐色～暗褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第群5a類土器(第図) が出土している。

石器は、第1層より石匙1類が1点(第図) 出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑より古く、第 号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 残存部はオーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 残存部は西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 6層に分層した。第2、3、5層は、黒色～黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第1、4、6層は、黒褐色土が堆積し、ロームを多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第5、3、1層より第 群5 a類、6類土器(第 図 ～) 第7層より第 群7類、8類土器(第 図 、) 第 群土器(第 図)が出土している。

石器は、覆土より石匙1類が1点(第 図)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑より古く、第 号土坑、第 号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 7層に分層した。第2、5層は、黒色～黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、黒褐色～黄褐色土が堆積し、黒褐色、暗褐色土は、ローム、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第7、5、3～1層より第 群7類、8類、 類土器(第 図 、 、 、 、 第 図) 第 群土器(第 図 、 第 図 、 、)が出土している。

石器は、第1層より石鏃3類3が1点(第 図)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部は cm cm、底面は cm cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。第1層は、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第2層は、暗褐色土

が堆積し、ロームを中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号竪穴式住居跡、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑より古く、第 号竪穴式住居跡、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑より新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 一部オーバーハングして立ち上がる。

[底面] 南側から北側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 層に分層した。第4～6、8、～層は、黒褐色土、暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。他は、人為堆積と思われる。

[出土遺物] 第3層、覆土より第 群7類土器(第 図)、第 群土器(第 図、)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形で、開口部は cm cm、底面は cm cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ一部屈曲して立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1層は、暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。第2、3層は、暗褐色～褐色土が堆積し、暗褐色土は円礫を多量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群5 a類土器(第 図)が出土している。

石器は、覆土より石錐3類3が3点(第 図～)、磨製石斧1類Cが1点(第 図)、石錘1類が2点(第 図、)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] ほぼ平坦である。

[出土遺物] 土器は、第4、1層、覆土より第 群5 a類、6類土器(第 図 、 、) 第2、1層より第 群土器(第 図 、)が出土している。

石器は、覆土より敲磨器類1類Fが1点(第 図)出土している。また、第4層より水晶2類Bが1点(第 図)出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は cm cm、底面は cm cm、深さは7cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ローム、炭化物を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S・T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 南西側から北東側へ起伏を伴う傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。第1、2層は、暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。第3層は、褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 第1層より第 群6類土器(第 図)が出土している。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 南西側から北東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - グリッドに位置する。 a 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色土、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第 群 5 a 類土器(第 図)が出土している。

[時期] 出土遺物及び遺構間の重複関係より縄文時代前期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構は第 号土坑より古く、第 号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は不明、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 残存部はオーバーハングして立ち上がる。

[底面] 残存部は西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - 、グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は cm cm、底面は cm cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 褐色土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - 、グリッドに位置する。第 、 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側へ緩やかに立ち上がる。一部オーバーハングする。

[底面] 激しい起伏が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、覆土より第 群6類土器(第 図、) 第 群7類、8類、 類土器(第 図、) 第 群土器(第 図 ~) が出土している。

石器は、覆土より不定形石器3類が2点出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、開口部は cm cm、底面は cm cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 起伏が見られる。

[堆積土] 黒色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - グリッドに位置する。 a 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不明である。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 外側から中央部へ傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構確認層より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 不明である。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。中央部に底面ビットを有する。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - 、グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。

[底面] 北東側から南西側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。暗褐色～褐色土が堆積し、ロームを中量ないし少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑、第 号土坑、第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 不明である。

[壁] 残存部は外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ傾斜が見られる。

[堆積土] 暗褐色土と黄褐色土の混合土が堆積する。人為堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以前の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T - 、グリッドに位置する。 a層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を多量ないし中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土より第 群土器(第 図)が出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] R - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 不明である。

[壁] 不明である。

[底面] 不明である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] S・T- 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 全体として外側へ直線的に立ち上がる。一部オーバーハングする。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、角礫を中量含む。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 土器は、第1層より第 群6類土器(第 図)、第3～6類、8類土器(第 図
、第 図 、 、 、)、第 群土器(第 図 、 、)が出土している。

石器は、第1層よりその他の刻片石器が1点出土している。

土製品は、第1層から土器片利用土製品が1点(第 図)出土している。

[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] T- 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] 第 号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ緩やかに立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土、暗褐色土が堆積し、ローム、角礫を少量含む。自然堆積と思われ
れる。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構間の重複関係より縄文時代後期以降の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] W- グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] W - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] W - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] ほぼ平坦である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

(平成 年度)

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Y - グリッドに位置する。第 層において確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。

[壁] 外側へ直線的に立ち上がる。

[底面] 西側から東側へ若干の傾斜が見られる。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、バミス、炭化物を少量含む。自然堆積と思われる。

[出土遺物] なし。
[時期] 不明である。

第 号土坑(第 図)

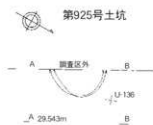
[位置・確認層] X・Y - グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整楕円形で、開口部は長径 cm、底面は長径 cm、深さは cmである。
[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。
[底面] 若干の起伏が見られる。中央部北側に底面ビットを有する。
[堆積土] 黒褐色土が堆積し、バミス、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、覆土より第 群3類、5 a類、6類土器(第 図 ~)、第1層より第 群6類土器(第 図)が出土している。
石器は、覆土より不定形石器1類Cが1点(第 図)、3類が1点(第 図)、敲磨器類4類Aが1点(第 図)、4類Bが1点(第 図)出土している。
[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] X・Y - 、 グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不明で、開口部は最長 cm、底面は最長 cm、深さは cmである。
[壁] オーバーハングし、袋状を呈する。南壁は一部外側へ立ち上がる。
[底面] ほぼ平坦である。
[堆積土] 黒褐色土が堆積し、バミス、炭化物を少量ないし微量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] 覆土より第 群6類土器(第 図)が出土している。
[時期] 出土遺物より縄文時代前期の土坑と思われる。

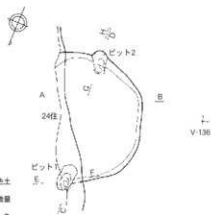
第 号土坑(第 図)

[位置・確認層] Z - グリッドに位置する。第 層において確認した。
[重複] なし。
[平面形・規模] 平面形は不整な円形で、開口部は径 cm、底面は径 cm、深さは cmである。
[壁] 全体としてオーバーハングし、袋状を呈する。南壁は外側へ立ち上がる。
[底面] 若干の起伏が見られる。
[堆積土] 黒褐色土が堆積し、ロームを中量含む。自然堆積と思われる。
[出土遺物] 土器は、覆土より第 群土器(第 図)が出土している。
石器は、覆土より敲磨器類2類Aが1点(第 図)出土している。
[時期] 出土遺物より縄文時代後期の土坑と思われる。

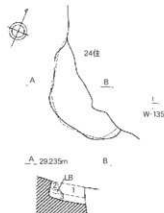


- 第925号土坑
 第1層 黄緑色土 (10YR3/2) パミス多量、ローム粒中量、黒色土 (10YR2/1)、角礫少量
 第2層 黄緑色土 (10YR3/1) ローム粒少量、パミス・炭化物微量
 第3層 暗緑色土 (10YR3/3) パミス・炭化物微量
 第4層 黄緑色土 (10YR2/3) ローム粒・炭化物少量、パミス・角礫微量

第943号土坑



第942号土坑



- 第943号土坑
 第1層 黄緑色土 (10YR2/3) ローム粒多量、炭化物少量
 第2層 黄色土 (10YR2/1) ローム粒少量
 第3層 黄緑色土 (10YR2/1) ローム粒多量、炭化物微量
 第4層 黄緑色土 (10YR2/2) ローム粒多量、炭化物微量

- 第943号土坑内ピット1
 第1層 黄色土 (10YR1/1) ローム粒微量
 第2層 黄緑色土 (10YR2/2) ローム粒中量、炭化物微量
 第3層 黄緑色土 (10YR2/1) ローム粒少量、炭化物微量
 第4層 黄緑色土 (10YR2/2) ローム粒多量、炭化物微量
 第5層 黄色土 (10YR1/1) ローム粒微量

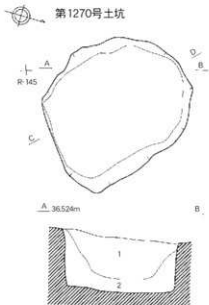
- 第943号土坑内ピット2
 第1層 黄緑色土 (10YR2/2) ローム粒微量
 第2層 黄緑色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化物微量
 第3層 黄緑色土 (10YR2/3) ローム粒多量、炭化物微量
 第4層 黄緑色土 (10YR2/2) ローム粒微量、炭化物少量
 第5層 黄色土 (10YR1/1) ローム粒微量
 第6層 黄緑色土 (10YR2/2) ローム粒微量

第1268号土坑



- 第1268号土坑
 第1層 暗緑色土 (10YR3/3) 角礫中量、ローム粒微量
 第2層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒少量、角礫少量
 第3層 褐色土 (10YR4/4) 角礫微量
 第4層 黄緑色土 (10YR5/6) 角礫微量

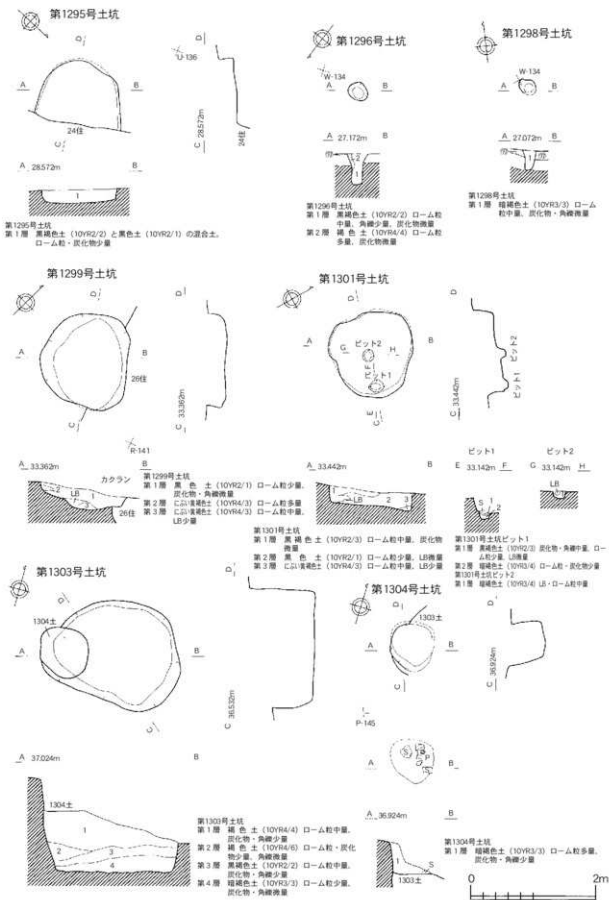
第1270号土坑



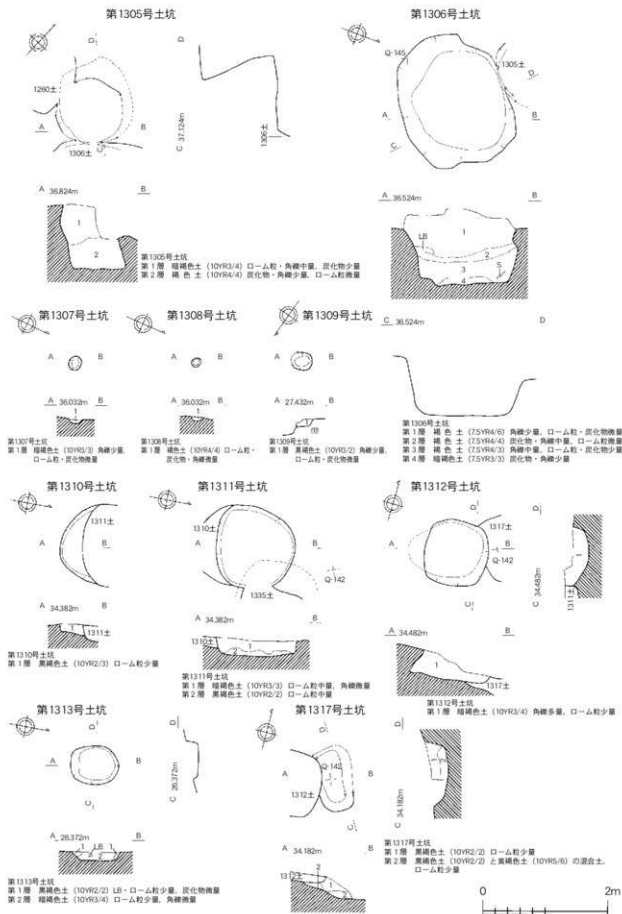
- 第1270号土坑
 第1層 褐色土 (7.5YR4/4) LB少量、炭化物微量
 第2層 褐色土 (10YR4/6) LB多量



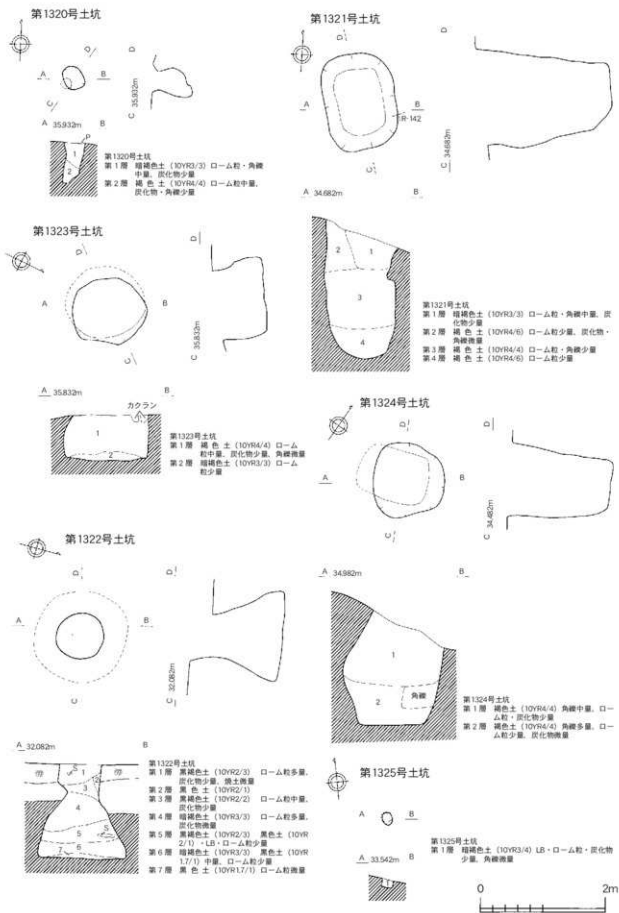
第23図 土坑 (1) (925土・942土・943土・1268土・1270土)



第24図 土坑 (2) (1295土・1296土・1298土・1299土・1301土・1303土・1304土)

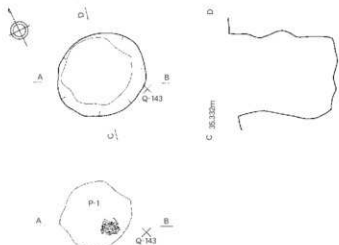


第25図 土坑 (3) (1305~1313土・1317土)

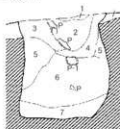


第26図 土坑 (4) (1320~1325土)

第1326号土坑



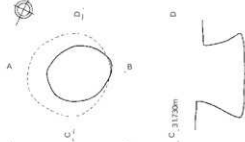
A 35.332m



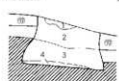
第1326号土坑

第1層 C:IV黄褐色土 (10YR4/3) 角礫多量
 第2層 黒色土 (10YR2/1) 角礫少量、口—
 Δ粒微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 口—Δ粒、炭化
 物微量
 第4層 黄褐色土 (10YR3/2) 口—Δ粒、炭化
 物微量
 第5層 C:IV黄褐色土 (10YR5/4) 口—Δ粒少量、
 角礫微量
 第6層 黄褐色土 (10YR2/2) 口—Δ粒、炭化
 物、角礫微量
 第7層 黄褐色土 (10YR2/2) 角礫中量、炭化
 物微量

第1329号土坑



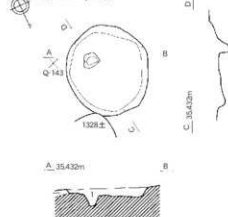
A 31.730m



第1329号土坑

第1層 C:IV黄褐色土 (10YR5/4) 暗褐色土 (10YR3/3)
 少量、口—Δ粒微量
 第2層 黄褐色土 (10YR2/3) 口—Δ粒中量、炭化
 物少量、炭土微量
 第3層 黄褐色土 (10YR2/2) 口—Δ粒少量、炭化
 物微量
 第4層 黒色土 (10YR1/1) 口—Δ粒微量

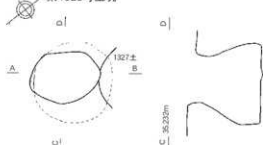
第1327号土坑



第1327号土坑

第1層 暗褐色土 (10YR2/3) 角礫少量、口—Δ粒微量

第1328号土坑



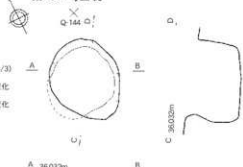
A 35.232m



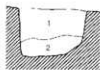
第1328号土坑

第1層 C:IV黄褐色土 (10YR4/3) 口—
 Δ粒少量、炭化物、角礫微量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) 口—
 Δ粒中量、炭化物、角礫微量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 口—
 Δ粒少量、炭化物微量
 第4層 黄褐色土 (10YR3/2) 口—
 Δ粒少量、炭化物、角礫微量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) 口—
 Δ粒少量、炭化物、角礫微量
 第6層 黄褐色土 (10YR2/2) 暗褐色
 土 (10YR3/3)、角礫少量、
 口—Δ粒、炭化物微量

第1331号土坑



A 36.032m

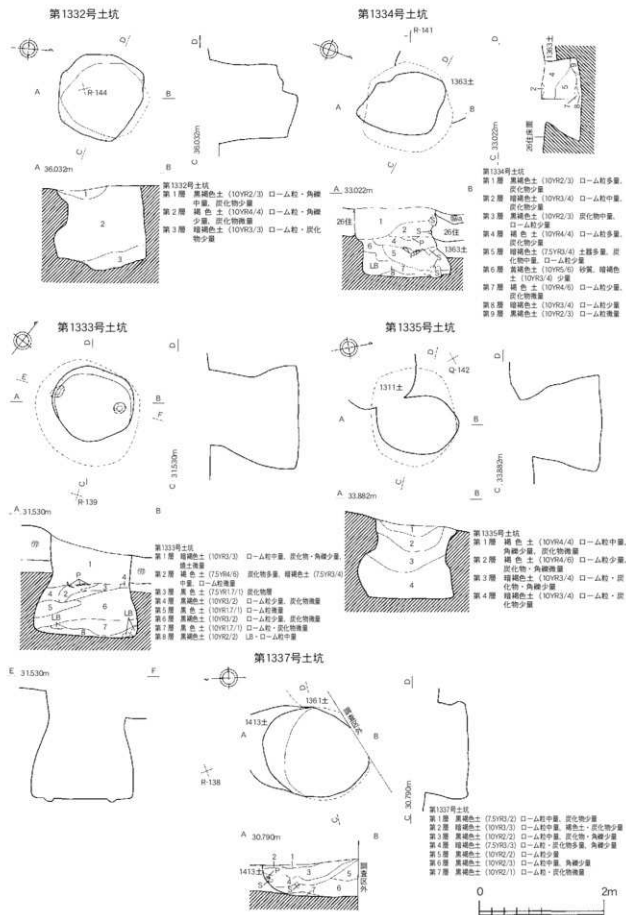


第1331号土坑

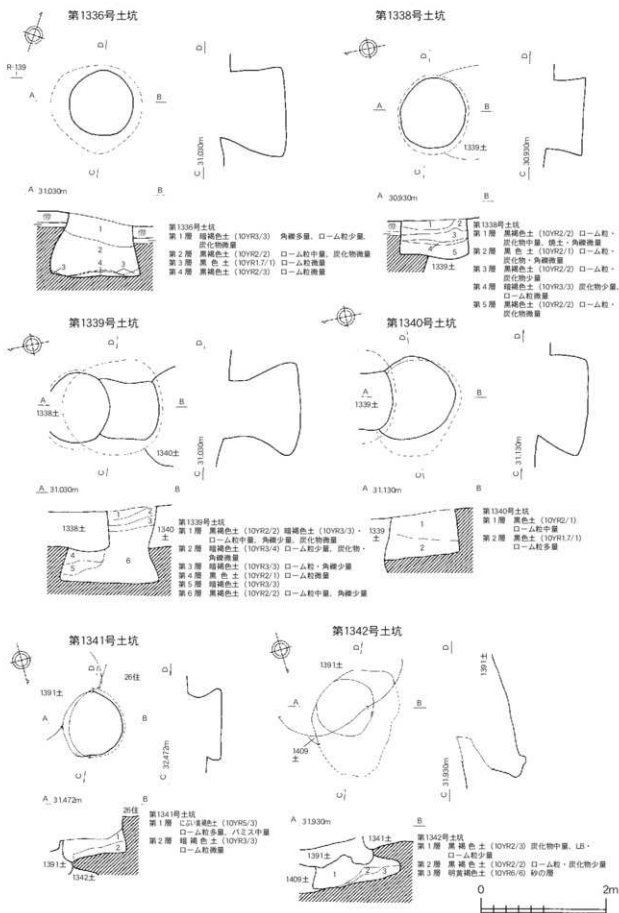
第1層 暗褐色土 (10YR4/4) 口—Δ粒、
 炭化物、角礫少量
 第2層 暗褐色土 (10YR4/6) 角礫多量、
 口—Δ粒少量、炭化物微量



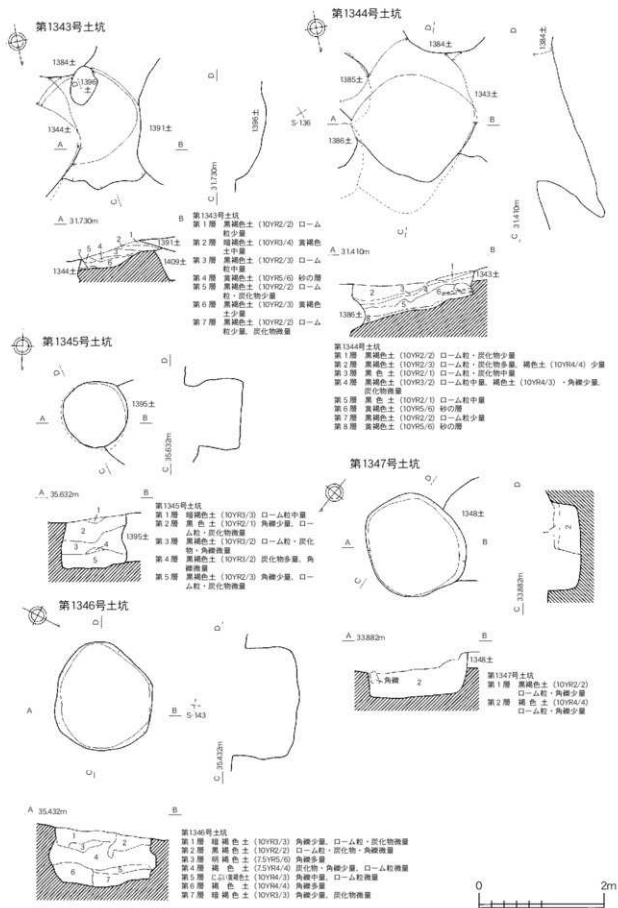
第27図 土坑 (5) (1326~1329土・1331土)



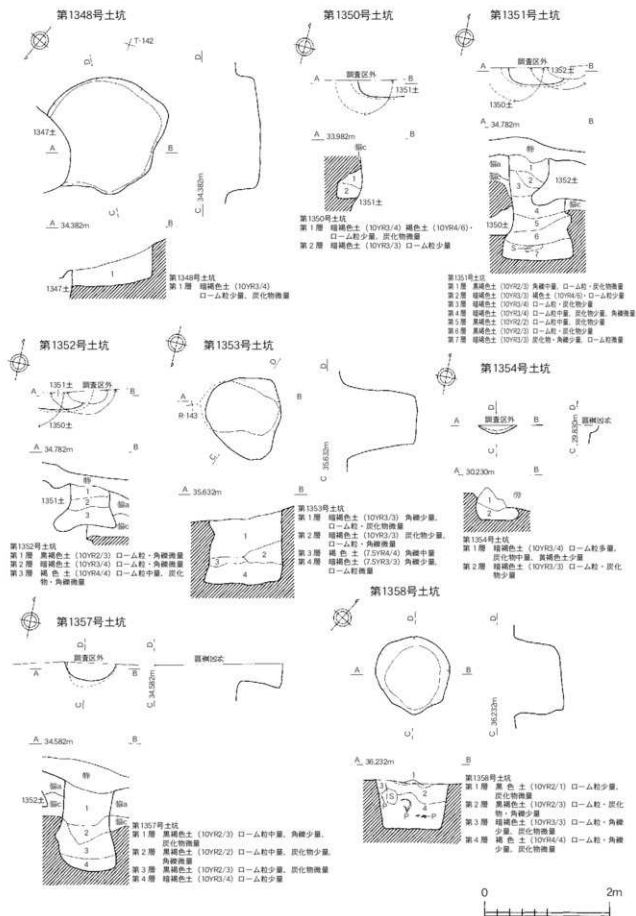
第28図 土坑 (6) (1332~1335土・1337土)



第29図 土坑 (7) (1336土・1338~1342土)

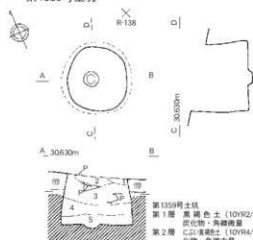


第30図 土坑 (8) (1343~1347土)



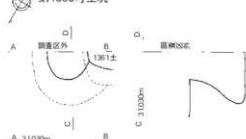
第31圖 土坑 (9) (1348土・1350~1354土・1357土・1358土)

第1359号土坑



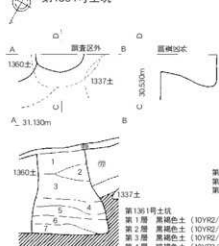
- 第1359号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化物、角礫少量
 第2層 赤土 (10YR4/3) ローム粒、炭化物、角礫中量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物中量、ローム粒少量、角礫少量
 第4層 黒褐色土 (10YR2/2) 暗褐色土 (10YR3/3) 中量、ローム粒、炭化物少量
 第5層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒微量

第1360号土坑



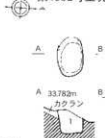
- 第1360号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒、炭化物少量
 第2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒、炭化物少量
 第3層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒中量、LB、角礫少量、炭化物少量
 第4層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒、炭化物、角礫少量
 第5層 黒色土 (10YR1.7/1) ローム粒、炭化物少量、角礫少量
 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量、炭化物、角礫少量
 第7層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒少量、炭化物、角礫少量

第1361号土坑



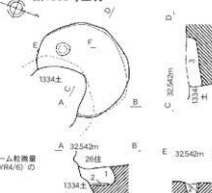
- 第1361号土坑
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒、炭化物、角礫少量
 第2層 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒、炭化物少量、角礫少量
 第3層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量、炭化物少量、角礫少量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量、炭化物少量、角礫少量
 第5層 暗褐色土 (10YR2/3) ローム粒、炭化物少量、角礫少量
 第6層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒中量、炭化物少量
 第7層 黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒、炭化物少量

第1362号土坑



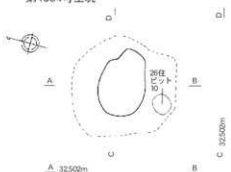
- 第1362号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) 角礫多量、ローム粒微量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) と褐色土 (10YR4/6) の混合土、ローム粒少量

第1363号土坑



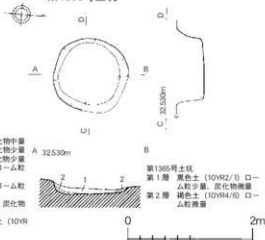
- 第1363号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒多量、炭化物少量
 第2層 黒褐色土 (10YR2/3) LB、ローム粒少量
 第3層 黒褐色土 (10YR2/3) 暗褐色土 (10YR3/3)、ローム粒中量、炭化物少量

第1364号土坑



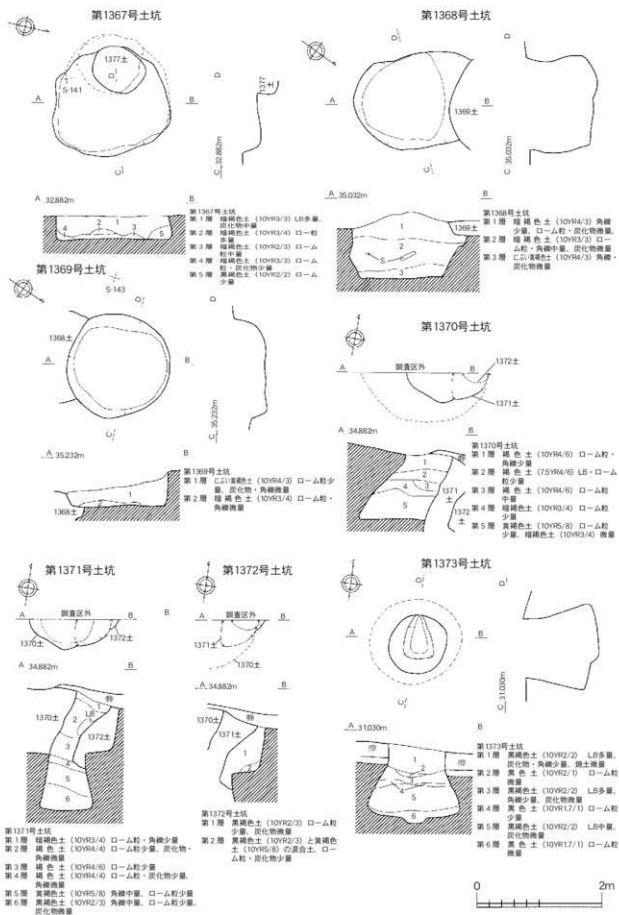
- 第1364号土坑
 第1層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒、炭化物中量
 第2層 褐色土 (10YR4/4) ローム粒、炭化物少量
 第3層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒、炭化物少量
 第4層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物多量、ローム粒中量、角礫少量
 第5層 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物中量、ローム粒少量
 第6層 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒中量、炭化物少量
 第7層 黄褐色土 (10YR5/6) 砂質、暗褐色土 (10YR3/4) 少量

第1365号土坑

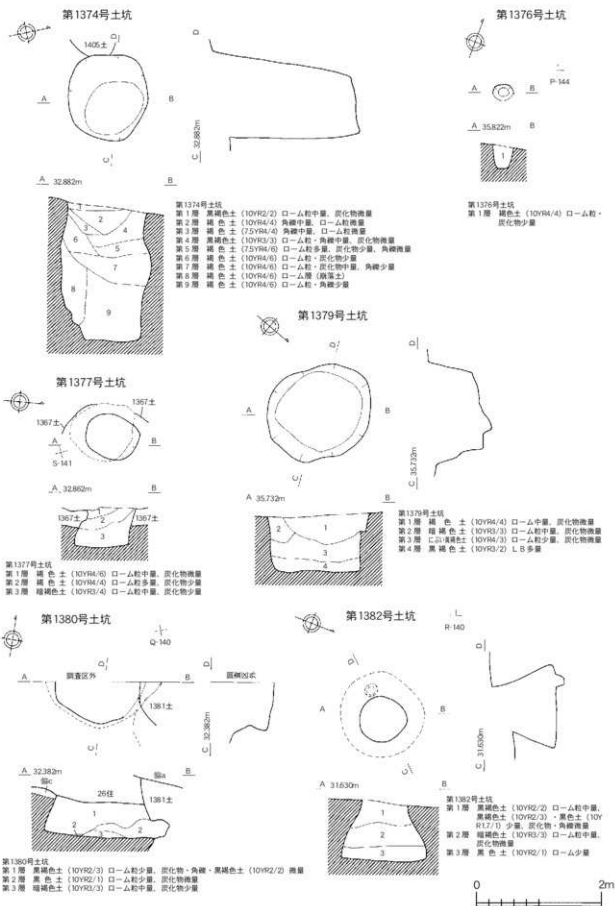


- 第1365号土坑
 第1層 黒色土 (10YR2/1) ローム粒少量、炭化物微量
 第2層 褐色土 (10YR4/6) ローム粒微量

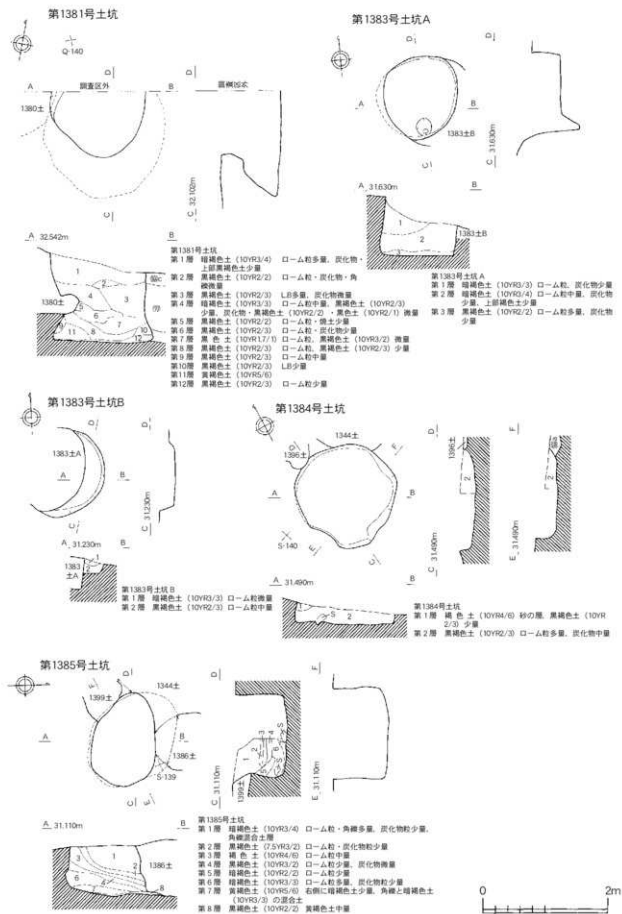
第32図 土坑 (10) (1359~1365土)



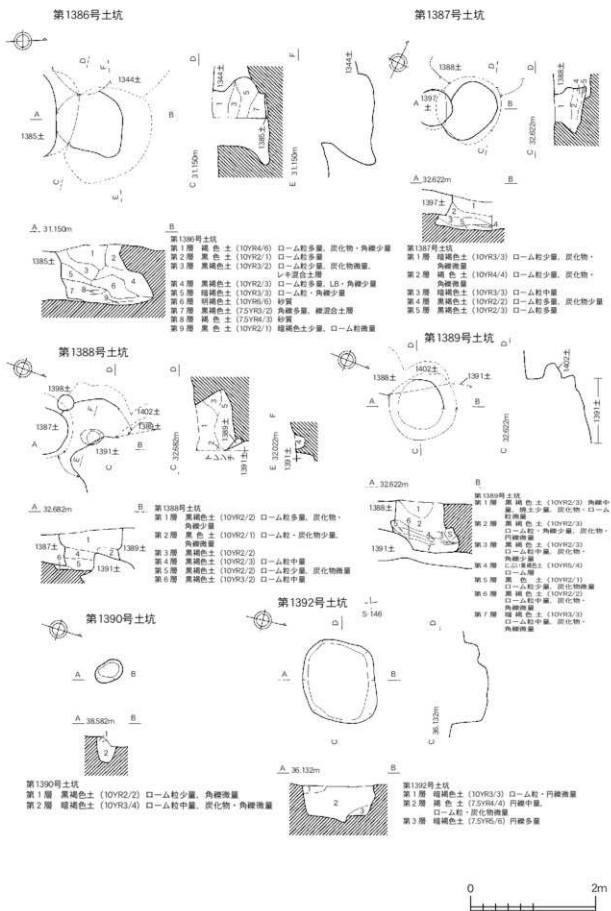
第33図 土坑 (11) (1367~1373土)



第34図 土坑 (12) (1374土・1367土・1377土・1379土・1380土・1382土)



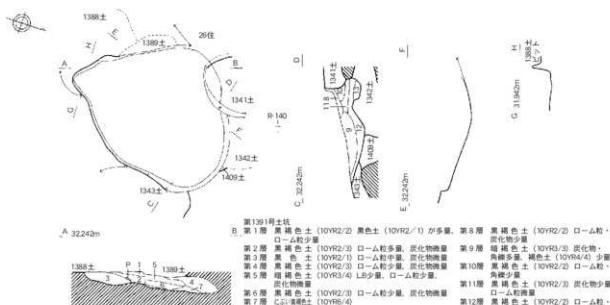
第35図 土坑 (13) (1381土・1383土A~1385土)



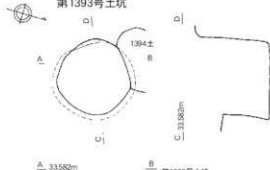
第36圖 土坑 (14) (1386~1390土・1392土)



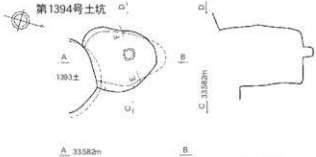
第1391号土坑



第1393号土坑



第1394号土坑



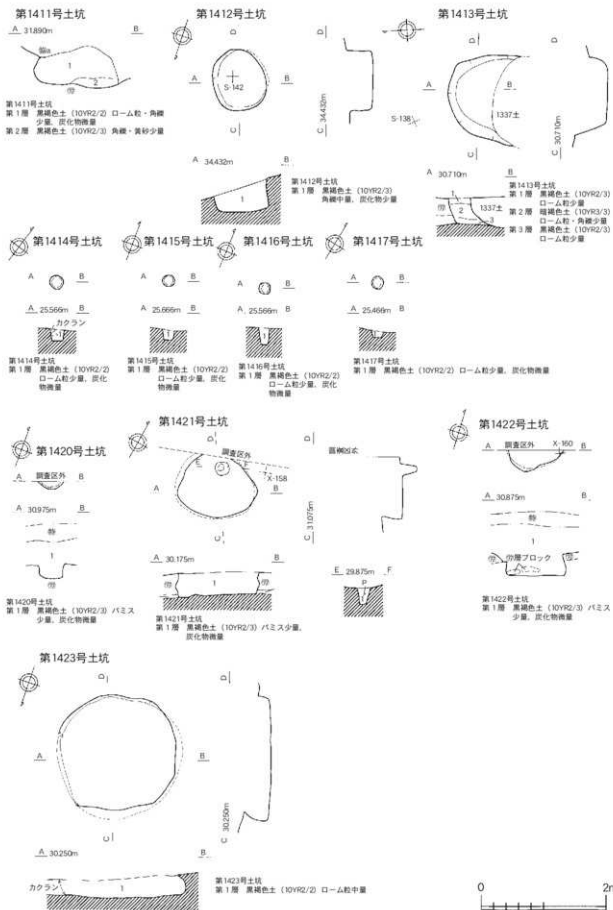
第1395号土坑



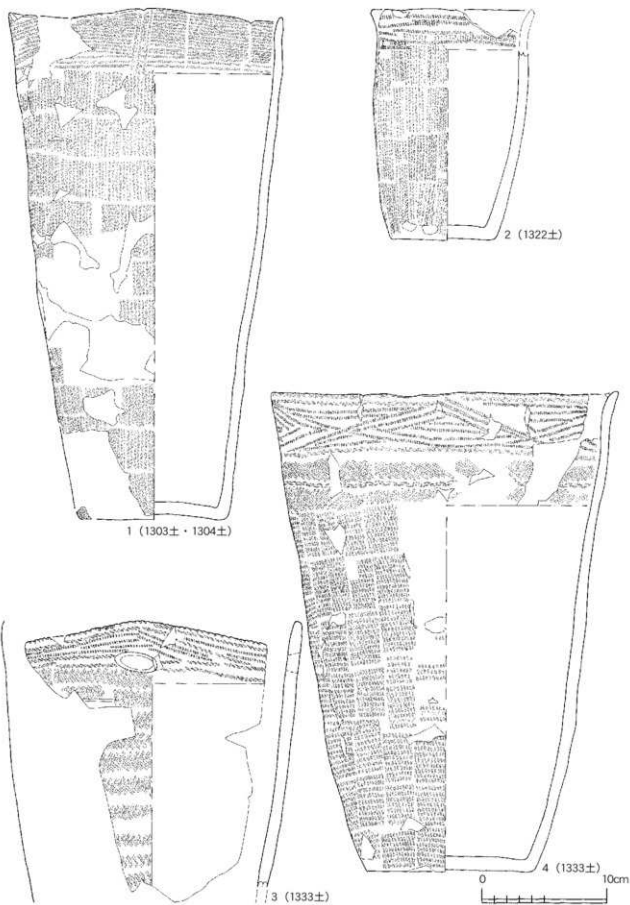
第1396号土坑



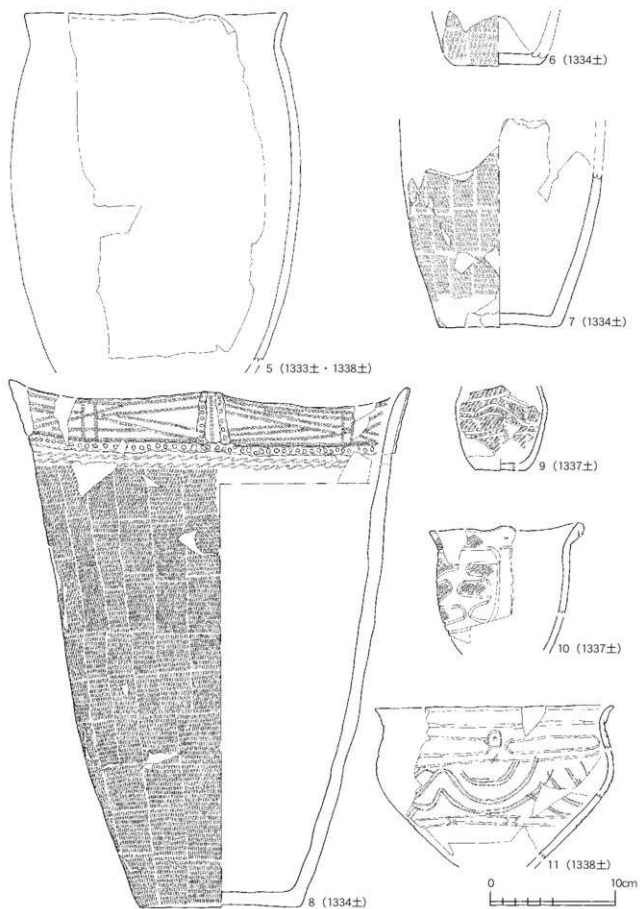
第37図 土坑 (15) (1391土・1393~1396土)



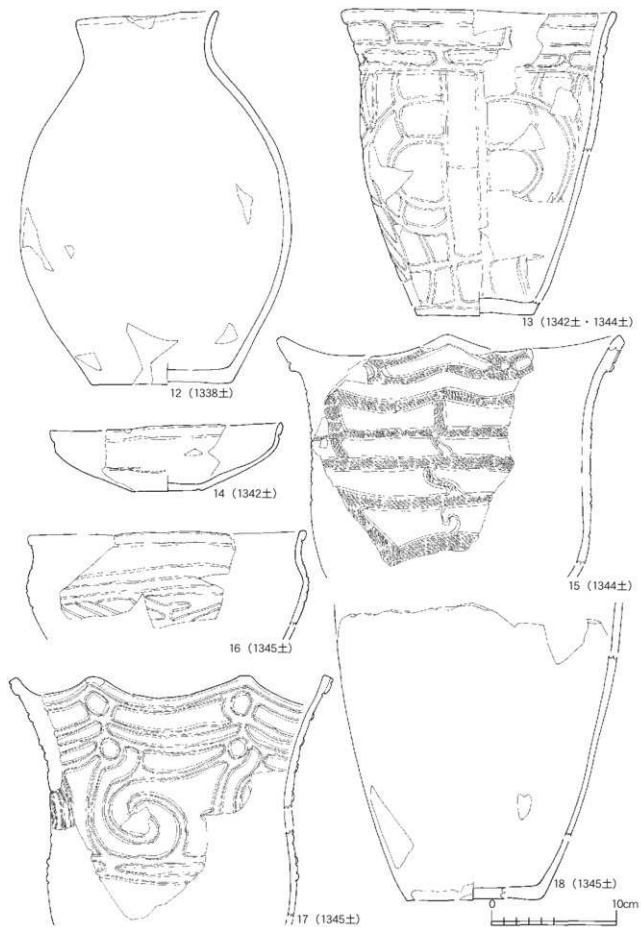
第39図 土坑 (17) (1411~1417土・1420~1423土)



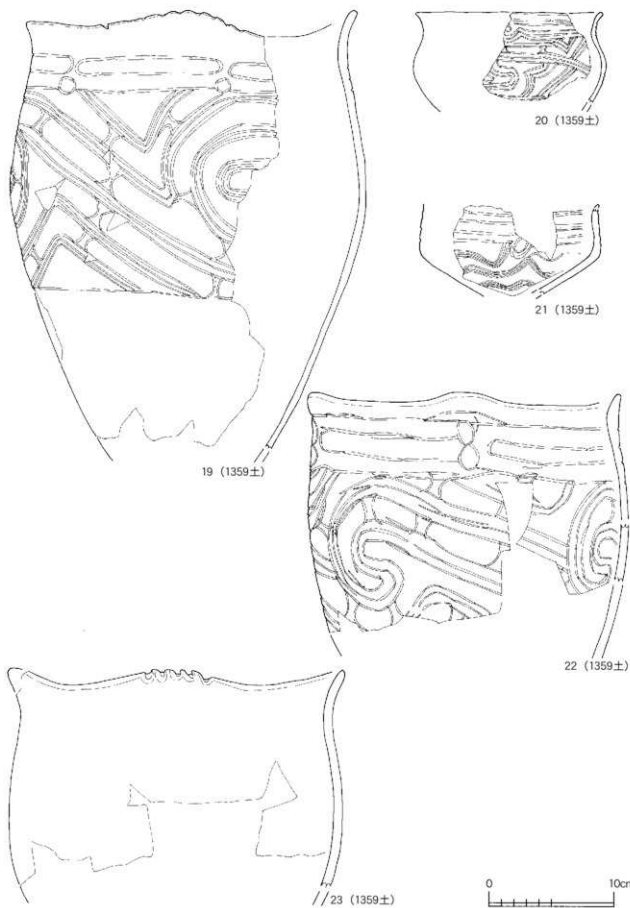
第40図 遺構内出土土器（土坑）(1)



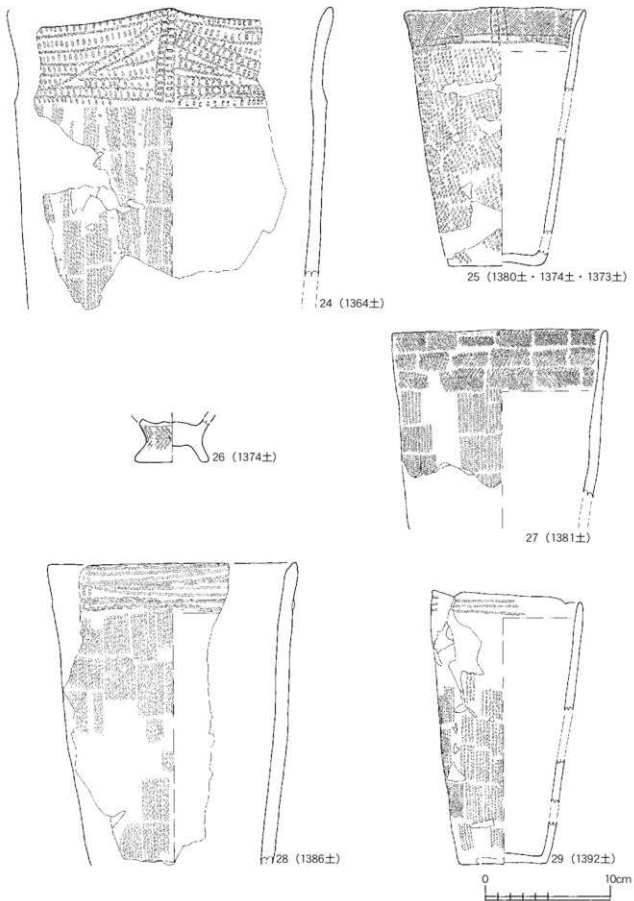
第41図 遺構内出土土器（土坑）(2)



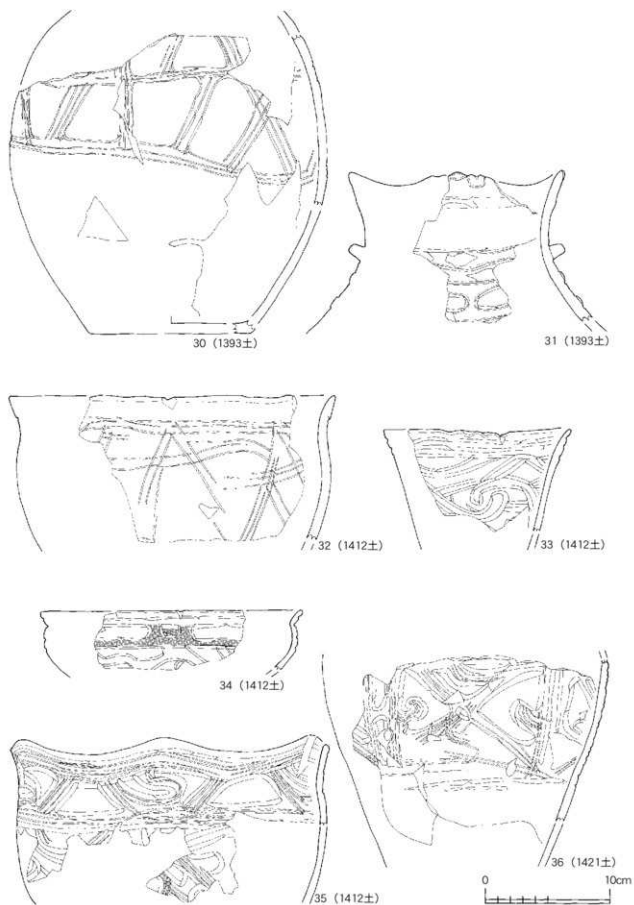
第42図 遺構内出土土器（土坑）(3)



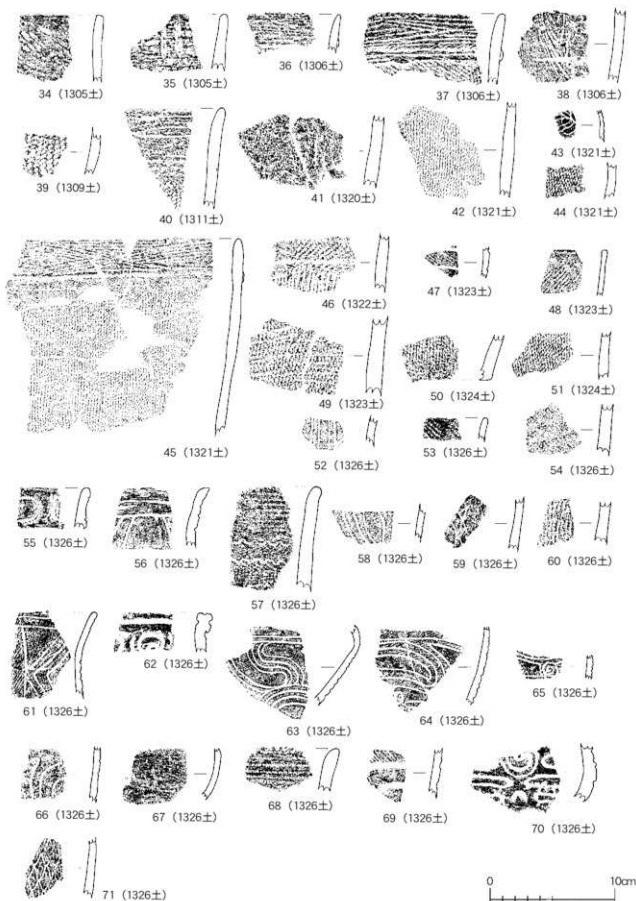
第43図 遺構内出土土器（土坑）(4)



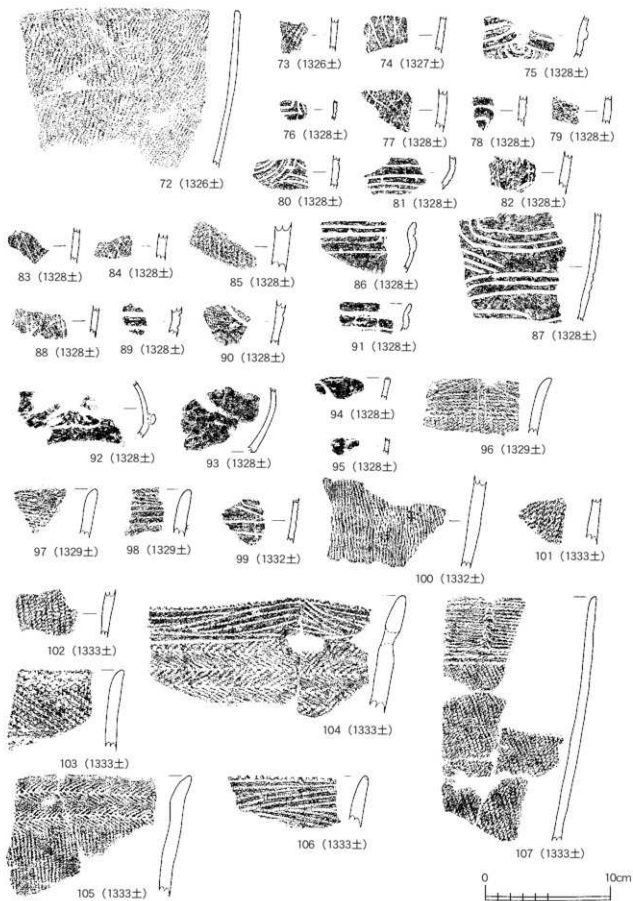
第44図 遺構内出土土器（土坑）(5)



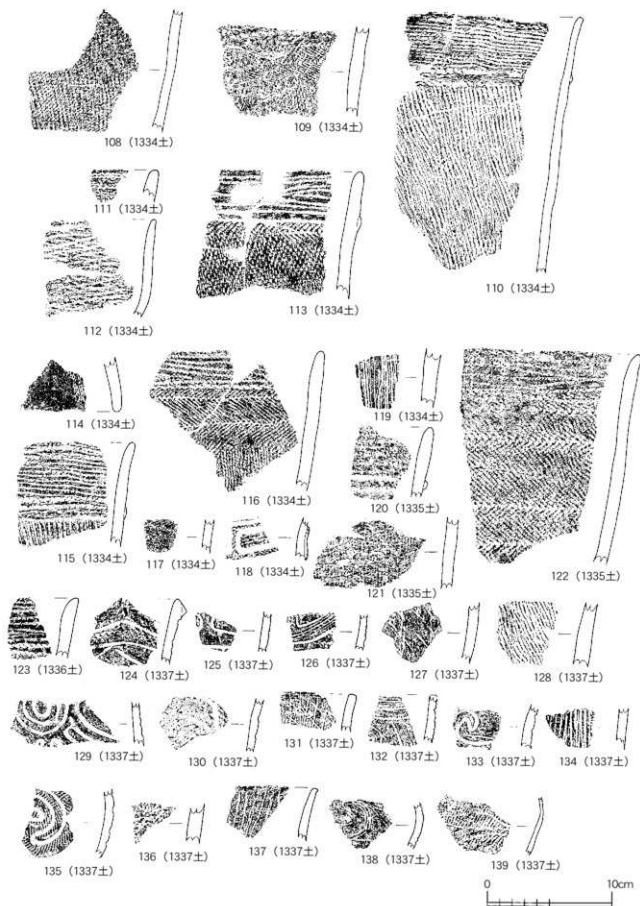
第45図 遺構内出土土器（土坑）(6)



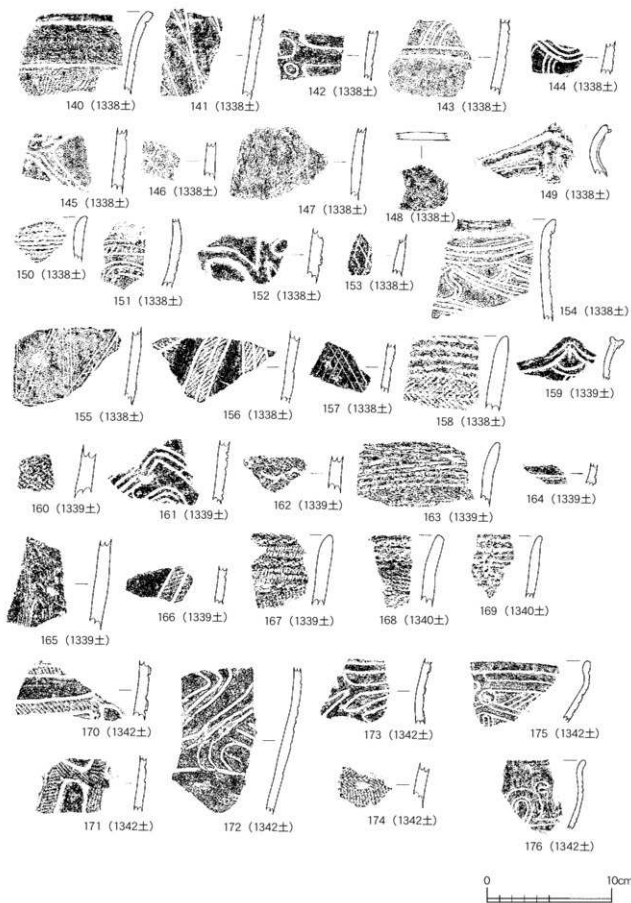
第47図 遺構内出土土器（土坑）(8)



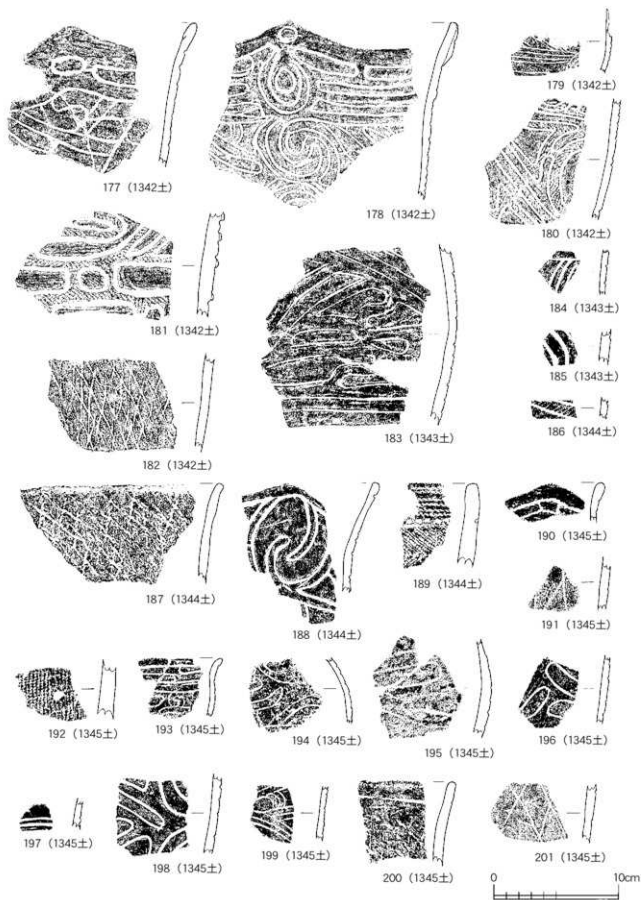
第48図 遺構内出土土器(土坑) (9)



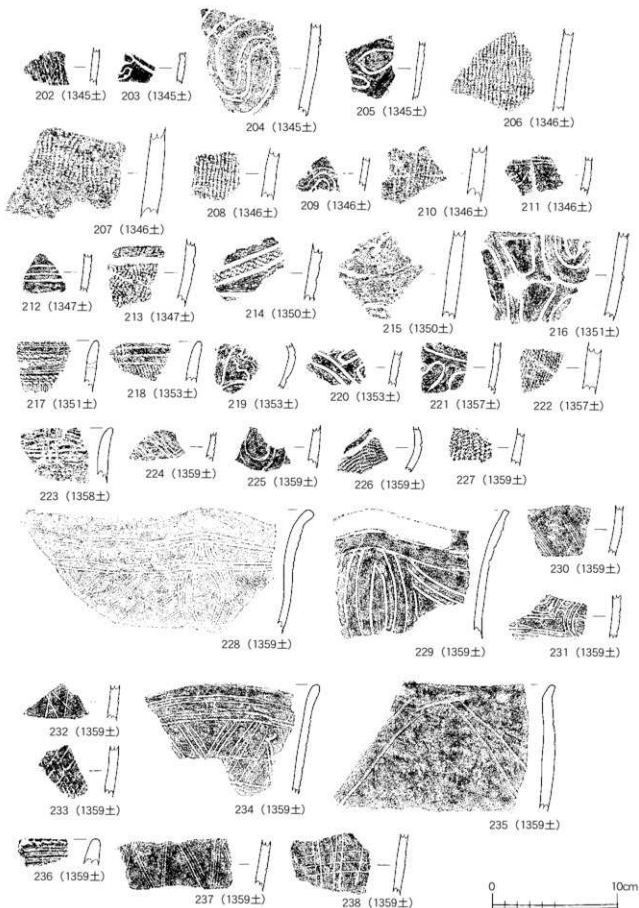
第49図 遺構内出土土器（土坑）(10)



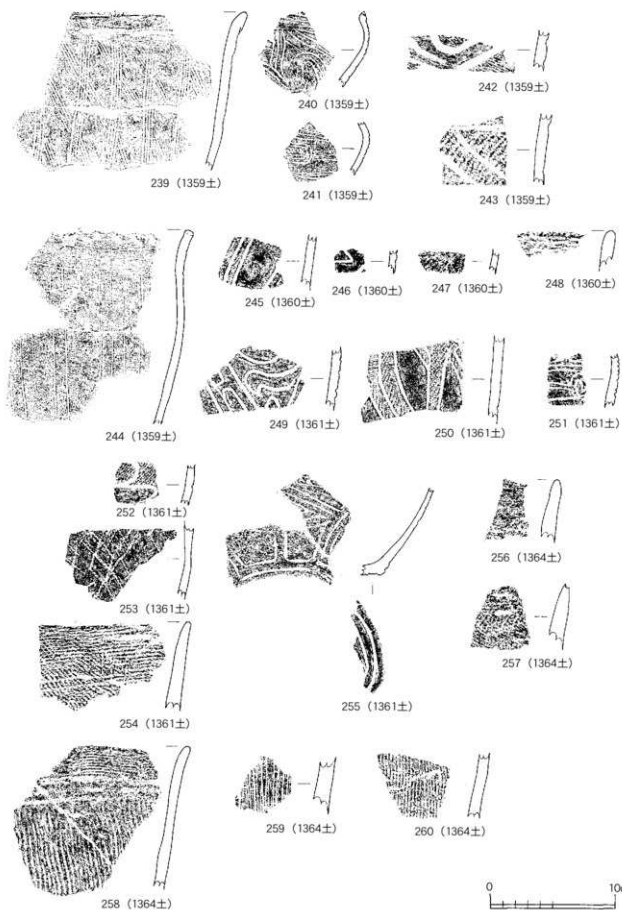
第50図 遺構内出土土器（土坑）(11)



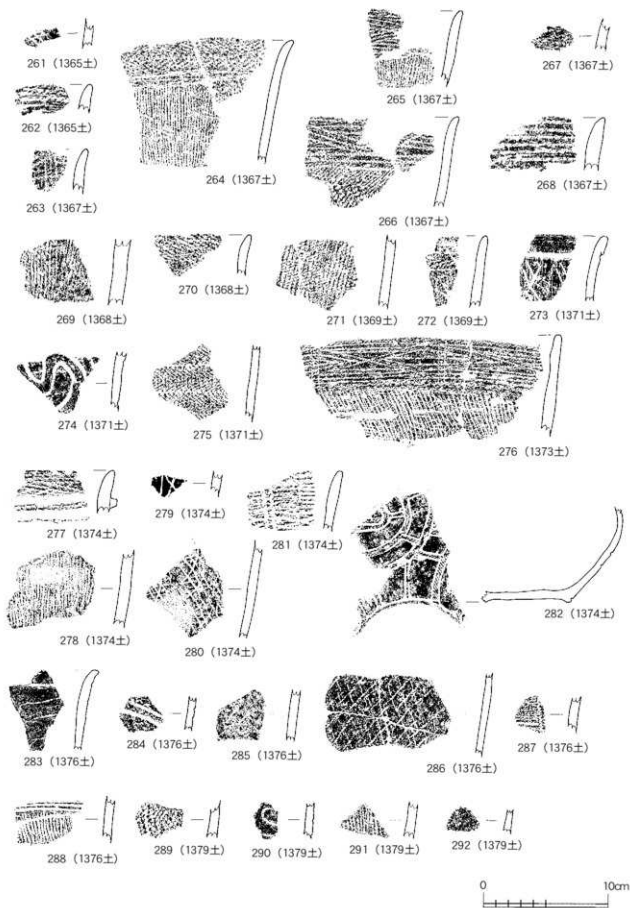
第51図 遺構内出土土器（土坑）(12)



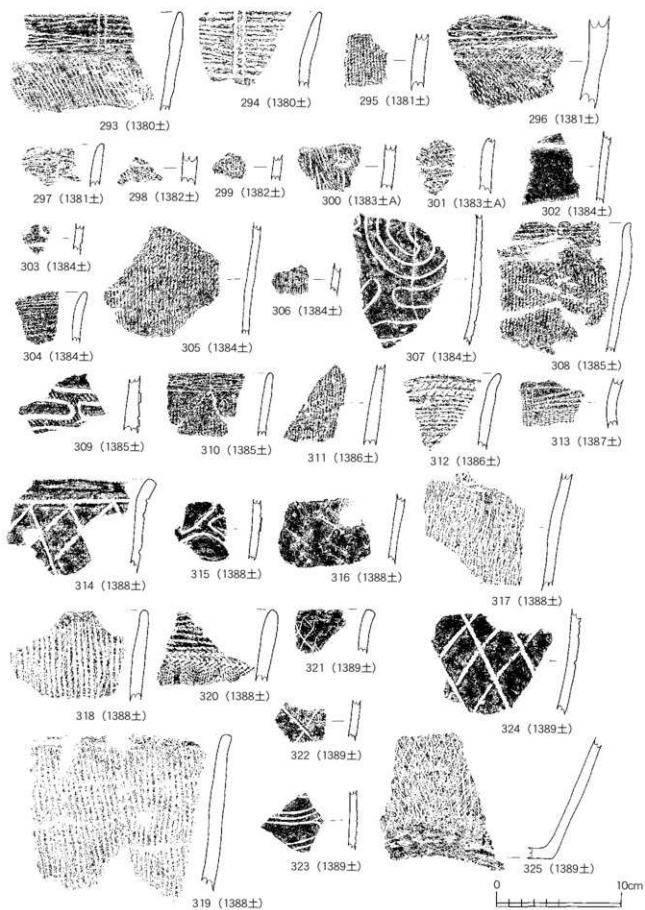
第52図 遺構内出土土器(土坑)(13)



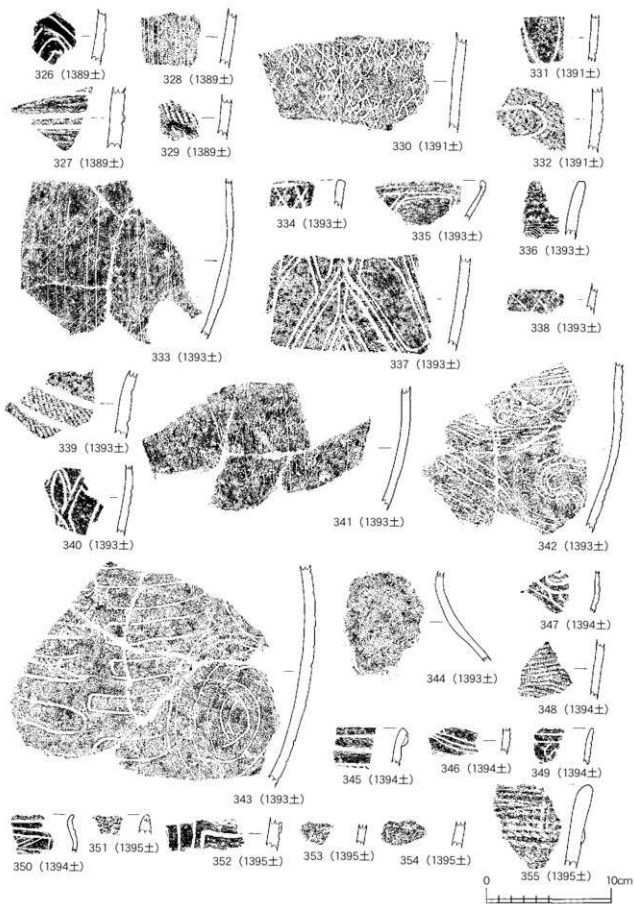
第53図 遺構内出土土器（土坑）(14)



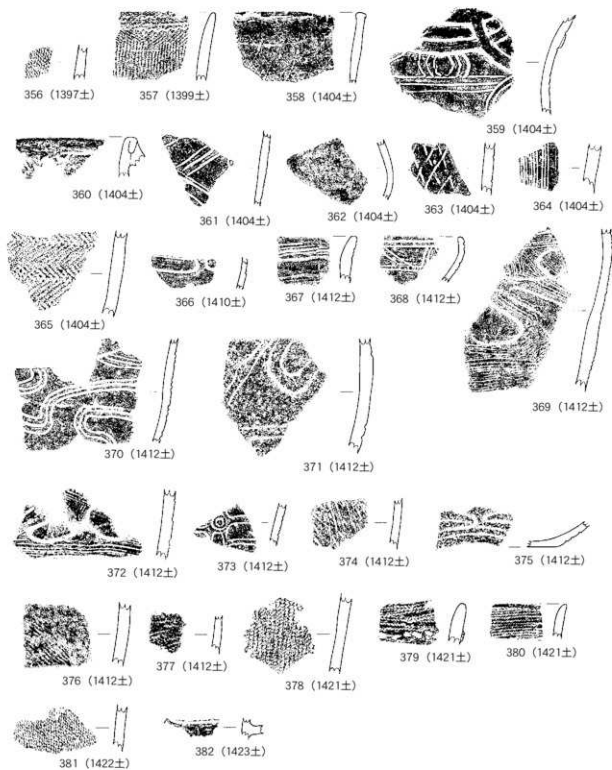
第54図 遺構内出土土器（土坑）(15)



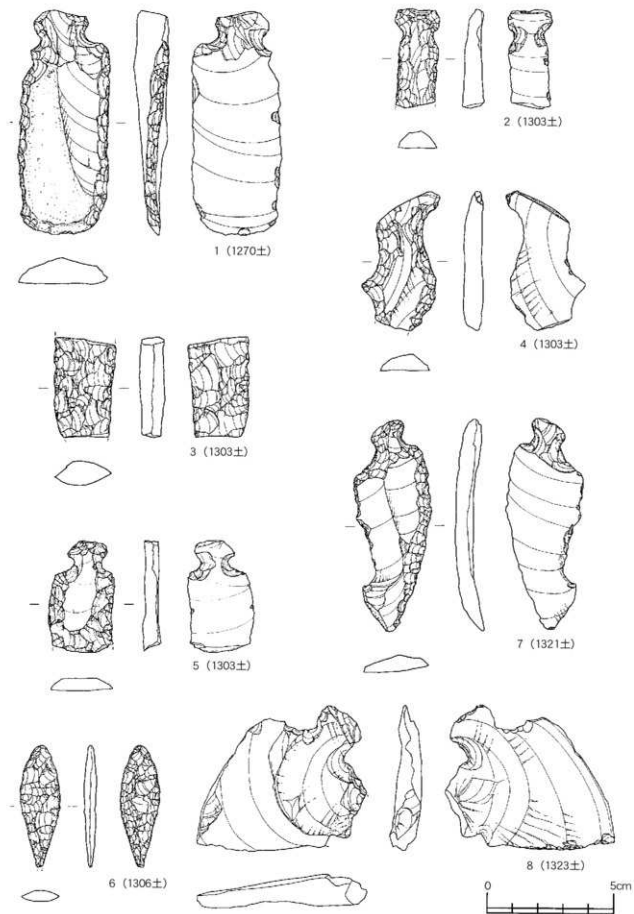
第55図 遺構内出土土器（土坑）(16)



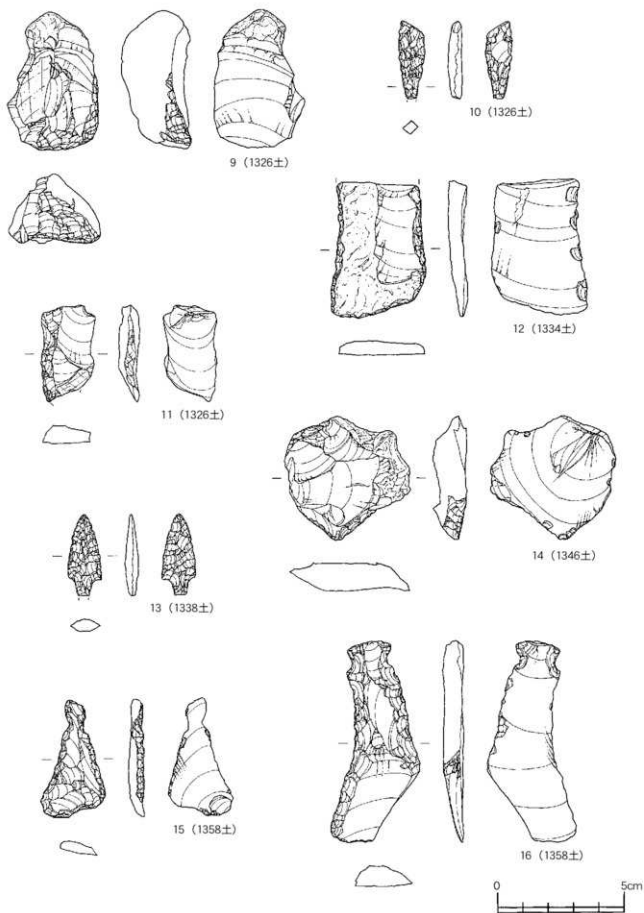
第56図 遺構内出土土器(土坑)(17)



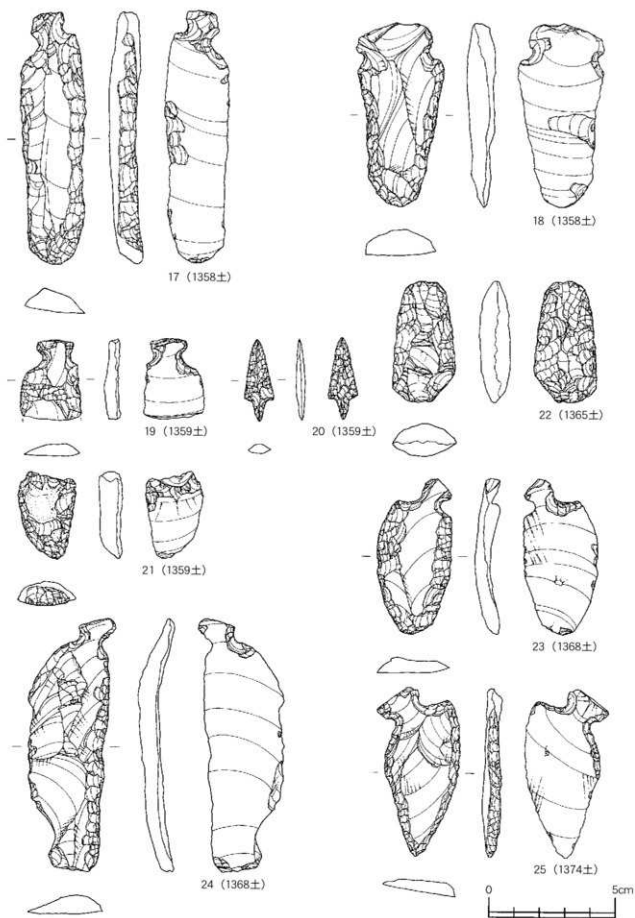
第57図 遺構内出土土器（土坑）(18)



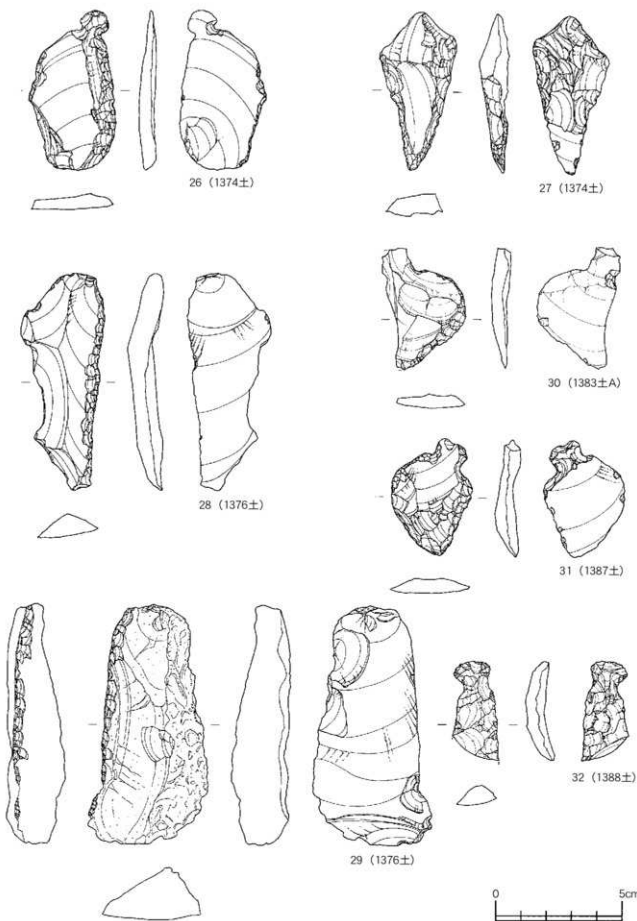
第58図 遺構内出土石器(土坑)(1)



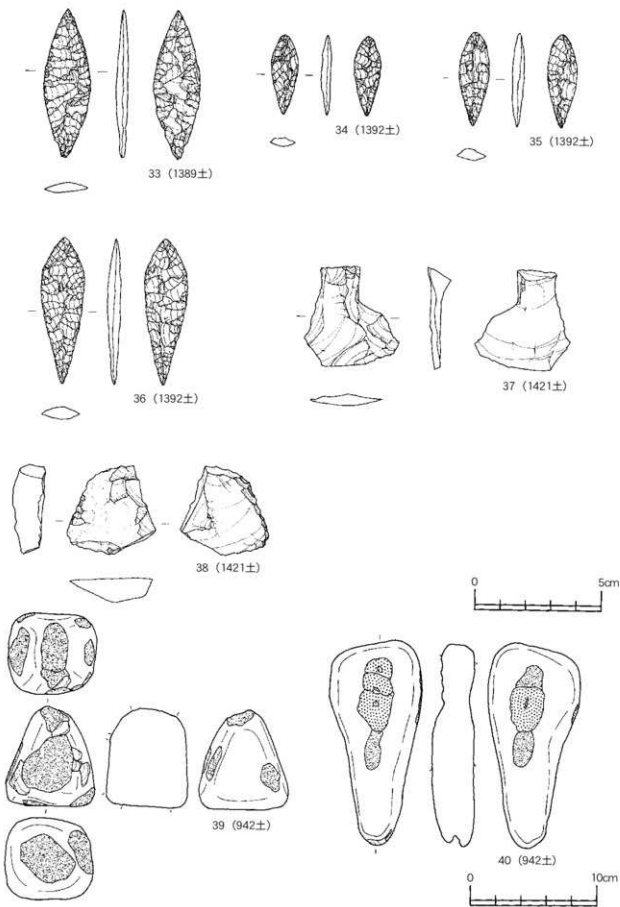
第59図 遺構内出土石器（土坑）(2)



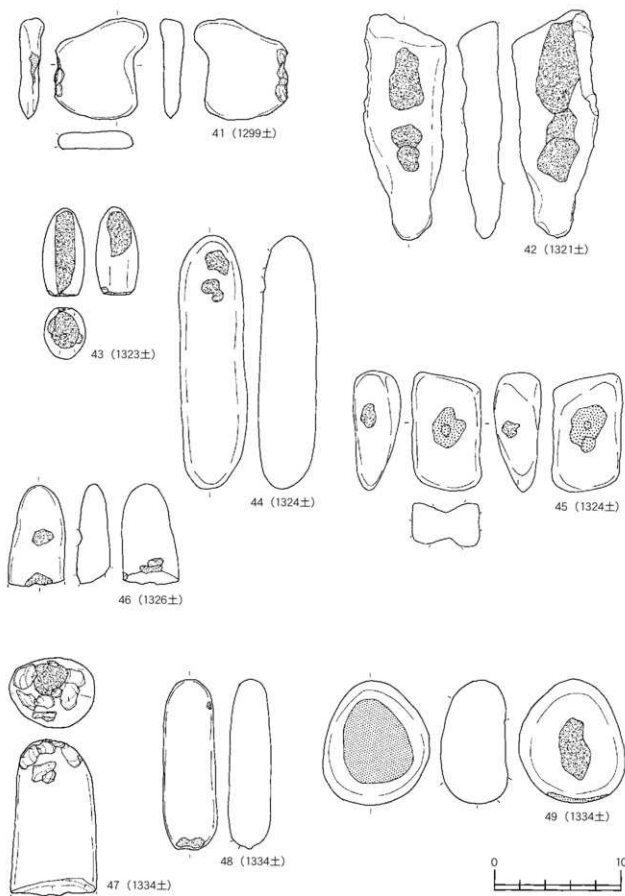
第60図 遺構内出土石器（土坑）(3)



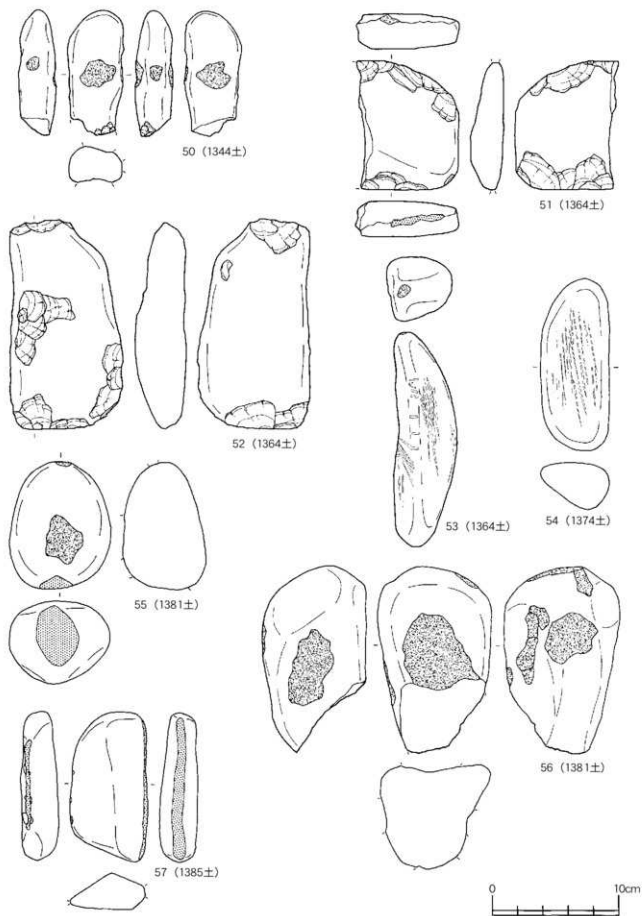
第61図 遺構内出土石器（土坑）(4)



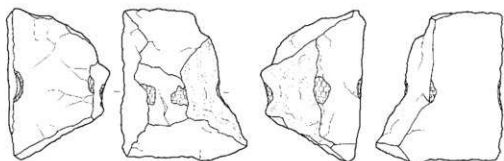
第62図 遺構内出土石器（土坑）(5)



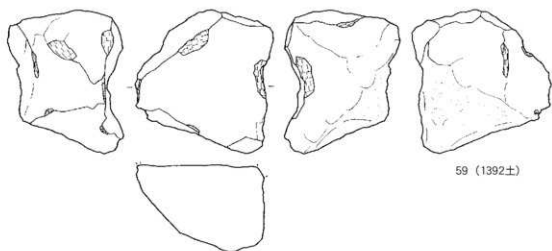
第63図 遺構内出土石器（土坑）(6)



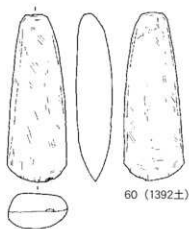
第64図 遺構内出土石器（土坑）(7)



58 (1392土)

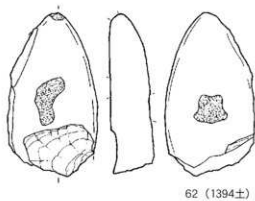


59 (1392土)

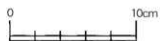


60 (1392土)

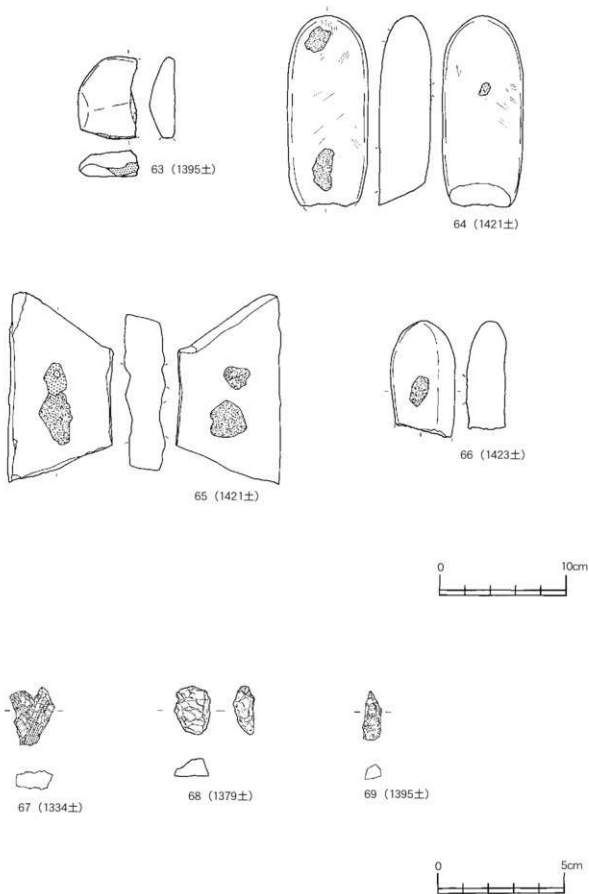
61 (1393土)



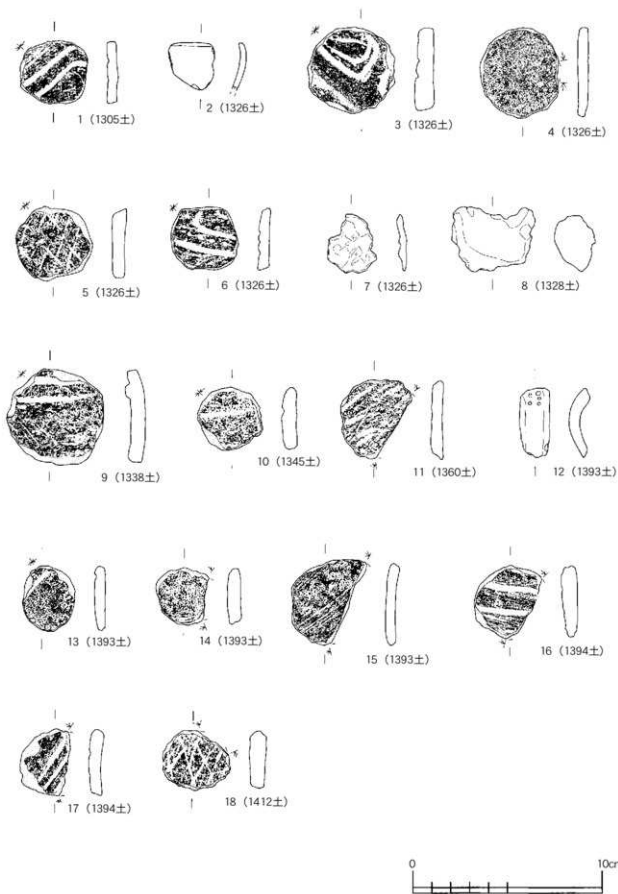
62 (1394土)



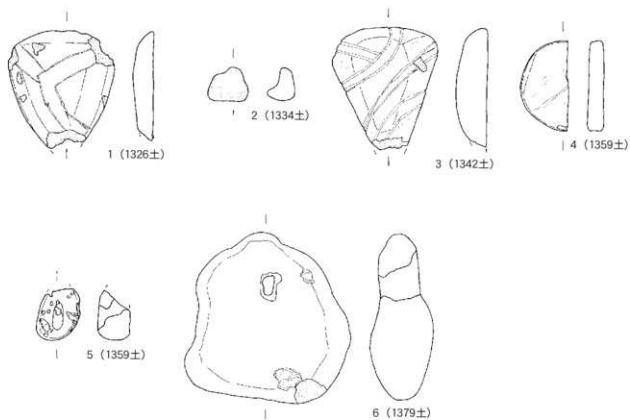
第65図 遺構内出土石器 (土坑) (8)



第66図 遺構内出土石器（土坑）(9)



第67図 遺構内出土土製品（土坑）



第68図 遺構内出土石製品（土坑）

3. 埋設土器遺構

平成 年度調査では7基、平成 年度調査では1基を検出している。

第 号埋設土器遺構(第 図)

[位置・確認層]第 層において確認した。

[重複]なし。

[平面形・規模]掘り方は不整な楕円形を呈する。掘り方の規模は開口部で cmを測る。深さは、土器最高面から最低面まで cmを測る。

[堆積土]土器内部を3層、掘り方を2層に分層した。

[出土遺物・状況]第 群5 a類に属する深鉢形土器(第 図1)が正立した状態で埋設されていた。

[時期]出土土器から縄文時代前期末葉と考えられる。

第 号埋設土器遺構(第 図)

[位置・確認層]R - グリッドに位置する。 c層において確認した。

[重複]なし。

[平面形・規模]明確な掘り方は確認できなかった。深さは、土器最高面から最低面まで cmを測る。

[堆積土]土器内部を1層に分層した。

[出土遺物・状況]第 群5 a類に属する深鉢形土器(第 図2)が正立した状態で埋設されていた。

[時期]出土土器から縄文時代前期末葉と思われる。

第 号埋設土器遺構(第 図)

[位置・確認層]R - 、 グリッドに位置する。 c層において確認した。

[重複]なし。

[平面形・規模]明確な掘り方は確認できなかった。深さは、土器最高面から最低面まで cmを測る。

[堆積土]土器内部を1層に分層した。

[出土遺物・状況]第 群5 a類に属する深鉢形土器が埋設されていた。外側の土器(A)(第 図8)は、正立した状態で埋設され、その内部から倒立した状態で埋設された土器(B)(第 図7)を検出した。

[時期]出土土器から縄文時代前期末葉と思われる。

第 号埋設土器遺構(第 図)

[位置・確認層]R - グリッドに位置する。 c層において確認した。

[重複]なし。

[平面形・規模]明確な掘り方は確認できなかった。深さは、土器最高面から最低面まで cmを測る。

[堆積土]土器内部を3層に分層した。

[出土遺物・状況]第 群6類に属する深鉢形土器が埋設されていた。外側の土器(A)(第 図3)は、正立した状態で埋設され、その内部から土器(B)(第 図4)を検出した。

[時期]出土土器より縄文時代前期後半と考えられる。

第 号埋設土器遺構（第 図）

〔位置・確認層〕T - グリッドに位置する。c層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕明確な掘り方は確認できなかった。深さは、土器最高面から最低面まで cmを測る。

〔堆積土〕土器内部を1層に分層した。

〔出土遺物・状況〕第 群5 a類に属する深鉢形土器（第 図9）が倒立した状態で埋設されていた。

〔時期〕出土土器より縄文時代前期末葉と考えられる。

第 号埋設土器遺構（第 図）

〔位置・確認層〕T - グリッドに位置する。c層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕明確な掘り方は確認できなかった。深さは、土器最高面から最低面まで cmを測る。

〔堆積土〕土器内部を1層に分層した。

〔出土遺物・状況〕第 群5 a類に属する深鉢形土器が倒立斜位の状況で埋設されていた。また、口を覆うような状況で礫が1点（第 図5）出土した。

〔時期〕出土土器より縄文時代前期末葉と考えられる。

第 号埋設土器遺構（第 図）

〔位置・確認層〕R - グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕明確な掘り方は確認できなかった。深さは、土器最高面から最低面まで cmを測る。

〔堆積土〕土器内部を2層に分層した。

〔出土遺物・状況〕第 群3類に属する深鉢形土器（第 図 ）が倒立した状態で埋設されていた。

〔時期〕出土土器より縄文時代前期中葉と考えられる。

第 号埋設土器遺構（第 図）

〔位置・確認層〕AA - グリッドに位置する。第 層において確認した。

〔重複〕なし。

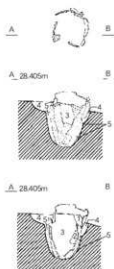
〔平面形・規模〕明確な掘り方は確認できなかった。深さは、土器最高面から最低面まで cmを測る。

〔堆積土〕土器内部を1層に分層した。

〔出土遺物・状況〕第 群6類に属する深鉢形土器（第 図 ）が正立した状態で埋設されていた。また、覆土中から舐磨器類4類Aが1点（第 図6）出土した。

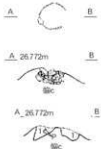
〔時期〕出土土器より縄文時代前期後半と思われる。

第57号埋設土器遺構



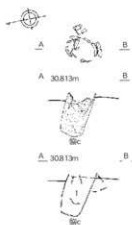
第57号埋設土器遺構
第1層 黄褐色土 (10YR3/2) □-△粒少量
第2層 黄褐色土 (10YR2/2) □-△粒少量
第3層 褐色土 (10YR4/4) □-△粒・角粒少量、
鉄土少量
第4層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒少量
第5層 褐色土 (10YR4/4) 砂質

第75号埋設土器遺構



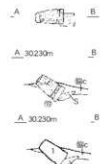
第75号埋設土器遺構
第1層 黄褐色土 (10YR2/2) □-△粒少量、
灰化物少量

第70号埋設土器遺構



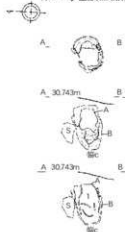
第70号埋設土器遺構
第1層 黄褐色土 (10YR3/3) 角粒少量

第76号埋設土器遺構



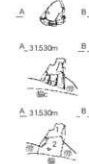
第76号埋設土器遺構
第1層 黄褐色土 (10YR2/2) □-△粒少量

第71号埋設土器遺構



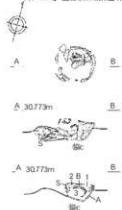
第71号埋設土器遺構
第1層 黄褐色土 (10YR3/2) 角粒少量

第77号埋設土器遺構



第77号埋設土器遺構
第1層 黄褐色土 (10YR2/2) □-△粒少量
第2層 黑色土 (10YR2/1) □-△粒少量

第72号埋設土器遺構



第72号埋設土器遺構
第1層 黄褐色土 (10YR2/2) □-△粒少量
第2層 暗褐色土 (10YR3/4) □-△粒少量
第3層 黄褐色土 (10YR2/2) 角粒中量、
□-△粒少量

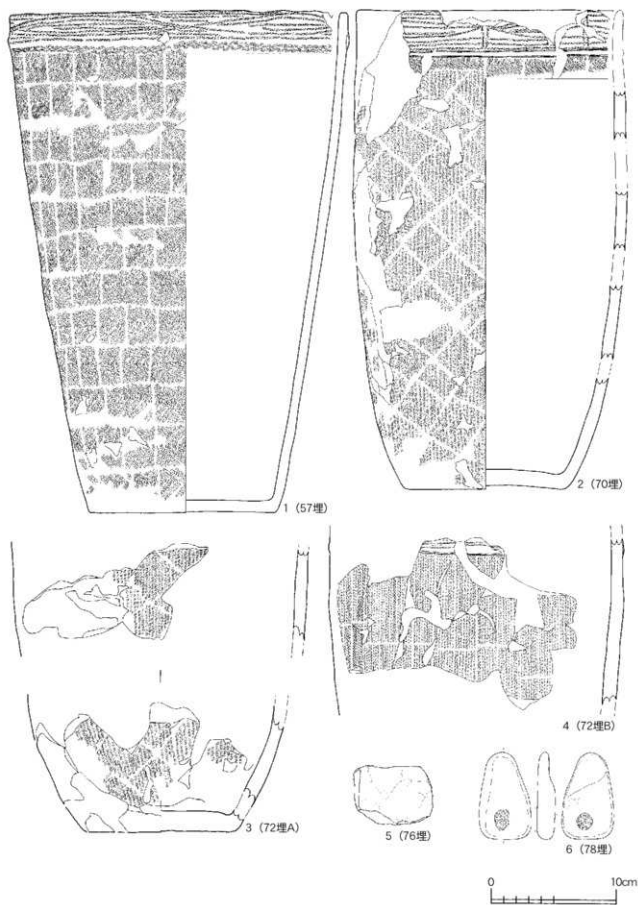
第78号埋設土器遺構



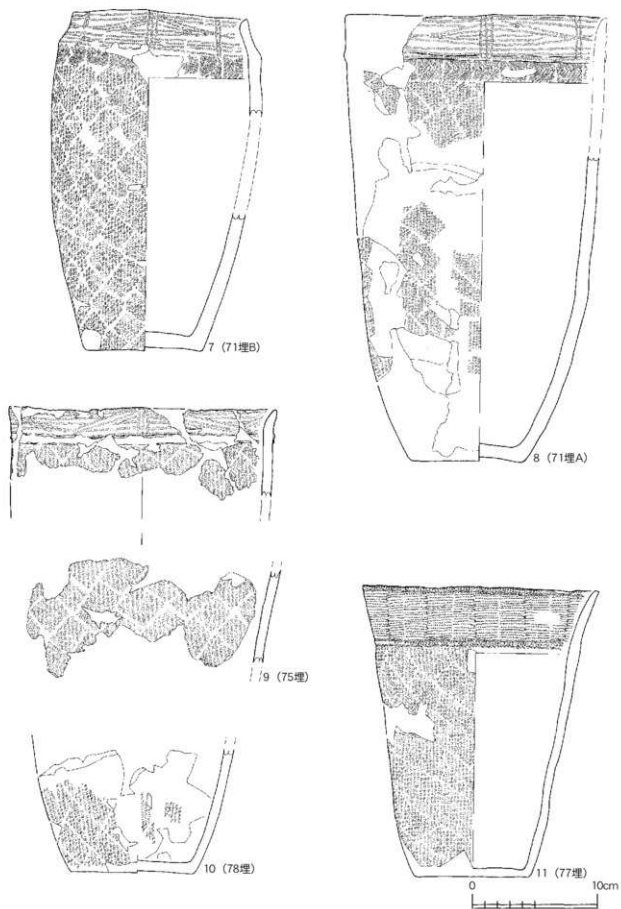
第78号埋設土器遺構
第1層 黄褐色土 (10YR2/2) □-△粒少量、
灰層



第69図 埋設土器遺構



第70図 遺構内出土土器・石器（埋設土器遺構）



第71図 遺構内出土土器（埋設土器遺構）

第2節 出土遺物

平成 年度、 年度の調査で出土した遺物には、土器、石器、土製品、石製品がある。出土遺物の全体量は、平成 年度には、ダンボール箱換算で 箱、平成 年度には、ダンボール箱換算で 箱である。

1. 土器

本遺跡で出土した土器は、以下のように分類している。

- 第 群土器 縄文時代早期の土器
- 第 群土器 縄文時代前期の土器
- 第 群土器 縄文時代中期の土器
- 第 群土器 縄文時代後期の土器
- 第 群土器 縄文時代晩期の土器
- 第 群土器 続縄文・弥生時代の土器
- 第 群土器 平安時代の土器

平成 年度、平成 年度調査における出土土器の主体は、第 群土器、第 群土器であり他群の土器は出土していない。

第 群土器：縄文時代前期の土器

本群土器については、継続して以下のように細分している。

- 1類 縄文時代前期前葉の土器
- 2類 円筒下層a式土器に比定される土器
- 3類 円筒下層b式土器に比定される土器
- 4類 円筒下層c式土器に比定される土器
- 5類 円筒下層d式土器に比定される土器
 - a 円筒下層d₁式土器に比定される土器
 - b 円筒下層d₂式土器に比定される土器
- 6類 円筒下層式土器と思われるが時期の特定できない土器
- 7類 大木式等其他地域の影響を受けた土器

3類 円筒下層b式土器に比定される土器

・口縁部に結節回転文や縄文を施文するもの。

(第 図3、第 図6、第 図 、第 図 、第 図 ～ 、第 図 、 、第 図 、)

口縁部に複節縄文を施すもの(第 図6)、単節縄文を施すもの(第 図 、第 図)、結束第一種羽状縄文を施すもの(第 図3、第 図 ～ 、第 図 、 、第 図 、)などが見られる。また、器面全体に同一の施文を施すものが見られる。

胴部には縦位の単軸絡糸体第1類回転文(第図3、第図、第図、第図)横位、斜位の複節縄文(第図6、第図、第図一、第図)斜位の単節縄文(第図)結束第一種羽状縄文(第図)などが見られる。

・口縁部に単軸絡糸体第1類の絡糸体回転文を施文するもの。

(第図4、5、第図8、9、第図1～5、第図6～、第図一、第図一、第図一、第図一、第図一、第図一)

口縁部に横位回転文を施すものが大半であるが、胴部と同様に縦位回転文を施文するもの(第図4、5、第図)斜位回転文を施文するもの(第図)も見られる。口縁部と胴部間には区画文の無いもの(第図1～3)も見られるが、縄押圧や隆帯による区画文の見られるものが多数である。また、これらには区画文のみ見られるもの(第図)は少数で、区画文のみ見られるもののほか、区画文に加えて口縁部上端に横位の縄押圧の見られるものが多く(第図4、5、第図8、9、第図4、5、第図6～、第図、第図)そのほか区画文に加えて縦位の縄押圧の見られるもの(第図)区画文に加えて口縁部上端に横位に、口縁部に縦位に縄押圧の見られるもの(第図、第図、)などがある。また、区画文がなく口縁部上端に横位の縄押圧のみ見られるもの(第図)も見られる。

胴部には単軸絡糸体第1類の縦位回転文を施すもの(第図4、5、第図8、9、第図1、2、第図5、第図、第図一、第図、)が多数であるが、その他単軸絡糸体第1類の斜位回転文を施すもの(第図3)横位や斜位の複節縄文を施すもの(第図4、第図)がある。また、胴部最上部とその下部で複節縄文の回転方向が異なるもの(第図6、7)や単軸絡糸体第1類回転文の回転方向が異なるもの(第図9)縄文と絡糸体回転文等、施文原体の異なるもの(第図8、第図、第図、第図)が見られる。

・口縁部に単軸絡糸体第5類の絡糸体回転文を施文するもの。(第図)

口縁部の回転文には横位のみ見られる。また、口縁部と胴部間および口縁部上端に横位に、また、口縁部に斜位に縄押圧が見られる。胴部には単軸絡糸体第1類の回転文が斜位に施されている。

・口縁部に単軸絡糸体第6類の絡糸体回転文を施文するもの。(第図7、第図)

口縁部の回転文には横位のみ見られる。区画文として横位の隆帯と縄原体の押圧が見られるほか口縁部上端に横位の縄押圧(第図)口縁部上端の横位に縦位の縄押圧(第図7)を施すものが見られる。胴部には斜位の複節縄文(第図7)縦位の多軸絡糸体回転文(第図)が見られる。

・口縁部に単軸絡糸体第6A類の絡糸体回転文を施文するもの。(第図、)

口縁部の回転文には横位のみ見られる。区画文と口縁部上端に横位の縄押圧が見られるもの(第図)区画文として横位の隆帯と縄押圧、口縁部上端に横位の縄押圧が見られるもの(第図)がある。胴部には斜位の複節縄文が見られる。

・口縁部に多軸絡糸体の絡糸体回転文を施すもの(第 図)

口縁部の回転文は斜位である。区画文および口縁上端に横位の縄押圧が見られる。胴部最上には縦位及び斜位の多軸絡糸体回転文、その下部に縦位の単軸絡糸体第1類回転文が見られる。

5類 円筒下層d式土器に比定される土器

a 円筒下層d式土器に比定される土器

・口縁部に結束第一種による回転文を施すもの。

(第 図、第 図、第 図、第 図、第 図)

口縁部に結束第一種を施し、胴部に単軸絡糸体第1類の縦位回転文を施すもの(第 図)、口縁部に結束第一種を施し、胴部上半に斜位の複節縄文、胴部下半に結束第一種を施すもの(第 図)、器面上半に結束第一種、下半に斜位の複節縄文を施すもの(第 図)、口縁部に結束第一種と横位、縦位の縄押圧を施し、胴部に斜位の複節縄文を施すもの(第 図、)、口縁部に結束第一種と横位の隆帯を施し、胴部上半に結束第一種、下半に単軸絡糸体第1類の縦位回転文を施すもの(第 図)などが見られる。

・狭い口縁部に横位に縄押圧による圧痕文を施文するもの。

(第 図、第 図、第 図、第 図、第 図、第 図、第 図)

口縁部の押圧原体には、L(第 図)、R(第 図、第 図、第 図、)、LR(第 図、第 図、第 図)、RL(第 図)、LとRの2条一組(第 図)、LRとRLの2条一組(第 図)やLの2条一組(第 図)のものなどがある。

口縁部と胴部間には区画文が見られないもの(第 図、第 図、第 図、第 図、第 図)、区画文が縄押圧によるもの(第 図、第 図)、区画文が隆帯によるもの(第 図、第 図、第 図、第 図、第 図、第 図)区画文が刺突によるもの(第 図)などが見られる。

胴部施文には、単軸絡糸体第1類の縦位回転文(第 図、第 図、)、第1A類の縦位回転文(第 図、)、斜位の複節縄文(第 図、第 図、第 図、)、横位の複節回転文、横位の単節縄文(第 図)、結束第一種の横位回転文(第 図、第 図、第 図)、横位及び斜位の単節縄文(第 図)、横位の結節回転文と横位の結束第一種(第 図)、横位の結節回転文と縦位の絡糸体回転文(第 図)、横位の結束第一種と斜位の複節縄文(第 図)、横位の結束第一種と単軸絡糸体第1類の縦位回転文(第 図、第 図、第 図)横位の結束第一種と結節回転文及び単軸絡糸体第1類の縦位回転文(第 図)などが見られる。

・狭い口縁部に横位に絡糸体押圧による圧痕文を施文するもの。

(第 図2、第 図)

単軸絡糸体第1類(第 図2)と単軸絡糸体第5類(第 図)のものが見られる。

いずれも口縁部施文と胴部施文のみで区画文は見られない。

胴部には、単軸絡糸体第1類の縦位回転文(第 図2)、横位の結束第一種(第 図)を施文して

いる。

・狭い口縁部に横位に縄押圧、絡糸体押圧による圧痕文や刺突文等異なる施文具や手法を用いて施文するもの。(第 図)

口縁部には、単軸絡糸体第 1 類の横位押圧と刺突により施文しており、区画文は見られない。胴部には、横位の結束第二種が見られる。

・狭い口縁部に斜位に絡糸体押圧による圧痕文を施すもの。

(第 図 4)

口縁部にはおおむね口縁部に沿うように斜位に絡糸体押圧が見られる。区画文はなく、胴部には多軸絡糸体の縦位回転文が見られる。

・狭い口縁部に斜位に縄押圧、絡糸体押圧による圧痕文や刺突文等、異なる施文具や手法を用いて施文するもの。(第 図 3)

口縁部には斜位の絡糸体押圧と刺突が見られる。隆帯による区画文が見られる。胴部には横位の結束第二種が見られる。

・狭い口縁部に横位、斜位に縄押圧による圧痕文を施すもの。

(第 図 2、第 図 、 、第 図 一、第 図 一、第 図 、)

口縁部施文には、R 原体を用いているもの(第 図 、 、第 図 一、第 図)が多く、その他、L(第 図 、) RとL(第 図) LR(第 図 2、第 図 、)などが見られる。

口縁部と胴部間には区画の見られないもの(第 図 2、第 図) 縄押圧による区画文の見られるもの、隆帯による区画文の見られるもの(第 図 、第 図 一、第 図 一、第 図 、)などが見られる。

胴部には単軸絡糸体の縦位回転文(第 図 2、第 図 、) 横位の複節縄文、斜位の複節縄文(第 図) 横位の単節縄文、斜位の単節縄文(第 図) 横位の結束第一種(第 図 、第 図) 横位の結束第一種と単軸絡糸体の縦位回転文(第 図) 横位の結束第一種と斜位の複節縄文(第 図 、第 図 、第 図) 横位の結束第一種と斜位の単節縄文(第 図) 横位の結束第二種と斜位の単節縄文(第 図) などが見られる。

・狭い口縁部に横位、斜位に絡糸体押圧による圧痕文を施文するもの。

(第 図 4、第 図 、 、第 図 、)

口縁部には単軸絡糸体を用いている。口縁部と胴部間には、区画文として、縄押圧(第 図 4) 絡糸体押圧(第 図) 隆帯(第 図) などが見られる。胴部には多軸絡糸体の縦位回転文(第 図 4) 横位の結束第一種と斜位の複節縄文(第 図 、) などが見られる。

・狭い口縁部に横位、斜位に縄押圧、絡糸体押圧による圧痕文や刺突文等異なる施文具や手法を用いて施文するもの。(第 図 3)

口縁部には、横位、斜位のLR押圧、横位、斜位、縦位の隆帯と刺突及び貫通孔(第 図)、蕨状、曲線状のLRの押圧及び曲線状の隆帯と刺突(第 図)、横位、斜位、縦位のL押圧と隆帯(第 図)、横位、斜位、縦位のR、LR、RLR押圧及び刺突、貫通孔(第 図)、横位、斜位、縦位のLR押圧(第 図2)などが見られる。

胴部には、単軸絡条体の縦位回転文(第 図)、単軸絡条体の縦位回転文と横位の結節回転文(第 図)、横位の結束第一種と単軸絡条体の縦位回転文(第 図)、胴上部に横位結節回転文と結束第一種、下部に単軸絡条体の縦位回転文(第 図、)、横位の結束第一種と単軸絡条体の縦位回転文(第 図2)、横位の結節回転文と多軸絡条体の縦位回転文(第 図)などが見られる。

6類 円筒下層式土器と思われるが時期の特定できない土器

円筒下層式土器と思われるが、主として遺構内から出土した胴部破片等細分が困難なものやその他特徴的なものを一括した。(第 図6、7、第 図、第 図、 、 、 、第 図、第 図、第 図5～)

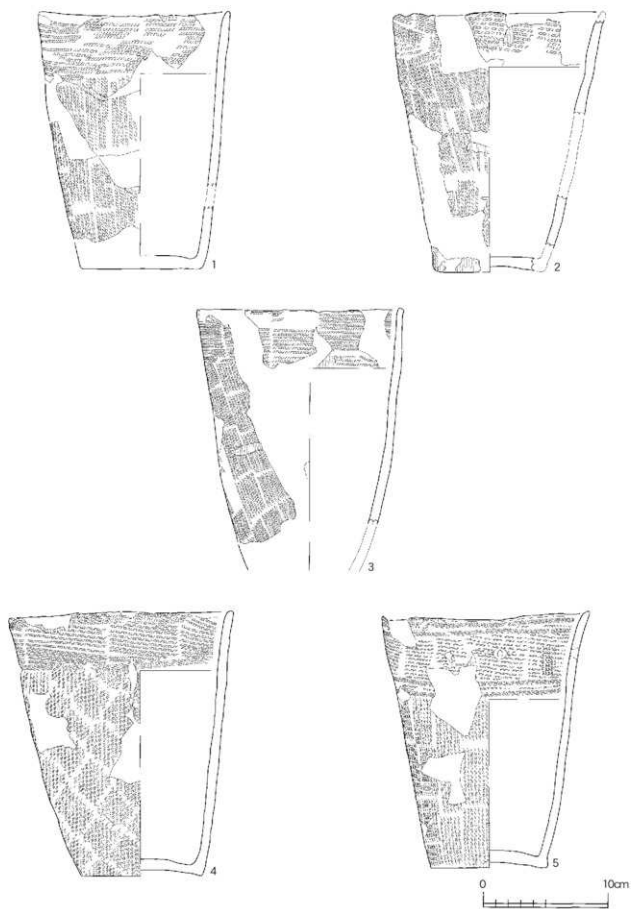
特徴的なものには地方土器(第 図5)、皿形土器(第 図8)、台付土器底部(第 図、第 図9～)、胴部に横位の結束第一種と単軸絡条体の縦位回転文が交互に施文されるもの(第 図6)、胴部下側が大きく屈曲するもの(第 図)、底部に内面からの穿孔が見られるもの(第 図7)などが見られる。

7類 大木式土器等他地域の影響を受けた土器

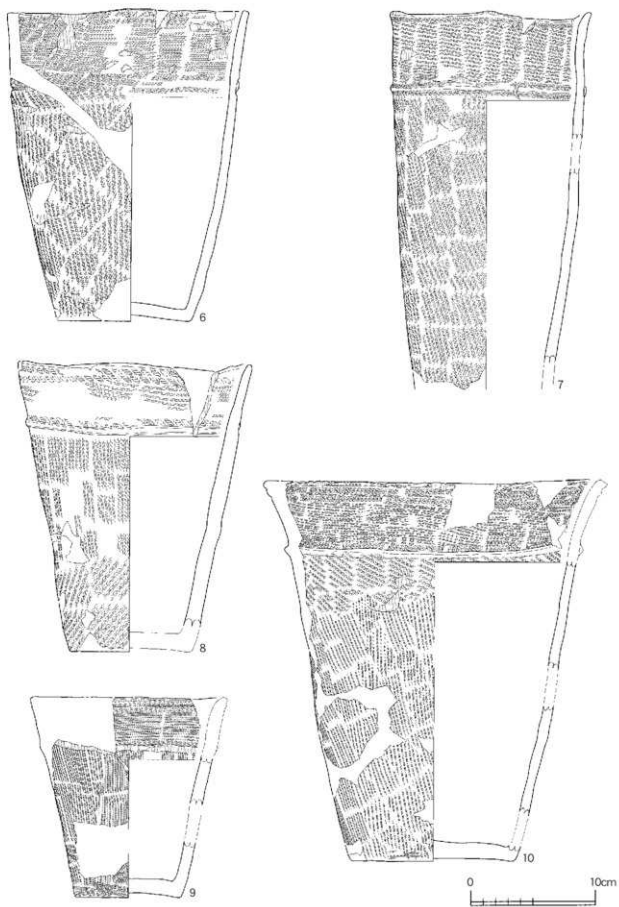
(第 図、第 図～)

口縁部に連続した縦位の押圧が見られ、胴部に縦位の結束第一種が見られるもの(第 図)、口縁部に沈線を主体に施文がなされるもの(第 図)、口縁部に半隆起線文主体に施文がなされるもの(第 図～)などが見られる。

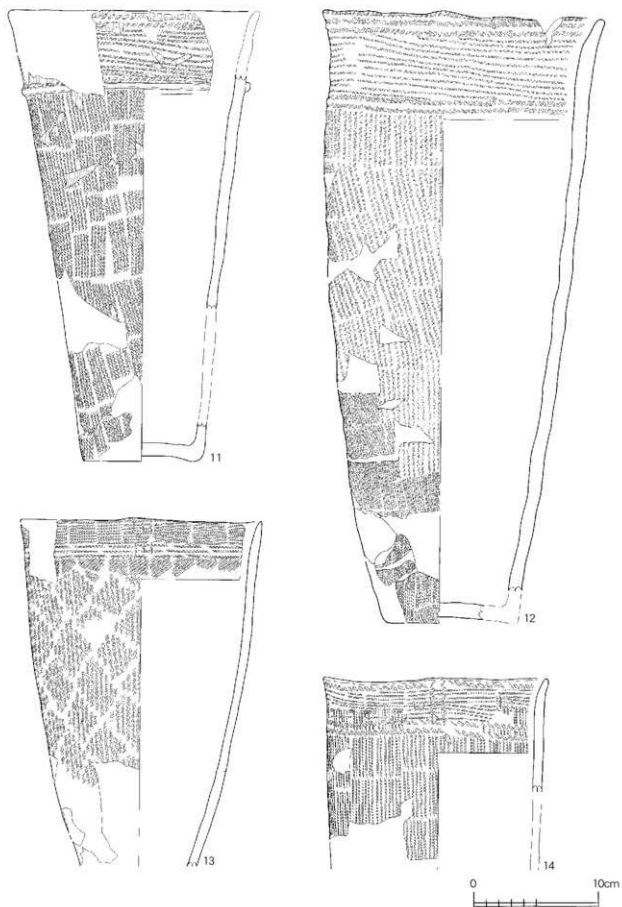
おおむね、縄文時代前期末葉の土器と思われるが、施文手法等が在地の土器である円筒下層式土器とは異なるものである。



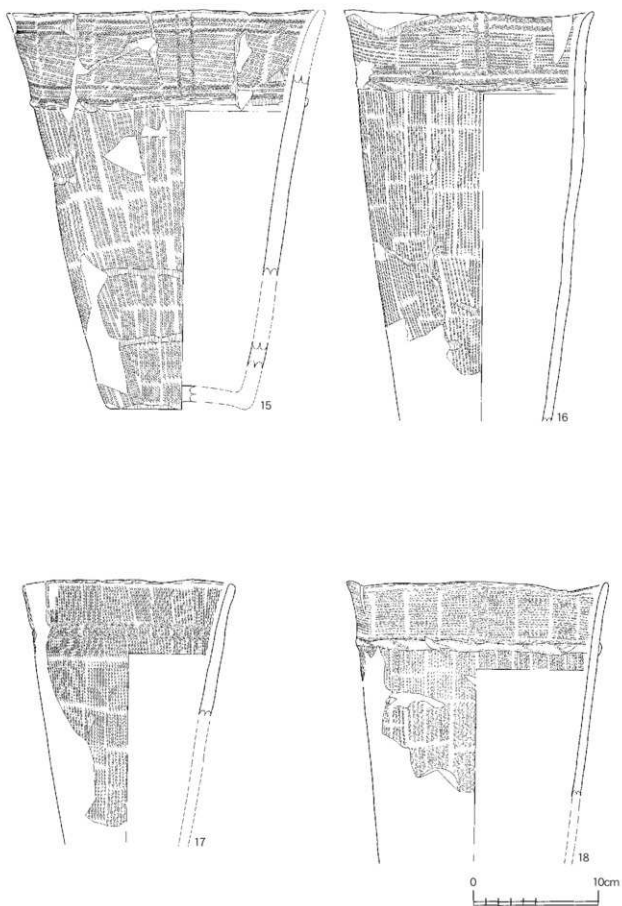
第72図 遺構外出土第Ⅱ群土器(1)



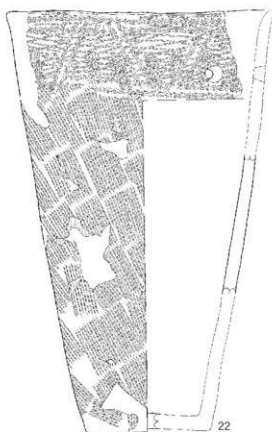
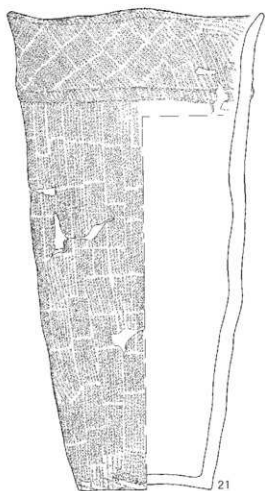
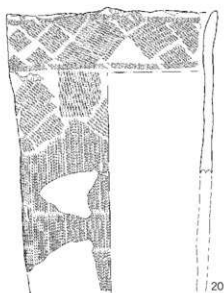
第73図 遺構外出土第Ⅱ群土器(2)



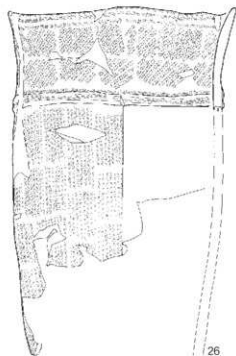
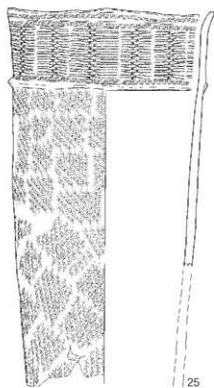
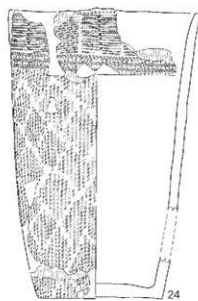
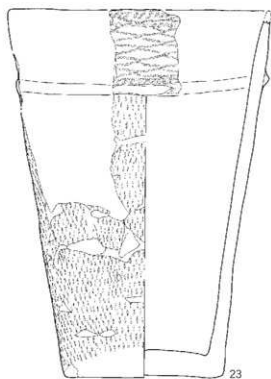
第74図 遺構外出土第Ⅱ群土器(3)



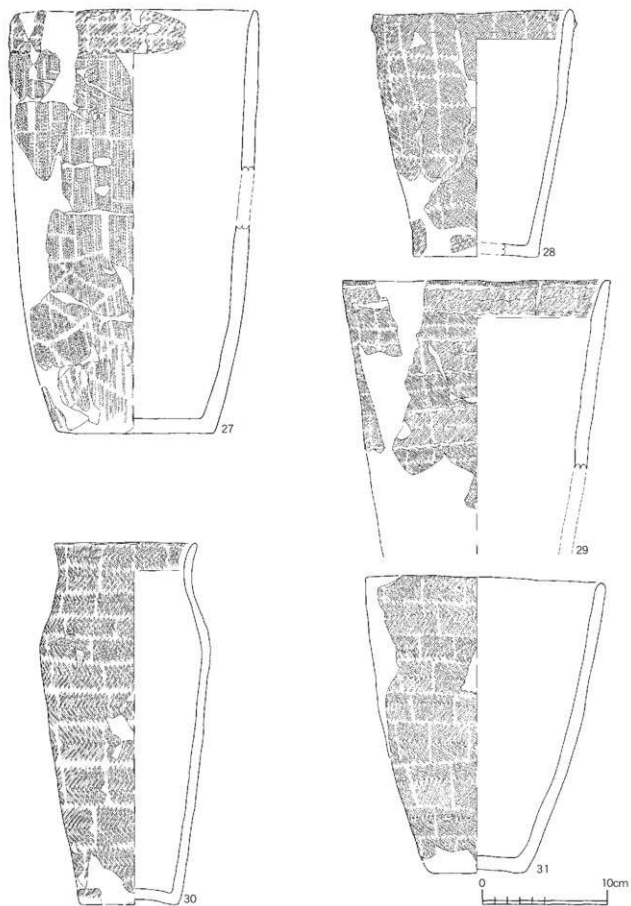
第75図 遠横外出土第Ⅱ群土器(4)



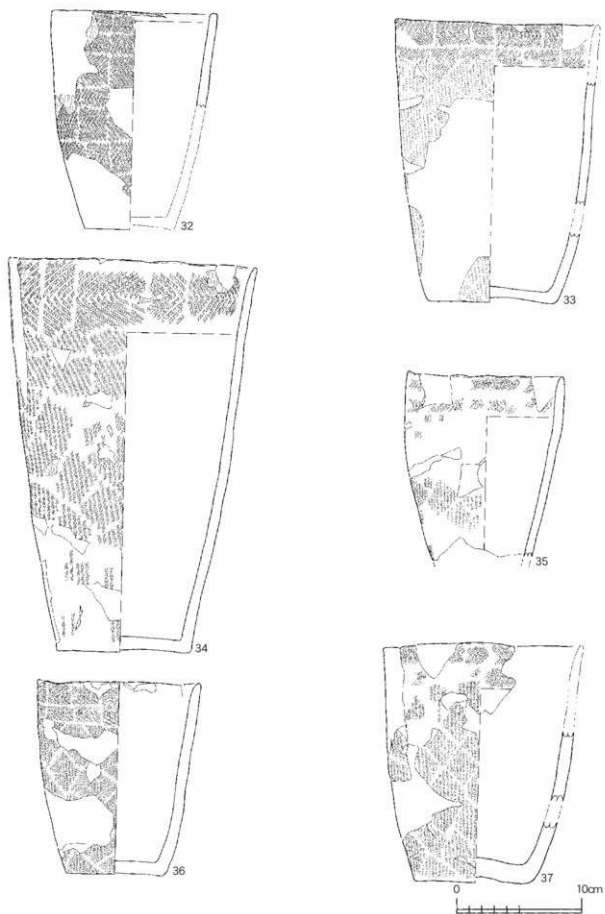
第76図 遺構外出土第Ⅱ群土器(5)



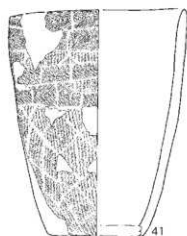
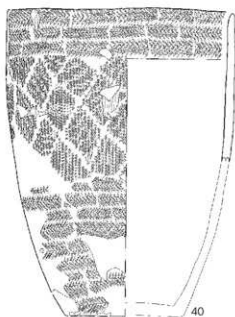
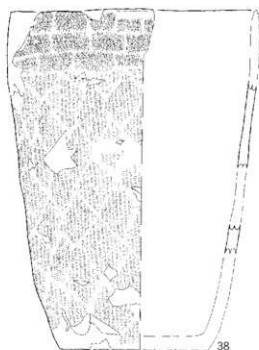
第77図 遠横外出土第Ⅱ群土器(6)



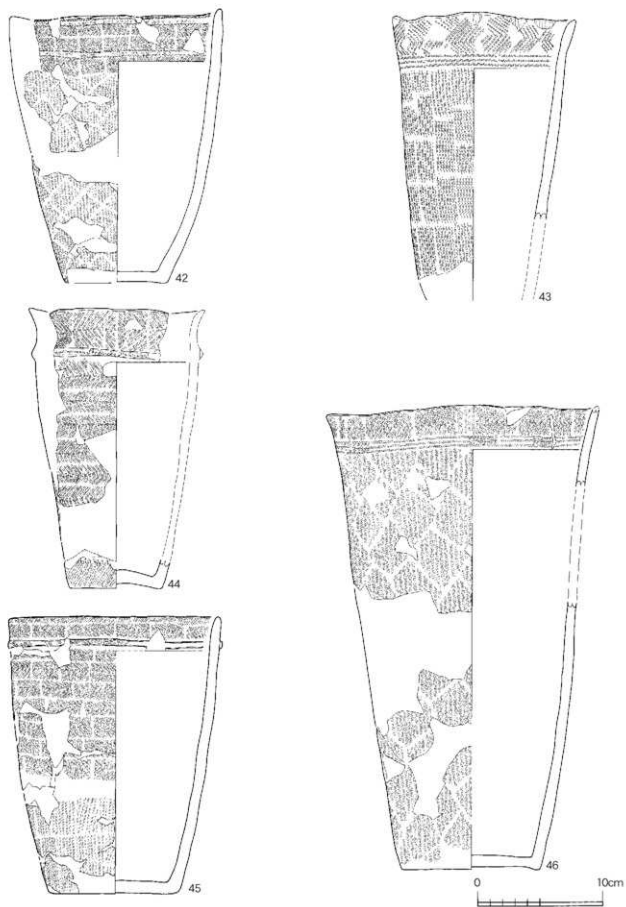
第78図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (7)



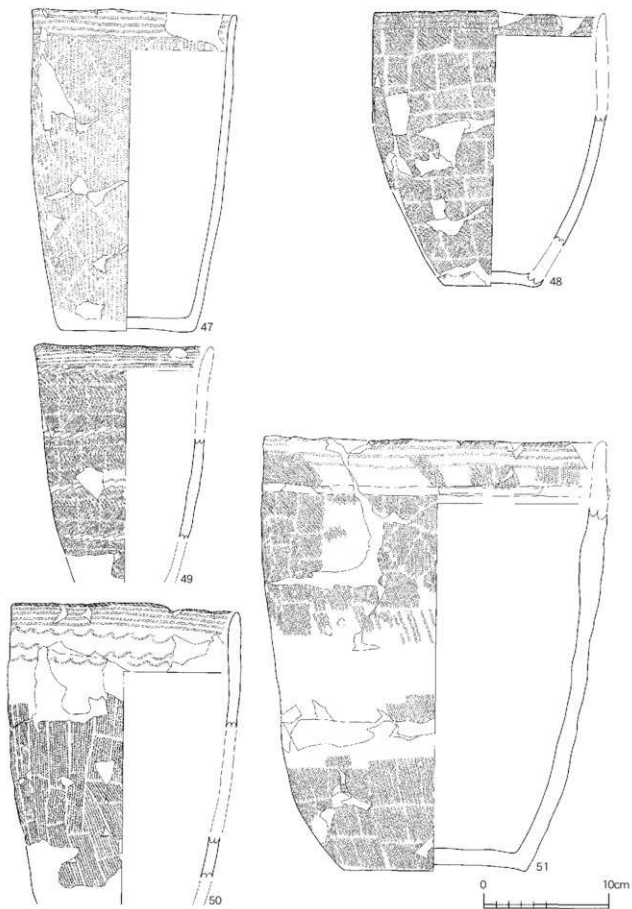
第79図 遺構外出土第Ⅱ群土器(8)



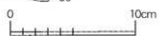
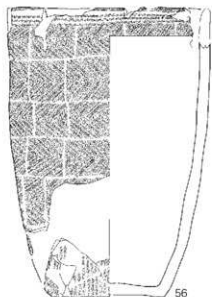
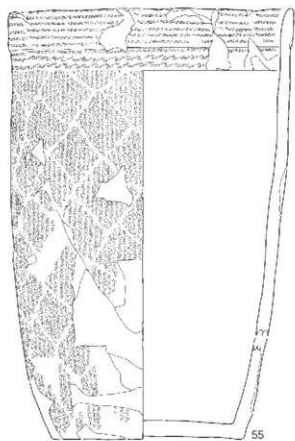
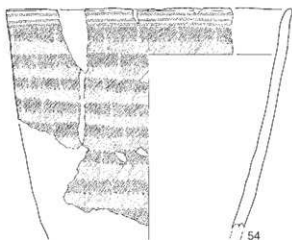
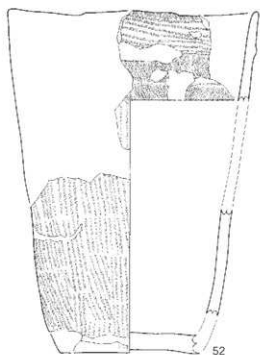
第80図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (9)



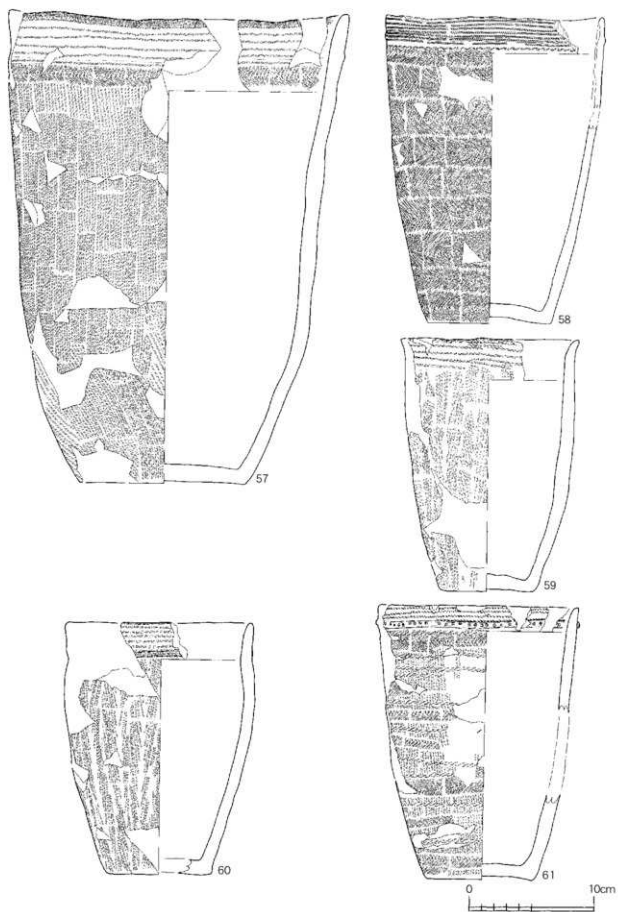
第81圖 遺構外出土第Ⅱ群土器 (10)



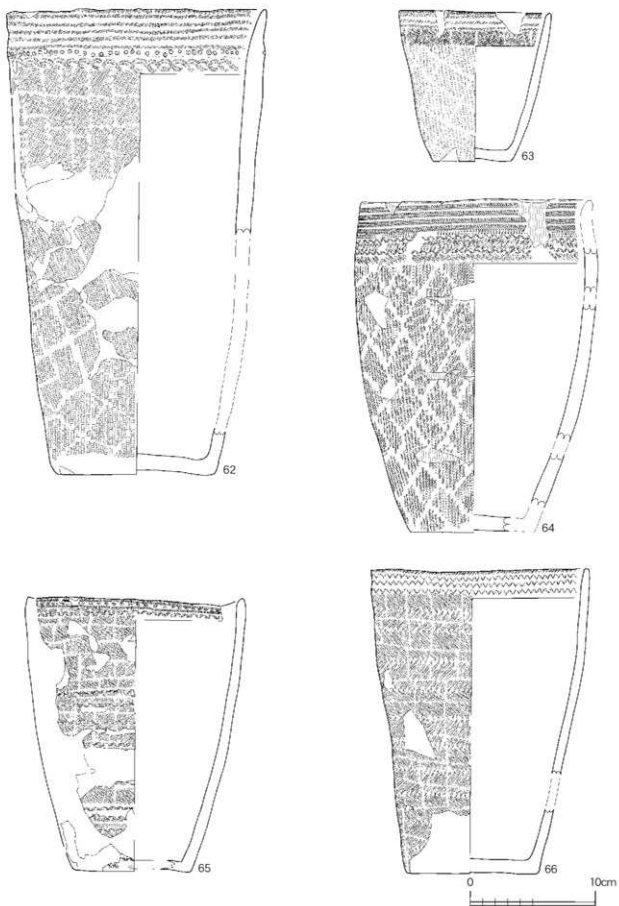
第82図 遺構外出土第Ⅱ群土器(11)



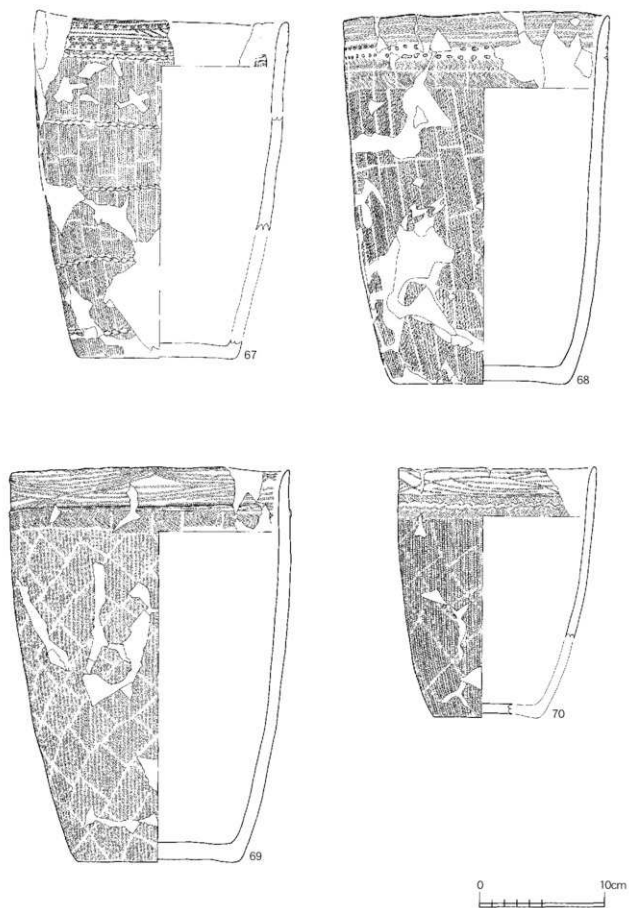
第83図 遺構外出土第Ⅱ群土器(12)



第84図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (13)



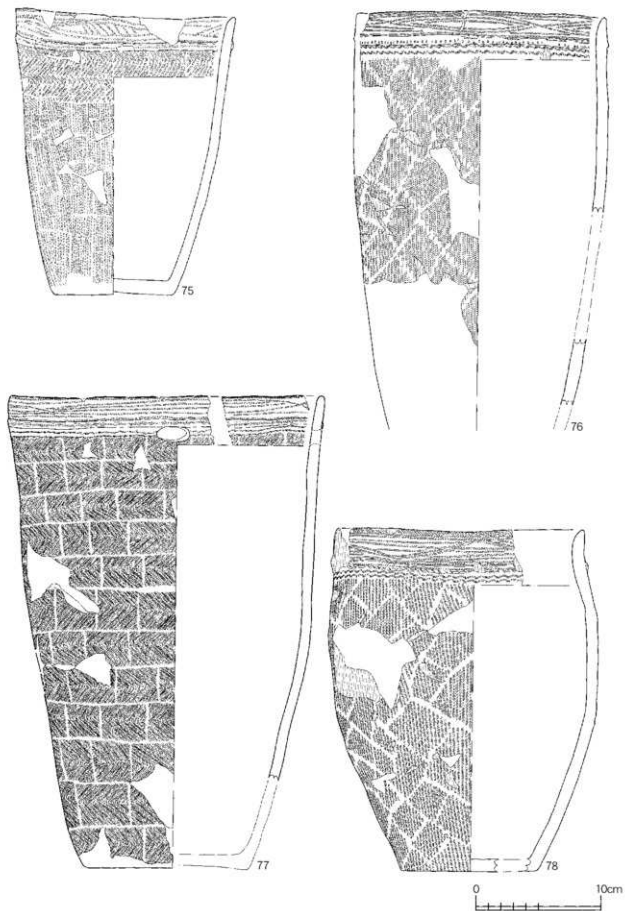
第85図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (14)



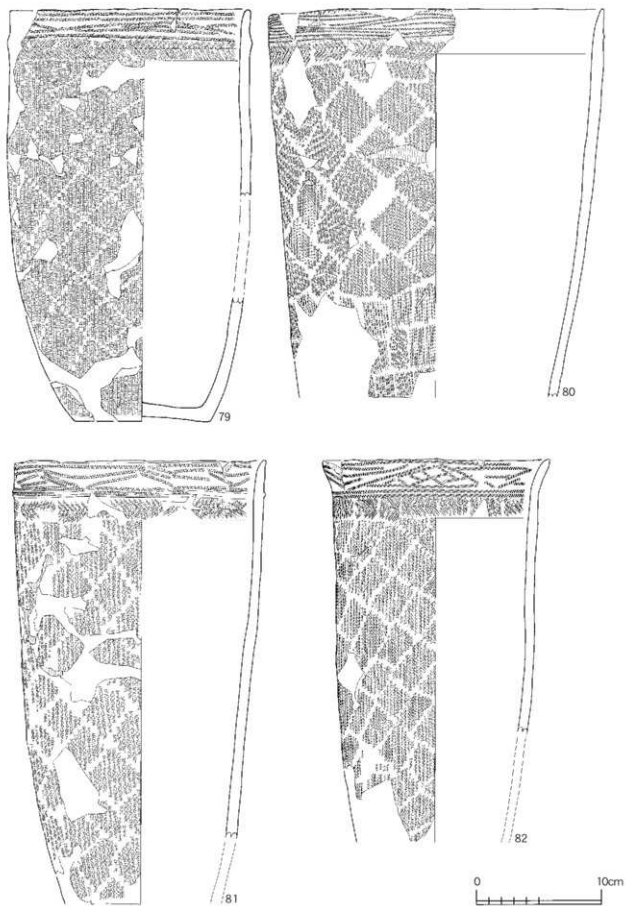
第86図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (15)



第87図 遺構外出土第Ⅱ群土器(16)



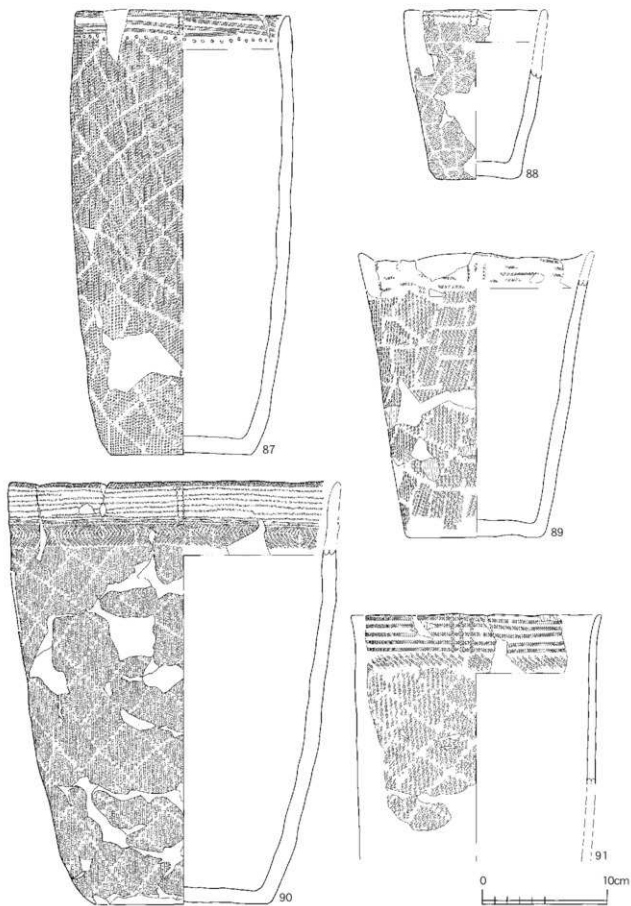
第88図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (17)



第89図 遺構外出土第Ⅱ群土器(18)



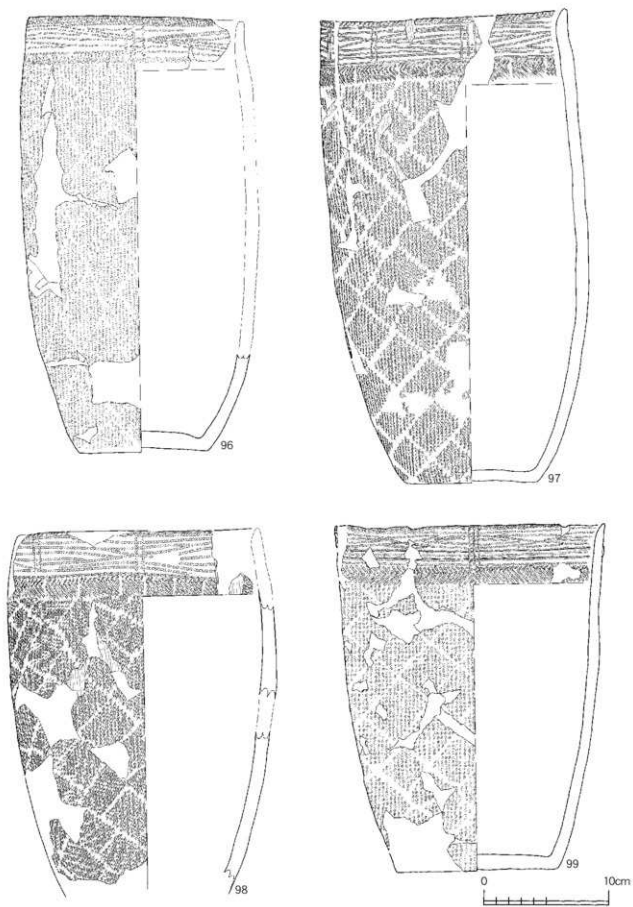
第90図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (19)



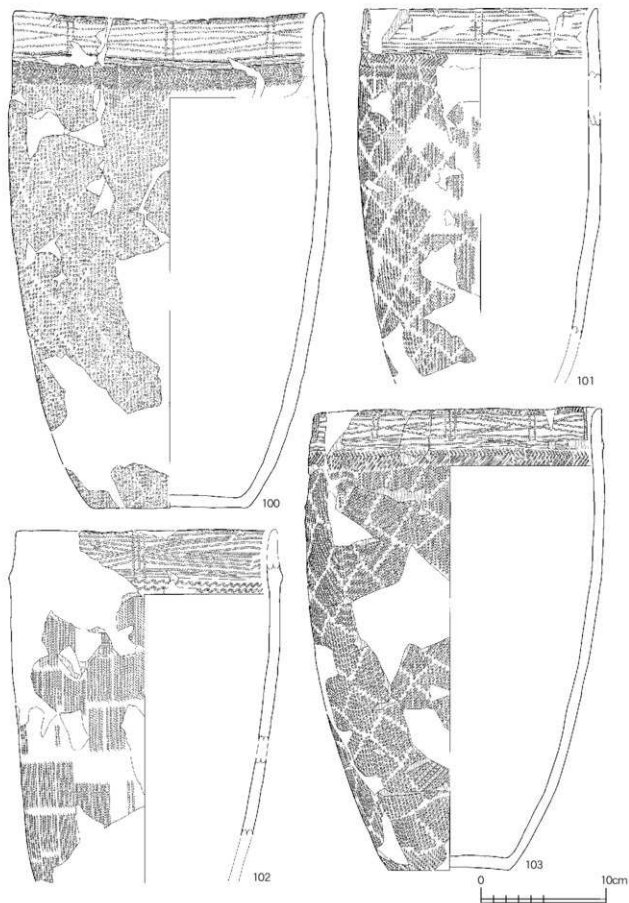
第91圖 遺構外出土第Ⅱ群土器(20)



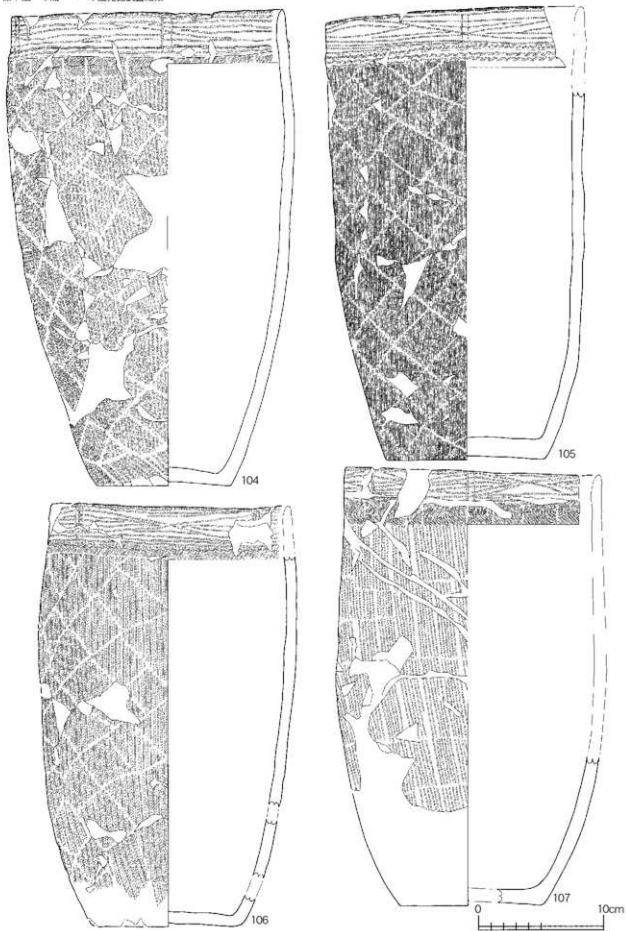
第92図 遺構外出土第Ⅱ群土器(21)



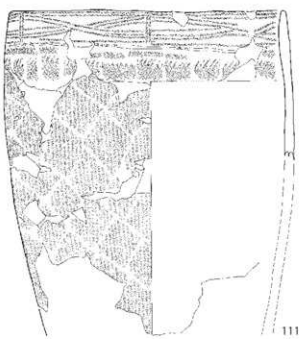
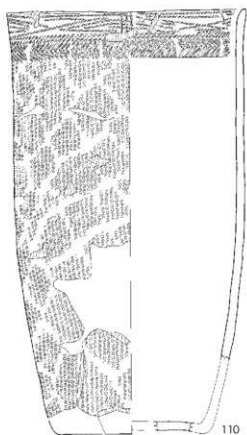
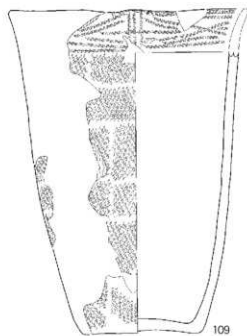
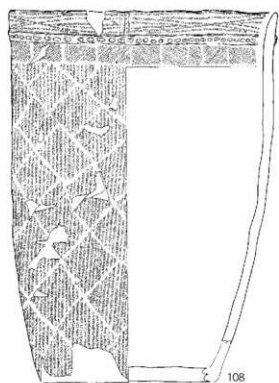
第93図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (22)



第94図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (23)



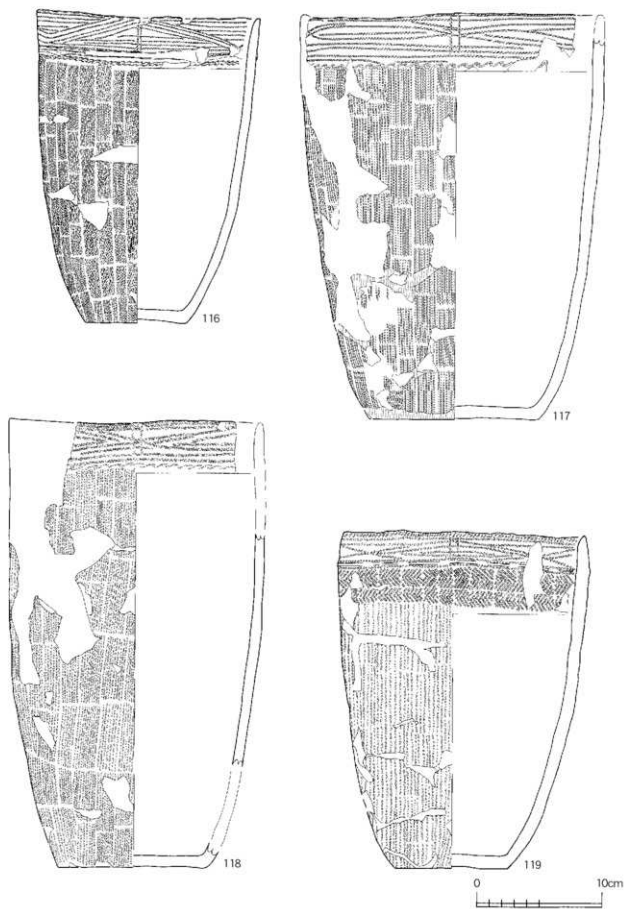
第95図 遺構外出土第Ⅱ群土器(24)



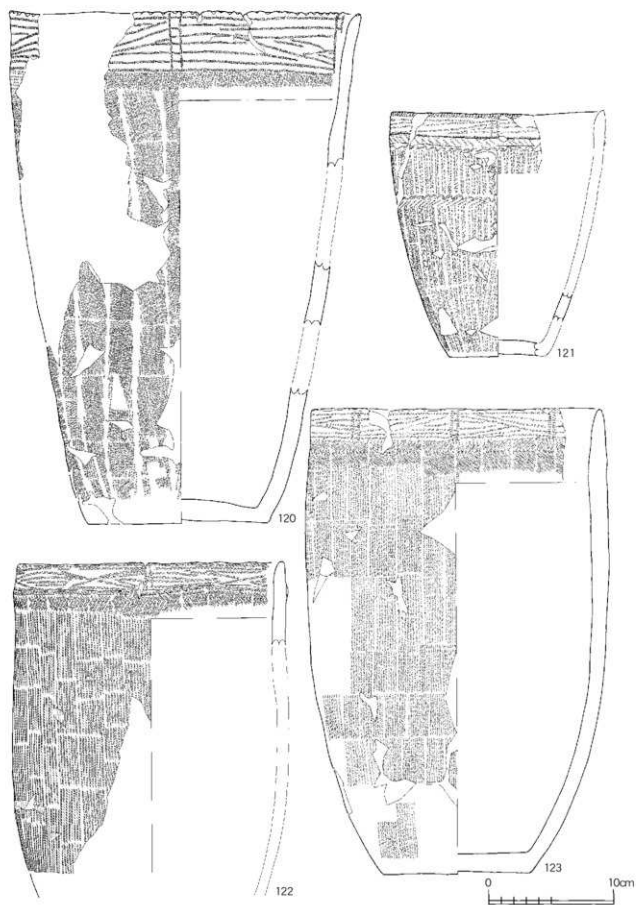
第96図 遺構外出土第Ⅱ群土器(25)



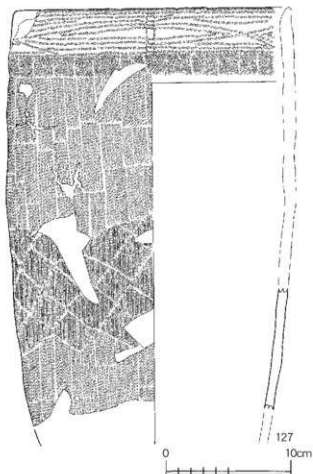
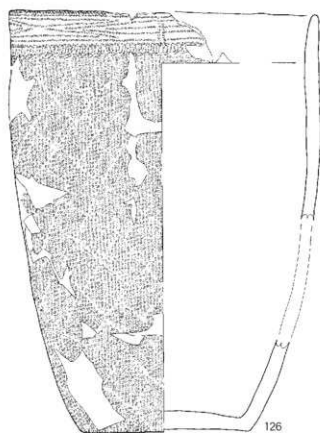
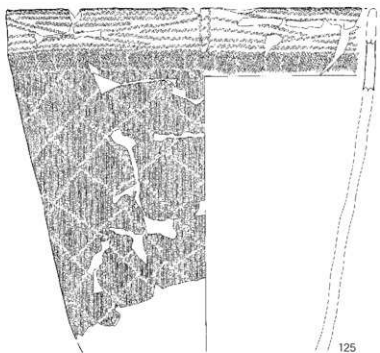
第97図 遺構外出土第Ⅱ群土器(26)



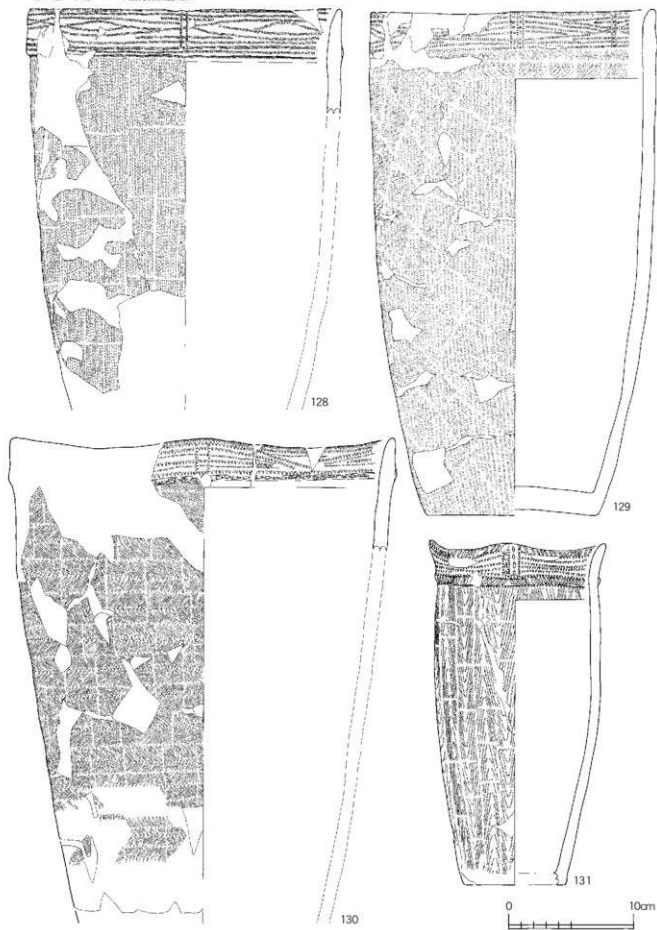
第98図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (27)



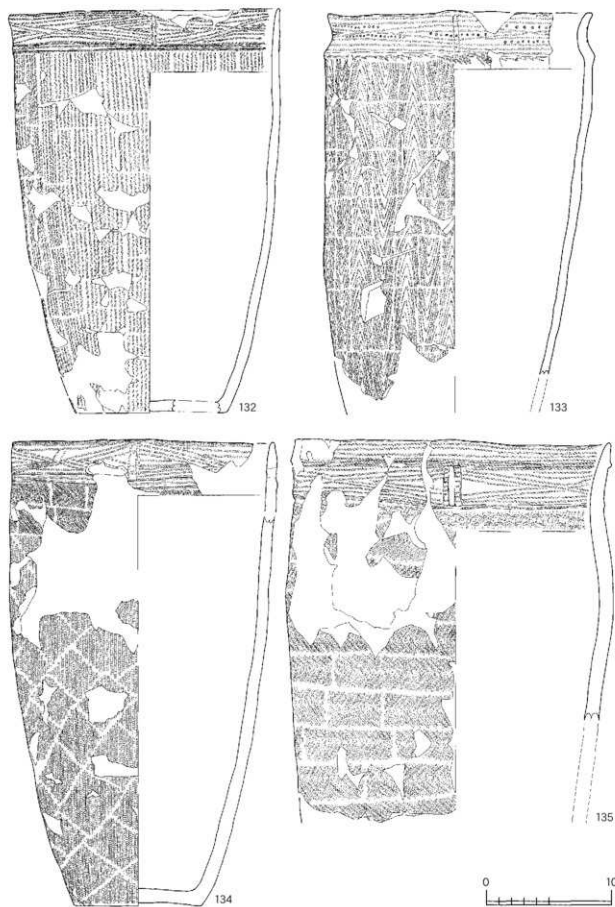
第99図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (28)



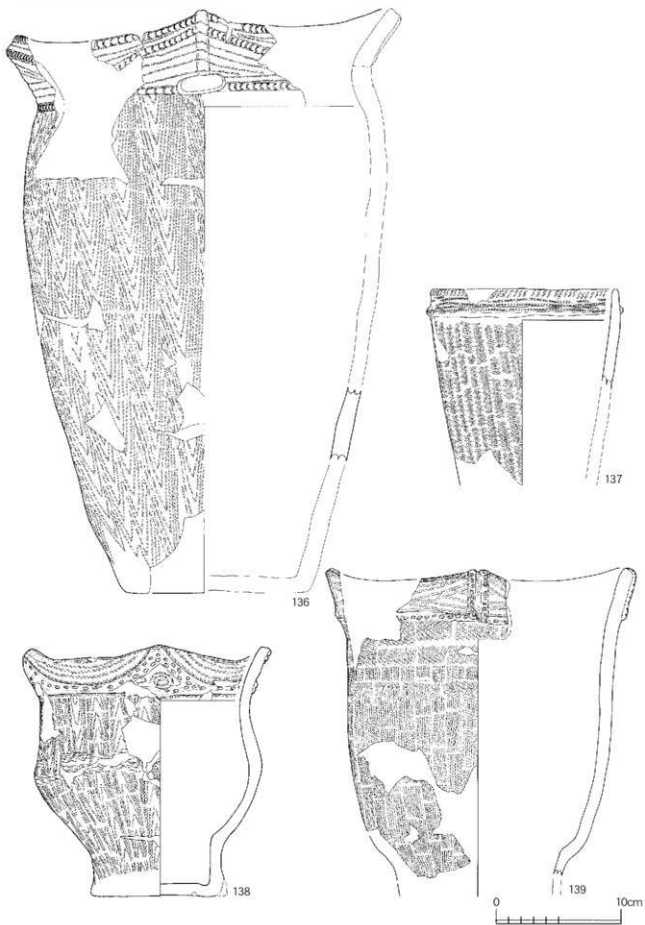
第100図 遺構外出土第Ⅱ群土器(29)



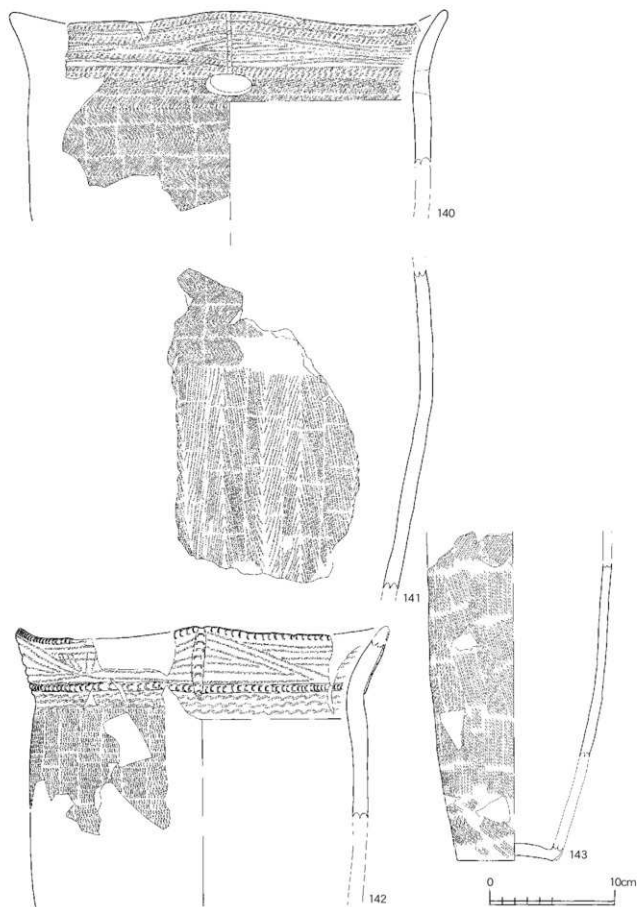
第101図 遠横外出土第Ⅱ群土器(30)



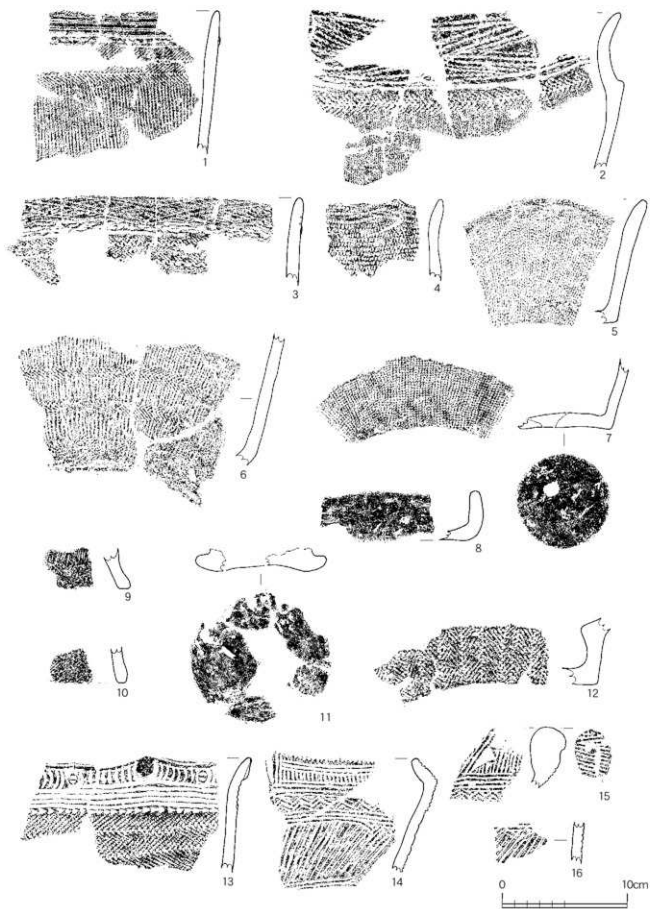
第102図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (31)



第103図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (32)



第104図 遺構外出土第Ⅱ群土器 (33)



第105図 遺構外出土Ⅱ群土器 (34)

第 群土器：縄文時代後期の土器

本群土器については、文様の特徴により1～ 類に細分している。個々の分類の基礎をなす各種単位文様や時期区分等の詳細については、稲山遺跡発掘調査報告書（青森県教育委員会）に詳述されているので参照いただきたい。

2 a類（第 図1、第 図1）

単位文様3群a類を主体とする土器で構成され、沈線幅が2 b類と比較して幅広く、第2 a期に相当するものである。

深鉢形土器が見られる。波状口縁で胴部には、沈線手法による連携渦巻文、斜線文（第 図1）が見られる。

2 b類（第 図2～5、第 図2）

単位文様3群a類を主体とする土器で構成され、沈線幅が2 a類と比較して狭く、第2 b期に相当するものである。

深鉢形土器は、波状口縁のもの（第 図3）と平坦口縁のもの（第 図2、4）が見られる。

口縁部には横線文や楕円形文が、頸部には、無文帯（第 図2、4）区画文（第 図3）が施されている。

胴部には、沈線手法による連携渦巻文、連携C字状文（第 図2～4）が施されている。

壺形土器は、胴部に沈線手法による曲線文を施すもの（第 図5）が見られる。

3類（第 図、第 図、第 図6～、第 図3、4、6、7、9、）

単位文様3群b類を主体とする土器で構成され、第3期に相当するものである。

深鉢形土器は、波状口縁のもの（第 図、第 図8、）と平坦口縁のもの（第 図6、7、9）とが見られる。口縁部に沈線手法による円形文、楕円形文が見られるもの（第 図6）や頸部に無文帯の見られるもの（第 図9）がある。

胴部には、沈線手法によるうろこ状文（第 図7）蛇行文と縄文（第 図）、連携曲線文（第 図8）や3本組沈線手法によるうろこ状文（第 図）、連携曲線文（第 図6）などが見られる。

鉢形土器には、平坦口縁をもつもの（第 図、）と波状口縁をもつもの（第 図、第 図）とが見られ、また、ボウル形を呈する器形のもの（第 図、）や頸部に区画文を有するもの（第 図）などが見られる。

胴部には、沈線手法による方形文、三角形文（第 図）、連携渦巻文（第 図、第 図）などが見られる。

壺形土器では、小型で胴部に沈線手法による連携渦巻文を施すもの（第 図）が見られる。

4類（第 図、第 図、～、第 図、第 図～、第 図～、第 図～、第 図～、第 図～、第 図～、第 図8、～、第 図～、）

単位文様2群a類を主体とする土器で構成され、第4期に相当するものである。

深鉢形土器は、波状口縁のもの和平坦口縁のものがあり、少数の平坦口縁のもの(第 図)を除き大半が波状口縁である。口縁部には、沈線手法や隆沈線手法による円形文、楕円形文(第 図、第 図、第 図)が多く見られ、そのほか、8字状隆帯と円形文、楕円形文(第 図) 摺り合わせた隆帯と円形文、楕円形文(第 図) 摺り合わせた隆帯と渦巻文(第 図) 方形文(第 図) 横線文(第 図) などが見られる。

胴部には、沈線手法や隆沈線手法による円形文や楕円形文が多く見られるほか、連結渦巻文(第 図、第 図、第 図) 連結S字状文(第 図、第 図、) 3本組み沈線手法によるS字状文(第 図) 方形文(第 図、) 蛇行文(第 図) などが見られる。

鉢形土器は、平坦口縁のものが見られる。

口縁部には、沈線手法による円形文、楕円形文(第 図、第 図)や横線文(第 図、第 図、第 図) 無文のもの(第 図、第 図) などが見られる。

胴部には、沈線手法による渦巻文(第 図、第 図) 楕円形文(第 図) 波状文(第 図、第 図) などが見られる。

浅鉢形土器は、平坦口縁のものが多く見られる。

口縁部には沈線手法、隆沈線による円形文、楕円形文が見られる。

胴部には沈線手法によるS字状文が見られるもの(第 図 一、一)が多く見られるほか、無文のもの(第 図)も見られる。

壺形土器は、平坦口縁のものが多く見られるが波状口縁のものも見られる。

口縁部には沈線手法や隆帯により円形文、楕円形文を施すものが多く見られるほか、橋状把手の見られるものが多く見られる。波状口縁のものでは口縁突起部に隆帯による加飾の見られるもの(第 図)も見られる。

胴部には、沈線手法や隆沈線手法による連結渦巻文(第 図、第 図、第 図) 連結C字状文(第 図) S字状文(第 図) 楕円形文(第 図) や小型のものでは、楕円形文(第 図) 渦巻文(第 図) 胴上半部が切断されたもの(第 図) などが見られる。

5類(第 図 一、第 図、第 図 一、第 図、))

3本組み沈線手法による単位文様2群b類を主体とする土器で構成され、第5期に相当するものである。

深鉢土器は、波状口縁を持つものと平坦口縁をもつものが見られる。

口縁部の施文には、沈線手法による円形文、楕円形文(第 図、)や横線文、縦線文(第 図)が見られる。胴部には、3本組沈線手法による渦巻文(第 図、)や曲線文(第 図、第 図) 横線文、斜線文(第 図) などが見られる。

鉢形土器は、平坦口縁のものが多く見られる。

口縁部の施文には、沈線手法による円形文、曲線文(第 図) 横線文(第 図、第 図、)が見られる。胴部には、3本組沈線手法による縦位の渦巻文(第 図、第 図) 波状文(第 図、第 図) 曲線文(第 図) 横線文(第 図) を施すものが見られる。

台付鉢形土器は、波状口縁をもつもの(第 図)が見られる。口縁部には沈線手法による円形文、楕円形文のほか、口縁突起部に隆帯による加飾が見られる。胴部には3本組沈線手法による渦巻文が見

られる。

壺形土器は、胴部に3本組沈線手法による曲線文(第 図)、斜線文(第 図)が見られる。

6類(第 図、第 図、第 図、第 図)

単位文様3群c類を主体とする土器で構成され、第6期に相当するものである。

深鉢形土器は、波状口縁をもつもの(第 図、第 図、第 図)と平坦口縁をもつもの(第 図)とが見られる。4本組沈線手法による渦巻文の施されるもの(第 図)、櫛歯状沈線手法による横線文、曲線文の施されるもの(第 図)、沈線で縁取られる単位文様に櫛歯状沈線が充填されるものでは、横線文、曲線文、斜線文(第 図、第 図)、S字状文(第 図)、連結渦巻文(第 図)などが見られる。

壺形土器では、4本組沈線手法による曲線文(第 図)が見られる。

7類(第 図、第 図)

惣糸圧痕や結糸体圧痕による格子目文の見られるものである。

深鉢形土器が見られる。格子目文には、Rの惣糸によるもの(第 図、第 図)、Lの惣糸によるもの(第 図)、LRの惣糸によるもの(第 図)などが見られる。

格子目文の施文にあたっては、縦位ないし右傾の押圧を施したのち左傾の沈線を施すもの(第 図、第 図)、その逆のもの(第 図、第 図、)とが見られる。

8類(第 図、第 図、第 図)

沈線手法や櫛歯状沈線手法による格子目文を主体とする土器である。深鉢形土器が見られる。

平坦口縁で、口縁部ないし口縁部下に横線文を施すもの(第 図、第 図、第 図、)や、口縁部に楕円形文を施すもの(第 図)が見られる。

格子目文には、3本組沈線手法によるもの(第 図、第 図、第 図、)4本組沈線手法によるもの(第 図)、櫛歯状沈線手法によるもの(第 図、第 図、)が見られる。

格子目文の施文にあたっては、縦位ないし右傾の沈線を施したのち左傾の沈線を施すもの(第 図、第 図、第 図、)その逆のもの(第 図、)右傾と左傾を交互に施すもの(第 図、)が見られる。

9類(第 図)

沈線手法や櫛歯状沈線手法による並列縦線文を主体とする土器である。

深鉢形土器が見られ、波状口縁のもの(第 図、)が見られる。沈線手法によるもの(第 図、)と櫛歯状沈線手法によるもの(第 図、)とが見られる。

類(第 図、第 図、第 図、第 図)

格子目文を除く惣糸の圧痕文や回転文、縄文の回転文を主体とする土器である。

深鉢形土器は、平坦口縁のものが見られ、縦位のR惣糸圧痕(第 図)、斜位のR圧痕(第 図)、LRで横位回転(第 図、)LRで縦位回転(第 図、)RLで横位回転(第 図、)

）R Lで縦位回転（第 図 ）などが見られる。

鉢形土器は、平坦口縁でL Rを縦位回転するもの（第 図 ）が見られる。

類（第 図5、第 図 、第 図 、第 図 ～ 、第 図 、 ）

無文を主体とする土器である。

深鉢形土器は、波状口縁をもつもの（第 図 、第 図 ）と平坦口縁のもの（第 図5、第 図 、第 図 ）とが見られ、平坦口縁のものには、口縁部に隆帯による装飾を施すもの。（第 図 ）口縁部下に沈線を施すもの。（第 図 ）などが見られる。

鉢形土器は、平坦口縁のもの（第 図 、 ）が見られる。

浅鉢形土器は、平坦口縁をもち口縁部下に沈線を施すもの（第 図 ）が見られる

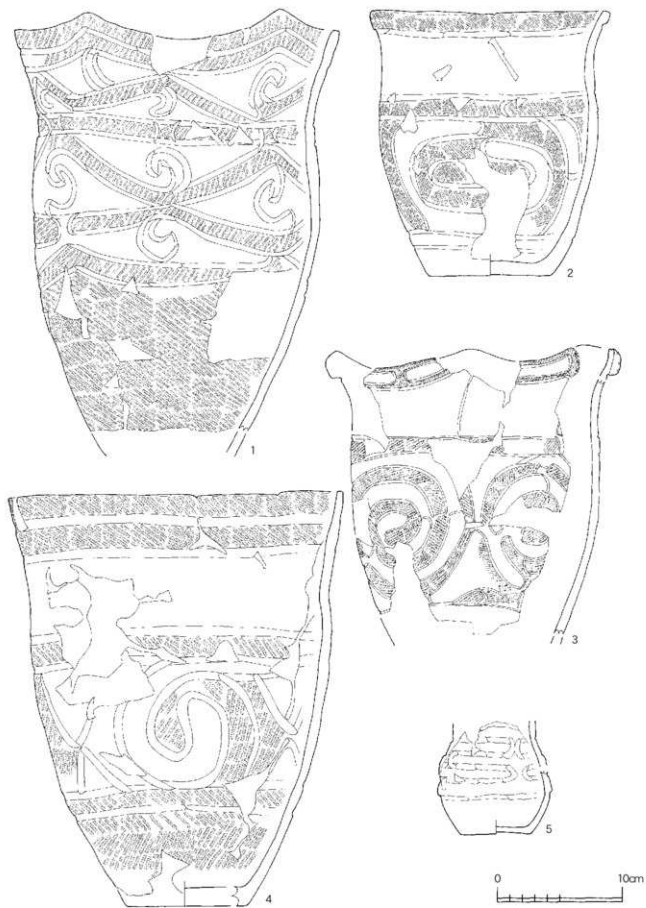
壺形土器は、平坦口縁のもの（第 図 ）のほか、胴上半部を切断したもの（第 図 ）が見られる。

その他の土器

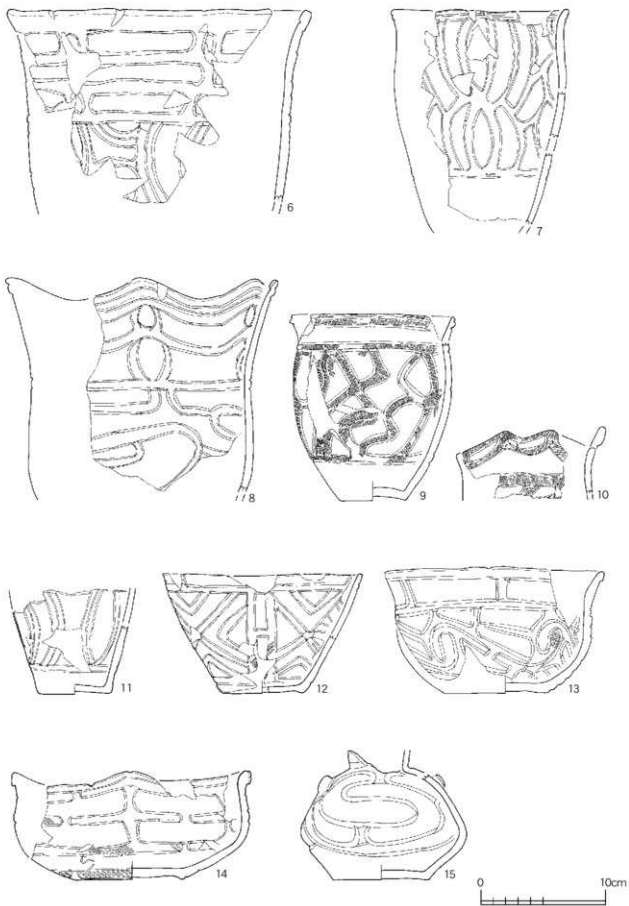
分類方法と異なる特徴的なものである。

切断土器（第 図 、第 図 ）

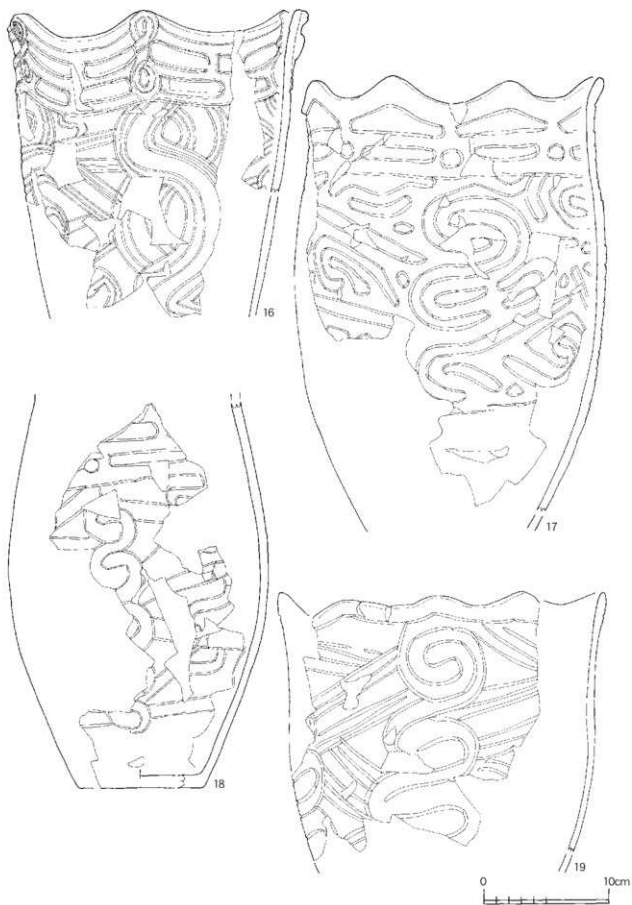
2点出土している。いずれも胴部上半が切断されている。切断面には棒状工具で刻目状に切断した痕跡が残っている。



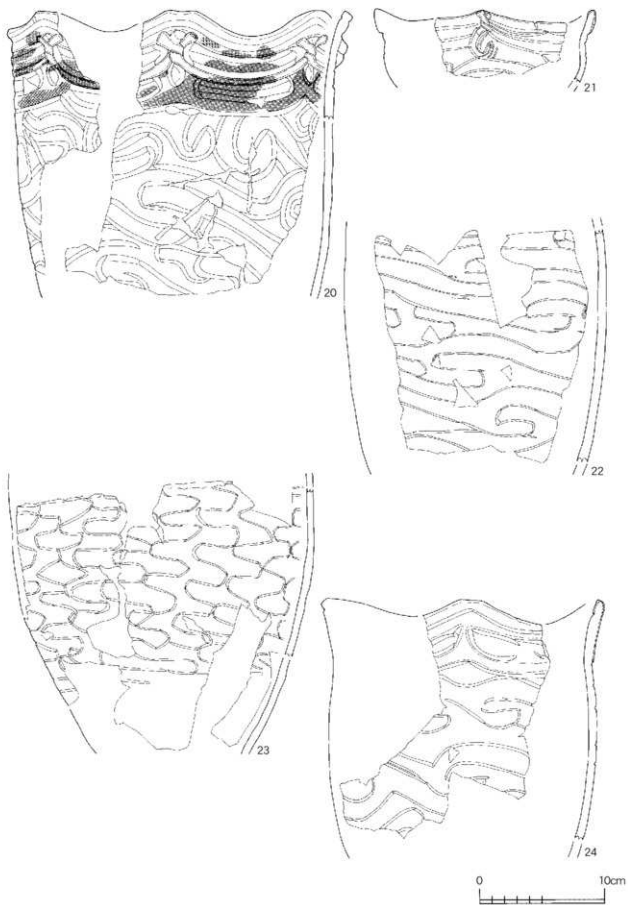
第106図 遺構外出土第Ⅳ群土器 (1)



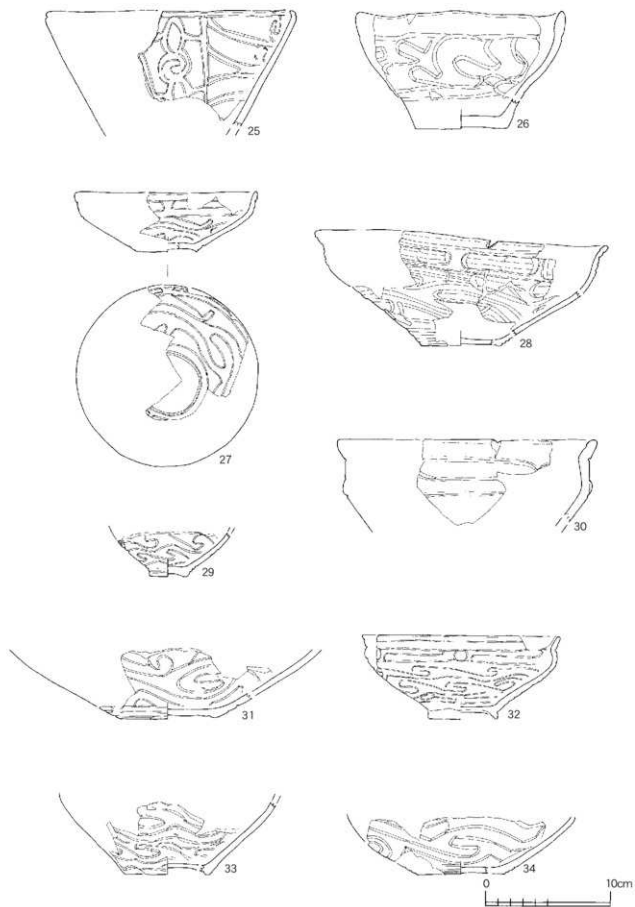
第107図 遺構外出土第Ⅳ群土器 (2)



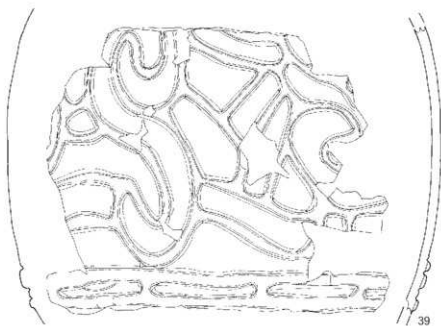
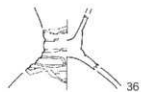
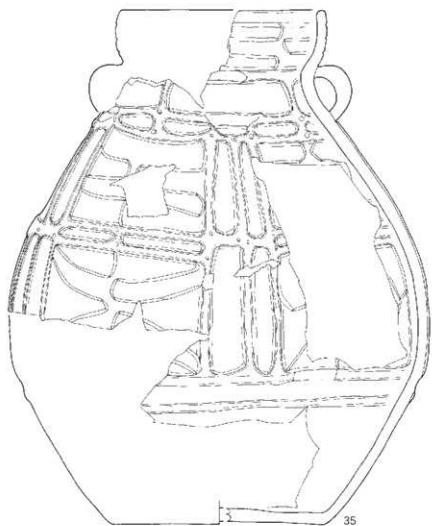
第108図 遺構外出土第Ⅳ群土器 (3)



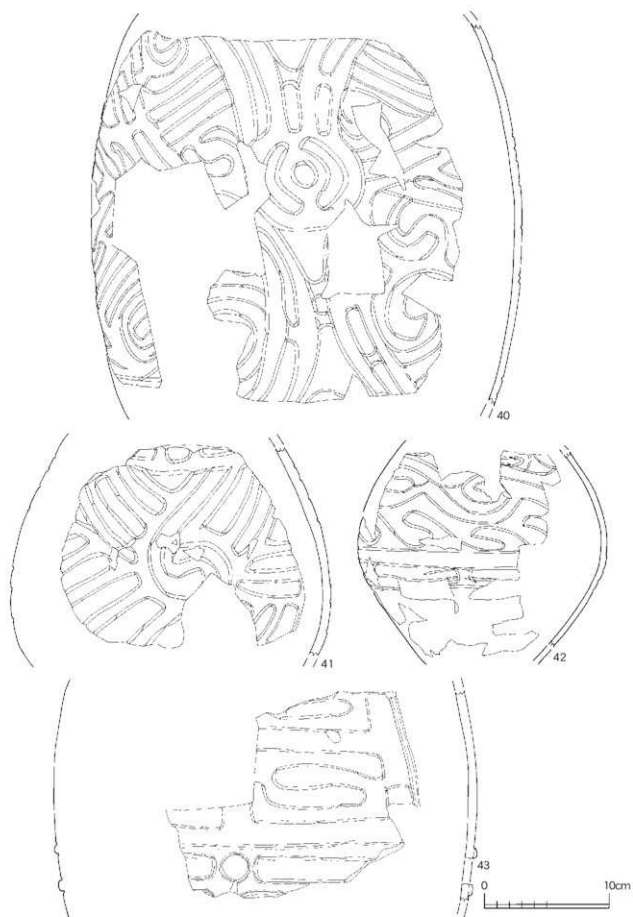
第109図 遺構外出土第Ⅳ群土器 (4)



第110図 遺構外出土第Ⅳ群土器 (5)



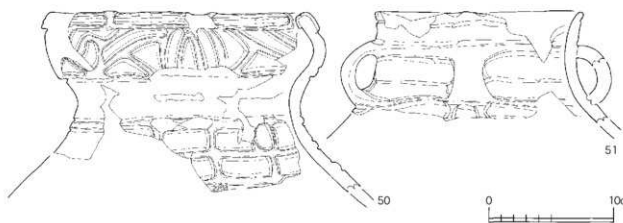
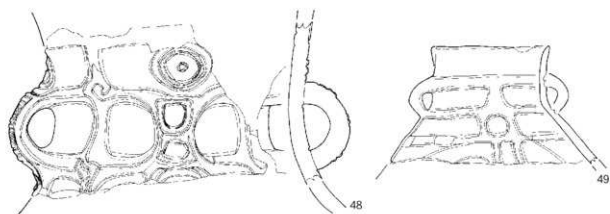
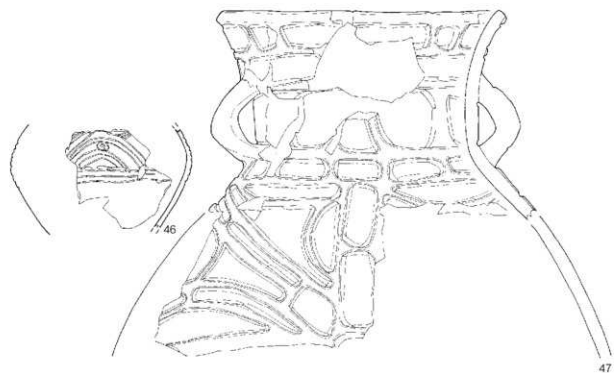
第111圖 遺構外出土第Ⅳ群土器 (6)



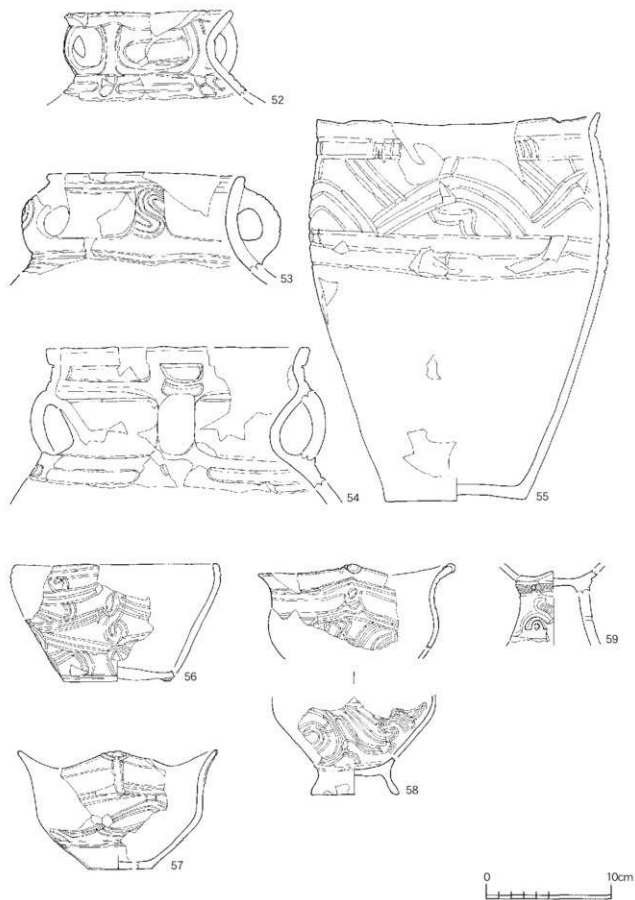
第112図 遺構外出土第Ⅳ群土器 (7)



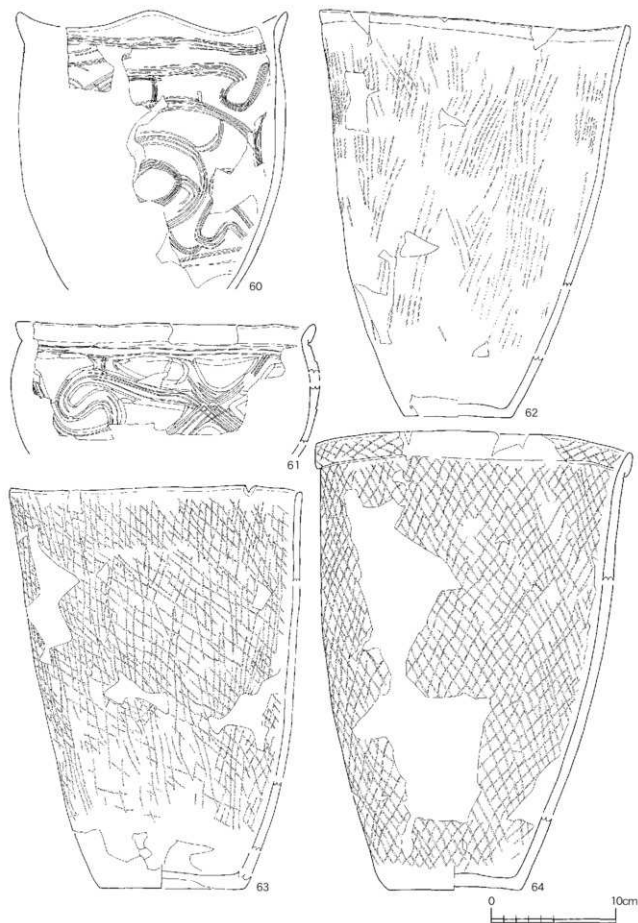
第113図 遺構外出土第Ⅳ群土器 (8)



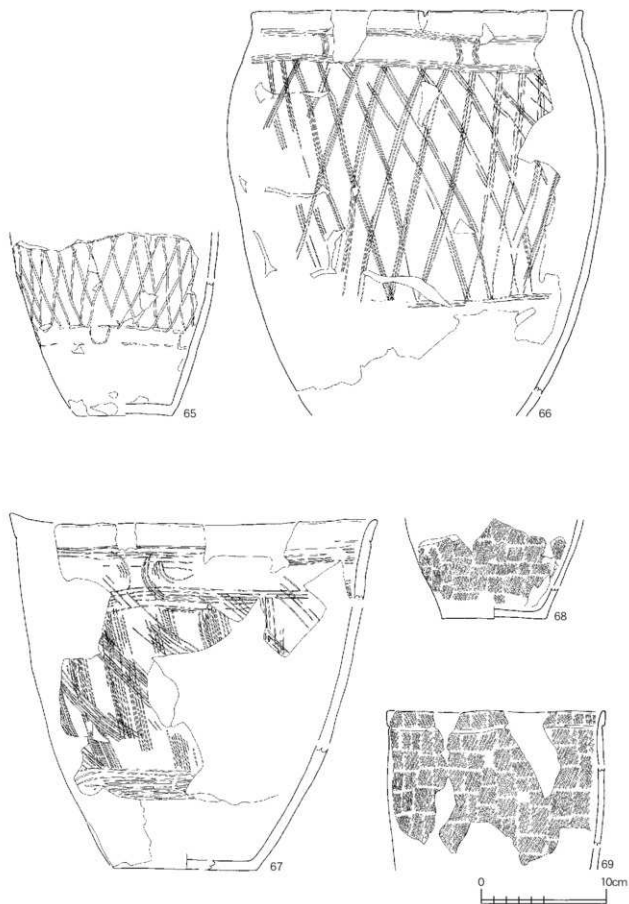
第114図 遺構外出土第Ⅳ群土器 (9)



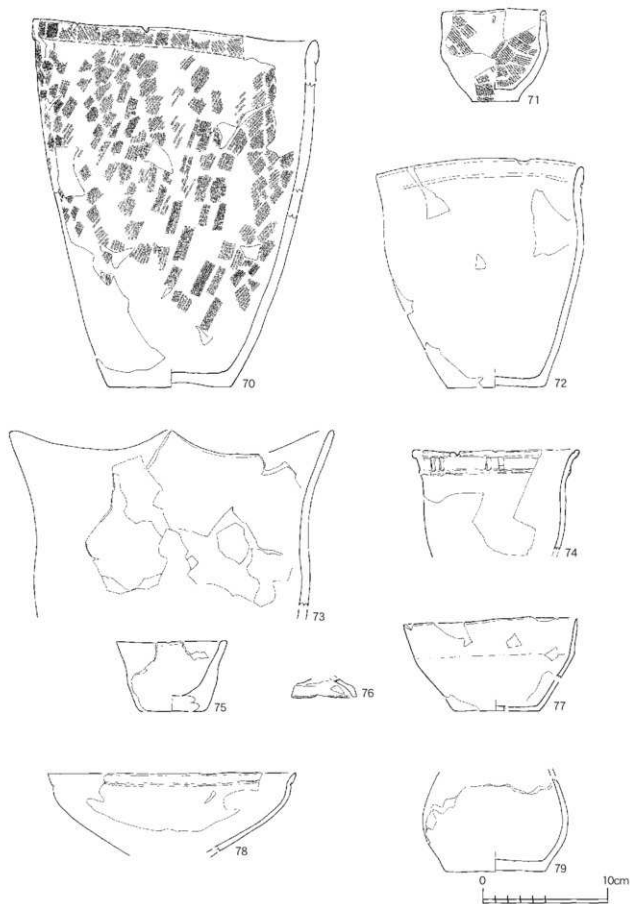
第115図 遠横外出土第Ⅳ群土器(10)



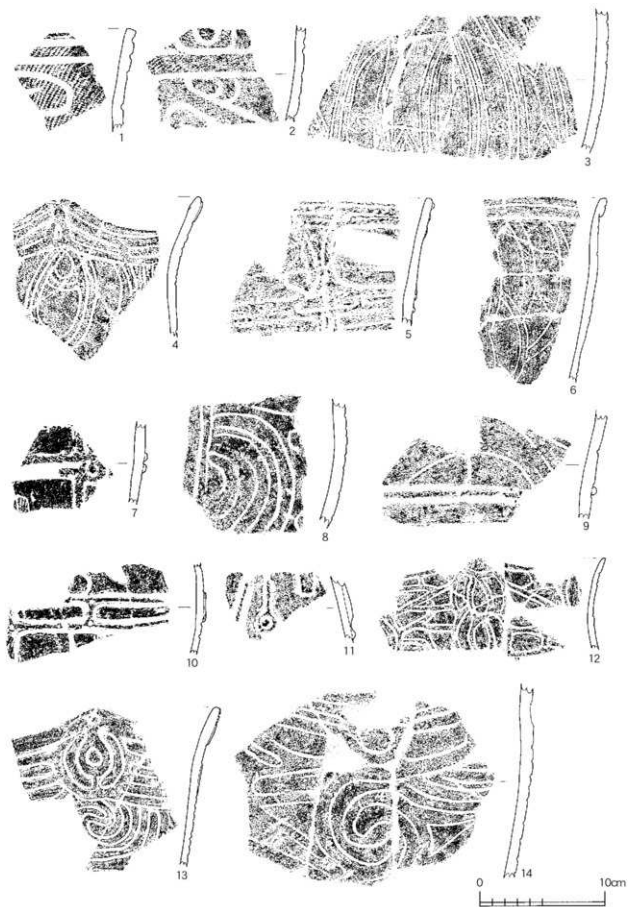
第116図 遺構外出土第IV群土器 (11)



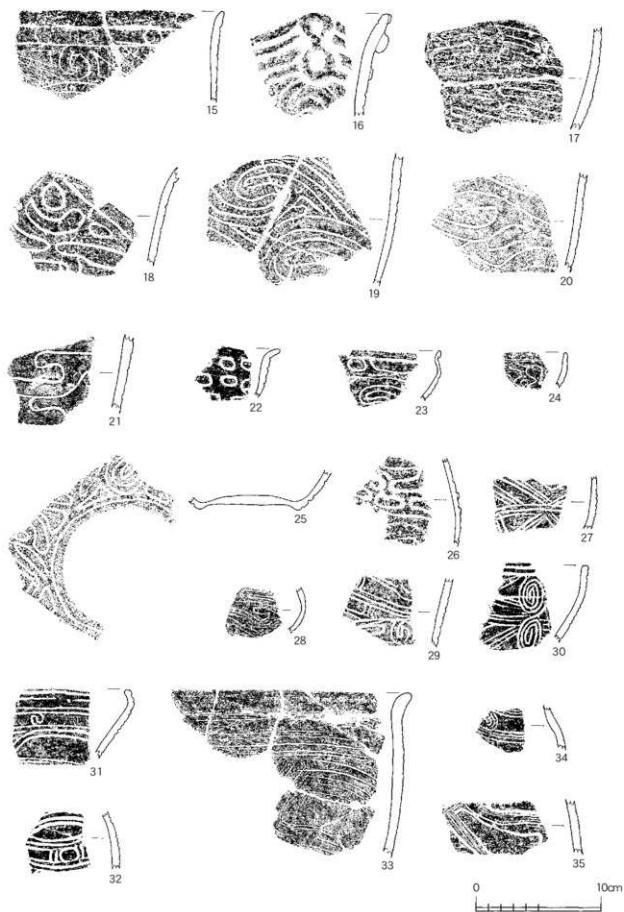
第117図 遠横外出土第Ⅳ群土器(12)



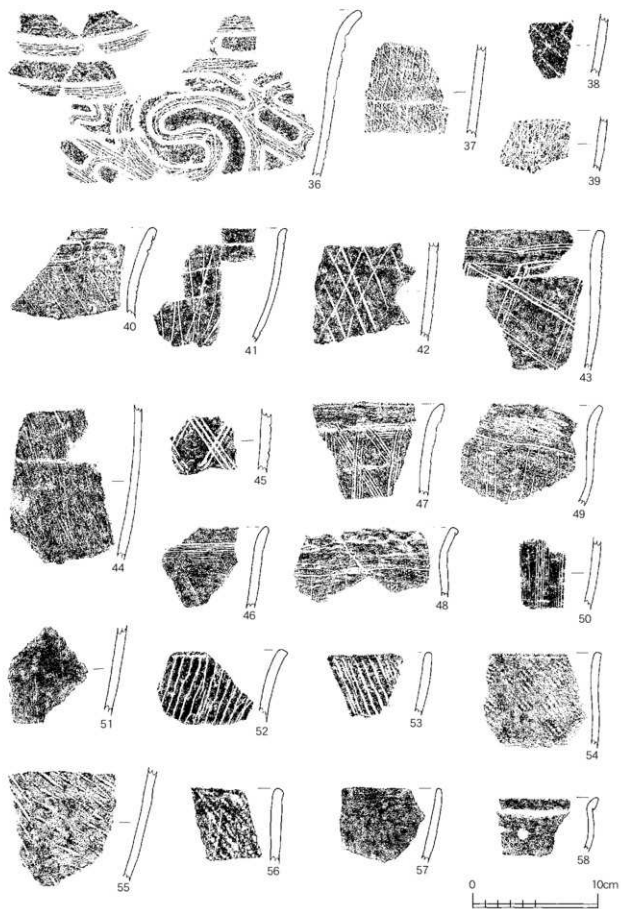
第118図 遺構外出土第IV群土器 (13)



第119図 遠横外出土第Ⅳ群土器 (14)



第120図 遺構外出土第Ⅳ群土器 (15)



第121図 遠横外出土第IV群土器 (16)

2. 石器

平成 年度並びに平成 年度の調査では、合計で剥片石器 点、石斧 点、礫石器 点、水晶 点、総数 点が出土した（剥片、石核を除く）。うち遺構内出土 点、遺構外出土 点である。石器の石質については、剥片石器は、珪質頁岩が %と大半であり、その他は玉髄が %である。石斧は、溶結凝灰岩、頁岩、珩岩、凝灰岩、粘版岩、石英安山岩、輝緑凝灰岩が見られ、溶結凝灰岩が %、頁岩が %を占める。礫石器は、安山岩、変朽安山岩、石英安山岩、凝灰岩、緑色凝灰岩、輝緑凝灰岩、溶結凝灰岩、凝灰角礫岩、珩岩、頁岩、珪質頁岩、流紋岩、石灰岩が見られ、安山岩が %、変朽安山岩が %、凝灰岩が %、石英安山岩が %を占める。

石器の出土地点については、一 ライン間で大半が出土しており、二 ライン以西においては極端に出土点数が減少する傾向が見られる。出土層位は、a層、c層、第 層より大半が出土している。

出土した石器は、下記のとおり分類している。

(1) 剥片石器

・石鏃

遺構内から 点、遺構外から 点、総数 点が出土している。石質は、珪質頁岩が %を占め、他は玉髄が %である。

莖部及び形状から以下のように細分した。

1. 無莖

(1) 凹基(第 図1)

遺構外から1点が出土している。

基部の挟りの深いもので、側縁が若干湾曲している。

(2) 平基

出土していない。

2. 円基、尖基

(1) 円基(第 図2、3)

遺構外から2点が出土している。

側縁が緩やかに湾曲し、器体中位に最大幅を有するものが見られる。

(2) 尖基(第 図1、第 図4～6)

遺構外から4点が出土している。

器体中位に最大幅を有している。側縁が丸みを帯びて湾曲するもの(第 図4、6)と器体中位で側縁が屈曲するもの(第 図5)、比較的細身のもの(第 図1)が見られる。

3. 有莖

(1) 凹基(第 図7、8)

遺構外から2点が出土している。

やや厚手で全体に調整が荒いもの(第 図7)と側縁が若干外湾するもの(第 図8)が見られる。

(2) 平基(第 図、第 図、第 図9)

遺構内から2点、遺構外から2点、総数4点が出土している。

比較的小型のものが見られる。側縁が湾曲しないもの(第 図、第 図9)と基部幅が広く側縁が若干外湾するもの(第 図)が見られる。

(3) 凸基(第 図2、第 図6、第 図～、第 図)

遺構内から6点、遺構外から2点、総数8点が出土している。

尖端から器体中位にかけて側縁が丸みを帯びるもの(第 図2、第 図6、第 図～)が多く、それらには最大幅を器体上部に有し、尖端が丸みを帯びているものが見られる。その他比較的小型で荒い調整のもの(第 図)や、比較的大型で器体中位に最大幅を有するもの(第 図)が見られる。

4. その他の石鑑

出土していない。

5. 欠損品等で基部が無く、細分できないもの。(第 図)

遺構内から1点、遺構外から1点、総数2点が出土している。

6. 石鑑未製品

遺構外から1点が出土している。

・銚先鑑 出土していない。

・石槍(第 図、第 図)

遺構内から1点、遺構外から1点、総数2点が出土している。石質は、いずれも珪質頁岩である。

1. 幅広のもの。(第 図)

遺構外から1点が出土している。器体下部には両側縁に抉りが見られる。

2. 細長のもの。(第 図)

遺構内から1点が出土している。

3. 欠損品等で細分できないもの。

出土していない。

・石錐

遺構内から1点、遺構外から7点、総数8点が出土している。石質は、珪質頁岩が %を占め、他は、玉髄が1点である。

1. 錐部のみ二次調整を行うもの。(第 図～、第 図、)

遺構外から6点が出土している。

剥片の端部に調整を施し錐部を作出するものである。

2. 全体に二次調整を行うもの。

(1) つまみ部を有するもの。

出土していない。

(2) 直線的な棒状のもの。(第 図)

遺構内から1点が出土している。

3. 錐部の欠損品等で細分できないもの。

遺構外から1点が出土している。

・石匙

遺構内から 点、遺構外から 点、総数 点が出土している。石質は、珪質頁岩が % を占め、他は玉髄が2点である。

1. 縦形(第 図3～8、第 図、第 図1、2、5、7、第 図、第 図～、～、第 図、第 図～、第 図～、第 図～、第 図～、第 図、第 図)

遺構内から 点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

細身で両側縁が平行なもの(第 図、第 図、第 図、第 図～、第 図) 細身で下端が鋭く尖る形状のもの(第 図4) 細身で両側縁が湾曲する形状のもの(第 図3、第 図7、第 図、第 図、第 図) やや幅広で両側縁が平行なもの(第 図1、第 図、第 図、第 図) やや幅広で三角形のもの(第 図、第 図、第 図、第 図) 幅広で一側縁が直線的、他側縁が弧状で半月状のもの(第 図、第 図、第 図、第 図、第 図、第 図～、第 図、第 図) などが見られる。また、幅広いつまみ部を有するもの(第 図) つまみ部の調整のほか一側縁にのみ調整の認められるもの(第 図5、第 図、第 図、第 図、第 図) などが見られる。

2. 横型(第 図9～、第 図8、第 図、第 図、第 図～、第 図～)

遺構内から6点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

つまみ部が短軸の軸線上にあるもの(第 図9～、第 図、第 図) とつまみ部が短軸の軸線上と斜交するもの(第 図8、第 図、第 図、第 図～、第 図～) とがある。また、幅広のつまみ部を有するもの(第 図、第 図～) も見られる。

3. 欠損品等で細分できないもの。(第 図)

遺構内から1点、遺構外から9点、総数 点が出土している。

・大石平型石筥(第 図～)

遺構外から5点が出土している。石質は、全て珪質頁岩である。

つまみ状の頭部を有するもの(第 図、第 図) と、細長い柄状のもの(第 図、第 図) とがある。全体として背面を主体とする調整が見られる。

・石筥

遺構内から3点、遺構外から 点、総数 点が出土している。石質は、全て珪質頁岩である。

1. 楕形を呈するもの(第 図、第 図、第 図～、第 図)

遺構内から3点、遺構外から6点、総数9点が出土している。

おおむね両面からの調整が認められるが、腹面の調整が比較的少ないもの(第 図) も見られる。また、荒めの調整でやや大型のもの(第 図) が見られる。

2. 側縁が弧状のもの(第 図 ~)

遺構外から6点が出土している。
比較的大型で荒めの調整のものが見られる。

3. 側縁が直線的なもの(第 図、第 図 ~)

遺構外から 点が出土している。
比較的大型で荒めの調整のもの(第 図 ~)と細身で小型のもの(第 図、第 図 ~)
とが見られる。

4. 欠損品等で細分できないもの。

遺構外から1点が出土している。

・異形石器(第 図)

遺構外から1点が出土している。石質は、珪質頁岩である。
器体上部や器体中位など数個所に挟りが見られる。

・不定形石器

遺構内から 点、遺構外から 点、総数 点が出土している。石質は珪質頁岩が %を占め、他
は玉髄 %である。

1. 刃部の調整が側縁の / 以上にわたるもの。A~Hに細分した。

A 側縁部だけに調整が施されるもの(第 図、 、第 図、第 図、 、第 図 ~
、第 図 ~、第 図 ~、第 図 ~)

遺構内から 点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

B 端部だけに調整が施されるもの(第 図9、第 図、 、第 図 ~)

遺構内から3点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

C 側縁部及び端部に調整が施されるもの(第 図、 、第 図、第 図、第 図 ~、
第 図 ~、第 図 ~、第 図、)

遺構内から9点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

D 尖頭状の刃部を有するもの(第 図、第 図、第 図 ~、第 図 ~)

遺構内から3点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

E 円形、楕円形の器体周囲に調整が施されるもの。(第 図、第 図、 、第 図、)

遺構内から1点、遺構外から8点、総数9点が出土している。

F 定形石器の欠損品と思われるもの(第 図3、第 図)

遺構内から3点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

G 挟入部をもつもの(第 図4、第 図 ~)

遺構内から2点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

H 側縁が鋸歯状のもの。

出土していない。

2. 刃部の調整が側縁の / 未満のもの。

遺構内から9点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

3. 刃部は作出されていないが、微細剥離が認められるもの。(第 図)

遺構内から 点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

4. 欠損品等で細分できないもの。

遺構内から7点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

・その他の剥片石器(第 図)

遺構内から4点、遺構外から 点、総数 点が出土している。器体全体に荒い調整が見られる。

石質は、珩質頁岩が %を占め、他は、玉髓 %である。

(2) 石斧

遺構内から2点、遺構外から 点、総数 点が出土している。石質は、溶結凝灰岩が %、頁岩が %、玢岩が %を占め、その他凝灰岩、粘板岩が2点、石英安山岩、輝緑凝灰岩が1点である。

1. 磨製石斧

A 小型磨製石斧(第 図)

遺構外から1点が出土している。

おむね器体が5cm未満のものである。

B 擦切磨製石斧(第 図 、 、第 図)

器体が5cm以上で擦切痕が認められるものを本類とした。

遺構外から3点が出土している。

C A、B以外のもの(第 図 、第 図 、第 図 、 、 、 、 、 、第 図 ~ 、)

遺構内から2点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

2. 打製石斧 出土していない。

(3) 礫石器

・礫石錘

遺構内から3点、遺構外から6点、総数9点が出土している。石質は、凝灰岩が %、頁岩が %、安山岩が %、石英安山岩 %である。

1. 器体の長軸に平行な側縁に抉りを作成するもの。(第 図 、第 図 、 、第 図 ~)

遺構内から3点、遺構外から4点、総数7点が出土している。

丸みを帯びた礫の両側縁に抉りを作成するもの(第 図 ~1)、抉りが1箇所では素材の形状を利用したと思われるもの(第 図)、角ばった珩質頁岩の塊に抉りを作成したと思われるもの(第 図 、)などが見られる。

2. 器体の短軸に平行な側縁に抉りを作成するもの。

出土していない。

3. 器体の長軸及び短軸に平行な側縁に抉りを作成するもの(第 図)

遺構外から1点が出土している。

器体側縁に3箇所の抉りを作成している。

4. 欠損品等で細分できないもの。
遺構外から1点が出土している。

・有溝石錘
出土していない。

・敲磨器類
遺構内から 点、遺構外から 点、総数 点が出土している。石質は、安山岩が %、変朽安山岩が %、凝灰岩が %、石英安山岩が %、頁岩が %、緑色凝灰岩が %、珪質頁岩が1%、溶結凝灰岩が1%、凝灰角礫岩が1%を占め、他は輝緑凝灰岩2点、玢岩2点、流紋岩1点、石灰岩1点である。

1. 磨痕のみを有するもの。

遺構内から5点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

A 円形、楕円形を呈する礫の側縁に磨痕を有するもの(第 図、第 図 ~)

遺構内から1点、遺構外から 点、総数 点が出土している。おおむね、器体長軸に平行な側縁に磨痕が認められる。

B 断面が三角形を呈する礫の側縁に磨痕を有するもの。(第 図、第 図 ~)

遺構内から1点、遺構外から8点、総数9点が出土している。

C 円形、楕円形を呈する礫の全面に磨痕を有するもの。(第 図)

遺構外から1点が出土している。

D 円形、楕円形を呈する礫の平坦面中央に磨痕を有するもの(第 図、第 図、)

遺構内から1点、遺構外から3点、総数4点が出土している。

礫側面の中央部を含む広範囲に磨痕の認められるものと、中央部を中心に数箇所に分散する磨痕の認められるものがある。

E 磨痕の部位が複合するもの。(第 図 ~)

遺構外から8点が出土している。

側縁及び側面に磨痕が認められる。

F 上記以外の形態の自然礫を用いているもの。(第 図、第 図、第 図 ~)

遺構内から2点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

G 他の石器を転用しているもの。

出土していない。

2. 敲打痕のみを有するもの。

遺構内から 点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

A 円形、楕円形を呈する扁平な礫の平坦面に敲打痕を有するもの。(第 図、 、第 図、第 図 ~、第 図 ~、)

遺構内から4点、遺構外から 点、総数 点が出土している。面中央部に敲打痕の認められるものと、中央部からややはずれた位置に敲打痕の認められるものがある。

B 円形、楕円形を呈する扁平な礫の端部に敲打痕を有するもの。(第 図、 、第 図、第 図、第 図、)

遺構内から4点、遺構外から5点、総数9点が出土している。

C 球状を呈する礫の広範囲に敲打痕を有するもの。(第 図)
遺構外から1点が出土している。

D 断面が三角形を呈する礫の側縁に敲打痕を有するもの。(第 図)
遺構外から3点が出土している。

E 敲打痕の部位が複合するもの(第 図、 、第 図 ~、第 図、第 図、第 図、第 図、第 図、第 図、第 図、第 図 ~、第 図 ~、第 図、)

遺構内から 点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

側縁と側面、側面と端部、側縁と端部への敲打痕が認められる。

F 上記以外の形態の自然礫を用いているもの(第 図、)
遺構外から9点が出土している。

不整形な形状の礫に敲打痕が認められるものである。

G 他の石器を転用しているもの。
出土していない。

3. 凹痕のみを有するもの(第 図、第 図 ~)

遺構内から1点、遺構外から6点、総数7点が出土している。

側面に1箇所のみ凹痕の認められるものが見られる。

4. 磨痕、敲打痕、凹痕を複合し有するもの。

遺構内から 点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

器体に認められる使用痕は、おのおのが単独で認められるものと同様の部位に認められる。

A 磨痕と敲打痕の見られるもの。(第 図、第 図、第 図、第 図、第 図、第 図6、第 図、第 図～、第 図～、第 図～、第 図～、第 図～、第 図～)

遺構内から9点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

B 敲打痕と凹痕の見られるもの。(第 図、第 図、第 図、第 図、第 図～、第 図～、第 図、)

遺構内から3点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

C 磨痕と凹痕の見られるもの。(第 図、)

遺構外から2点が出土している。

D 磨痕、敲打痕、凹痕がそれぞれ見られるもの。(第 図、第 図、第 図～、第 図～、)

遺構内から2点、遺構外から 点、総数 点が出土している。

5. 1～4に含まれないもの。(第 図、第 図)

遺構内から1点、遺構外から1点、総数2点が出土している。

搬入されたと思われる柱状を呈する石英安山岩に磨痕(第 図)や敲打痕(第 図)の見られるものを一括した。

・半円状扁平打製石器及び類似する石器(第 図、第 図、第 図、第 図、第 図、第 図～、第 図～、第 図～、第 図～、第 図～、第 図～)

遺構内から7点、遺構外から 点、総数 点が出土している。石質は、安山岩が %、変朽安山岩が %、玢岩が %、石英安山岩が %を占める。

弧状の縁辺部を剥離により作出し、対辺に磨痕を有するものが大半であるが、弧状の縁辺部にも磨痕の認められるもの(第 図、第 図)、弧状の縁辺部に一部に留まらない敲打痕が見られるもの(第 図、第 図、第 図～、第 図、第 図、)素材の形態が弧状を呈しており、弧状の縁辺部は部分的な調整ないし調整が認められないもの(第 図、第 図、第 図)なども見られる。また、欠損面に磨痕や敲打痕の認められるもの(第 図)も見られる。

・挟入扁平磨製石器及び類似する石器(第 図、第 図～、第 図、)

遺構内から1点、遺構外から5点、総数6点が出土している。石質は、安山岩が %を占め、他は石英安山岩1点である。

長軸辺に使用痕と思われる磨痕が見られる。長軸辺の一方に磨痕の認められるもの(第 図、第

図 〇、一）と両方の長軸辺に磨痕の認められるもの（第 図 一）とが見られる。

・剥離のある礫（第 図 〇、第 図 一、第 図 一）

遺構内から1点、遺構外から 〇点、総数 〇点が出土している。石質は、安山岩が 〇%、変朽安山岩が 〇%、凝灰岩が 〇%を占め、他は凝灰角礫岩1点、頁岩1点、玢岩1点である。

扁平な自然礫の側縁などに剥離の痕跡が認められるものである。側縁の一部を挟んでいると思われるもの（第 図 〇、一、二、三）側縁に数箇所の剥離が認められるもの（第 図 〇、一、二、三、四）側縁全体に剥離が認められるもの（第 図 〇）などが見られる。

・擦切具

出土していない。

・砥石（第 図 一、二）

遺構外から9点が出土している。石質は凝灰岩が 〇%を占め、他は溶結凝灰岩1点、頁岩1点、石灰岩1点である。

おおむね扁平な礫の表裏面に研磨痕が見られ使用面は緩やかに湾曲している。また、側面にも研磨痕が認められるもの（第 図 〇、一）も見られる。

・石皿・台石

遺構内から2点、遺構外から 〇点、総数 〇点が出土している。石質は、安山岩が 〇%、凝灰岩が 〇%を占め、他は玢岩1点である。

1. 石皿（第 図 〇、一、二、三、四、五、六）

遺構内から2点、遺構外から 〇点、総数 〇点が出土している。

縁が形作られ、使用面が平坦なもの（第 図 〇）縁がなく使用面が窪んでいるもの（第 図 一、二、三、四、五）縁がなく使用面が平坦なもの（第 図 〇、一、二、三、四、五、六）が見られる。表裏面が使用されているもの（第 図 〇）も見られる。

2. 台石

出土していない。

（4）水晶

遺構内から3点、遺構外から 〇点、総数 〇点が出土している。なお、群晶としたものについては、石英脈中に一部微細な水晶を確認したのもも多数含まれる。

1. 加工しているもの

出土していない。

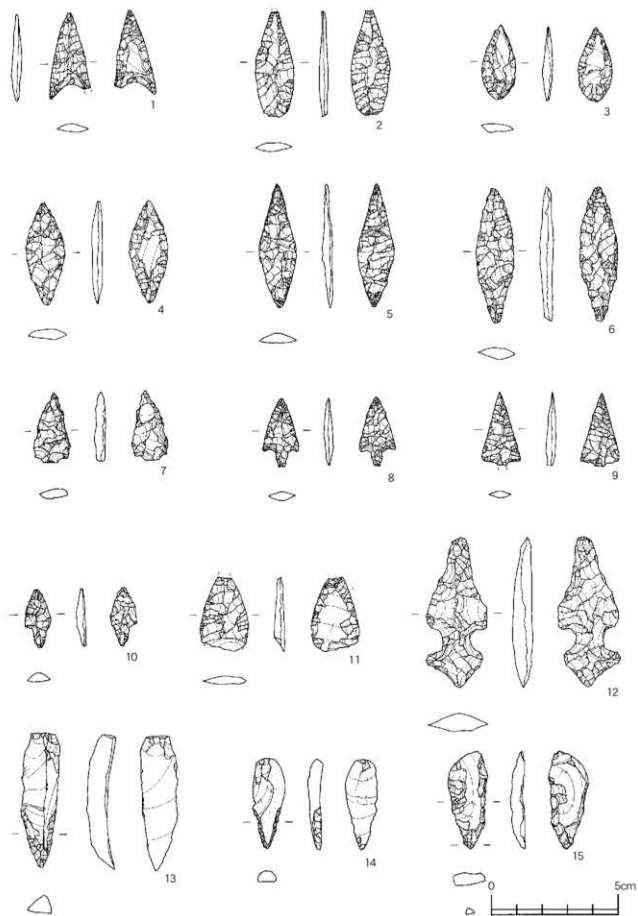
2. 加工していないもの。

A 群晶（第 図 〇、一）

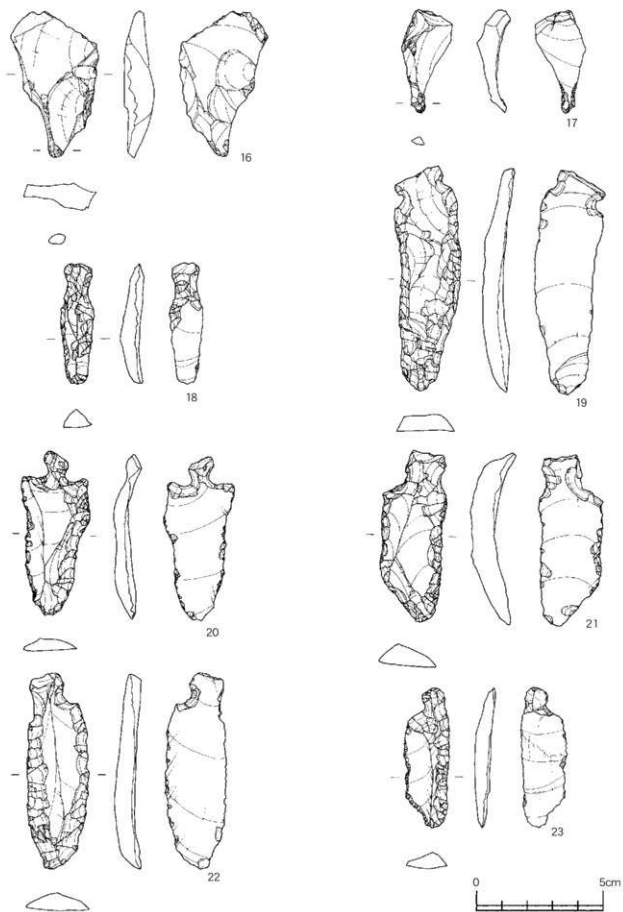
遺構内から1点、遺構外から 〇点、総数 〇点が出土している。

B 単体(第 図、)

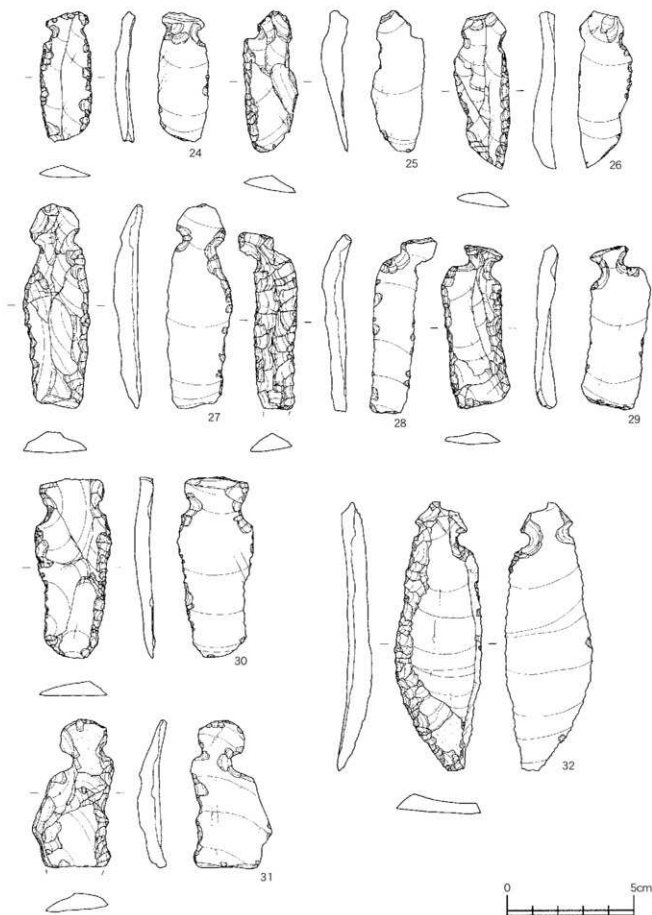
遺構内から2点、遺構外から3点、総数5点が出土している。



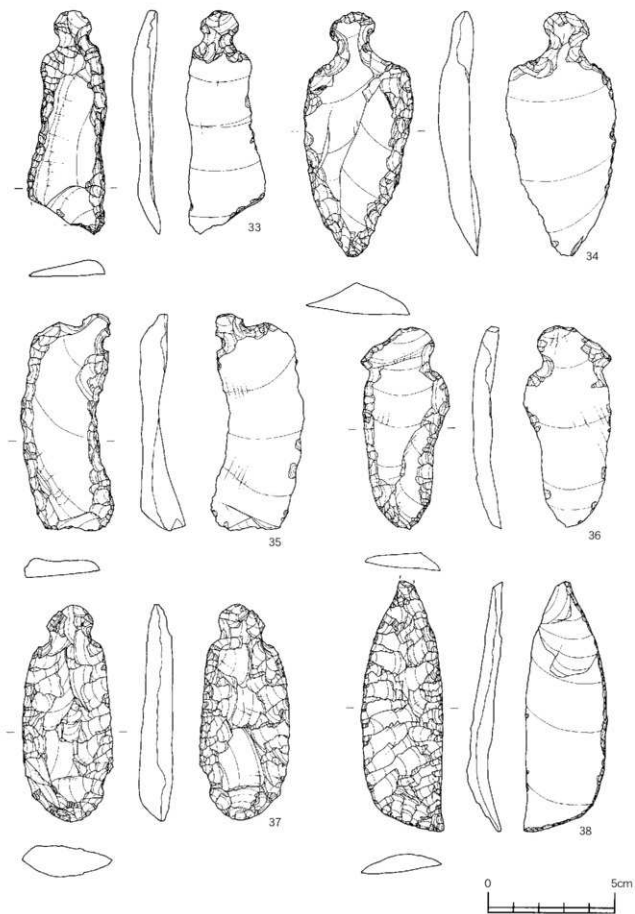
第122図 遺構外出土石器 (1)



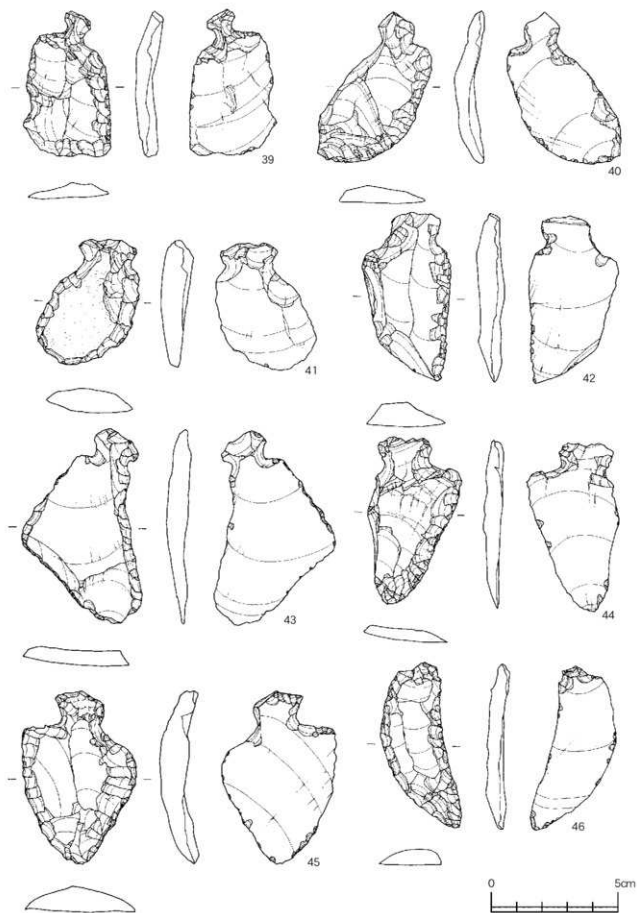
第123図 遺構外出土石器(2)



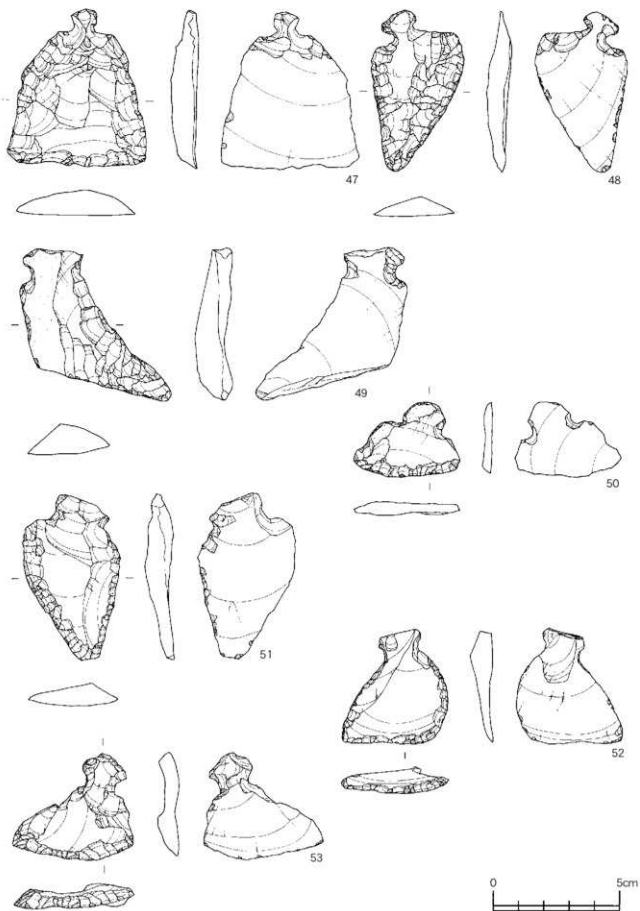
第124図 遺構外出土石器 (3)



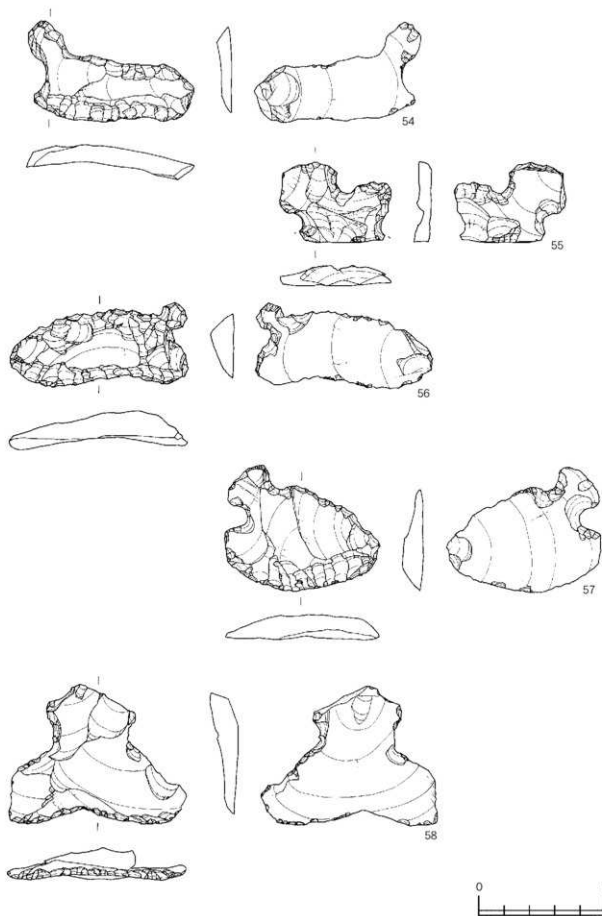
第125図 遺構外出土石器(4)



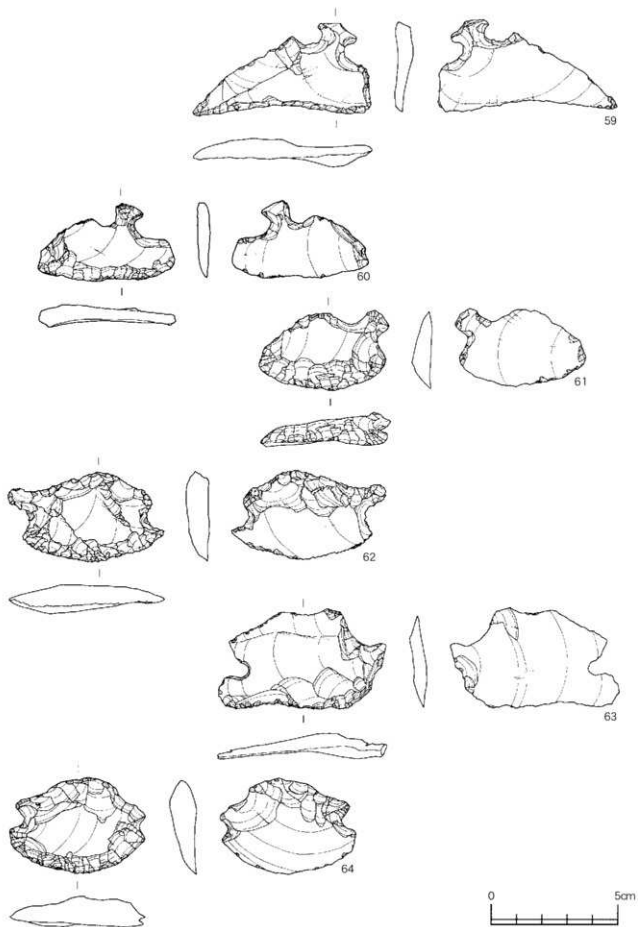
第126図 遺構外出土石器 (5)



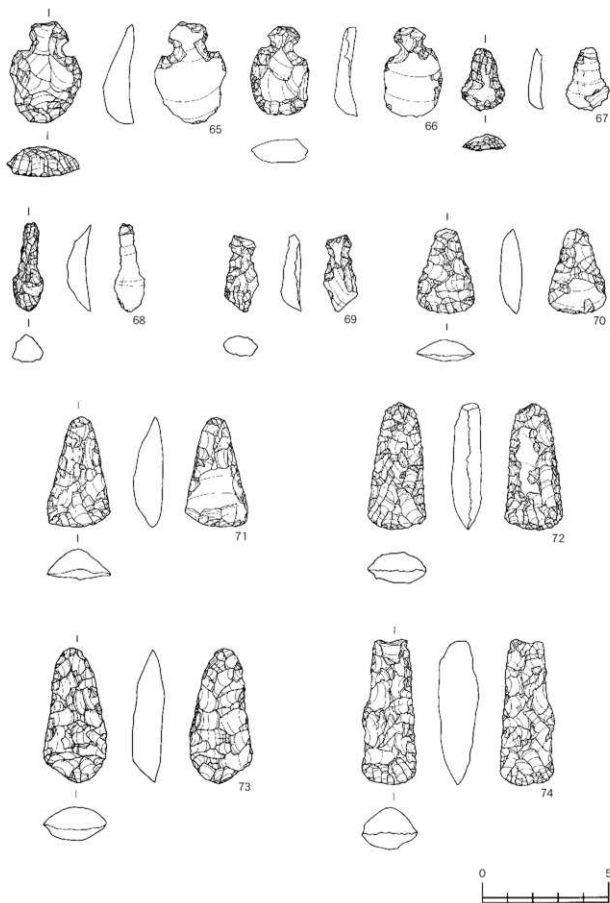
第127図 遺構外出土石器 (6)



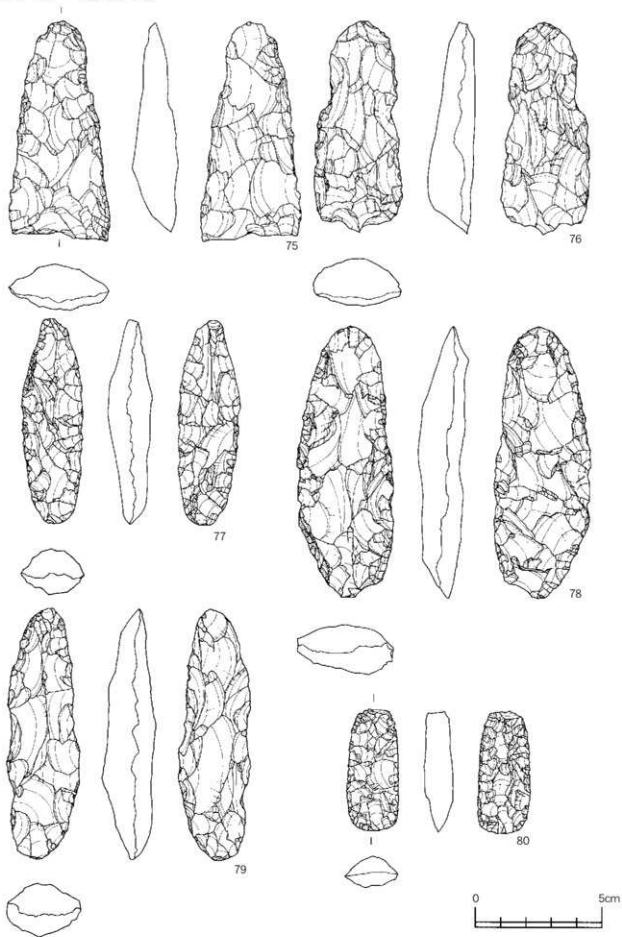
第128図 遺構外出土石器 (7)



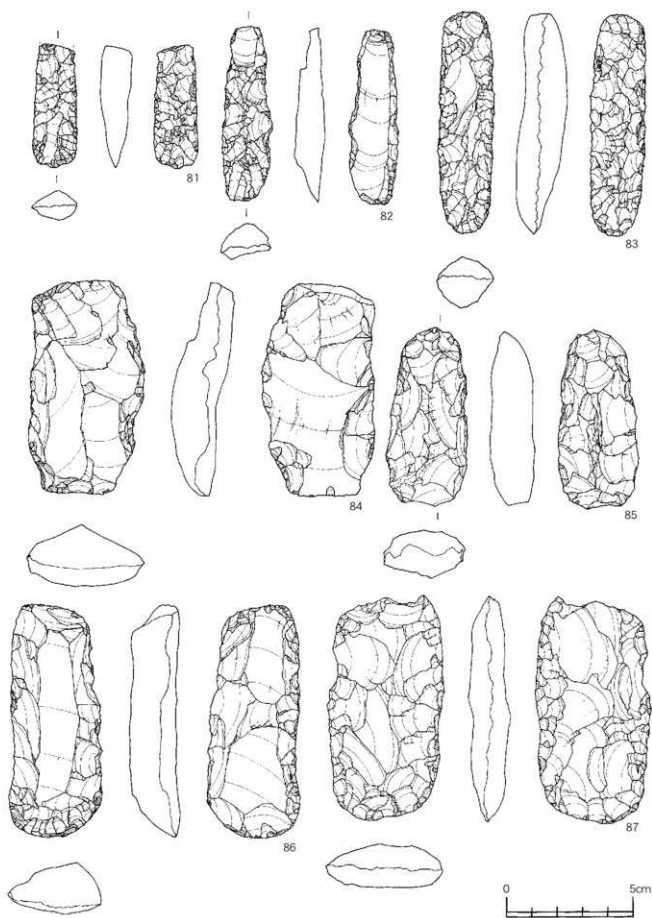
第129図 遺構外出土石器 (8)



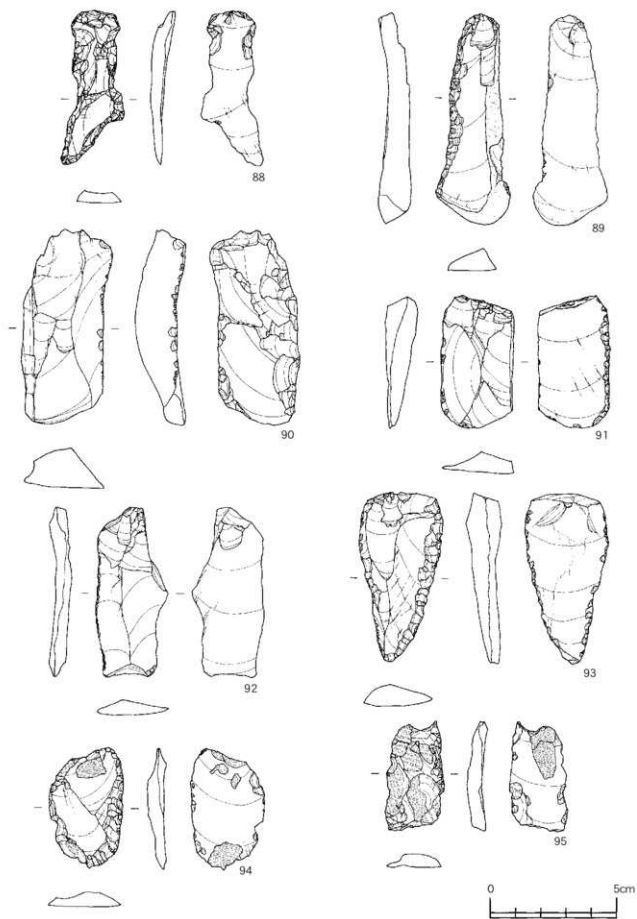
第130図 遺構外出土石器 (9)



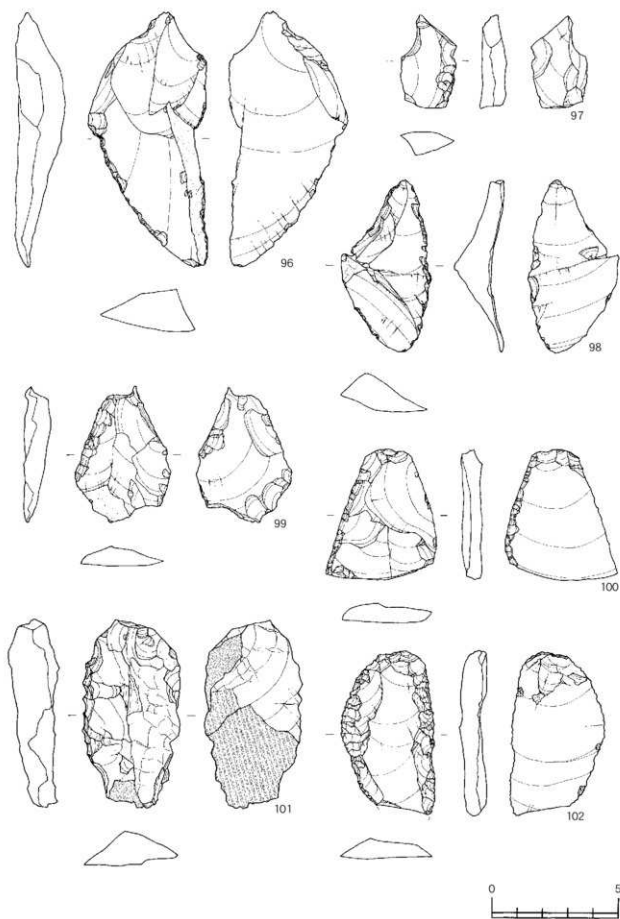
第131圖 遺構外出土石器 (10)



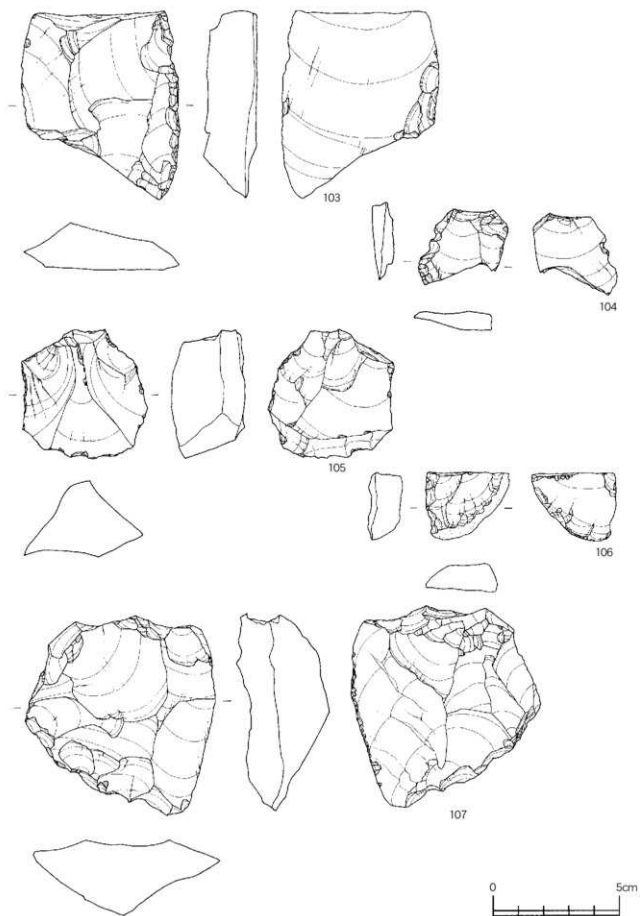
第132図 遺構外出土石器 (11)



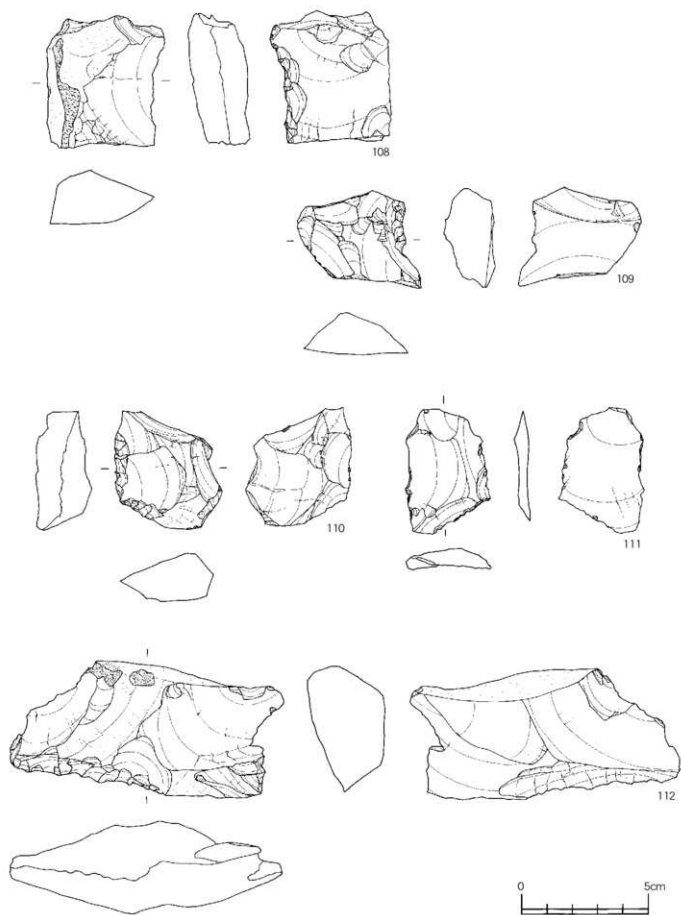
第133図 遺構外出土石器 (12)



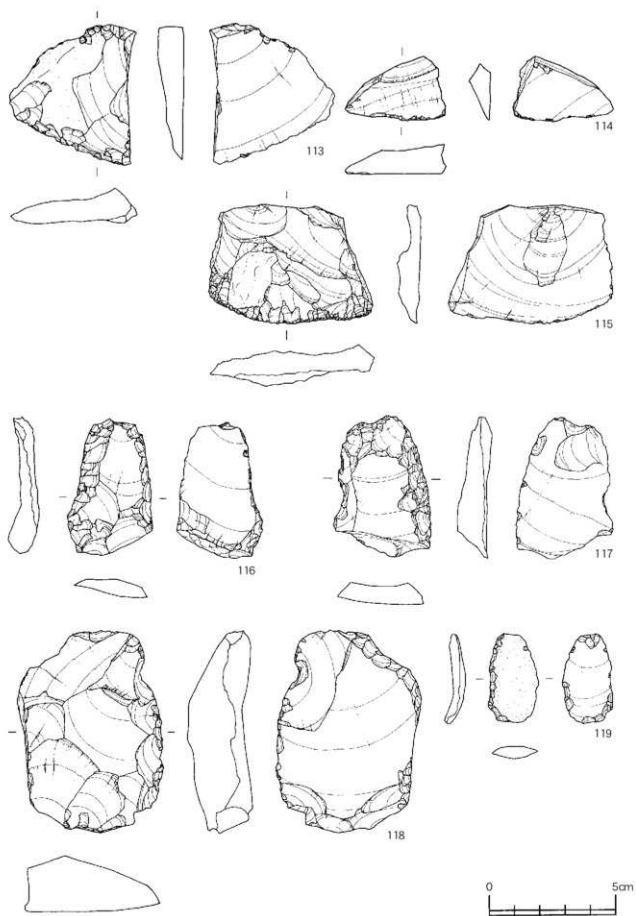
第134図 遺構外出土石器 (13)



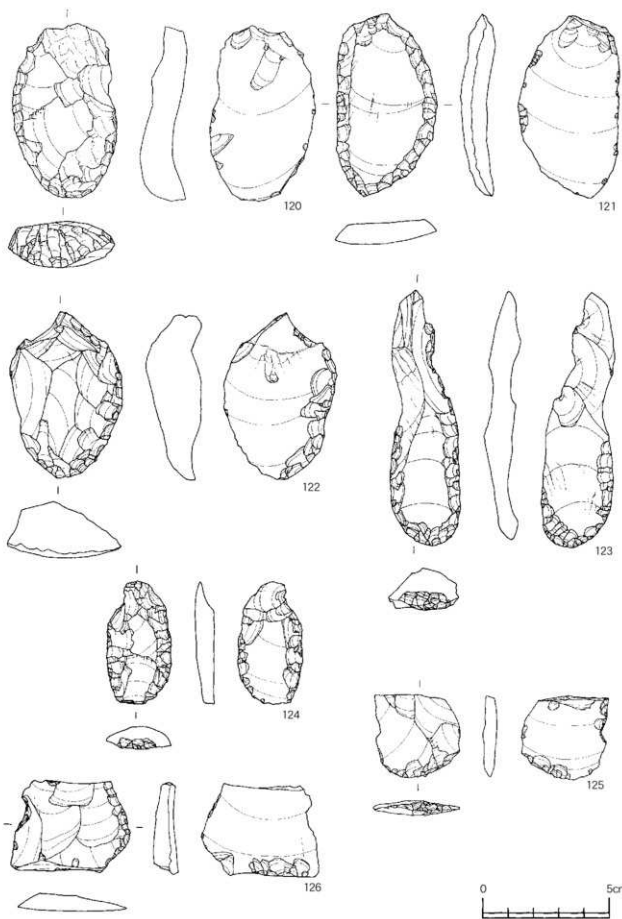
第135図 遺構外出土石器 (14)



第136図 遺構外出土石器 (15)



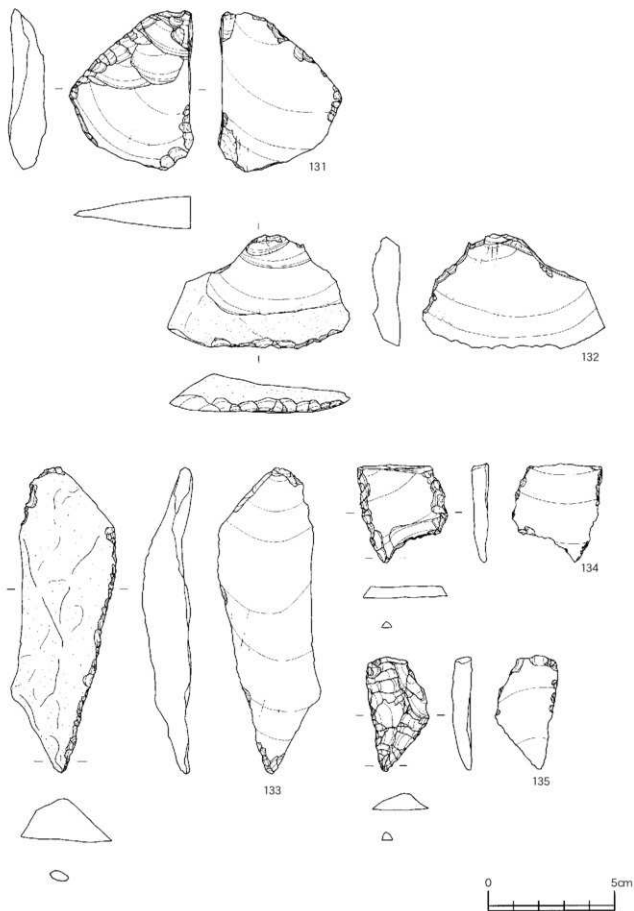
第137図 遺構外出土石器 (16)



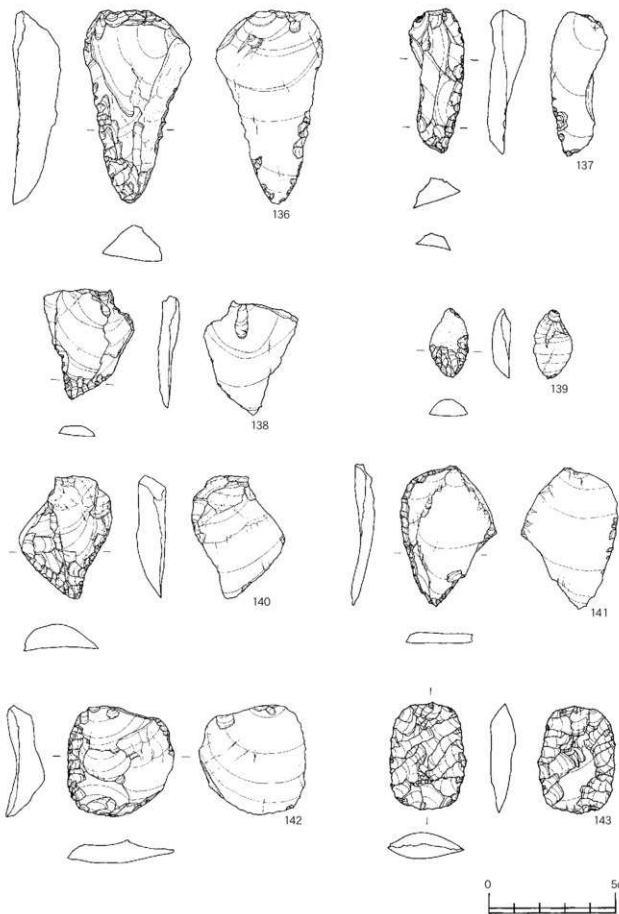
第138図 遺構外出土石器 (17)



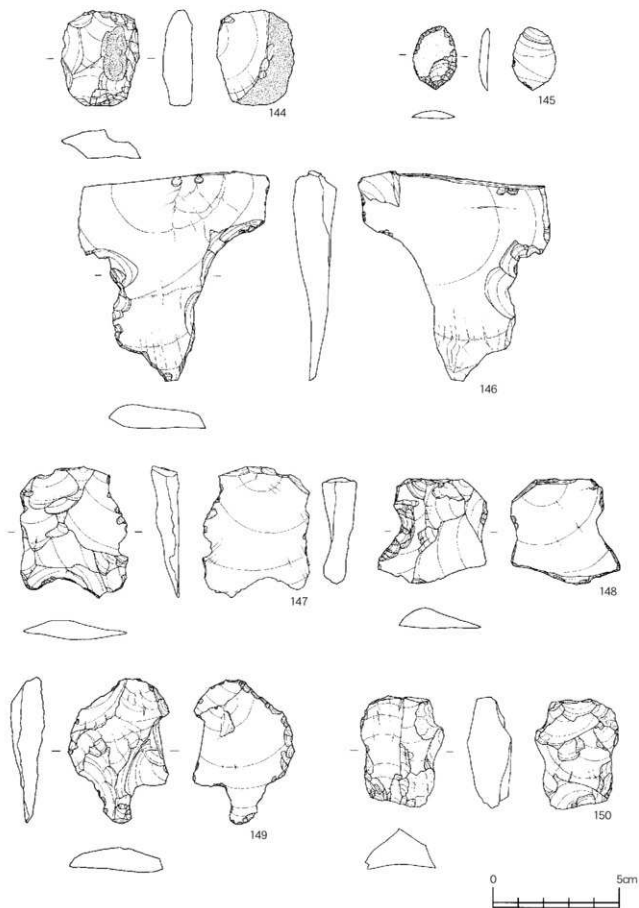
第139図 遺構外出土石器 (18)



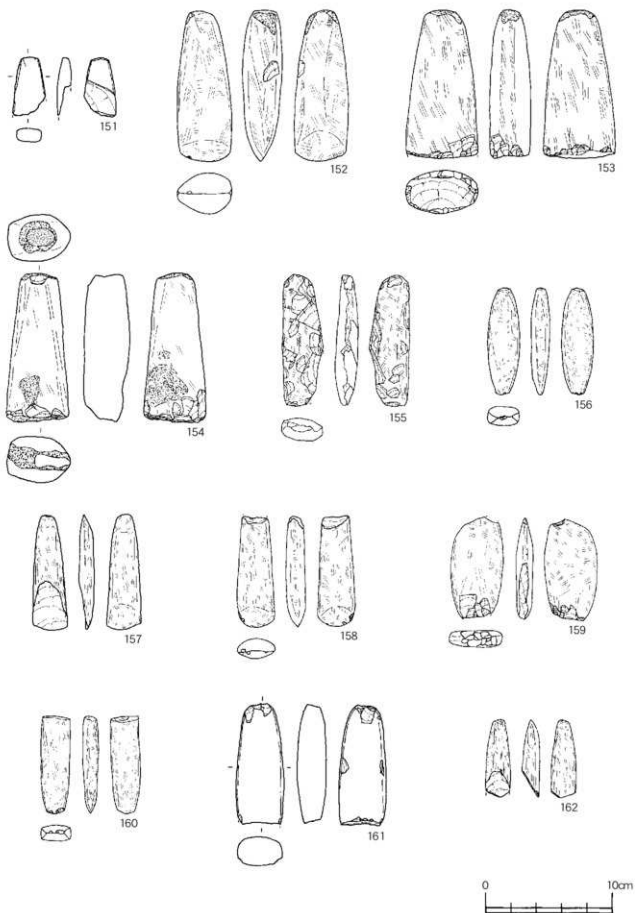
第140図 遺構外出土石器 (19)



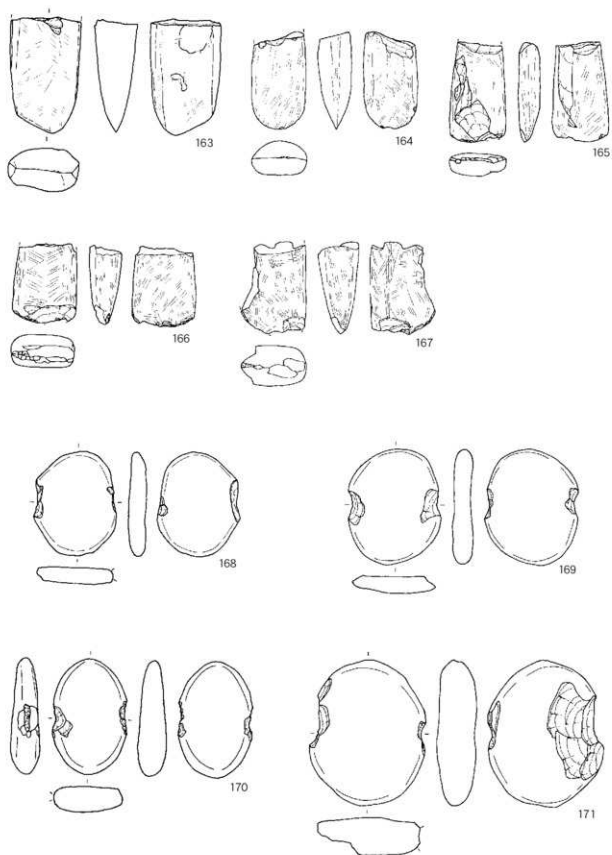
第141圖 遺構外出土石器 (20)



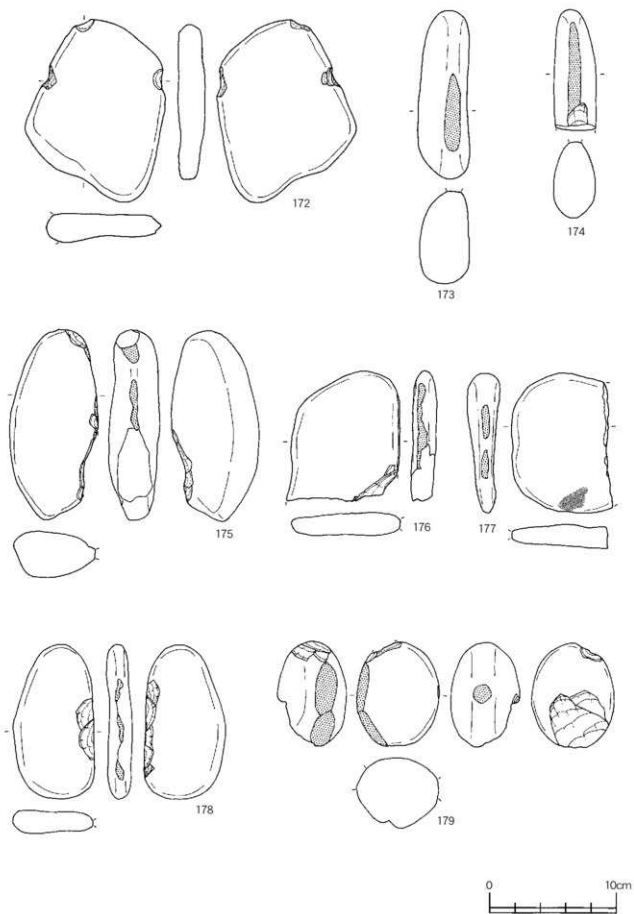
第142図 遺構外出土石器 (21)



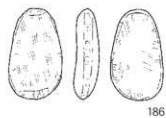
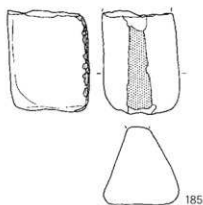
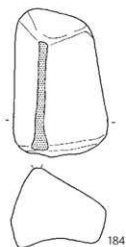
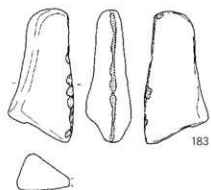
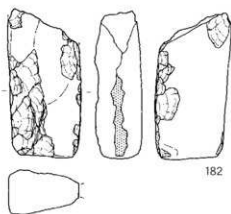
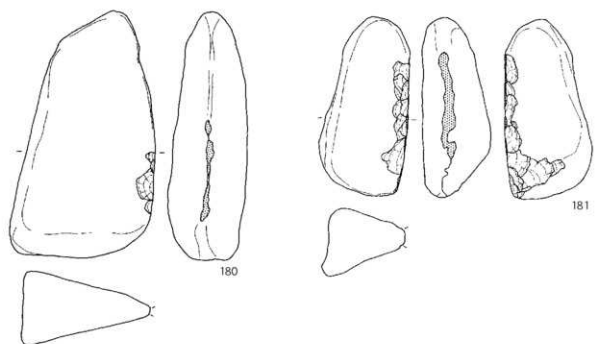
第143図 遺構外出土石器 (22)



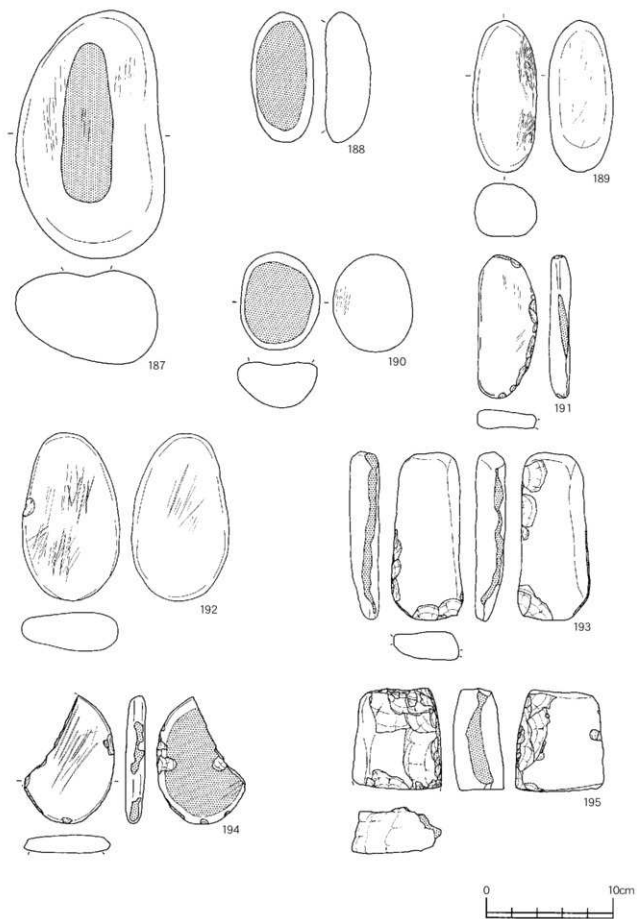
第144図 遺構外出土石器 (23)



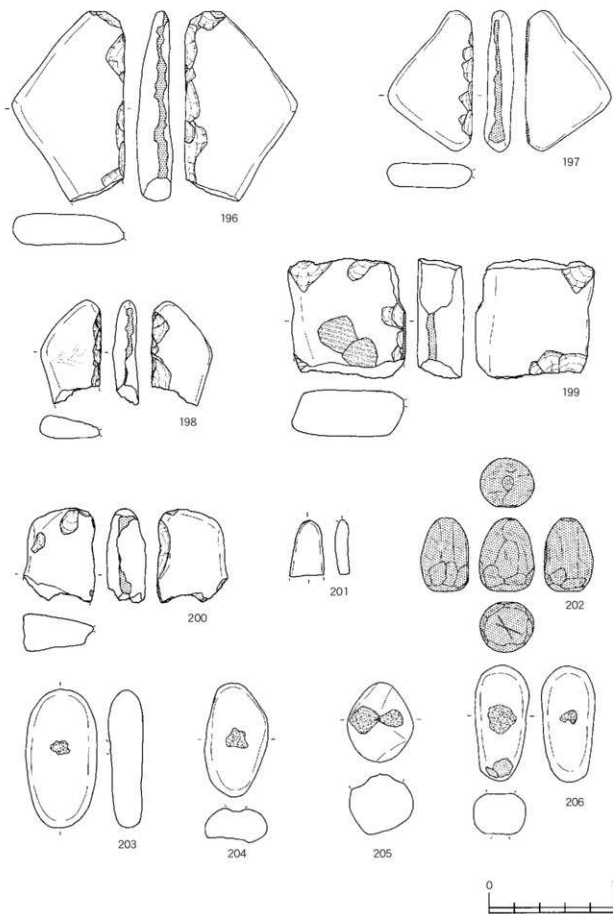
第145図 遺構外出土石器 (24)



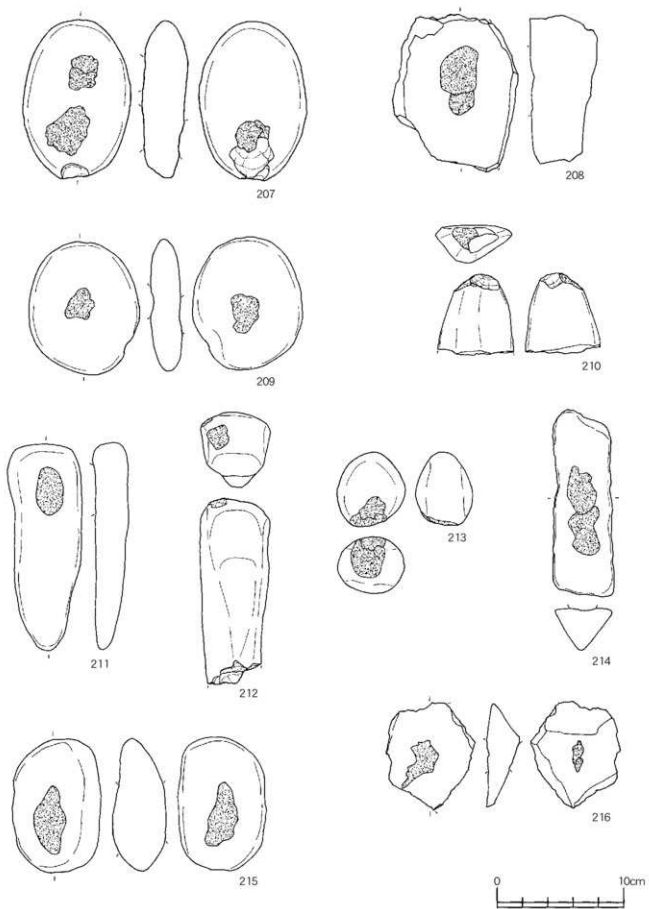
第146図 遺構外出土石器 (25)



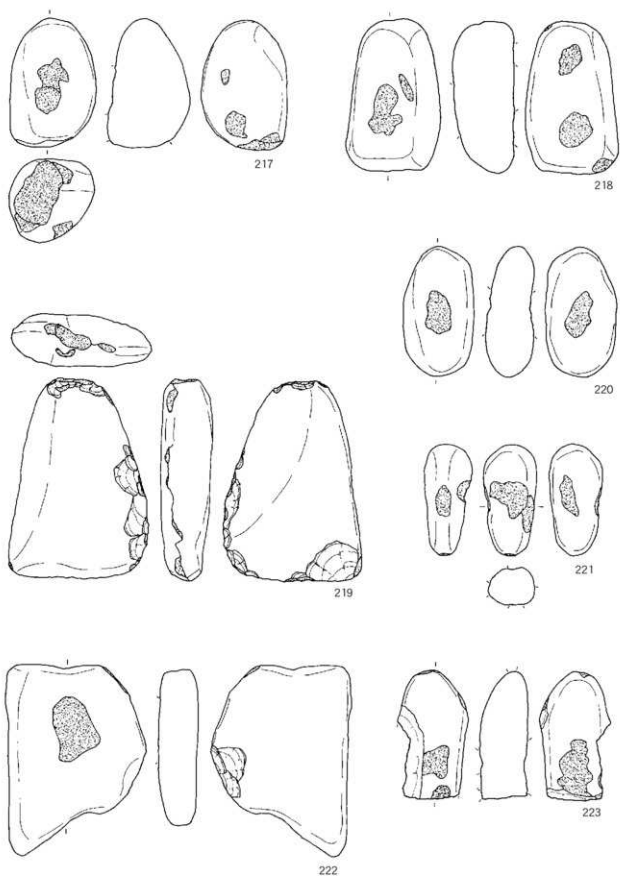
第147図 遺構外出土石器 (26)



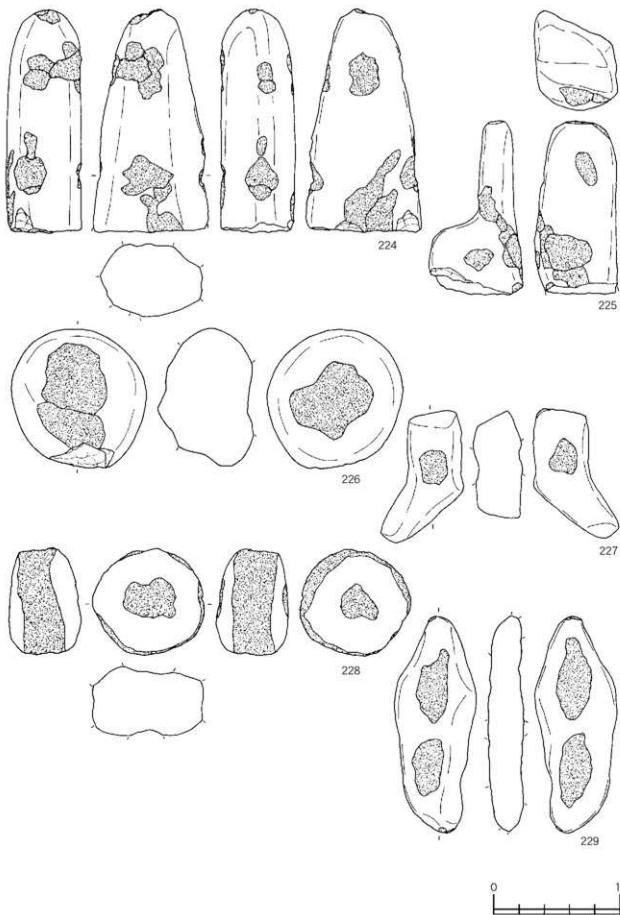
第148図 遺構外出土石器 (27)



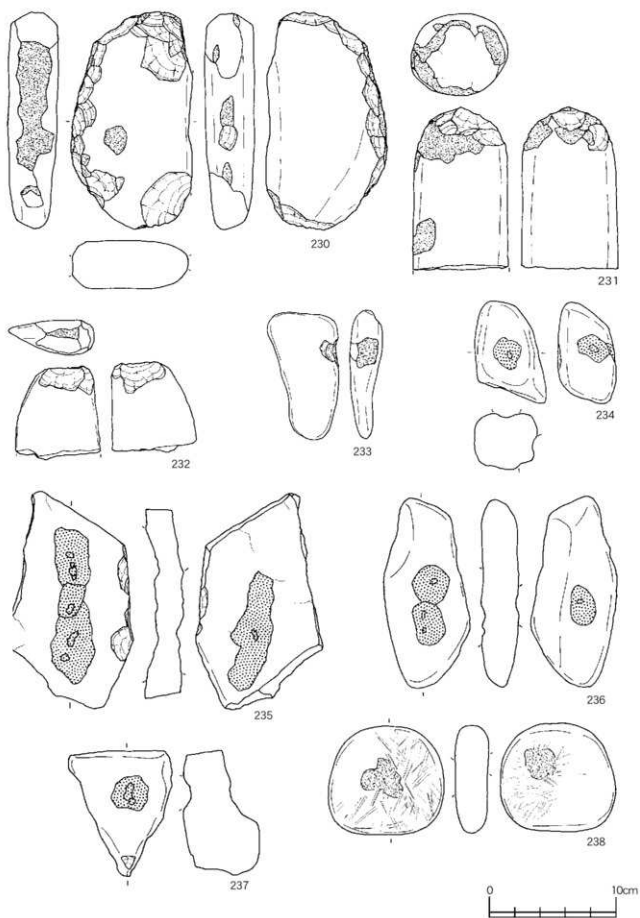
第149図 遺構外出土石器 (28)



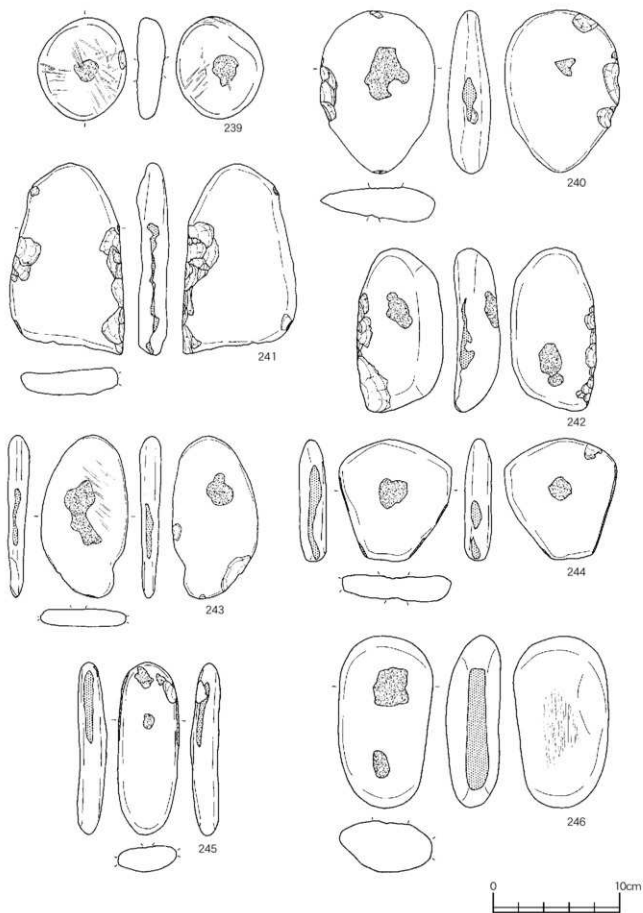
第150図 遺構外出土石器 (29)



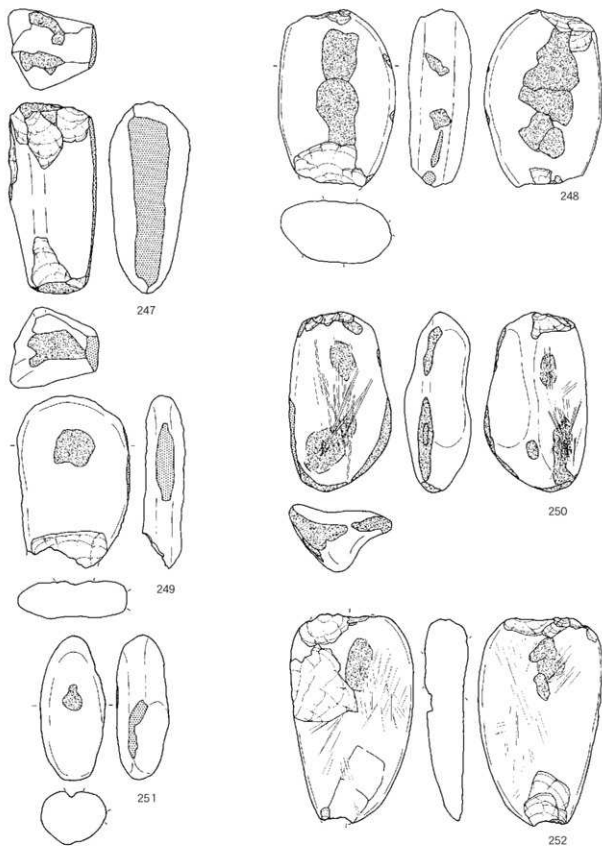
第151図 遺構外出土石器 (30)



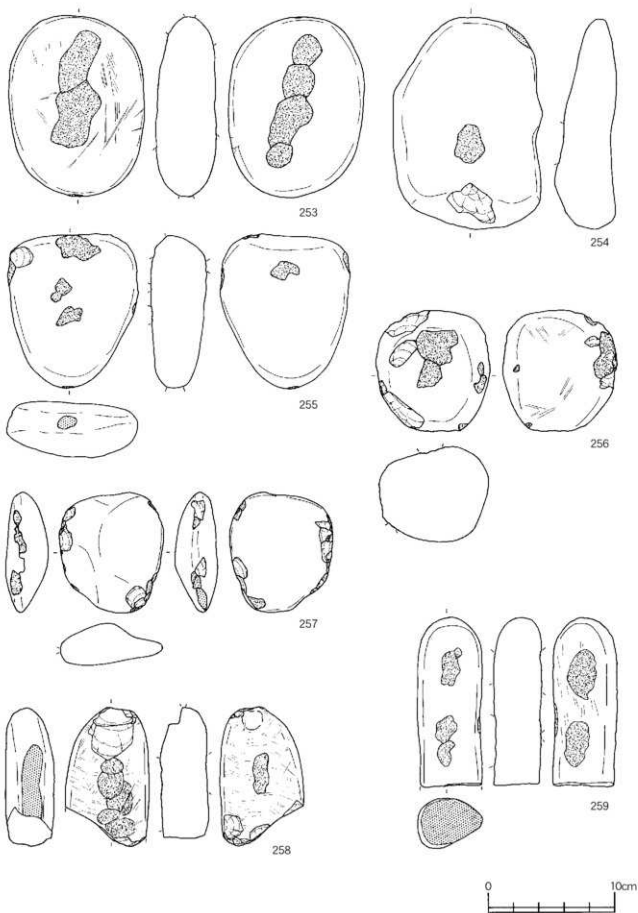
第152図 遺構外出土石器 (31)



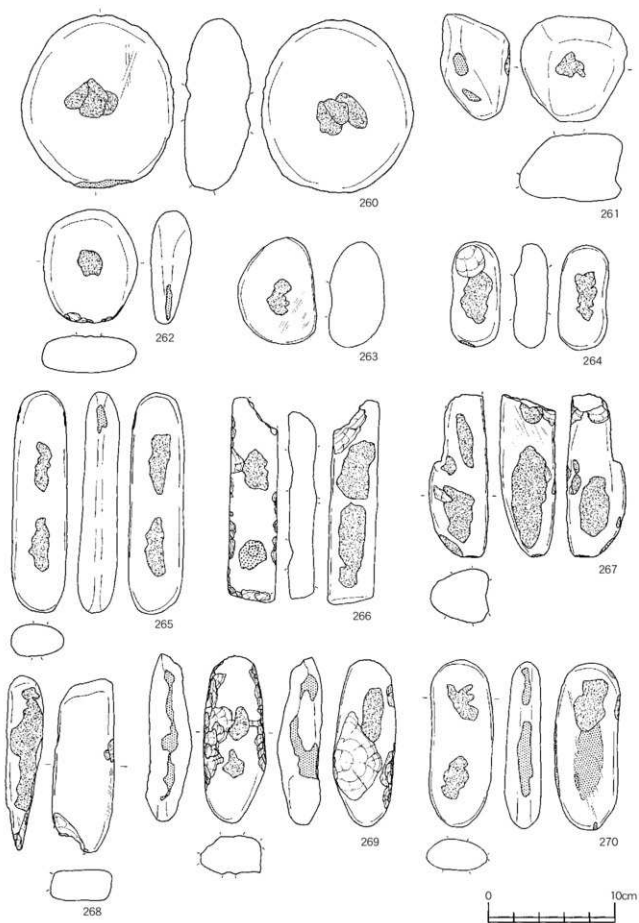
第153図 遺構外出土石器 (32)



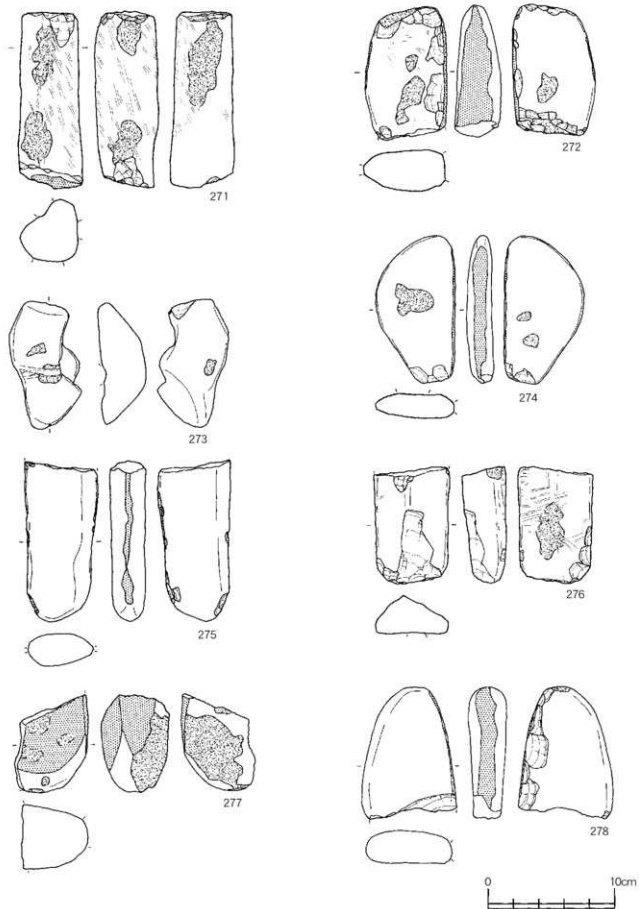
第154図 遺構外出土石器 (33)



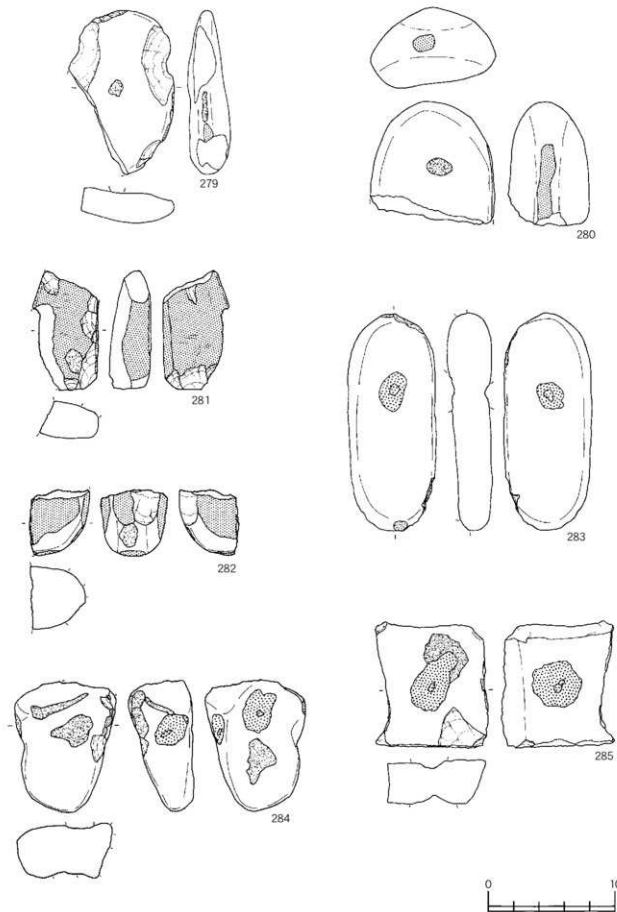
第155図 遺構外出土石器 (34)



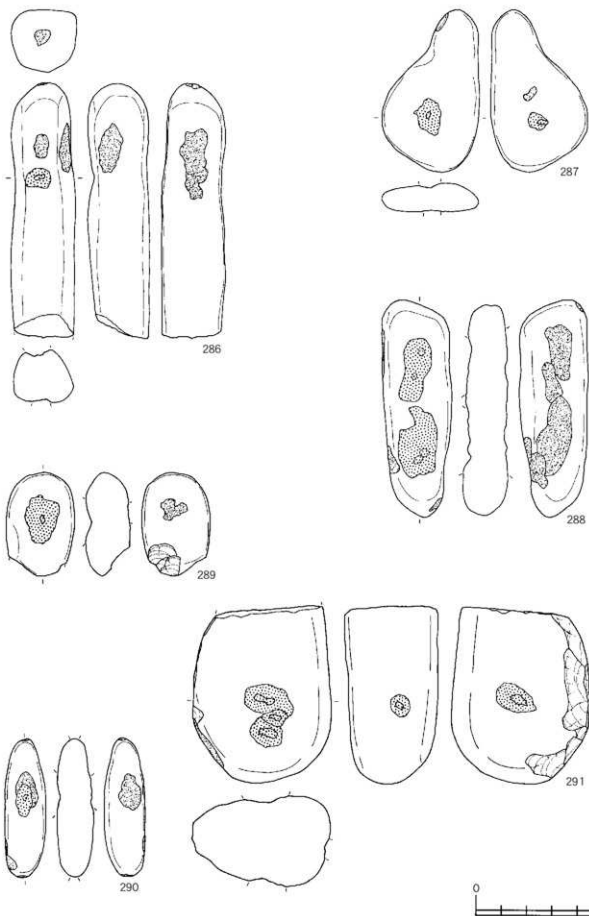
第156図 遺構外出土石器 (35)



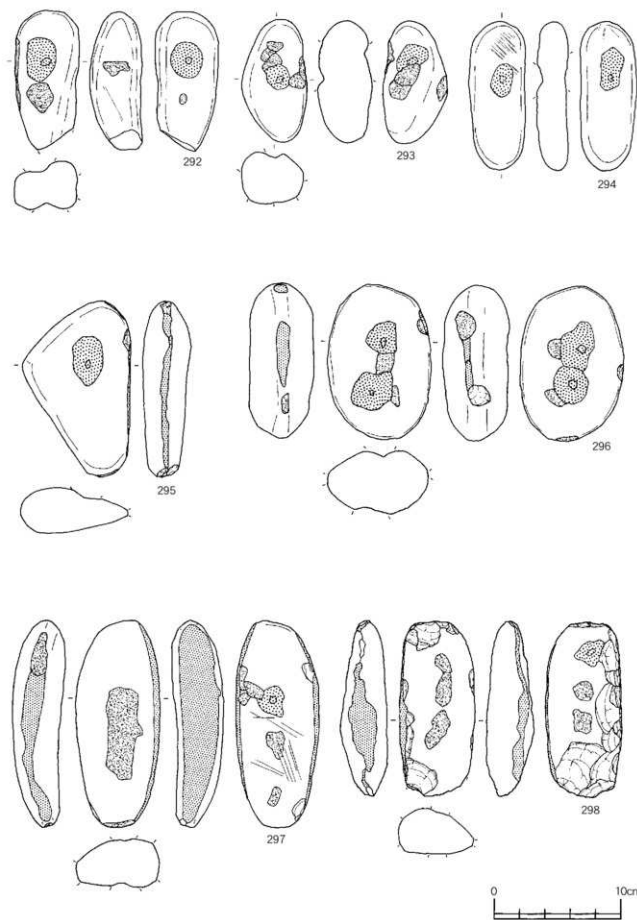
第157図 遺構外出土石器 (36)



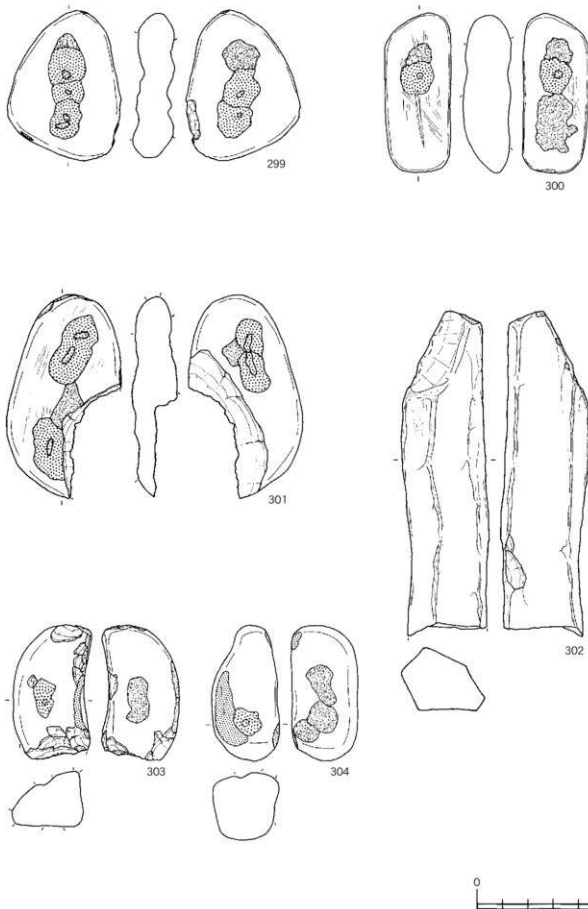
第158図 遺構外出土石器 (37)



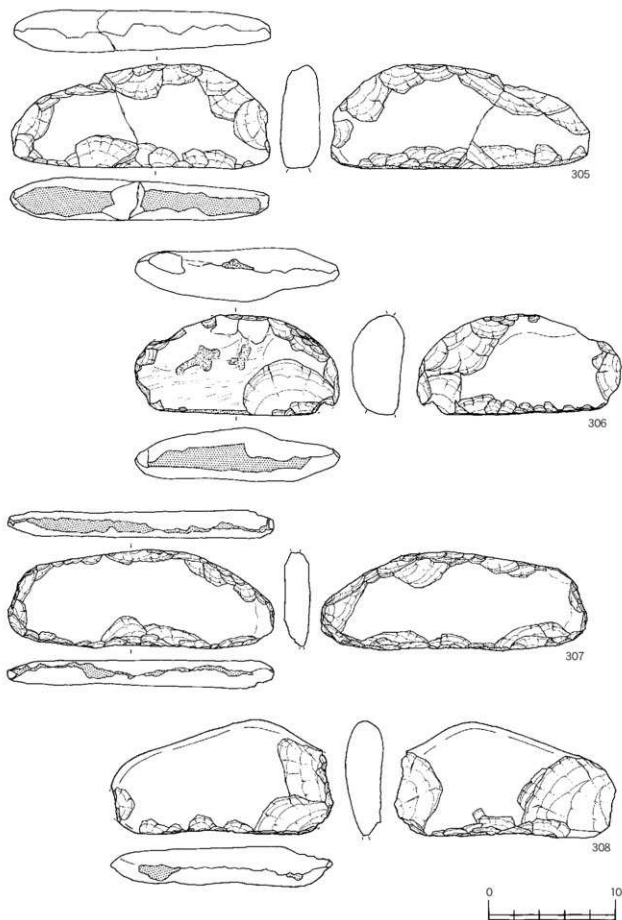
第159図 遺構外出土石器 (38)



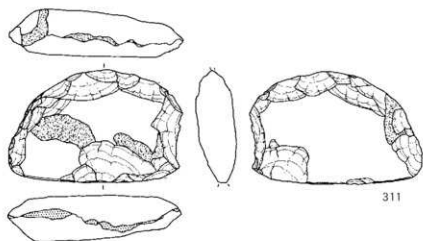
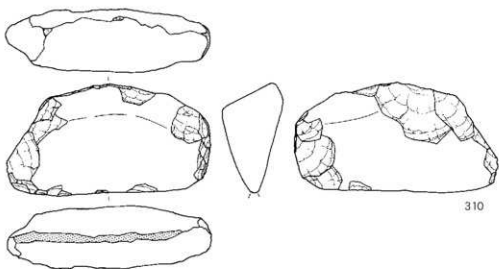
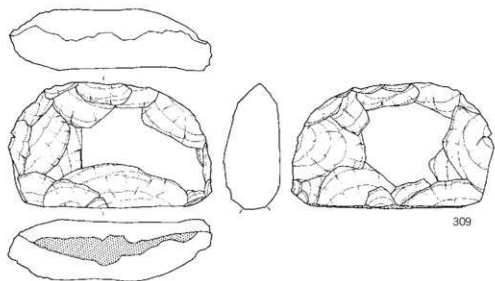
第160図 遺構外出土石器 (39)



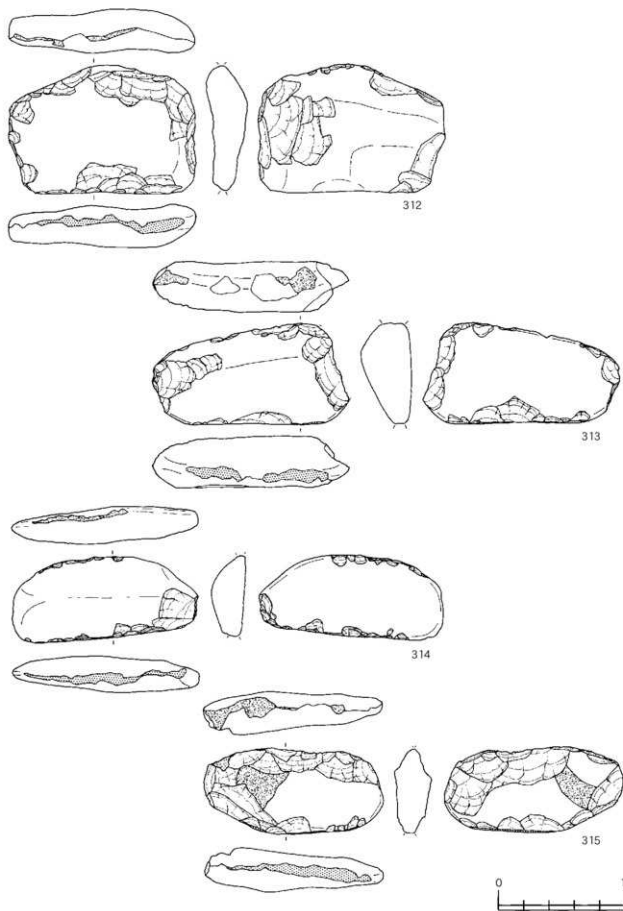
第161圖 遺構外出土石器 (40)



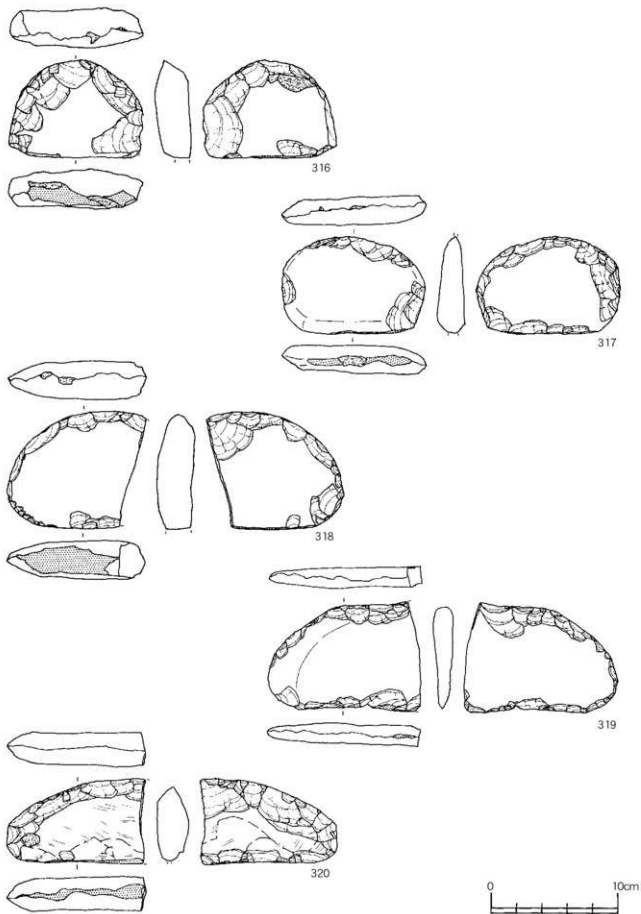
第162図 遺構外出土石器 (41)



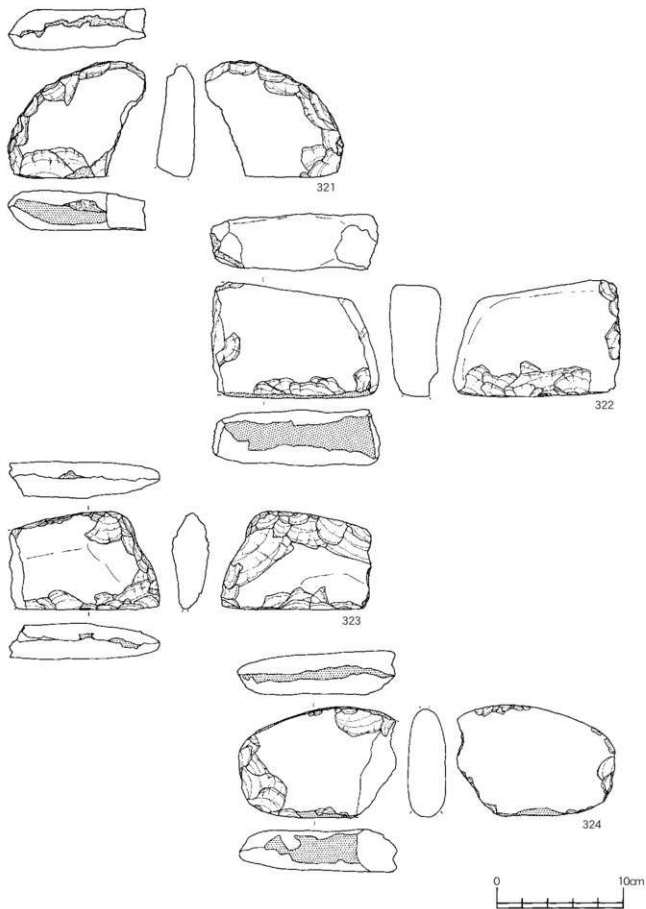
第163図 遺構外出土石器 (42)



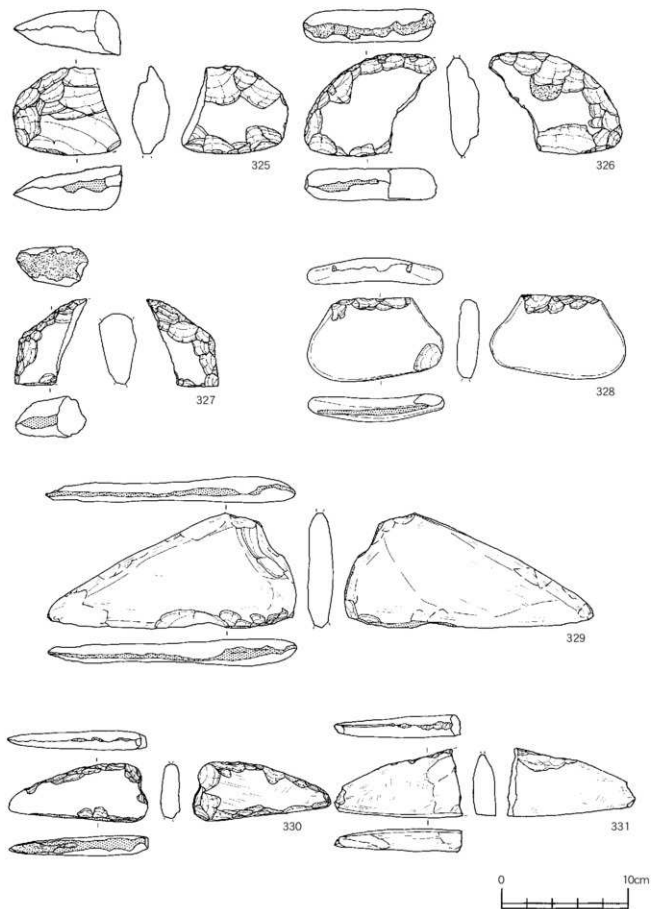
第164図 遺構外出土石器 (43)



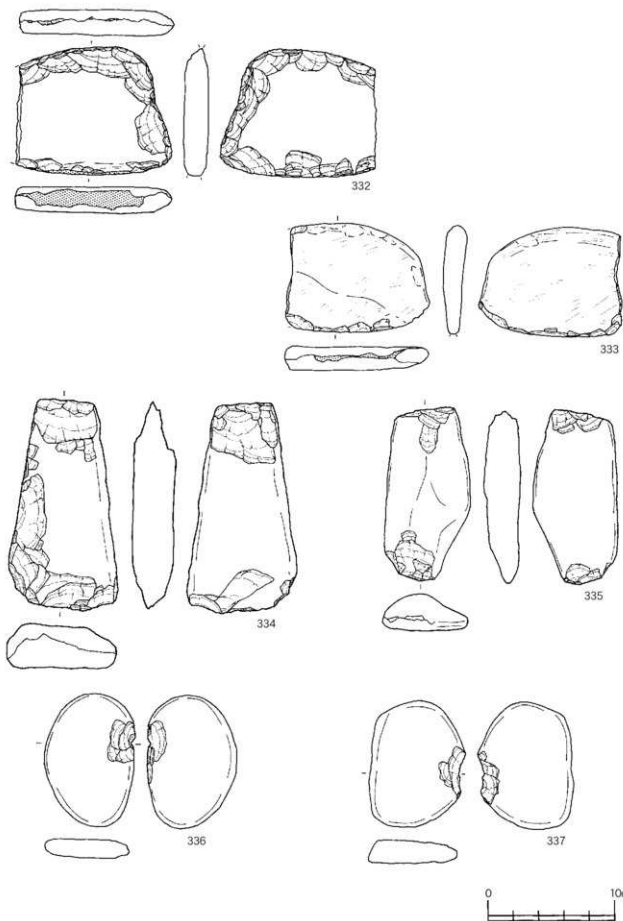
第165図 遺構外出土石器 (44)



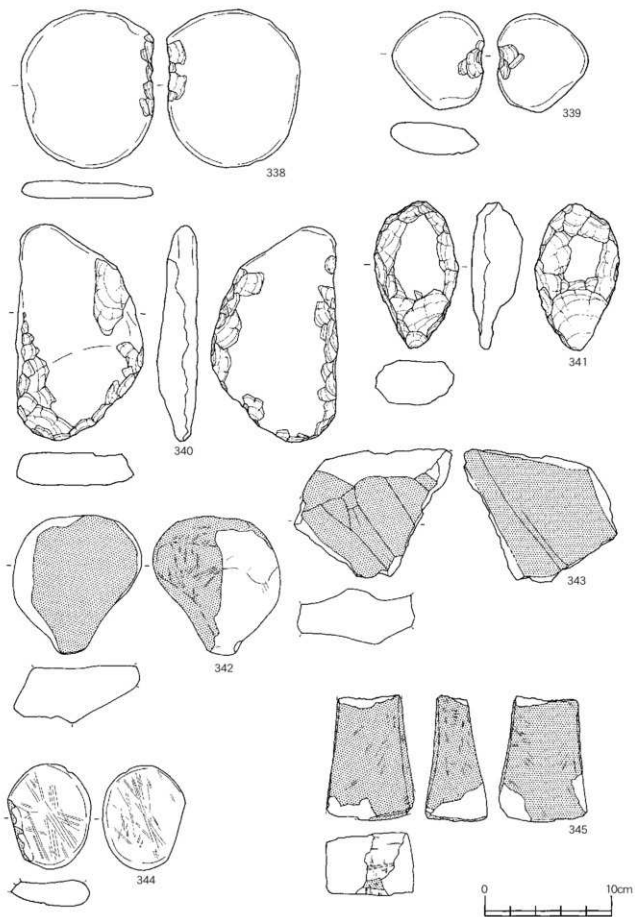
第166図 遺構外出土石器 (45)



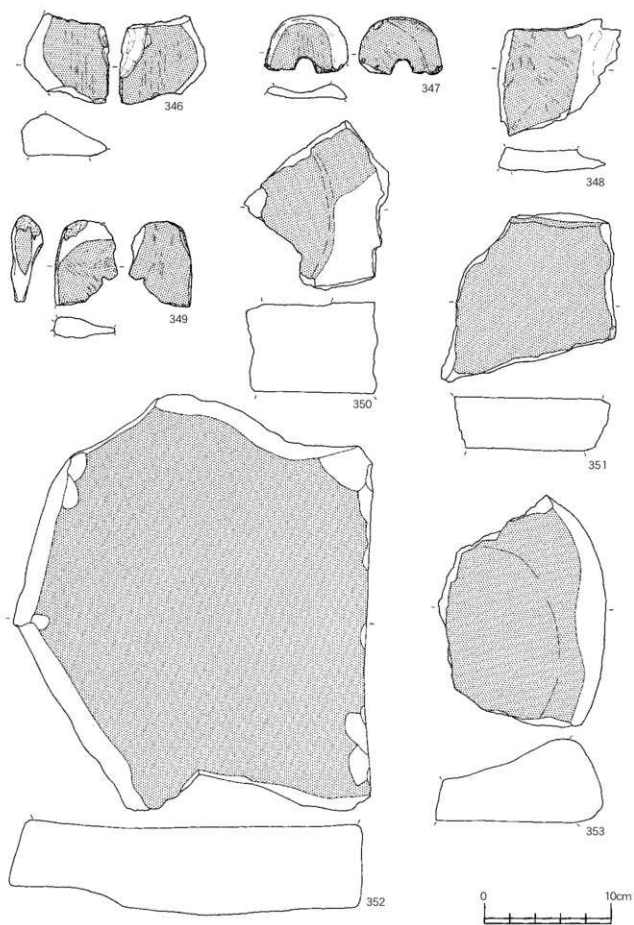
第167図 遺構外出土石器 (46)



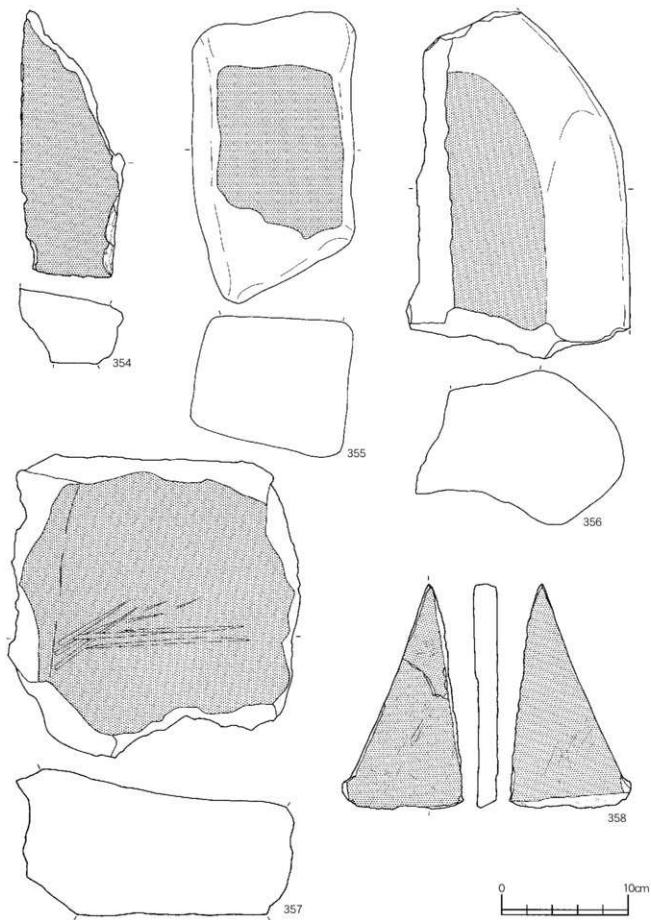
第168図 遺構外出土石器 (47)



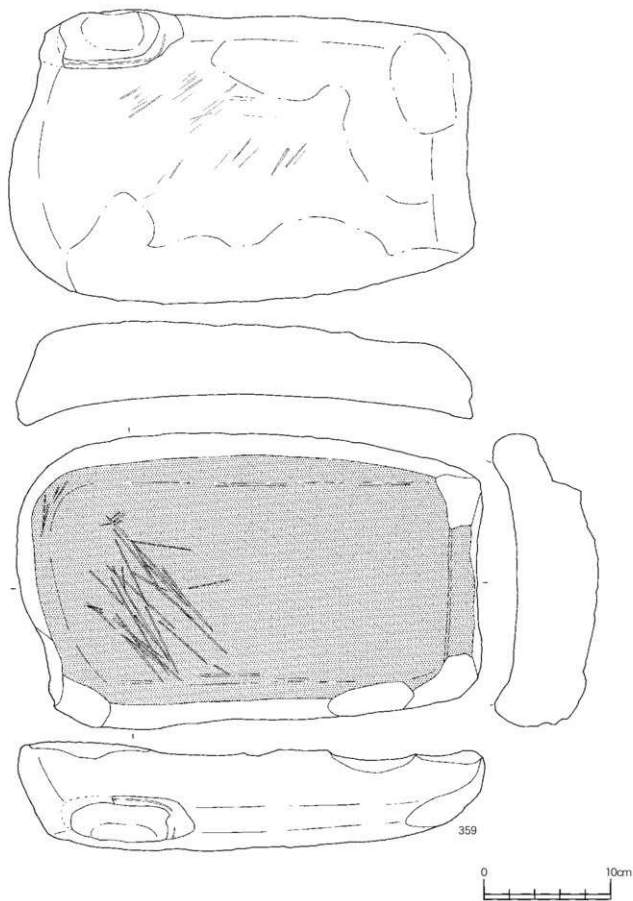
第169図 遺構外出土石器 (48)



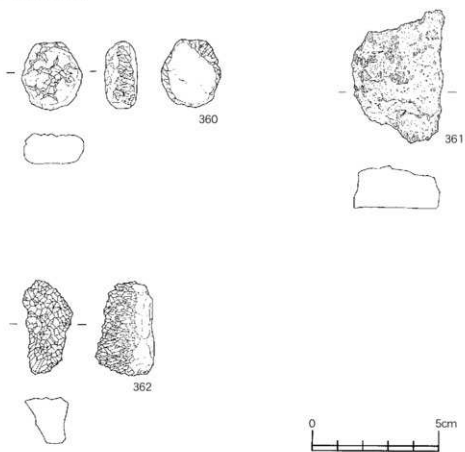
第170図 遺構外出土石器 (49)



第171図 遺構外出土石器 (50)



第172図 遺構外出土石器 (51)



第173図 遺構外出土石器 (52)

3. 土製品

本調査で出土した土製品は、遺構内 点、遺構外 点、計 点である。出土した土製品の種別、数量は、下表のとおりである。なお、平成 年度報告（青森市教育委員会 第 集 『稲山遺跡発掘調査報告書 a』）において細分されているものについては、同様の細分を行い、記述することとする。

種 別	遺 構 内	遺 構 外	合 計
土 偶			
鐺 形 土 製 品			
ミニチュア土器			
耳 飾			
笠 形 土 製 品			
円 形 土 版			
竽 形 土 製 品			
土器片利用土製品			
粘 土 塊			
焼 成 粘 土 塊			
環 状 土 製 品			
その他の土製品			
合 計			

土偶（第 図1～3）

人間の形態を模倣、もしくは抽象化して製作された土製品である。遺構外から3点出土している。完形のものはなく、腕部、脚部の破片が出土している。

・腕部（第 図1）

右腕部と思われる、肩上部から斜位の貫通孔が施されている。また、正面、背面に短沈線を主体に格子目状沈線が施されている。

・脚部（第 図2、3）

左脚部と思われる、股部から下（第 図2）、足首から下（第 図3）がそれぞれ残存している。正面、背面、側面に格子目状沈線及び連続状沈線が施されるもの（第 図2）が見られる。

鐺形土製品（第 図4～）

鐺や鐺等の形状を呈している土製品である。遺構外から 点出土している。形状、文様については、以下のとおりである。

〔形状〕

- a：突起の短軸方向に開口部と平行に穿孔されるもの（第 図4～6）、 %（3点）
 b：突起の長軸方向に開口部と平行に穿孔されるもの（第 図7～、）、 %（6点）
 c：二又突起の短軸方向に穿孔されるもの %（0点）
 d：二又突起の長軸方向に穿孔されるもの（第 図、）、 %（2点）

e：二又突起の両端を斜位方向に穿孔されるもの(第 図)、 % (1点)

f：ほぼ円形の突起に穿孔されるもの % (0点)

g：突起のないもの % (0点)

x：不明なもの(第 図)、 % (4点)

[文様]

a：無文のもの(第 図4～6、 、)、 % (9点)

b：沈線が施されるもの(第 図7～9、)、 % (4点)

c：沈線と刺突の両方が施されるもの(第 図)、 % (3点)

d：隆帯が施されるもの % (0点)

ミニチュア土器(第 図2、第 図2、第 図)、第 図)

手捏ねで作られた土器及び器高や底径が5cm未満の小型の土器である。遺構内から2点、遺構外から点、計 点出土している。

器形は、深鉢形が6点(第 図2、第 図、)、台付深鉢が5点(第 図2、第 図)、鉢形が 点(第 図)、第 図)、台付鉢が8点(第 図)、浅鉢が3点(第 図)、皿が2点(第 図、)、壺形が 点(第 図)である。

文様は無文のもの(第 図2、第 図2、第 図)、 、 、 、 、第 図、)、渦巻状沈線(第 図、)、平行沈線(第 図、 、 、 、第 図)、曲沈線(第 図、第 図、)、縄文(第 図、)などが見られる。

環状土製品(第 図)

腕輪状の形状を呈する土製品である。遺構内から1点出土している。破損品であるが表面には二列と思われる刺突が5箇所、おおむね二列に並んでいる。

耳飾(第 図)

耳飾として想定される土製品である。遺構外から1点出土している。形状は、平面形が円形、断面形が椎骨状を呈している。中央に貫通孔を有しており、部分的に赤色顔料が残存している。

笠形土製品(第 図)

笠状を呈する土製品である。遺構外から1点出土している。平面形は円形を呈する。

円形土版(第 図)

平面形がおおむね円形を呈すると思われる土版である。遺構外から1点出土している。表面にはおおむね全体に沈線による不規則な施文が見られる。また、側面には連続した刻目が施されている。

苜形土製品(第 図)

苜形を呈する土製品である。遺構外から1点出土している。笠上部は円形を呈し、下部はやや太い柄部を有する。

土器片利用土製品(第 図1、第 図1、3~6、9~、~、第 図~、第 図~、第 図~、第 図~、第 図~、第 図~)

土器の破片を打ち欠きや研磨により、三角形、円形等に形作った土製品である。遺構内から 点、遺構外から 点、計 点出土している。

(形状)

- ・三角形を呈するもの。 % (点)
- ・円形を呈するもの。 % (点)
- ・楕円形を呈するもの。 % (0点)
- ・方形を呈するもの。 % (7点)
- ・貫通孔を呈するもの。 % (0点)
- ・その他の形状のもの。 % (点)

(素材)

深鉢形土器の、胴部片が用いられていると思われる。

(破損状況)

完形品ないし一部欠損のものが大半を占める。その他約半分欠損するものが見られ、一部残存のものは確認していない。しかし、本製品の認定にあたって欠損品が認定されにくいという状況も影響していると考えられる。

(加工状況)

- a : 打ち欠きのみのも。 % (点)
- b : 打ち欠き後、一部に研磨が施されるもの。 % (点)
- c : 全周に研磨が施されるもの。 % (点)

形状毎の加工状況は次の通りである。

- ・三角形を呈するもの： a 1点、 b 5点、 c 点。
- ・円形を呈するもの： a 点、 b 点、 c 点。
- ・楕円形を呈するもの： a 0点、 b 0点、 c 0点。
- ・方形を呈するもの： a 0点、 b 1点、 c 6点。
- ・その他の形状を呈するもの： a 0点、 b 0点、 c 点。

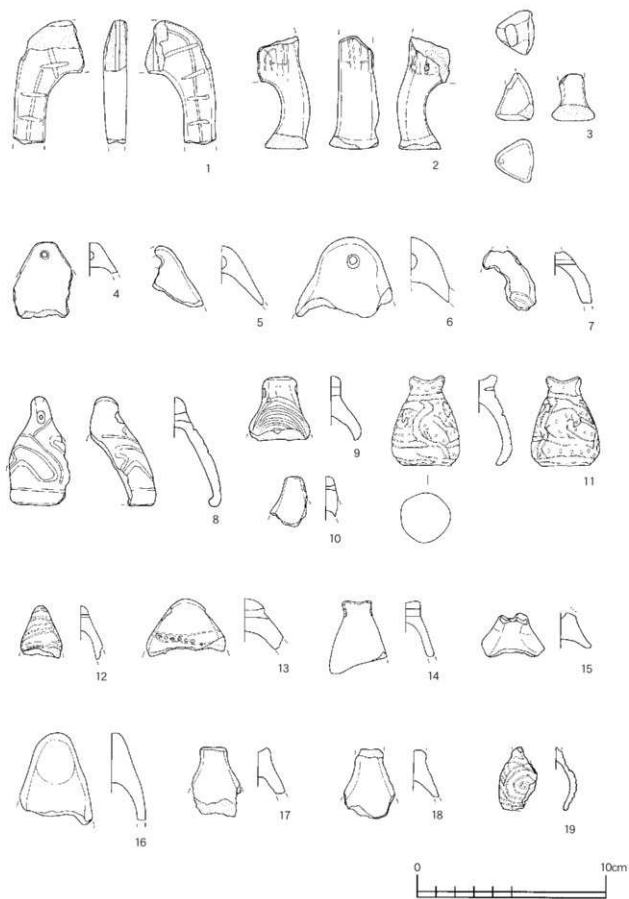
焼成粘土塊(第 図7、8、第 図~)

焼成された不定形の粘土の塊である。遺構内から2点、遺構外から 点、計 点出土している。

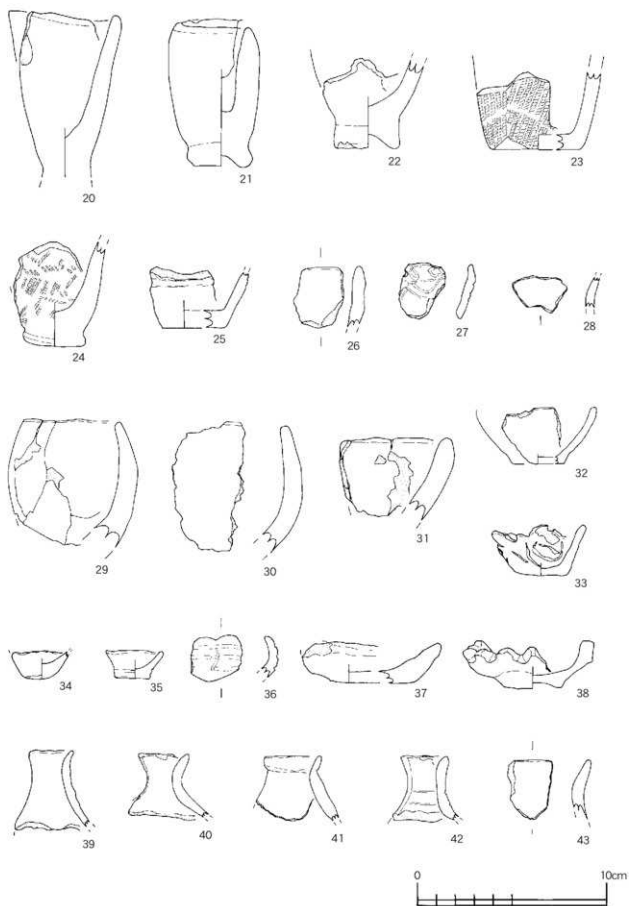
平坦面を有するもの(第 図、 、 、) おおむね球状のもの(第 図) 指頭による調整痕が認められるもの(第 図) 一部工具の痕跡が認められるもの(第 図、) などが見られる。

その他の土製品(第 図~)

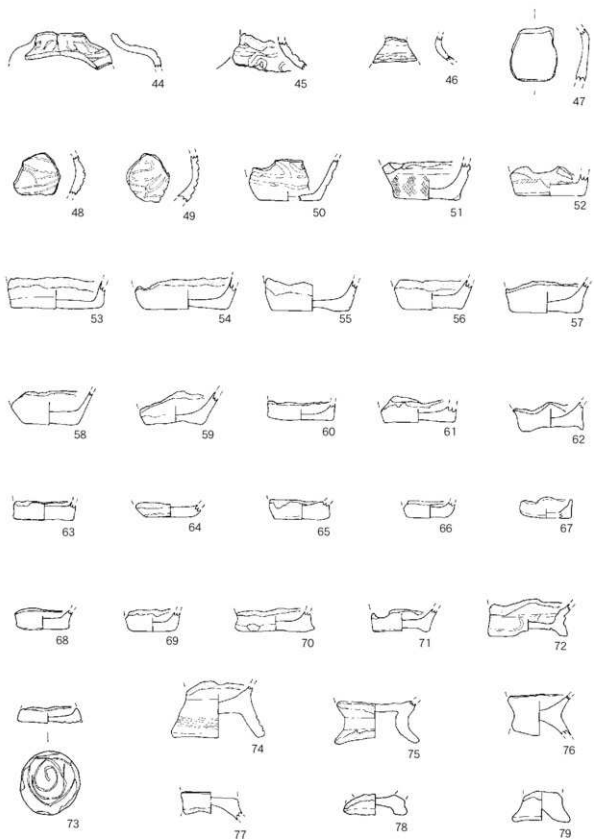
上記に含まれないものを一括した。遺構外から3点出土している。刺突の認められるもの(第 図、) 破損品で3方向に粘土紐が伸びていく基部と思われるもの(第 図) などが見られる。



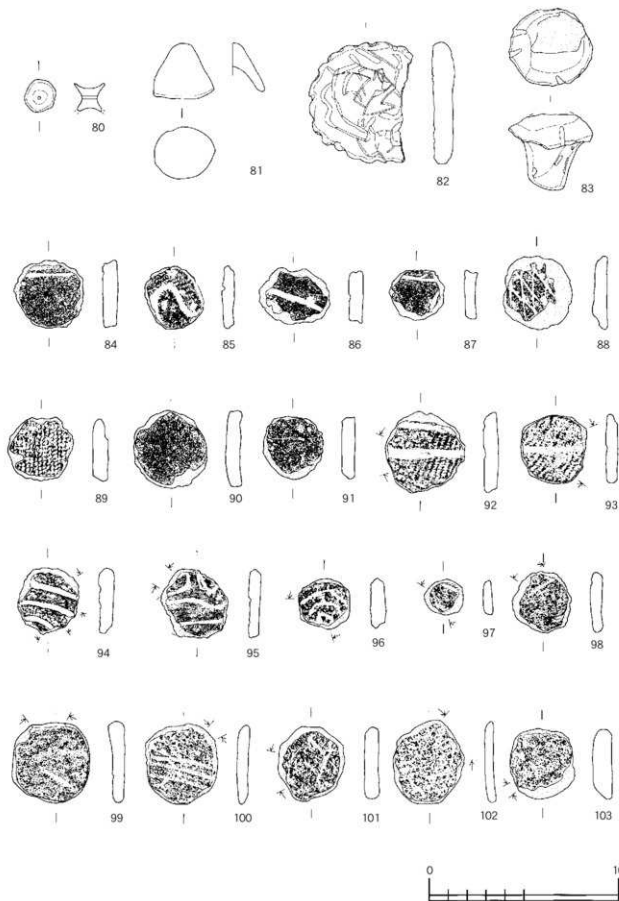
第174図 遺構外出土土製品 (1)



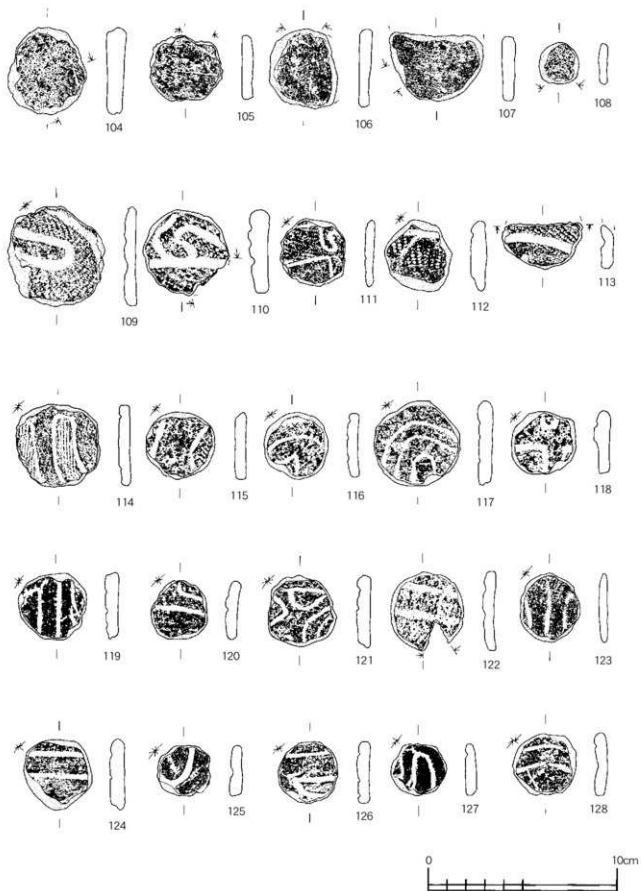
第175図 遺構外出土土製品 (2)



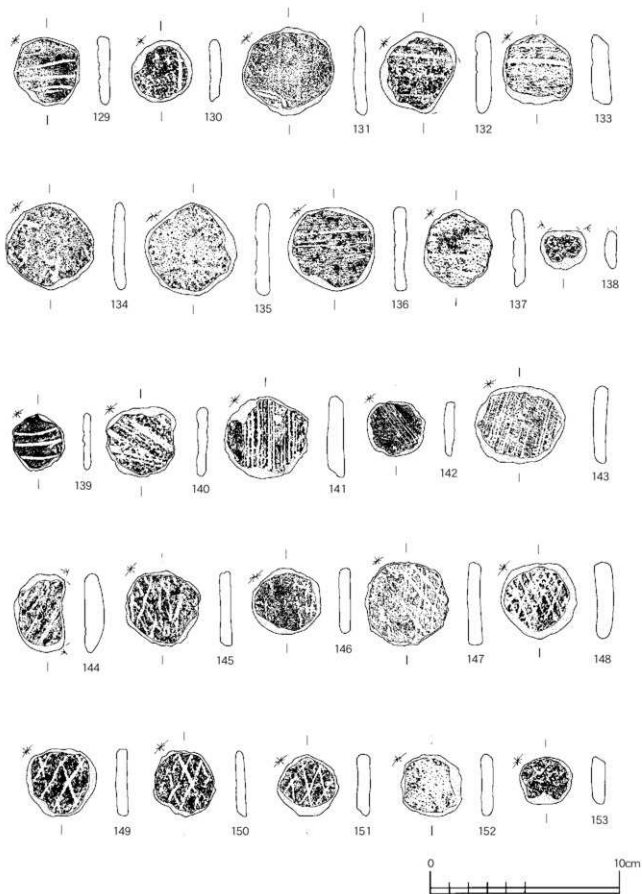
第176図 遠構外出土土製品 (3)



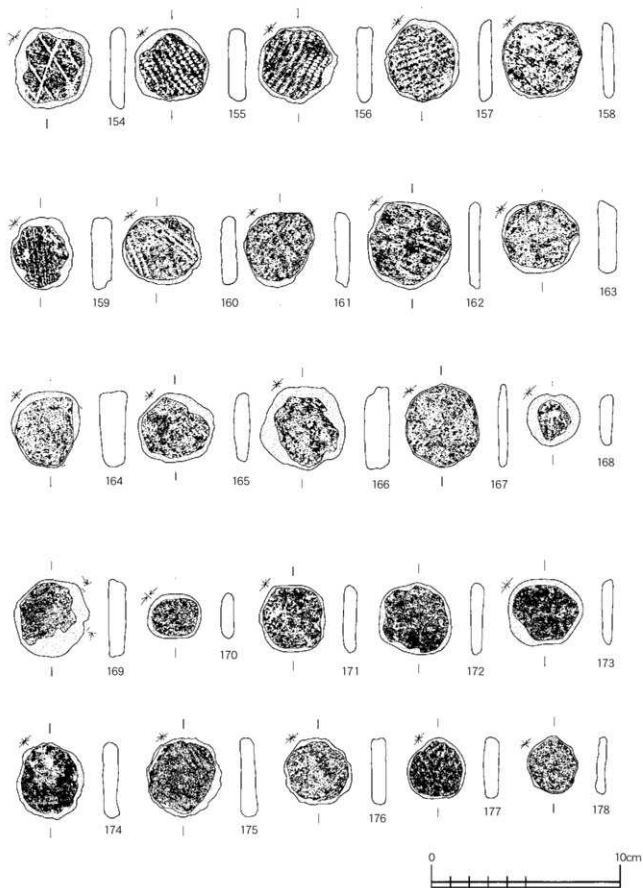
第177図 遺構外出土土製品 (4)



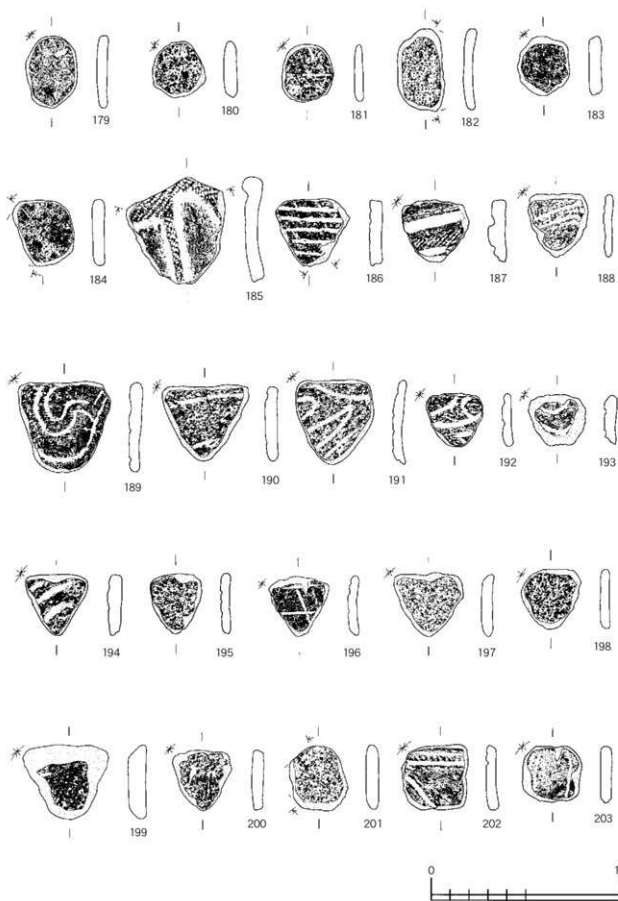
第178図 遺構外出土土製品 (5)



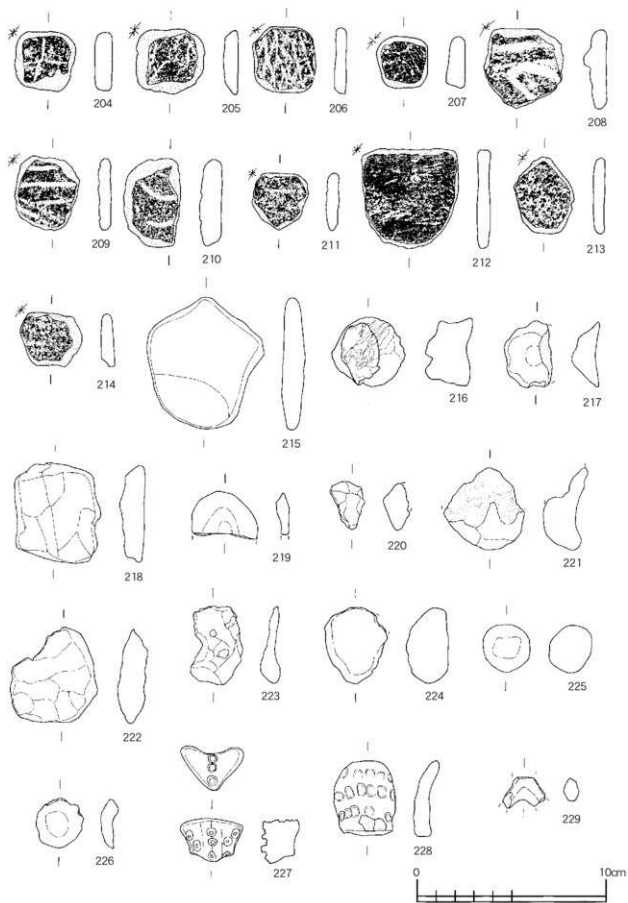
第179図 遺構外出土土製品 (6)



第180圖 遺構外出土土製品 (7)



第181図 遺構外出土土製品 (8)



第182図 遠構外出土土製品 (9)

4. 石製品

本調査で出土した石製品は、遺構内9点、遺構外 点、計 点である。出土した石製品の種別、数量は下表のとおりである。なお、平成 年度報告（青森市教育委員会 第 集 『稲山遺跡発掘調査報告書 』）において細分されているものについては、同様の細分を行い、記述することとする。

種 別	遺 構 内	遺 構 外	合 計
三 角 形 岩 版			
円 形 岩 版			
そ の 他 の 岩 版			
岩 版 関 係 資 料			
有 孔 石 製 品			
球 状 石 製 品			
碗 状 石 製 品			
線 刻 礫			
採 集 石 製 品			
軽 石			
そ の 他 の 石 製 品			
合 計			

三角形岩版（第 図1、3、第 図1～、第 図～）

平面形が三角形、あるいは三角形に近い形状を呈する岩版である。遺構内から2点、遺構外から 点、計 点が出土している。

〔破損状況〕

完形品は、全体の %、欠損ないし剥離するものが %と大半を占める。欠損品のうち一部頂角欠損等 / 以下の欠損が %、 / 以上の欠損が %、一部剥離のみでほぼ完形のもの %である。

〔形状〕

- ・二等辺三角形を呈するもの。 % (点)
- ・正三角形を呈するもの。 % (1点)
- ・台形に近い形状を呈するもの。 % (1点)
- ・楕円形に近い形状を呈するもの。 % (1点)
- ・蒲鉾形を呈するもの。 % (0点)
- ・不明のもの。 % (点)

〔加工状況〕

表面が球状に研磨されるもの 点、平滑に研磨されるもの 点である。

〔文様〕

三角形岩版に見られる基本的な5種類の単位文様（児玉 ）は以下の通りである。

- ・斜位直線：平行する刻線が斜めに施される。
- ・弧状線：平行する刻線が弧状に施される。
- ・重弧状線：上記の弧状線の上に、もう1つの平行する弧状線が施される。

- ・ ブーメラン状刻線：2条の刻線の端部が連結しており、ブーメラン状に施される。
- ・ 渦巻状刻線：渦巻状の刻線が施される。

これら単位文様の組み合わせにより本遺跡の三角形岩版は細分されており、細分毎に以下に示す。

- a類：無文のもの。 % (点)
- b類 - 1：弧状線を右縁辺部に配置するもの。 % (1点)
 - 2：弧状線を左縁辺部に配置するもの。 % (1点)
 - 3：弧状線を上縁辺部に配置するもの。 % (0点)
 - 4：弧状線を左右対称に配置するもの。 % (0点)
 - 5：縁辺部全周にわたり弧状線を配置するもの。 % (1点)
- c類：斜位直線が左右に交差するもの。 % (0点)
- d類 - 1：右傾の斜位直線が施されているもの。 % (2点)
 - 2：左傾の斜位直線が施されているもの。 % (1点)
- e類 - 1：右傾の斜位直線と右縁辺部に弧状線を配置するもの。 % (0点)
 - 2：左傾の斜位直線と右縁辺部に弧状線を配置するもの。 % (1点)
- f類 - 1：右傾の斜位直線と左縁辺部に弧状線を配置するもの。 % (0点)
 - 2：左傾の斜位直線と左縁辺部に弧状線を配置するもの。 % (0点)
- g類 - 1：右傾の斜位直線と左右縁辺部に弧状線を配置するもの。 % (0点)
 - 2：左傾の斜位直線と左右縁辺部に弧状線を配置するもの。 % (1点)
- h類 - 1：右傾の斜位直線と縁辺部全周にわたり弧状線を配置するもの。 % (0点)
 - 2：左傾の斜位直線と縁辺部全周にわたり弧状線を配置するもの。 % (0点)
- i類 - 1：重弧状線を右縁辺部に配置するもの。 % (0点)
 - 2：重弧状線を左縁辺部に配置するもの。 % (0点)
 - 3：重弧状線を上縁辺部に配置するもの。 % (0点)
 - 4：重弧状線を左右対称に配置するもの。 % (0点)
 - 5：縁辺部全周にわたり重弧状線を配置するもの。 % (1点)
 - 6：重弧状線と弧状線を縁辺部に配置するもの。 % (2点)
- j類 - 1：右傾の斜位直線と重弧状線を右縁辺部に配置するもの。 % (0点)
 - 2：右傾の斜位直線と重弧状線を左縁辺部に配置するもの。 % (0点)
 - 3：左傾の斜位直線と重弧状線を右縁辺部に配置するもの。 % (0点)
 - 4：左傾の斜位直線と重弧状線を左縁辺部に配置するもの。 % (0点)
- k類：ブーメラン状刻線を施すもの。 % (0点)
- l類 - 1：渦巻状刻線を施すもの。 % (0点)
 - 2：右傾の斜位直線に渦巻状刻線を施すもの。 % (0点)
 - 3：左傾の斜位直線に渦巻状刻線を施すもの。 % (0点)
- m類 - 1：弧状線、重弧状線、および渦巻状刻線を施すもの。 % (0点)
 - 2：右傾の斜位直線と弧状線、重弧状線および渦巻状刻線を施すもの。 % (0点)
 - 3：左傾の斜位直線と弧状線、重弧状線および渦巻状刻線を施すもの。 % (0点)
- x類：分類不能および不明のもの。 % (6点)

結果、無文のa類が半数以上を占める。また、文様をもつものでは、d類 - 2、i類 - 6が若干多く見られる。

[材質] 石質は、凝灰岩 % (点) 泥岩 % (点) 緑色凝灰岩 % (1点) 頁岩 % (1点) である。

円形岩版 (第 図 4、第 図 ~、第 図 ~)

平面形が円形を呈する岩版である。遺構内から 1点、遺構外から 点、計 点 が出土している。

[破損状況] 完形品 % (1点) 一部欠損 % (点) 約半分欠損 % (点) 一部残存 % (4点) である。

[加工状況]

a類：表裏両面および側面に平滑的な研磨を施し、断面形が長方形および台形に近い形状を呈するもの。 % (点)

b類：表裏両面に平滑的な研磨を施し、側面が丸みを帯びているもの。 % (0点)

c類：周縁のすべてを打ち欠きによって整形し、表裏両面に平滑的な研磨を施すもの。 % (0点)

d類：周縁の一部を打ち欠きによって整形し、表裏両面に平滑的な研磨を施すもの。 % (1点)

e類：周縁を打ち欠きと研磨によって整形し、表裏両面に平滑的な研磨を施すもの。 % (0点)

f類：表面を球状、裏面を平滑的に研磨し、断面形が蒲鉾状を呈するもの。 % (0点)

[材質] 石質は、凝灰岩 % (点) 緑色凝灰岩 % (2点) 泥岩 % (2点) である。

その他の岩版 (第 図 ~)

平面形が三角形および円形以外の岩版である。遺構外から 点 が出土している。

形状は、楕円形ないし不整形円形を呈するもの 5点、方形を呈するもの 4点、三角形を呈するもの 1点、不整形を呈するもの 2点、不明なもの 2点である。

石質は、凝灰岩 % (8点) 泥岩 % (4点) 緑色凝灰岩 % (1点) である。

岩版関係資料 (第 図 ~、第 図 ~)

岩版の製作段階における破片、破損資料、または加工途中の資料などである。本調査では、遺構外から 点 が出土した。半割されたもの 1点 (第 図)、周囲に打ち欠き目が認められるもの 点 (第 図 ~、第 図 ~) で、表裏面には研磨痕は特に認められない。

石質は凝灰岩 % (点) 安山岩 % (7点) 頁岩 % (4点) 石英安山岩 % (3点) 変朽安山岩 % (2点) 緑色凝灰岩 % (1点) 泥岩 % (1点) である。

有孔石製品 (第 図 3、第 図 5、6、第 図 ~)

孔を有する石製品である。遺構内から 3点、遺構外から 点、計 点 が出土している。

穿孔された人工的な孔を有するものと、孔を有する自然礫とが見られる。なお、後者は加工痕が見られず、いわゆる製品では無いが、孔を有する観点から選択・搬入された可能性を考慮し、本項で記述することとする。

人工的な孔を有するものでは、楕円形を呈するもの 3点 (第 図 、 、) 円形を呈するも

の1点(第 図) 半円形を呈するもの1点(第 図)が認められた。うち穿孔が1個所のもの4点、穿孔が5個所でうち貫通孔が1個所のもの1点(第 図)である。

孔を有する自然礫では、形状は多様であるが、おおむね円形及び不整形のもの(第 図4) おおむね楕円形および不整形楕円形のもの(第 図5、第 図 ~、第 図 ~、)が大半を占め、その他不整形のもの(第 図6、第 図、)が認められる。

石質は、凝灰岩 % (点) 泥岩 % (5点) 頁岩 % (2点) 安山岩 % (1点) 凝灰角礫岩 % (1点) 珩岩 % (1点) である。

球状石製品(第 図、)

球状に整形している石製品である。遺構外から2点が出土している。

石質は、泥岩2点である。

碗状石製品(第 図 ~)

球状の凹部を有する石製品である。遺構外から3点が出土している。

石質は、凝灰岩1点、泥岩1点、瑪瑙1点である。

線刻礫(第 図 ~)

線刻が施されている礫である。遺構外から 点が出土している。

石質は、凝灰岩 % (4点) 泥岩 % (4点) 安山岩 % (2点) 石英安山岩 % (1点) である。

採集石製品(第 図5、第 図2)

特異な形態を呈する自然礫で、縄文人が製品もしくは道具として意図的に採集してきたと考えられるものである。なお、これらは、加工痕が見られず、いわゆる「製品」では無いが、本遺跡のこれまでの調査報告書で、同様のものを「採集石製品」の名称で報告している点、また、それらには一部加工痕の認められるものも含まれている点から、今回も同じ名称の項で記述することとする。遺構内から2点が出土している。おおむね瓢箪形を呈している。

石質は瑪瑙である。

軽石石製品(第 図 ~)

軽石を素材とし加工しているものである。

いずれも一部に滑らかな平坦面が見られる。

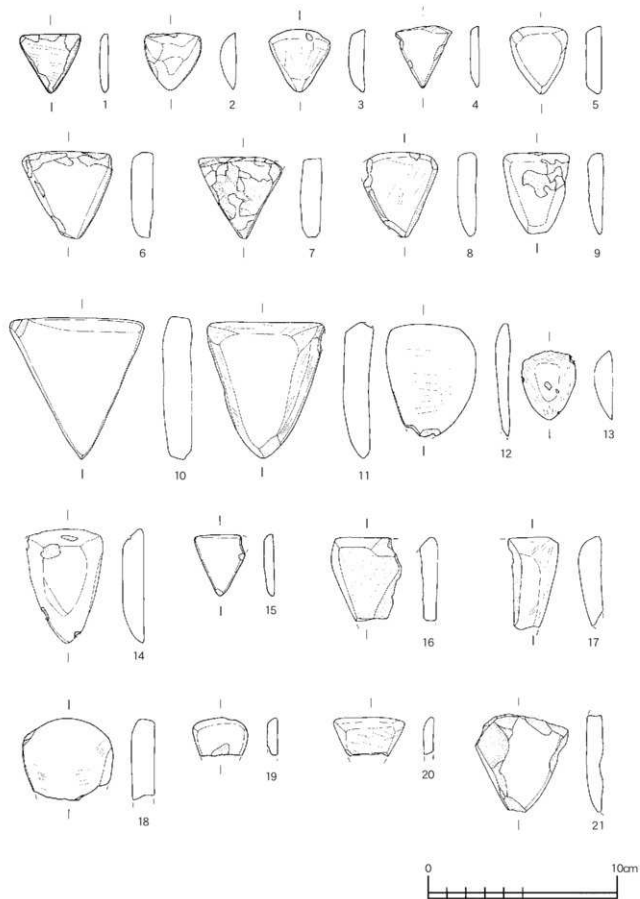
石質は軽石である。

その他の石製品(第 図4、第 図 ~)

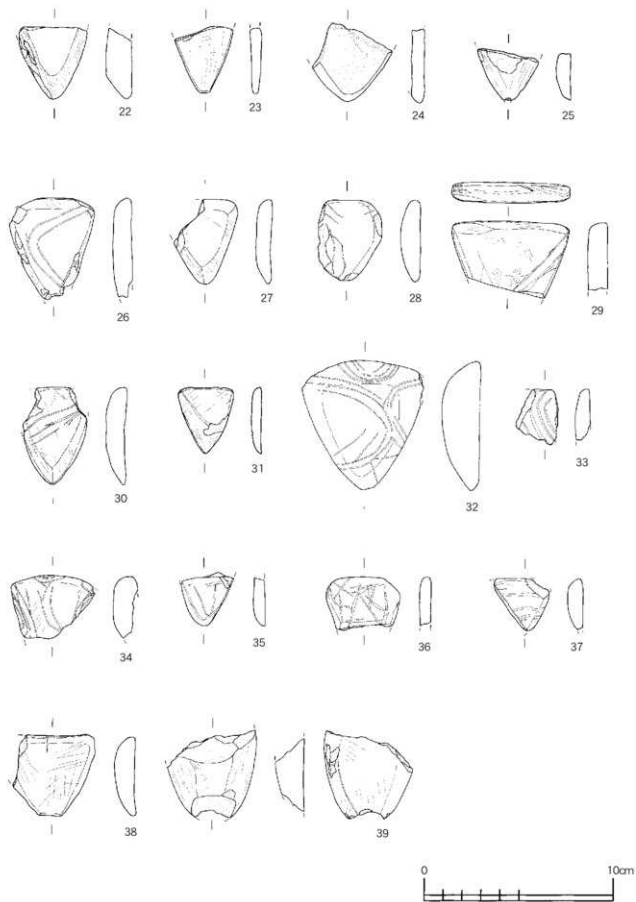
上記に含まれないものを一括した。遺構内から1点、遺構外から3点、計4点が出土している。

礫の平坦面に部分的に研磨痕が認められるもの(第 図4、第 図) 球状に滑らかな面が認められるもの(第 図) 浅い窪みを作出しているもの(第 図) などが見られる。

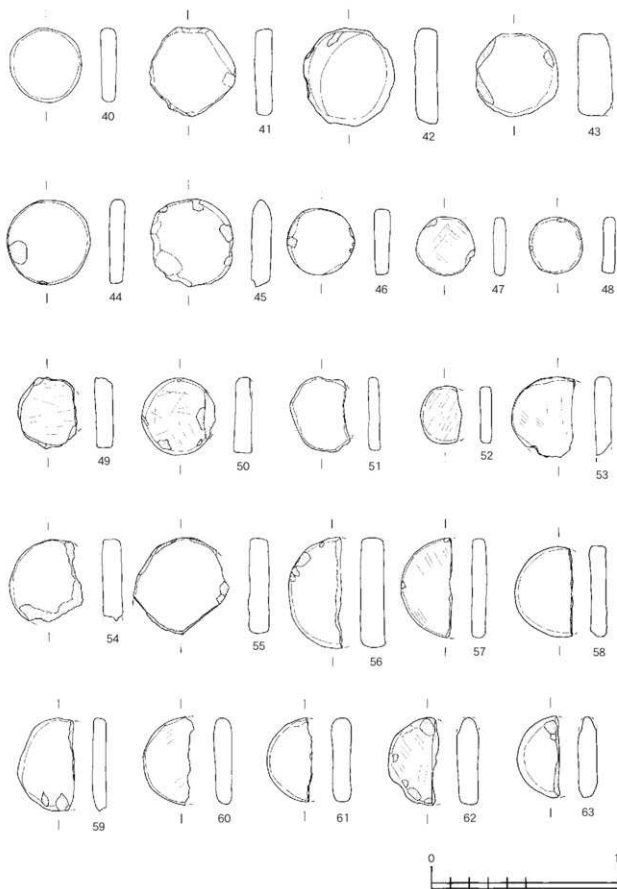
石質は、凝灰岩 % (3点) 泥岩 % (1点) である。



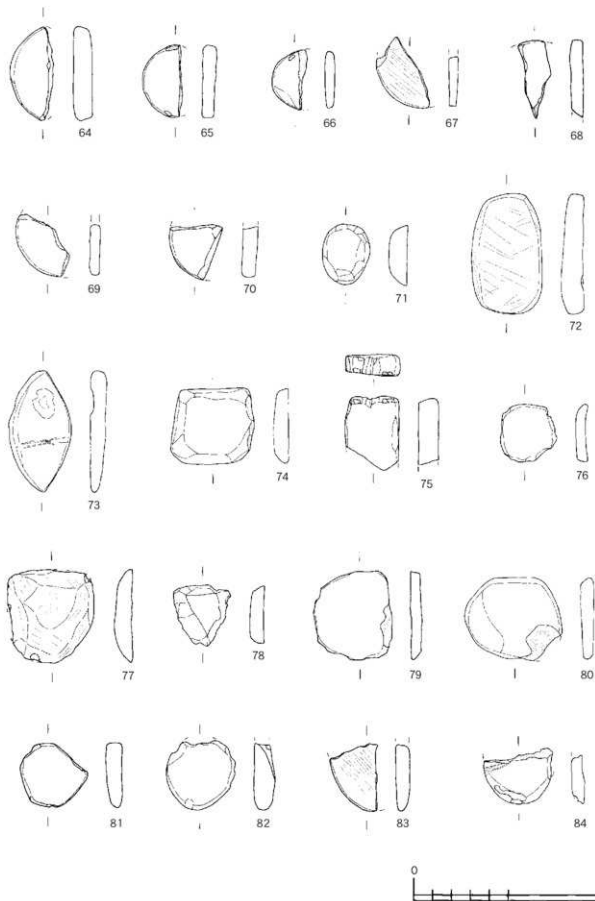
第183図 遺構外出土石製品 (1)



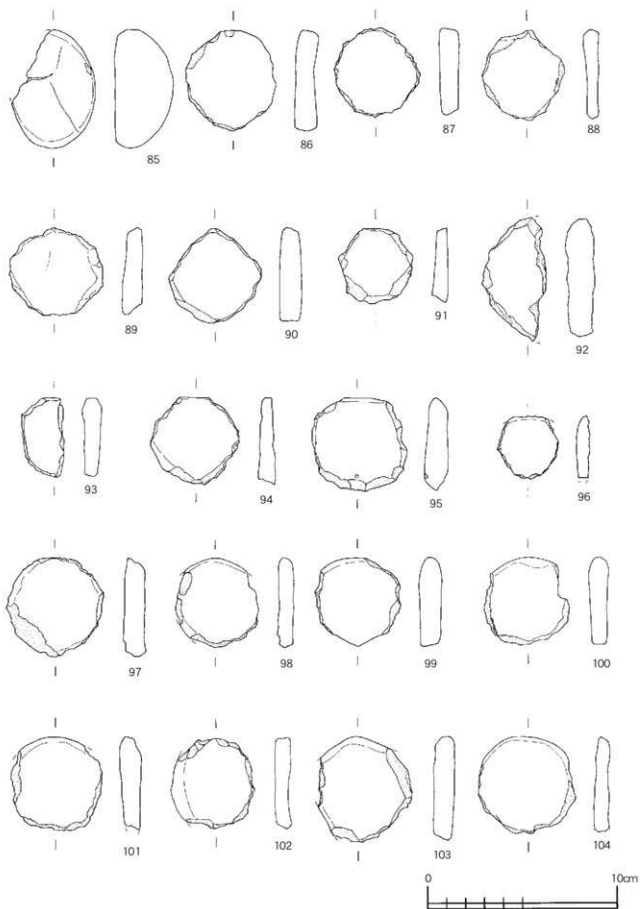
第184図 遺構外出土石製品 (2)



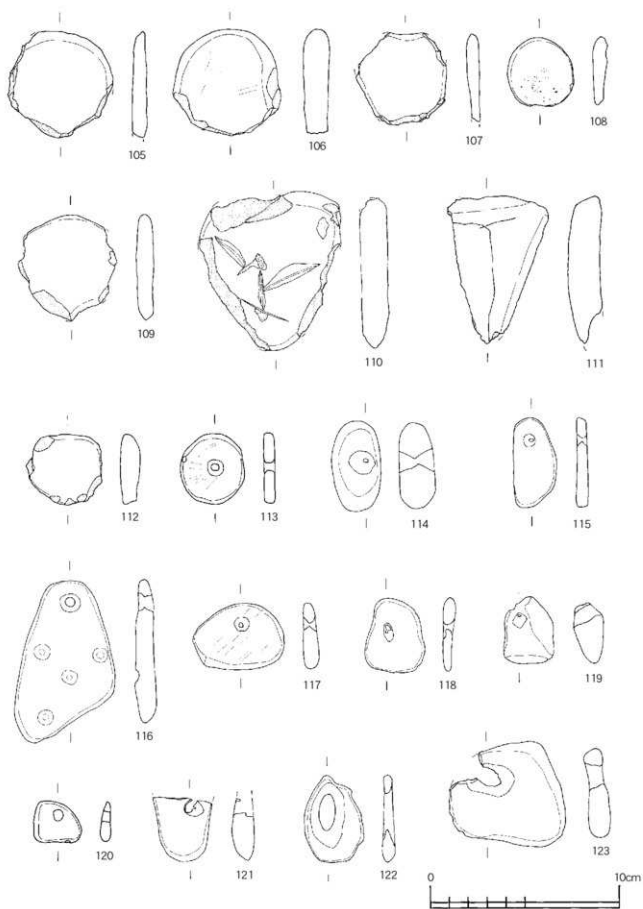
第185図 遺構外出土石製品 (3)



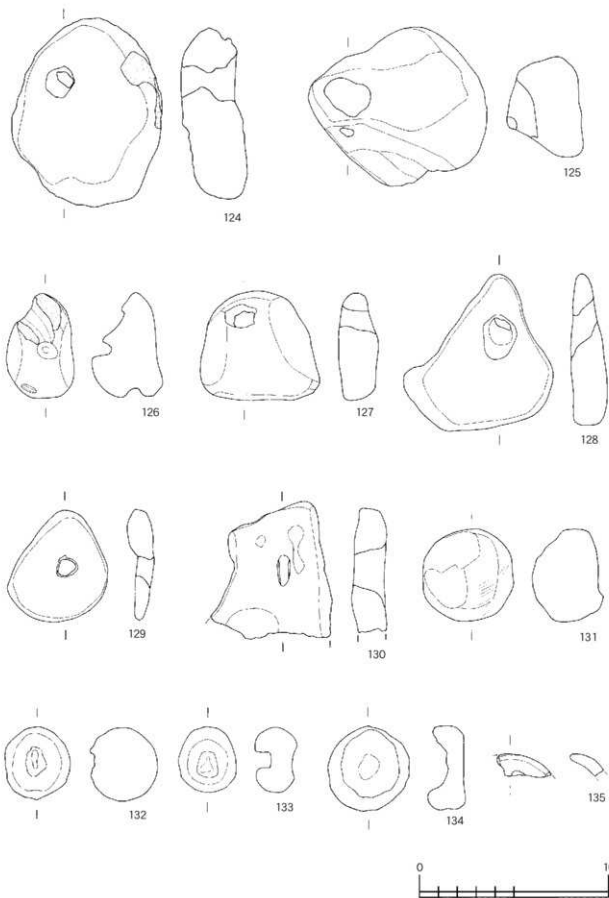
第186図 遠構外出土石製品 (4)



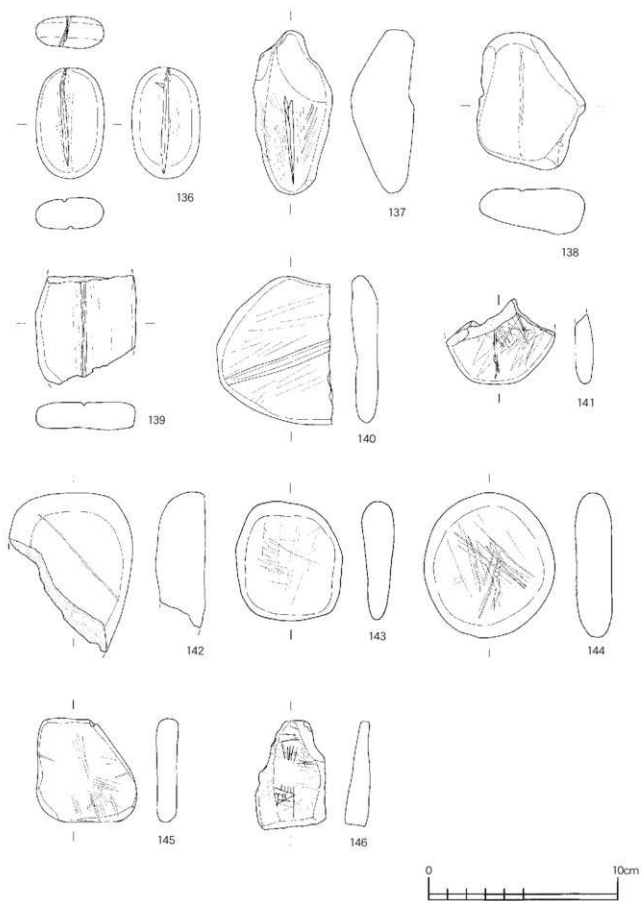
第187図 遺構外出土石製品 (5)



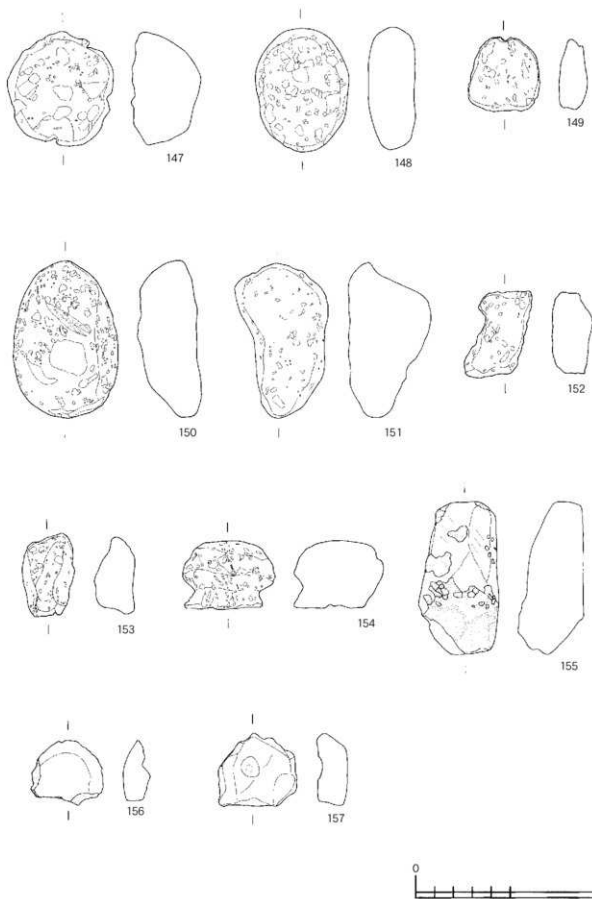
第188圖 遠構外出土石製品 (6)



第189図 遺構外出土石製品 (7)



第190図 遠構外出土石製品 (8)



第191図 遺構外出土石製品 (9)

平成・年度調査のまとめ

稲山遺跡は、青森市諏訪沢字山辺に所在する。

本遺跡は、青森市東部の山地に位置し、砥取山から北東に伸びる小山地の末端部に相当する稲山の南丘陵、標高 ～ mに位置する。調査対象区は遺跡の北側にあたり、調査区中央部は、丘陵が一部南に突き出し、台状の地形となっている。西側は緩やかな丘陵、東側は平坦に近い地形である。

本遺跡の発掘調査は、平成 年度より実施しており、平成 年度調査は、第四次調査、平成 年度調査は、第五次調査に相当する。平成 年度調査においては、調査区中央部の台地北側を主体に調査面積 m²、平成 年度調査においては、調査区中央部の台地西側を主体に調査面積 m²の発掘調査を実施した。

調査の結果、竪穴式住居跡4軒、土坑 基、埋設土器遺構8基を検出した。竪穴式住居跡は、縄文時代前期中葉の時期と思われるもの1軒、縄文時代前期末葉の時期と思われるもの3軒である。土坑は、縄文時代前期と思われるもの 基、前期ないし前期以前と思われるもの2基、前期ないし前期以降と思われるもの2基、縄文時代後期と思われるもの 基、後期ないし後期以前と思われるもの5基、後期ないし後期以降と思われるもの5基、縄文時代と思われるもの1基、時期が不明なもの 基である。埋設土器遺構は、縄文時代前期中葉と思われるもの1基、前期末葉と思われるもの5基、前期後半と思われるもの2基である。

これらの遺構は、縄文時代前期、後期ともにこれまでの調査と同様、調査区中央部の台地上で検出しており、台地を取り囲むように濃密に分布している。平成 年度調査においては、調査区中央部の台地北側の地点においても土坑を検出し、調査区外北側にも土坑が存在することを確認した。また、平成 年度調査においては、調査区中央部台地に隣接する西側の地点において土坑等遺構の分布は散発的となり、遺物もまた、第 群土器などについては、遺構分布よりはいくらか遺物の分布は広がるものの、遺構と同様徐々に分布が散発的になっていく状況を確認した。

出土遺物は、土器、石器、土製品、石製品等ダンボール箱換算で計 箱が出土している。検出遺構と同様、調査区中央部の台地上で大半が出土しており、中央部から距離を置くに従い分布の密度が薄くなる。出土土器は、第 群、第 群土器である。第 群土器では、円筒下層b式土器、円筒下層d式土器が、第 群土器では、後期初頭の土器及び十腰内 式土器がそれぞれ主体的に出土している。石器は、遺構内外より剥片石器 点、石斧 点、礫石器 点、水晶 点、計 点が出土している。土製品、石製品では、土器片利用土製品や三角形岩版、円形岩版などが比較の出土点数が多く、これはこれまでの調査と同様の傾向である。

本遺跡の発掘調査はこれまで平成 年度から平成 年度の五次にわたり実施しており、今年度で調査対象区の調査を全て終了した。

最後になりましたが、本遺跡の現地調査、整理・報告書刊行作業にわたり、ご指導ご協力を賜った関係各位に深くお礼を申し上げます。

引用・参考文献

- | | | |
|--------------|-----|----------------|
| 青森県教育委員会 | 第 集 | 『熊沢遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森県教育委員会 | 第 集 | 『大石平遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森県立郷土館 | 第 集 | 『木造町田小屋野貝塚』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『熊沢遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『稲山遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『稲山遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『稲山遺跡発掘調査概報』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『稲山遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市教育委員会 | 第 集 | 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 |
| 青森市蜷沢遺跡発掘調査団 | | 『蜷沢遺跡』 |
- 児 玉 大 成
成 田 滋 彦
三 宅 徹 也
村 越 潔
- 「三角形岩版について」『青森県考古学』 青森県考古学会
「入江・十腰内 式土器様式」『縄文土器大観』4 小学館
「円筒土器下層様式」『縄文土器大観』1 小学館
『円筒土器文化』 雄山閣

觀察表・計測表

図表番号	種別名	属性	属性	種別	文	種	種	種
1-1	本	本	本	本				
1-2	本	本	本	本				
1-3	本	本	本	本				
1-4	本	本	本	本				
1-5	本	本	本	本				
1-6	本	本	本	本				
1-7	本	本	本	本				
1-8	本	本	本	本				
1-9	本	本	本	本				
1-10	本	本	本	本				
1-11	本	本	本	本				
1-12	本	本	本	本				
1-13	本	本	本	本				
1-14	本	本	本	本				
1-15	本	本	本	本				
1-16	本	本	本	本				
1-17	本	本	本	本				
1-18	本	本	本	本				
1-19	本	本	本	本				
1-20	本	本	本	本				
1-21	本	本	本	本				
1-22	本	本	本	本				
1-23	本	本	本	本				
1-24	本	本	本	本				
1-25	本	本	本	本				
1-26	本	本	本	本				
1-27	本	本	本	本				
1-28	本	本	本	本				
1-29	本	本	本	本				
1-30	本	本	本	本				
1-31	本	本	本	本				
1-32	本	本	本	本				
1-33	本	本	本	本				
1-34	本	本	本	本				
1-35	本	本	本	本				
1-36	本	本	本	本				
1-37	本	本	本	本				
1-38	本	本	本	本				
1-39	本	本	本	本				
1-40	本	本	本	本				
1-41	本	本	本	本				
1-42	本	本	本	本				
1-43	本	本	本	本				
1-44	本	本	本	本				
1-45	本	本	本	本				
1-46	本	本	本	本				
1-47	本	本	本	本				
1-48	本	本	本	本				
1-49	本	本	本	本				
1-50	本	本	本	本				
1-51	本	本	本	本				
1-52	本	本	本	本				
1-53	本	本	本	本				
1-54	本	本	本	本				
1-55	本	本	本	本				
1-56	本	本	本	本				
1-57	本	本	本	本				
1-58	本	本	本	本				
1-59	本	本	本	本				
1-60	本	本	本	本				
1-61	本	本	本	本				
1-62	本	本	本	本				
1-63	本	本	本	本				
1-64	本	本	本	本				
1-65	本	本	本	本				
1-66	本	本	本	本				
1-67	本	本	本	本				
1-68	本	本	本	本				
1-69	本	本	本	本				
1-70	本	本	本	本				
1-71	本	本	本	本				
1-72	本	本	本	本				
1-73	本	本	本	本				
1-74	本	本	本	本				
1-75	本	本	本	本				
1-76	本	本	本	本				
1-77	本	本	本	本				
1-78	本	本	本	本				
1-79	本	本	本	本				
1-80	本	本	本	本				
1-81	本	本	本	本				
1-82	本	本	本	本				
1-83	本	本	本	本				
1-84	本	本	本	本				
1-85	本	本	本	本				
1-86	本	本	本	本				
1-87	本	本	本	本				
1-88	本	本	本	本				
1-89	本	本	本	本				
1-90	本	本	本	本				
1-91	本	本	本	本				
1-92	本	本	本	本				
1-93	本	本	本	本				
1-94	本	本	本	本				
1-95	本	本	本	本				
1-96	本	本	本	本				
1-97	本	本	本	本				
1-98	本	本	本	本				
1-99	本	本	本	本				
1-100	本	本	本	本				

群士器種	品目	品名	品目	品名	文	種	分類	備考
V-	書	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	書	部	部	書	部	-	-
W-	書	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	書	部	部	書	部	-	-
U-	書	書	部	部	書	部	-	-
A-B-	書	書	部	部	書	部	-	-
W-	書	書	部	部	書	部	-	-
V-	書	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	書	部	部	書	部	-	-
U-	書	書	部	部	書	部	-	-
A-C-	書	書	部	部	書	部	-	-
V-	書	書	部	部	書	部	-	-
V-	書	書	部	部	書	部	-	-
A-F-	書	書	部	部	書	部	-	-
V-	書	書	部	部	書	部	-	-
U-	書	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	書	部	部	書	部	-	-
O-F-	書	書	部	部	書	部	-	-
V-	書	書	部	部	書	部	-	-
U-	書	書	部	部	書	部	-	-
A-E-	書	書	部	部	書	部	-	-
X-	書	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	書	部	部	書	部	-	-
F-	書	書	部	部	書	部	-	-
X-	書	書	部	部	書	部	-	-
X-	書	書	部	部	書	部	-	-
X-	書	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	書	部	部	書	部	-	-

第 8 表 遺構外出土部 群士器種覧表(2)

品目	品名	品目	品名	文	種	分類	備考
V-	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	部	部	書	部	-	-
T-	書	部	部	書	部	-	-
S-	書	部	部	書	部	-	-

第 7 編 平成 年度 平成 年度発給調書成果

届出番号	通達給調書類型		届位	最大打調書 (mm, J)		分	備考
	通達番号	届位番号		届位	最大打調書 (mm, J)		
	Y-					1.1	
	Y-					1.2	
	Y-					1.3	
	Y-					1.4	
	Y-					1.5	
	Y-					1.6	
	Y-					1.7	
	Y-					1.8	
	Y-					1.9	
	Y-					1.10	
	Y-					1.11	
	Y-					1.12	
	Y-					1.13	
	Y-					1.14	
	Y-					1.15	
	Y-					1.16	
	Y-					1.17	
	Y-					1.18	
	Y-					1.19	
	Y-					1.20	
	Y-					1.21	
	Y-					1.22	
	Y-					1.23	
	Y-					1.24	
	Y-					1.25	
	Y-					1.26	
	Y-					1.27	
	Y-					1.28	
	Y-					1.29	
	Y-					1.30	
	Y-					1.31	
	Y-					1.32	
	Y-					1.33	
	Y-					1.34	
	Y-					1.35	
	Y-					1.36	
	Y-					1.37	
	Y-					1.38	
	Y-					1.39	
	Y-					1.40	
	Y-					1.41	
	Y-					1.42	
	Y-					1.43	
	Y-					1.44	
	Y-					1.45	
	Y-					1.46	
	Y-					1.47	
	Y-					1.48	
	Y-					1.49	
	Y-					1.50	
	Y-					1.51	
	Y-					1.52	
	Y-					1.53	
	Y-					1.54	
	Y-					1.55	
	Y-					1.56	
	Y-					1.57	
	Y-					1.58	
	Y-					1.59	
	Y-					1.60	
	Y-					1.61	
	Y-					1.62	
	Y-					1.63	
	Y-					1.64	
	Y-					1.65	
	Y-					1.66	
	Y-					1.67	
	Y-					1.68	
	Y-					1.69	
	Y-					1.70	
	Y-					1.71	
	Y-					1.72	
	Y-					1.73	
	Y-					1.74	
	Y-					1.75	
	Y-					1.76	
	Y-					1.77	
	Y-					1.78	
	Y-					1.79	
	Y-					1.80	
	Y-					1.81	
	Y-					1.82	
	Y-					1.83	
	Y-					1.84	
	Y-					1.85	
	Y-					1.86	
	Y-					1.87	
	Y-					1.88	
	Y-					1.89	
	Y-					1.90	
	Y-					1.91	
	Y-					1.92	
	Y-					1.93	
	Y-					1.94	
	Y-					1.95	
	Y-					1.96	
	Y-					1.97	
	Y-					1.98	
	Y-					1.99	
	Y-					1.100	

測試名稱	備註	出入口點	單位	符號	文 據	計 測 儀 (ID)	備 註	儀 器 備 註
-	北極控制用本製器	AD	a	PI-C	魯次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	T-	a	PI-C	船殼響, 船內船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AF	a	PI-C	次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AD	a	PI-C	船殼響			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	T-	a	PI-C	船殼響			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	Z-	a	PI-C	船殼響, 船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AD	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AB	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AE	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	U-	a	PI-C	次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AD	a	PI-C	車行次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AE	a	PI-C	車行次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AB	a	PI-C	車行次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	T-	a	PI-C	車行次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AE	a	PI-C	車行次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	S-	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AD	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AC	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	S-	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AE	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	T-	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AE	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AD	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	T-	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AP	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	R-	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	T-	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AD	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AE	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	U-	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AE	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AF	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AC	c	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AF	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AE	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	T-	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AE	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AE	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	T-	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫
-	北極控制用本製器	AD	a	PI-C	船外次鐘			長生 儀 器 庫

原簿番号	種 別	出仕地点	単 位	分 類	文 種	計 算 額 (円)	備 考
非開帳・ 本額利用主製品	V-	三上			簡文		簡文・委託計測機 (円)
非開帳・ 本額利用主製品	A.C-	三上			簡文		簡文・委託計測機 (円)
非開帳・ 本額利用主製品	A.A-	三上			簡文		簡文・委託計測機 (円)

第 表 遺構外石製品観覧表

原簿番号	種 別	出仕地点	単 位	計 算 額 (円/主)	備 考	計 算 額 (円)	分 類	備 考 (委託計測機 (円))
-	三角架観覧	A.A-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.C-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Z-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	S-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.D-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	U.A-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.A-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.D-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	X-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.B-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.B-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	T-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.A-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.B-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.F-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	R-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	W-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.Q-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Y-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Y-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	T-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Y-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Z-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Z-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.A-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.A-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.A-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	X-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	X-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Y-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Y-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	S-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	A.A-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Z-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Y-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Y-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	T-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Y-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Y-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	T-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	S-	号			現	号	三角架観覧
-	三角架観覧	Z-	号			現	号	三角架観覧

第7編 平成 年度・平成 年度発注監造調査結果

図面番号	種 別	出土地点	層 位	計 測 量 (部/直)		分 類	備考,その他増加減(㎡)
				積 否	積 量		
-	鋼管溶接骨材	A, A -	B	()		実	
-	鋼管溶接骨材	X -	B	()		実	
-	鋼管溶接骨材	A, D -	B	()		測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	A, D -	B	()		測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	T -	B	()		測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	A, A -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	A, C -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	U -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	U, A -	B	()		測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Y -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	U, D -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Y -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Y -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	A, A -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	S -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Z -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	X, D -	B	()		測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	X, D -	B	()		測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	S -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Z -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	T, D -	B	()		測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	S, D -	B	()		測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	S -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	S -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Z -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	X, A -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	X, A -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Z -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Z -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Z -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Z -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Z -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	鋼管溶接骨材	Y, A -	B			測	人工, 骨材, 凡骨口幅, 凡骨
-	その他の圧入鋼管	Y -	B			測	

写 真 图 版



作業前風break (E)



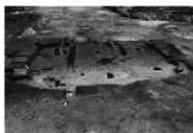
第 号竪穴式住居跡 東西セクション(S)



第 号竪穴式住居跡 南北セクション(W)



第 号竪穴式住居跡 南北セクション(W)



第 号竪穴式住居跡 完蔵 W)



第 号竪穴式住居跡 完蔵 NW)



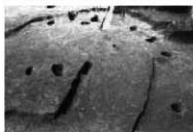
第 号竪穴式住居跡 東西セクション(S)



第 号竪穴式住居跡 南北セクション(W)



第 号竪穴式住居跡 南北セクション(W)



第 号竪穴式住居跡 完蔵 NE)



第 号竪穴式住居跡 東西セクション(S)



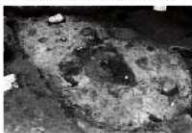
第 号竪穴式住居跡 南北セクション(E)



第 号竪穴式住居跡 南北セクション(E)



第 号竪穴式住居跡 南北セクション(E)



第 号竪穴式住居跡 床面遺物出土状況(S)



第 号竪穴式住居跡 床面遺物出土状況(N)



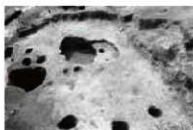
第 号竪穴式住居跡 床面遺物出土状況(N)



第 号竪穴式住居跡 床面遺物出土状況(N)



第 号竪穴式住居跡 床面遺物出土状況 (E)



第 号竪穴式住居跡 完蔵 (N)



第 号竪穴式住居跡 完蔵 (S)



第 号竪穴式住居跡 東西セクション (S)



第 号竪穴式住居跡 南北セクション (E)



第 号竪穴式住居跡 遺物出土状況 (NW)



第 号竪穴式住居跡 完蔵 (E)



第 号土坑 セクション (E)



第 号土坑・第 号竪穴式住居跡 セクション (S)
(E) (E)



第 号土坑 完蔵 (NE)



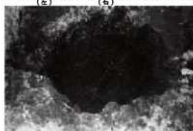
第 号竪穴式住居跡・第 号土坑 セクション (N)
(E) (E)



第 号土坑 完蔵 (E)



第 号土坑 セクション (E)



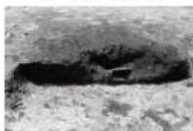
第 号土坑 完蔵 (S)



第 号土坑 セクション (E)



第 号土坑 完蔵 (N)



第 号土坑 セクション (NE)



第 号土坑 完蔵 (N)



第 1号土坑 セクション(NW)



第 1号土坑 完観 NW)



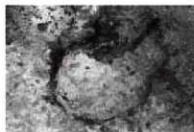
第 1号土坑 セクション(S)



第 1号土坑 完観(S)



第 1号土坑 セクション(SE)



第 1号土坑 完観(SE)



第 1号土坑 セクション(E)



第 1号土坑 完観(W)



第 1号土坑 セクション(S)



第 1号土坑 遺物出土状況(N)



第 1号土坑 完観(E)



第 1号土坑 セクション(S)



第 1号土坑 完観(SE)



第 1号土坑 完観(S)



第 1号土坑 セクション(NE)



第 1号土坑 完観(E)



第 1号土坑 完観(NE)



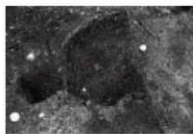
第 1号土坑 セクション(NE)



第 号土坑 完観 NE)



第 号土坑 セクション(NW)



第 号土坑 完観 S)



第 号土坑 セクション(E)



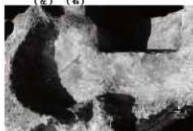
第 号土坑 完観 E)



第 号土坑 セクション(S)



第 号土坑 セクション(NE)



第 号土坑 完観 SE)



第 号土坑 セクション(E)



第 号土坑 完観 E)



第 号土坑 セクション(S)



第 号土坑 完観 N)



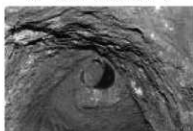
第 号土坑 セクション(S)



第 号土坑 完観 N)



第 号土坑 セクション(E)



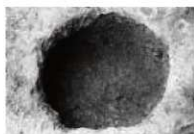
第 号土坑 遺物出土状況 S)



第 号土坑 完観 W)



第 号土坑 セクション(NE)



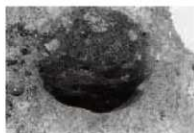
第 5号土坑 完蔵 E)



第 5号土坑 セクション SE)



第 5号土坑 完蔵 N)



第 5号土坑 セクション S)



第 5号土坑 完蔵 S)



第 5号土坑 遺物出土状況 W)



第 5号土坑 遺物出土状況 S)



第 5号土坑 遺物出土状況 S)



第 5号土坑 完蔵 S)



第 5号土坑 セクション N)



第 5号土坑 完蔵 SW)



第 5号土坑 セクション NW)



第 5号土坑 遺物出土状況 N)



第 5号土坑 完蔵 N)



第 5号土坑 セクション S)



第 5号土坑 完蔵 E)



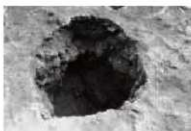
第 5号土坑 セクション SW)



第 5号土坑 完蔵 N)



第 号土坑 セクション(E)



第 号土坑 完蔵(N)



第 号土坑 セクション(E)



第 号土坑 完蔵(SE)



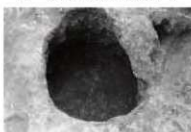
第 号土坑 遺物出土状況(E)



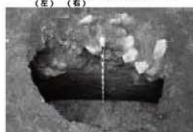
第 号土坑 完蔵(W)
(西)(右)



第 号土坑 セクション(E)



第 号土坑 完蔵(N)



第 号土坑 セクション(S)



第 号土坑 完蔵(E)



第 号土坑 セクション(W)
(西)(左)



第 号土坑 完蔵(NE)
(北)(右)



第 号土坑 完蔵(E)
(右)(中)(左)



第 号土坑 セクション(N)



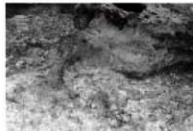
第 号土坑 完蔵(N)



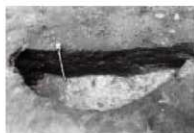
第 号土坑 セクション(N)



第 号土坑 セクション(N)



第 号土坑 完蔵(S)



第 1 号土坑 セクション(N)



第 1 号土坑 完観 SW)



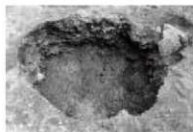
第 1 号土坑 セクション(N)



第 1 号土坑 完観(N)



第 1 号土坑 セクション(NE)



第 1 号土坑 完観(SW)



第 1 号土坑 セクション(NW)



第 1 号土坑 セクション(NW)



第 1 号土坑 完観(SE)



第 1 号土坑 完観(E)



第 1 号土坑 セクション(S)



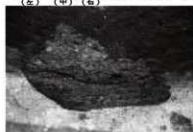
第 1 号土坑 完観(S)



第 1 号土坑 セクション(N)



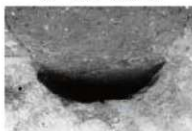
第 1 号土坑 完観(W)



第 1 号土坑 セクション(S)



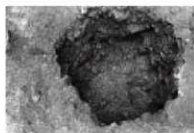
第 1 号土坑 セクション(S)



第 1 号土坑 完観(S)



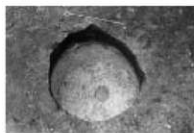
第 1 号土坑 セクション(SE)



第 号土坑 完蔵 SE)



第 号土坑 セクション(S)



第 号土坑 完蔵 E)



第 号土坑 セクション(NW)
(E) (E)



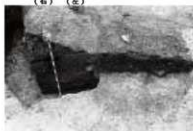
第 号土坑 完蔵 S)
(E) (E)



第 号土坑 セクション(E)



第 号土坑 遺物出土状況 E)



第 号土坑 東西セクション(N)
(左) (右)



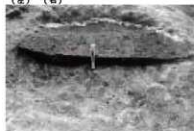
第 号土坑 南北セクション(E)
(左) (右)



第 号土坑 セクション(W)



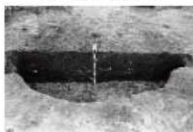
第 号土坑 完蔵 E)



第 号土坑 セクション(E)



第 号土坑 完蔵 NE)



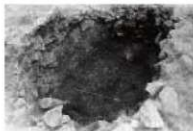
第 号土坑 セクション(E)



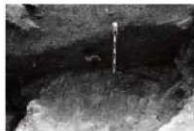
第 号土坑 完蔵 E)



第 号土坑 セクション(NE)



第 号土坑 完蔵 W)



第 号土坑 セクション(NE)



第 8 号土坑 完蔵 W)

第 8 号土坑 完蔵 S)
(左) (中) (右)

第 8 号土坑 セクション S)



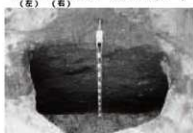
第 8 号土坑 完蔵 E)



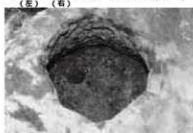
第 8 号土坑 セクション E)



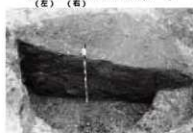
第 8 号土坑 完蔵 E)

第 8 号土坑 セクション S)
(左) (右)第 8 号土坑 セクション S)
(左) (右)第 8 号土坑 完蔵 S)
(左) (右)

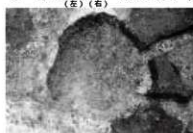
第 8 号土坑 セクション E)



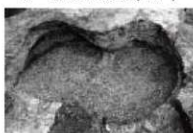
第 8 号土坑 完蔵 E)

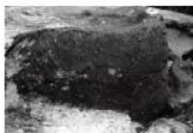
第 8 号土坑 A・B セクション S)
(左) (右)第 8 号土坑 A・B 完蔵 S)
(左) (右)

第 8 号土坑 セクション SW)



第 8 号土坑 完蔵 SE)

第 8 号土坑 セクション E)
(左) (右)第 8 号土坑 完蔵 W)
(左) (右)第 8 号土坑 セクション E)
(左) (中) (右)



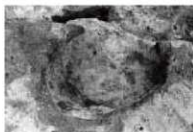
第 号土坑 セクション(S)



第 号土坑 セクション(E)



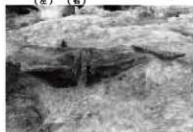
第 号土坑 完蔵(E)



第 号土坑 完蔵(W)



第 号土坑 セクション(E)



第 号土坑 セクション(N)



第 号土坑 完蔵(N)



第 号土坑 セクション(E)



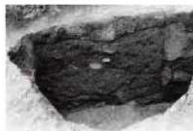
第 号土坑 遺物出土状況(N)



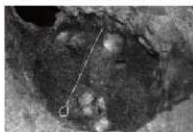
第 号土坑 遺物出土状況(W)



第 号土坑 完蔵(E)



第 号土坑 セクション(E)



第 号土坑 遺物出土状況(S)



第 号土坑 セクション(E)



第 号土坑 完蔵(E)



第 号土坑 セクション(N)



第 号土坑 完蔵(SE)



第 号土坑 セクション(W)



第 1 号土坑 完蔵 W)



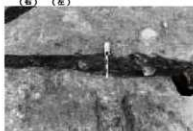
第 1 号土坑 セクション(S)
(左) (右)



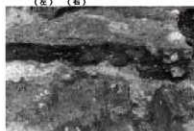
第 1 号土坑 完蔵 N)
(左) (右)



第 1 号土坑 セクション(NW)



第 1 号土坑 セクション(S)



第 1 号土坑 セクション(S)
(左) (右)



第 1 号土坑 完蔵 W)



第 1 号土坑 セクション(S)



第 1 号土坑 セクション(E)
(左) (右)



第 1 号土坑 セクション(N)
(左) (右)



第 1 号土坑 完蔵 W)



第 1 号土坑 完蔵 SE)



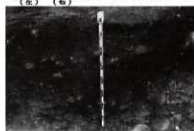
第 1 号土坑 セクション(N)
(左) (右)



第 1 号土坑 完蔵 S)



第 1 号土坑 完蔵 W)



第 1 号土坑 セクション(N)



第 1 号土坑 完蔵 S)



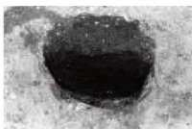
第 1 号土坑 セクション(NW)



第 号土坑 完蔵 NW)



第 号土坑 セクション(SE)



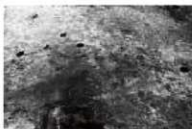
第 号土坑 セクション(S)



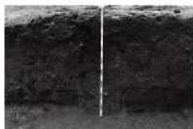
第 号土坑 セクション(S)



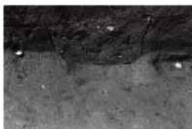
第 号土坑 セクション(SE)



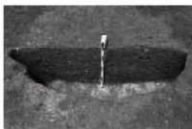
第 号土坑 完蔵(E)



第 号土坑 セクション(S)



第 号土坑 完蔵(S)



第 号土坑 セクション(SE)



第 号土坑 完蔵(N)



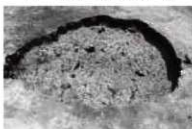
第 号土坑 セクション(S)



第 号土坑 完蔵(S)



第 号土坑 セクション(N)



第 号土坑 完蔵(N)



第 号埋設土器遺構 確認(E)



第 号埋設土器遺構 出土状況(E)



第 号埋設土器遺構 セクション(E)



第 号埋設土器遺構 セクション(W)



第 1号埋設土器遺構 出土状況(W)



第 1号埋設土器遺構 セクション(W)



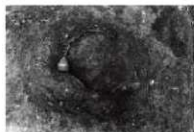
第 1号埋設土器遺構 確認(S)



第 1号埋設土器遺構 出土状況(S)



第 1号埋設土器遺構 セクション(S)



第 1号埋設土器遺構 確認(W)



第 1号埋設土器遺構 セクション(W)



第 1号埋設土器遺構 セクション(W)



第 1号埋設土器遺構 出土状況(S)



第 1号埋設土器遺構 確認(S)



第 1号埋設土器遺構 出土状況(S)



第 1号埋設土器遺構 セクション(S)



第 1号埋設土器遺構 確認(N)



第 1号埋設土器遺構 出土状況(N)



第 1号埋設土器遺構 セクション(N)



層遺物(S)



層遺物(S)



層遺物(S)



写真 遺構内出土土器（竪穴式住居跡）(1)

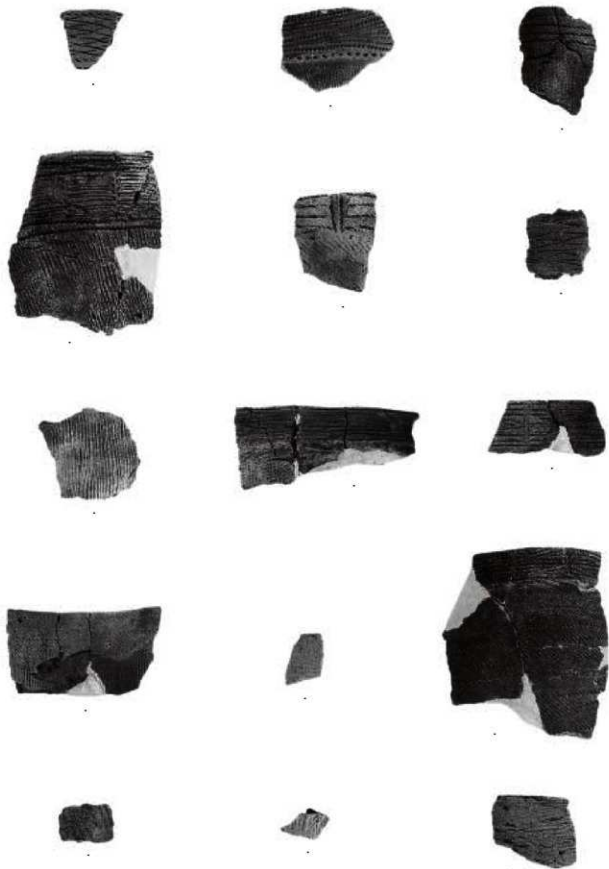


写真 遺構内出土土器(竪穴式住居跡)(2)



写真 遺構内出土石器（竪穴式住居跡）



写真 遺構内出土土器(土坑)(1)

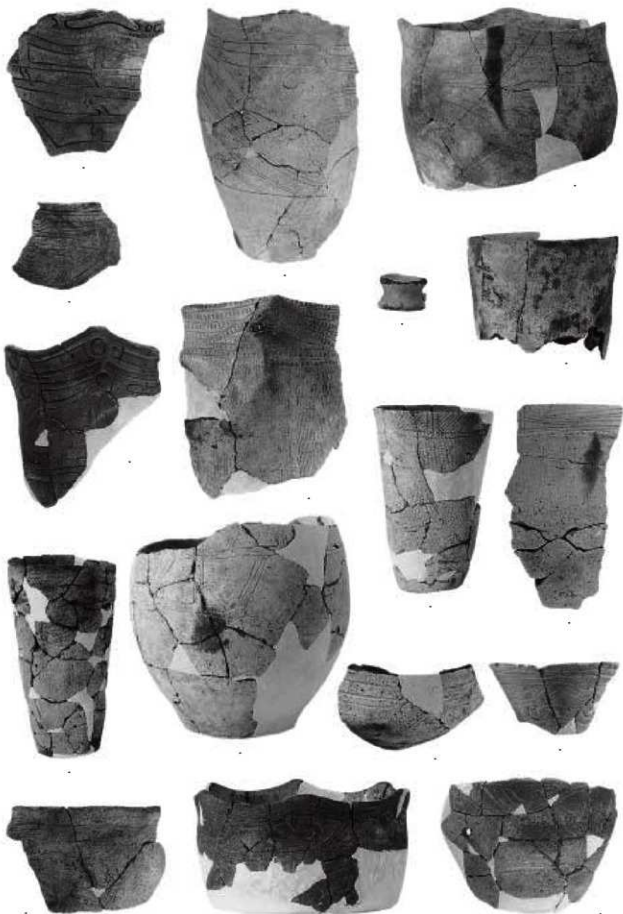


写真 遺構内出土土器(土坑)(2)

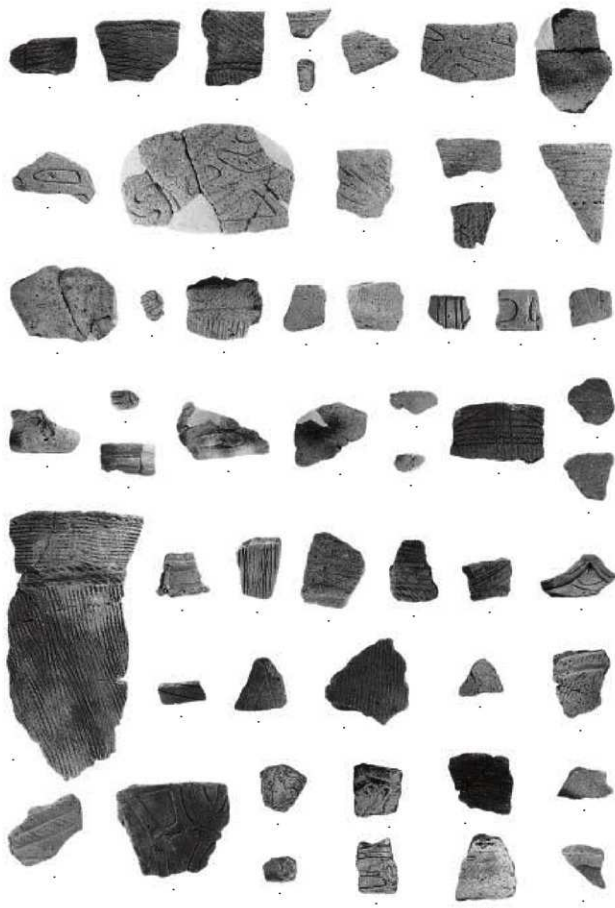


写真 遺構内出土土器(土坑)(3)

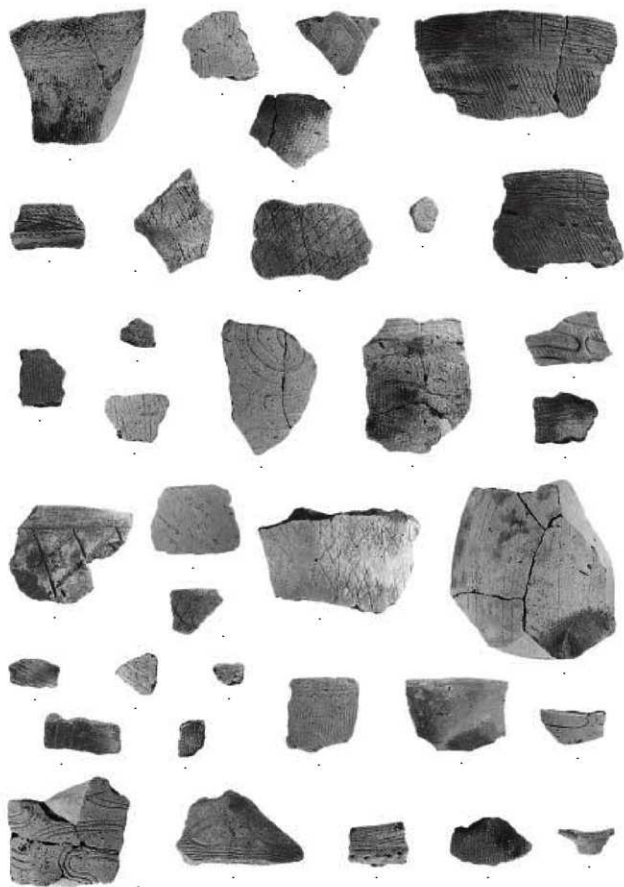


写真 遺構内出土土器(土坑)(4)



写真 遺構内出土石器(土坑)

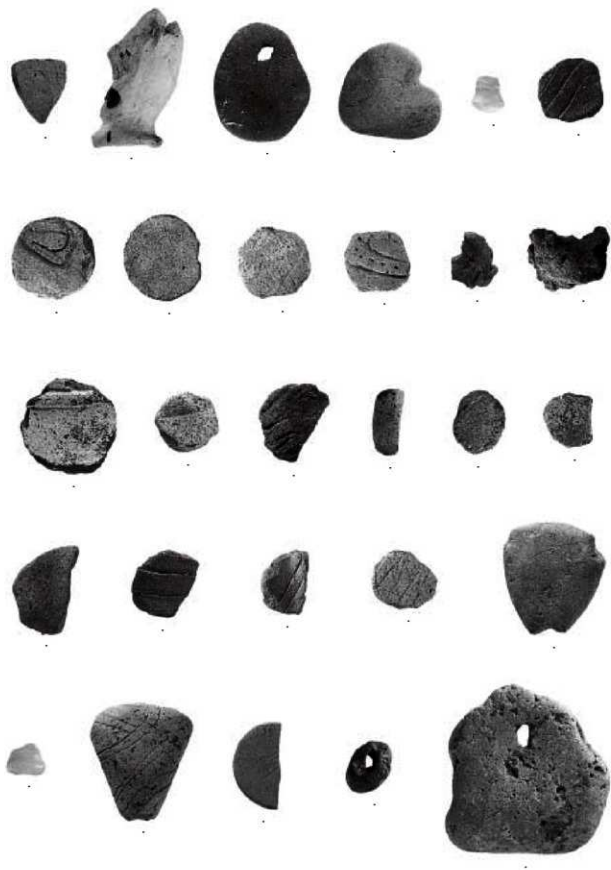


写真 遺構内出土土製品・石製品（竪穴式住居跡・土坑）

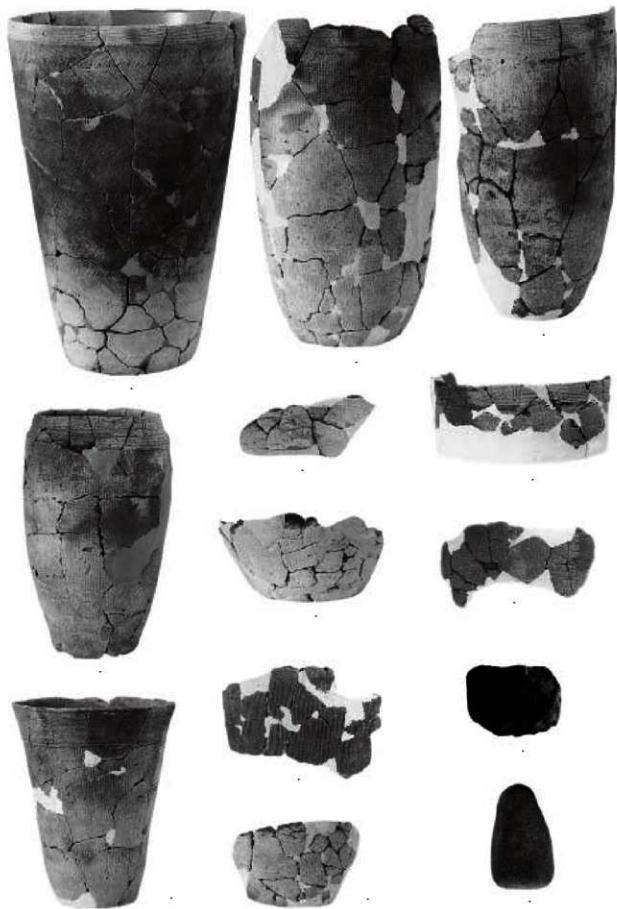


写真 遺構内出土土器・石器（埋設土器遺構）



写真 遺構外出土第 群土器(1)



写真 遺構外出土第 群土器(2)

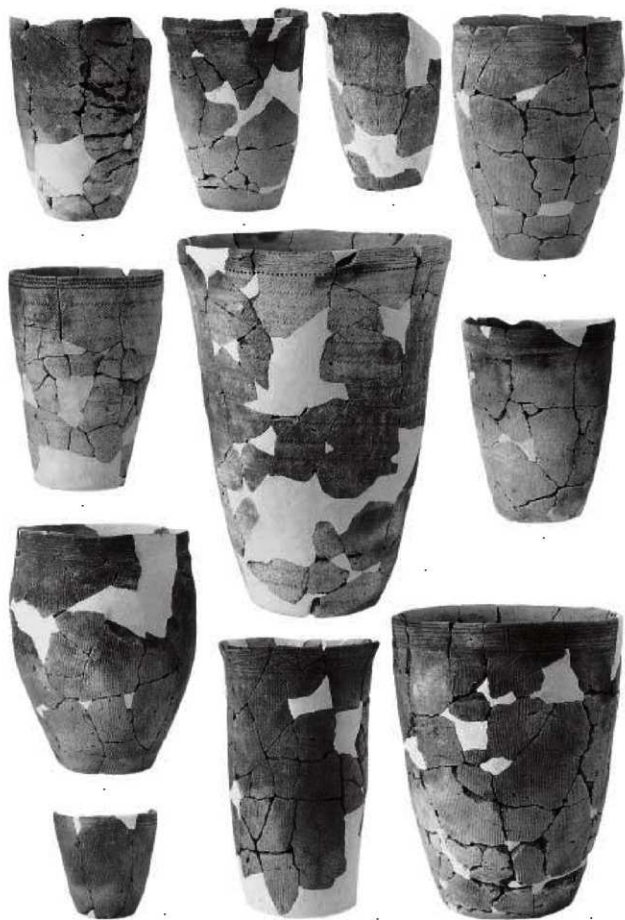


写真 遺構外出土第 群土器(3)

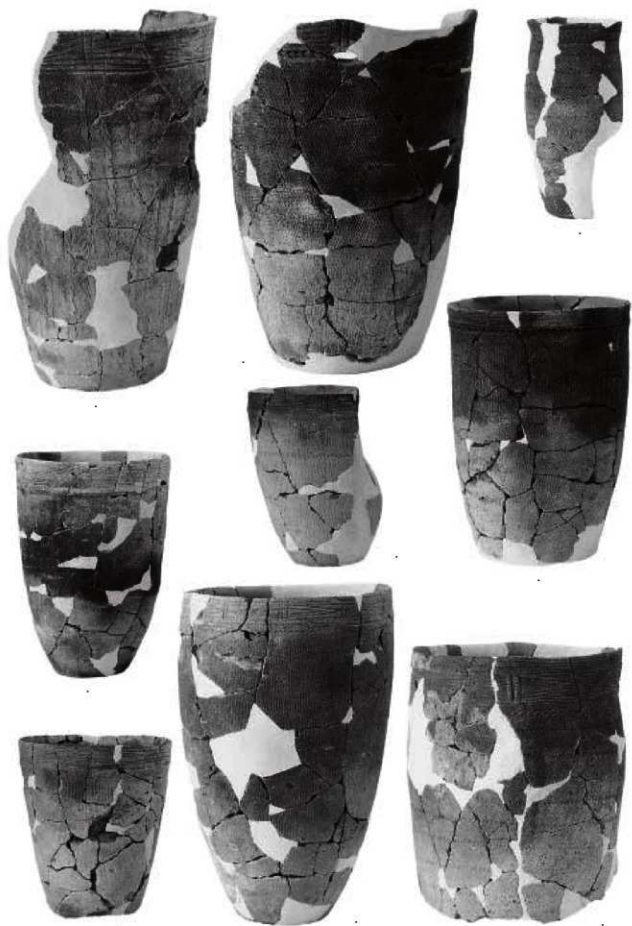


写真 遺構外出土第 群土器(4)

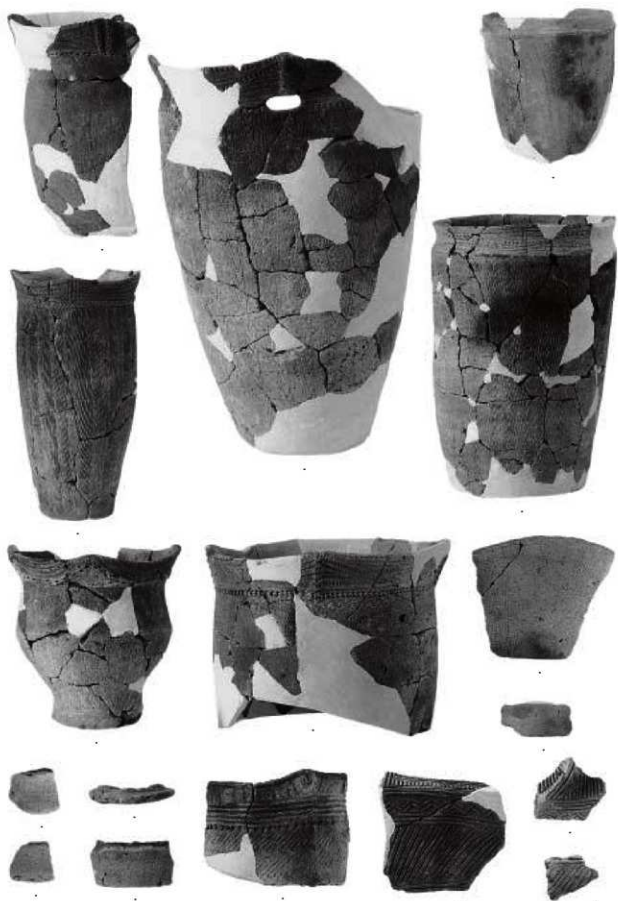


写真 遺構外出土第 群土器(5)

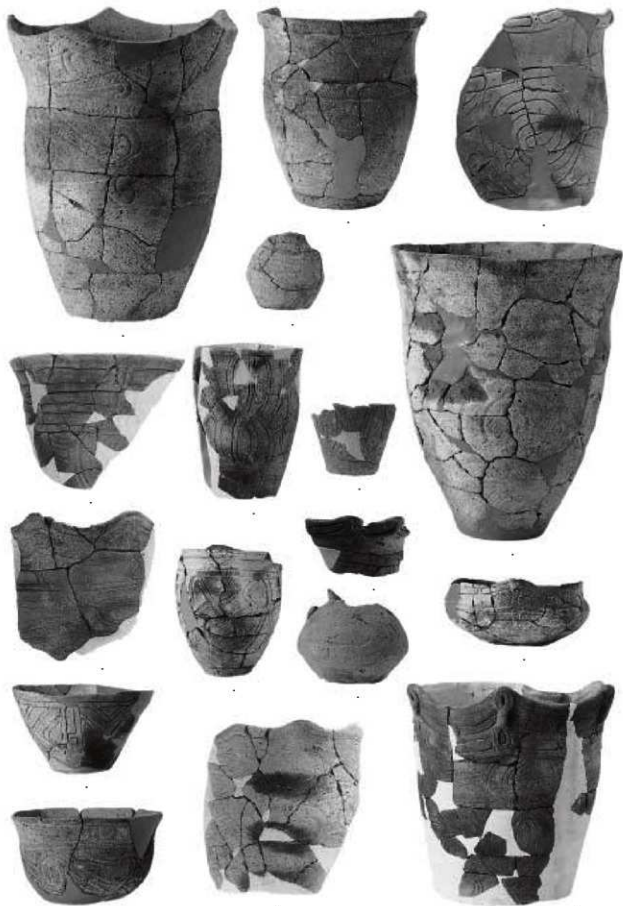


写真 遺構外出土第 群土器(1)

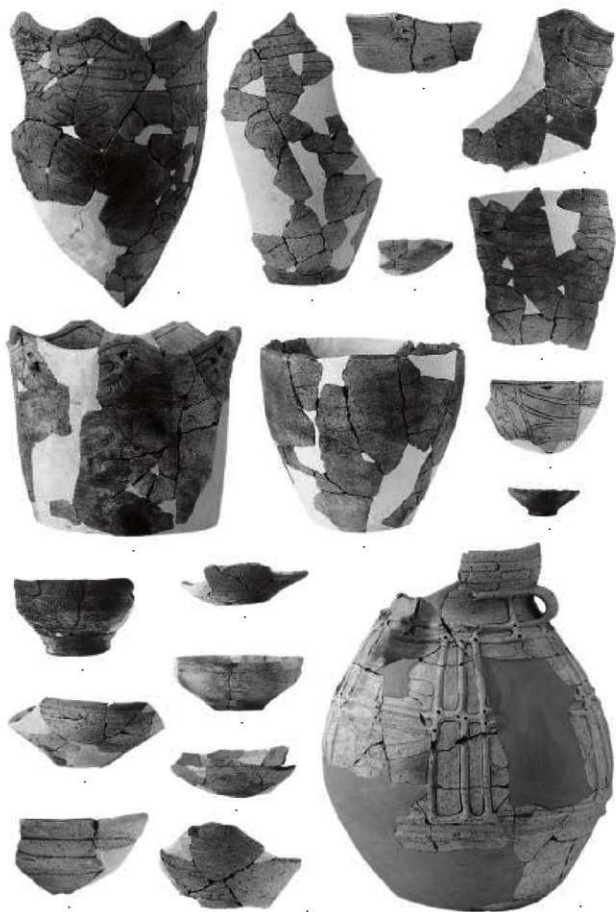


写真 遺構外出土第 群土器(2)

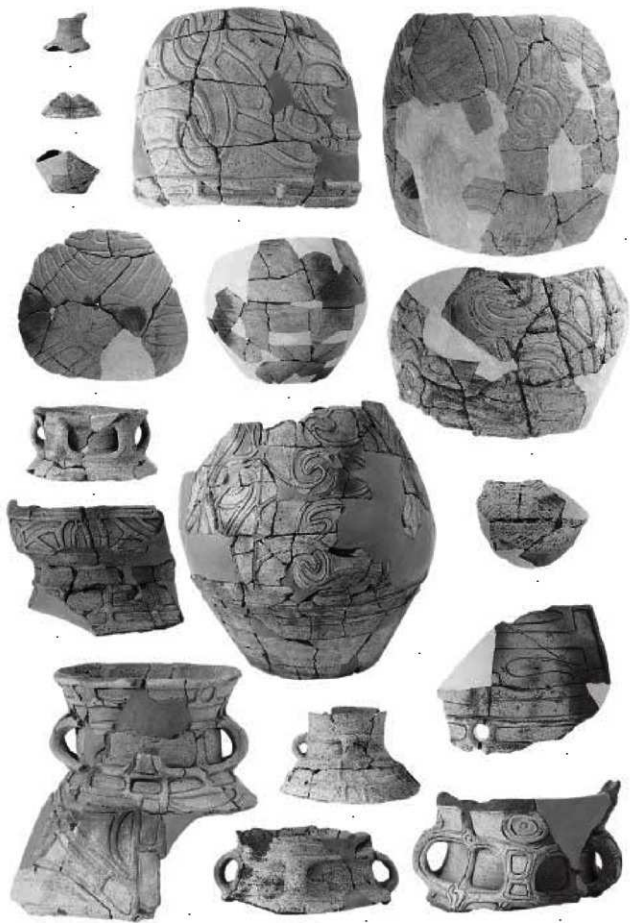


写真 遺構外出土第 群土器(3)

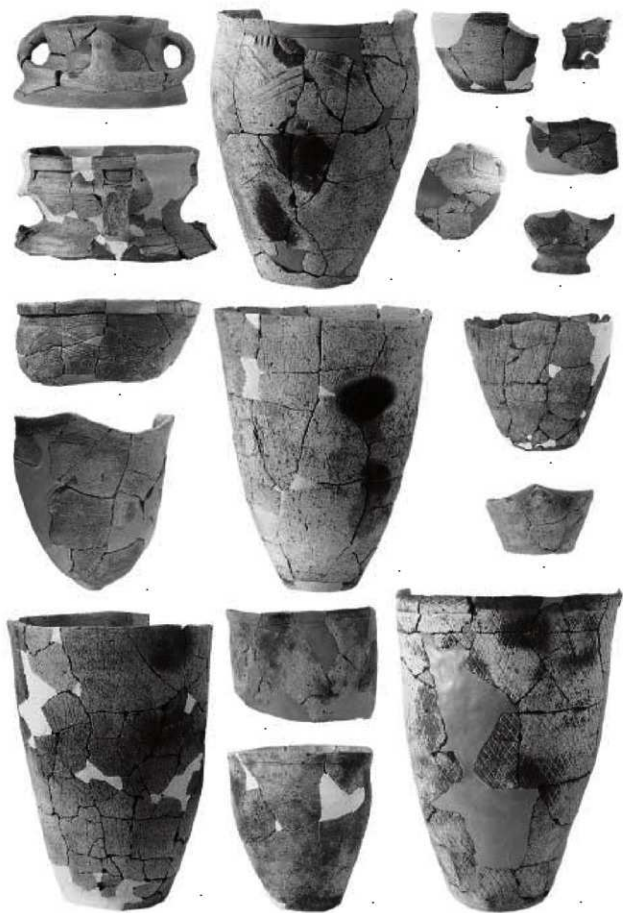


写真 遺構外出土第 群土器(4)

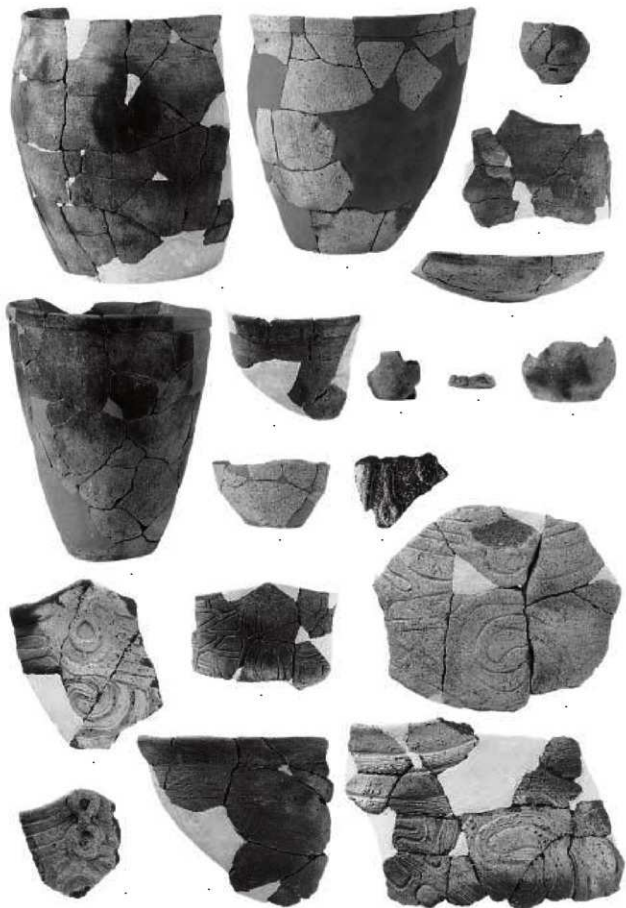


写真 遺構外出土第 群土器(5)



写真 遺構外出土石器(1)



写真 遺構外出土石器(2)

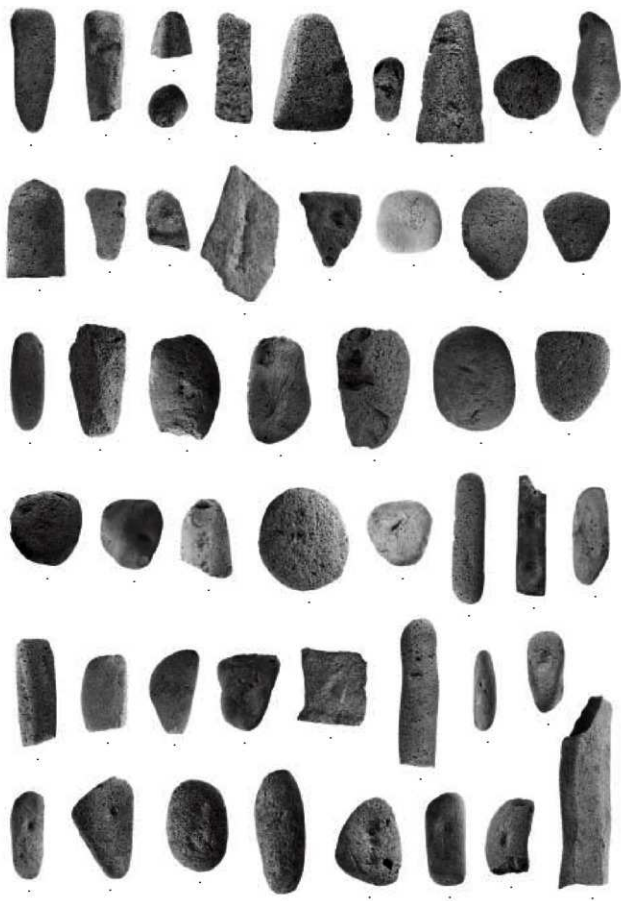


写真 遺構外出土石器(3)

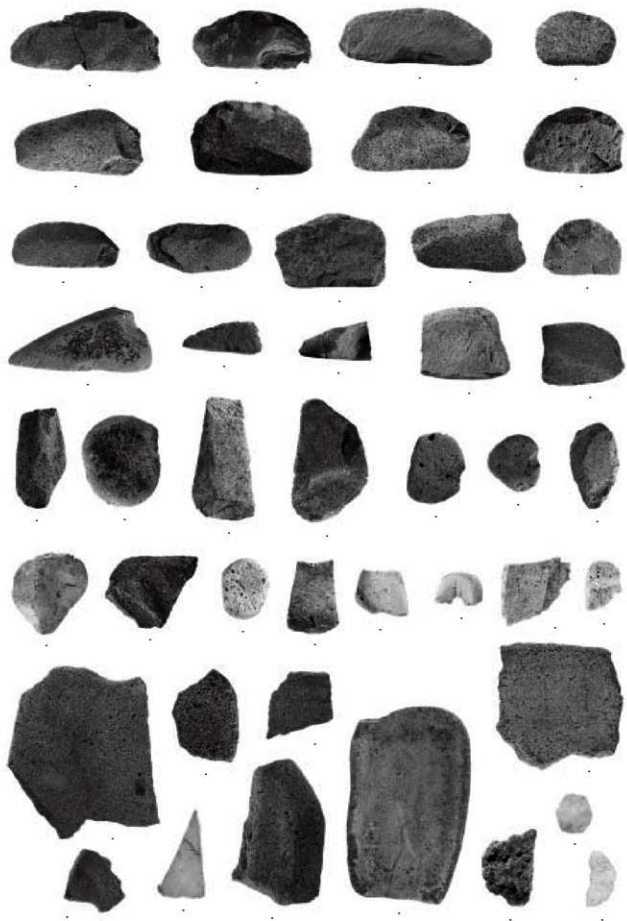


写真 遺構外出土石器(4)

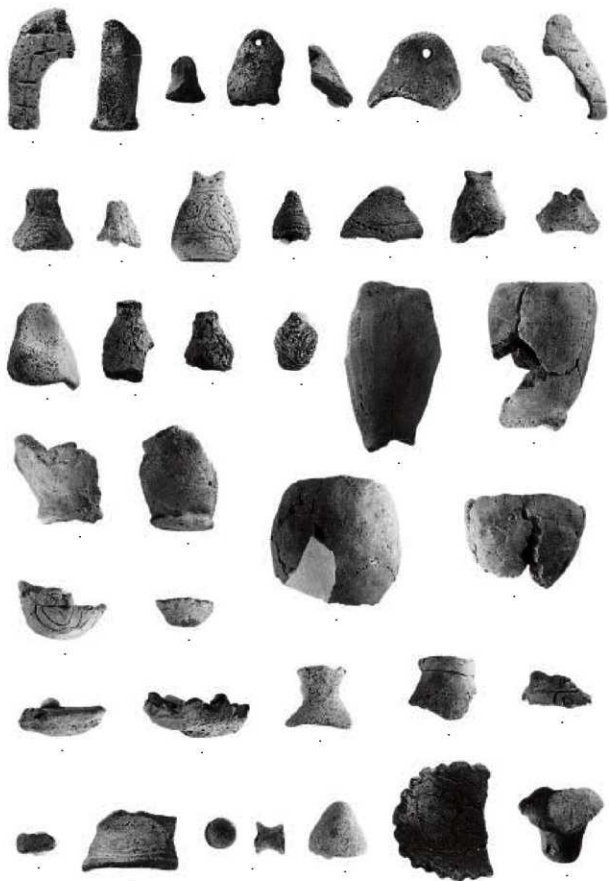


写真 遺構外出土土製品(1)

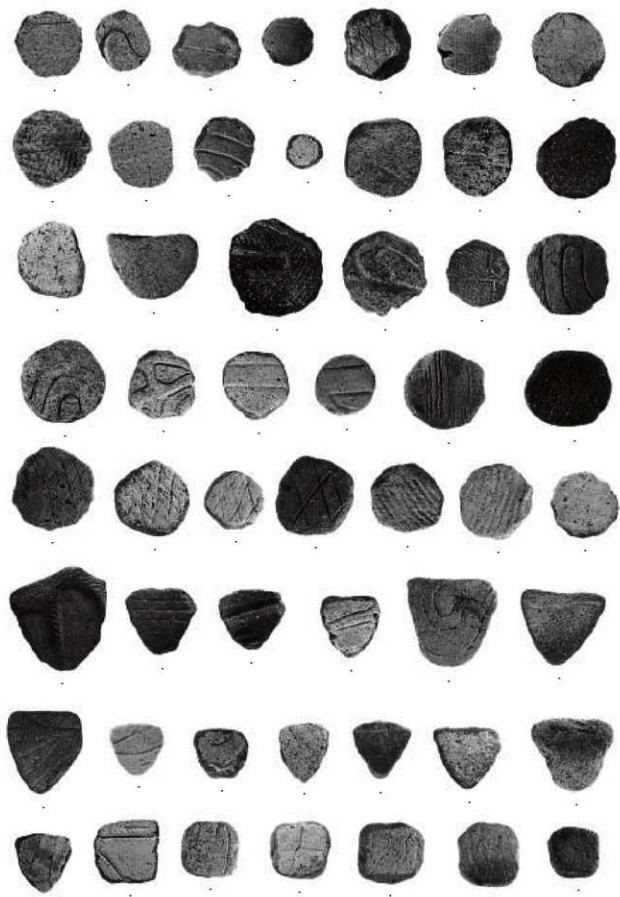


写真 遺構外出土土製品(2)

実測図非掲載品

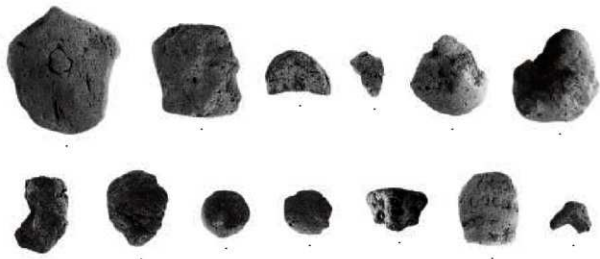
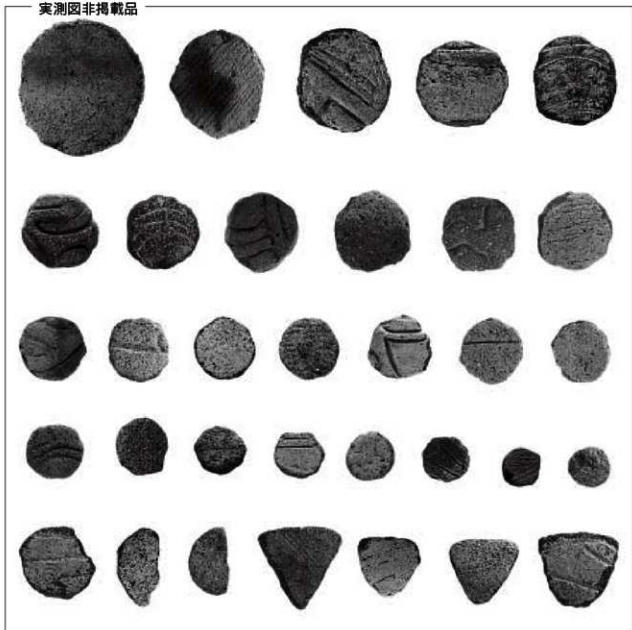


写真 遺構外出土製品(3)

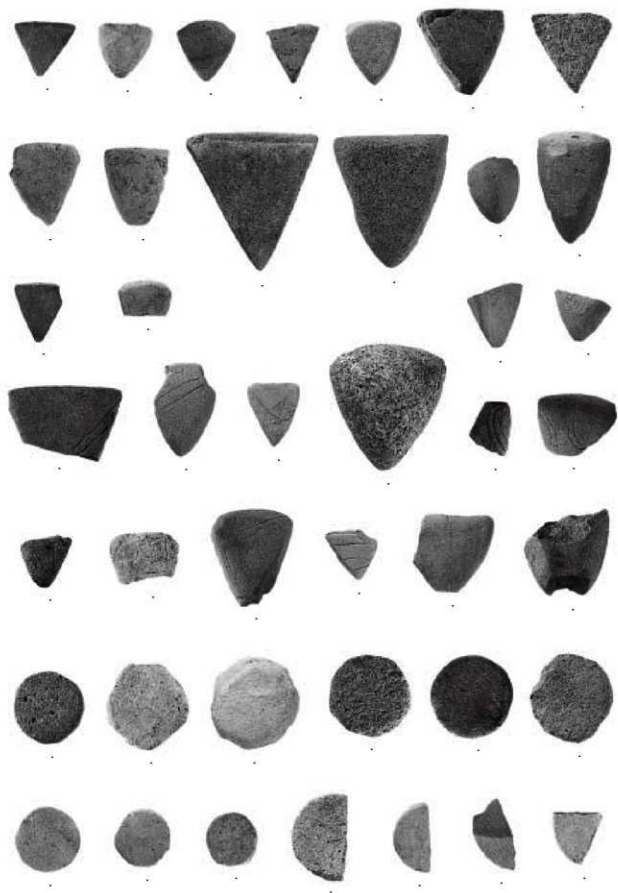


写真 遺構外出土石製品(1)

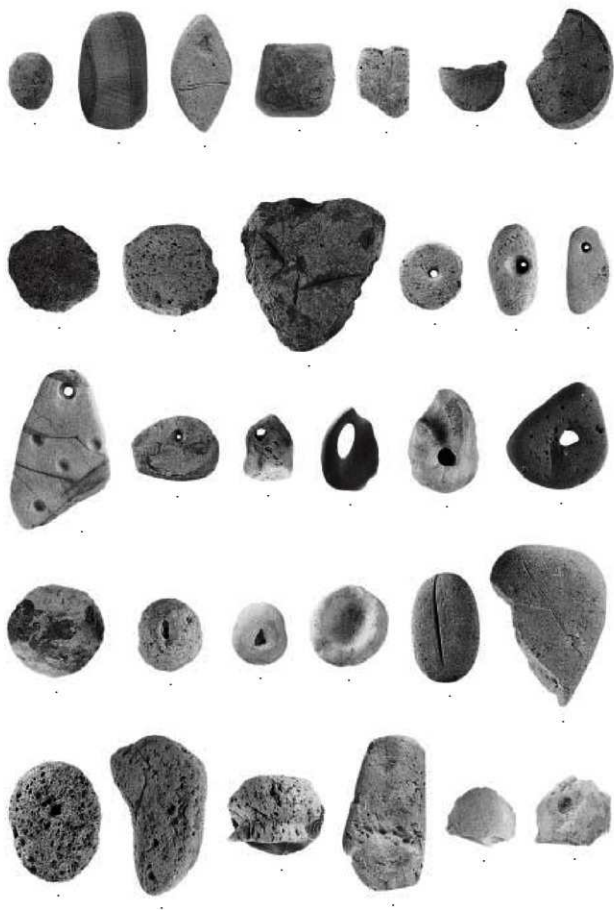


写真 遺構外出土石製品(2)

報 告 書 抄 録

ふりがな	いなやまいせきはくつちょうさほうこくしよ							
書名	稲山遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 集							
編著者名	小野貴之							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒 青森県青森市中央一丁目 - 5 TEL - -							
発行年月日	西暦 年 3 月 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
いな 稲	やま 山 あお ちり し あお あび 青 森 市 大 字 す わ の さ だ り あ び や ま べ 諏 訪 沢 字 山 辺					～		道路建設（東北縦貫自動車道八戸線建設工事）に伴う事前調査
						～		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
いな 稲	やま 山 集 落 跡	縄 文	年度	竪穴式住居跡	4軒	縄文土器 石器 土製品 石製品		
				土坑	7基			
		年度		土坑	4基			
				埋設土器遺構	1基			

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	『三内置園遺跡調査概報。』	青森市埋蔵文化財調査報告書	
"	2	『四ツ石遺跡調査概報。』	"	第 集 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	3	『玉清水遺跡調査概報。』	"	第 集 『野木遺跡発掘調査報告書』
"	4	『三内丸山遺跡調査概報。』	"	第 集 『熊沢遺跡発掘調査概報。』
"	5	『野木和遺跡調査報告書。』	"	第 集 『市内遺跡詳細分布調査報告書。』
"	6	『玉清水 遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書。』
"	7	『大浦遺跡調査報告書。』	"	第 集 『小牧野遺跡発掘調査報告書。』
"	8	『孫内遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『新町野・野木遺跡発掘調査概報。』
		『堂沢遺跡。』	"	第 集 『稲山遺跡発掘調査概報。』
		『四戸橋遺跡調査報告書。』	"	第 集 『熊沢遺跡発掘調査報告書。』
青森市の埋蔵文化財		『山野峠遺跡。』	"	第 集 『稲山遺跡発掘調査報告書。』
"		『長森遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『小牧野遺跡発掘調査報告書。』
"		『田茂木野遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『桜塚(1)・雲台山吹(3)遺跡発掘調査報告書。』
"		『横内城跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書。』
"		『三内丸山 遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『市内遺跡発掘調査報告書。』
青森市埋蔵文化財調査報告書			"	第 集 『新町野遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『野木遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書。』	"	第 集 『小牧野遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報。』	"	第 集 『稲山遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『市内遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『稲山遺跡発掘調査概報。』
"	第 集	『小牧野遺跡発掘調査概報。』	"	第 集 『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報。』
"	第 集	『市内遺跡詳細分布調査報告書。』	"	第 集 『市内遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『小三内遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『小牧野遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『三内丸山(2)小三内遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『稲山遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『市内遺跡詳細分布調査報告書。』	"	第 集 『稲山遺跡発掘調査概報。』
"	第 集	『桜塚(2)遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『市内遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『桜塚(1)遺跡発掘調査概報。』	"	第 集 『雲台山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『稲山遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『市内遺跡詳細分布調査報告書。』	"	第 集 『深沢(3)遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『小牧野遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『近野遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『市内遺跡詳細分布調査報告書。』	"	第 集 『市内遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『桜塚(1)遺跡発掘調査概報。』	"	第 集 『小牧野遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『新町野遺跡試掘調査報告書。』	"	第 集 『稲山遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『稲山遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『小牧野遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『新町野遺跡発掘調査概報。』
"	第 集	『桜塚(1)遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『市内遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『新町野遺跡発掘調査報告書。』	"	第 集 『江渡遺跡発掘調査報告書。』
"	第 集	『野木遺跡発掘調査報告書。』	"	
"	第 集	『市内遺跡詳細分布調査報告書。』	"	

青森市埋蔵文化財調査報告書第 集

稲山遺跡発掘調査報告書

発行年月日 平成 年 3 月 日

発行 青森市教育委員会
〒 青森市中央一丁目 5

TEL

印刷 青森オフセット印刷株式会社
〒 青森市本町二丁目

TEL